

ちば

令和6年度

第67回

県政に関する世論調査

報 告 書

令和6年12月

千 葉 県

は し が き

この調査は、県民の皆さまの生活意識、県政に対してどのような関心や期待などを持っているかを把握し、県政推進の基礎資料とするため、昭和50年度から実施しています。

令和6年度は年2回実施することとし、今回は1回目の調査で、県内在住の満18歳以上の3,000名を対象に、8月から9月にかけて郵送法・オンライン調査法で実施しました。

具体的な内容としては、環境と生活、健康、福祉などについて県民の意識等の経年変化を調査する「県民意識調査」、県民のニーズの優先度を調査する「県政への要望」を実施しました。

この報告書が、県の施策立案や各事業の推進などに活用されるだけでなく、広く県民の生活意識や県政に関心を寄せる方々にご活用いただければ幸いです。

終わりに、本調査にご協力いただきました県民の皆さまを始め、関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

令和6年12月

千葉県総合企画部長 富沢 昇

目 次

調査の概要	1
調査結果及び解説	9
1 環境と生活について	9
(1) 今後の居留意向	9
(1-1) 住み続けたい理由	11
(1-2) 移りたい理由	14
(2) 県内の道路状況の満足度	16
(3) 今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題	18
(4) 上水道の整備の満足度	21
(5) 住生活全般の満足度	23
(6) 消費生活全般の満足度	25
(7) 「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」の認知度	27
(8) 「気候変動による影響への適応」の認知度	29
(9) 環境に配慮した行動	31
(10) 普段の生活で環境に配慮した取組の実施状況	33
(11) 環境保全に関する講演やセミナー、 環境ボランティア活動への参加状況	39
(12) 市民活動団体やボランティア活動の関心度	41
(13) 市民活動団体の活動への参加経験	43
(14) ボランティア活動経験	45
(15) この1年間の文化芸術の鑑賞及び活動の経験	47
(15-1) 文化芸術を鑑賞しなかった理由	52
(15-2) 文化芸術活動をしなかった理由	55
(16) 文化芸術に触れ、自ら取り組むことができる環境の整備状況	58
2 健康について	60
(1) 健康づくりへの取組状況	60
(2) 安心して受診できる医療体制	62
(3) かかりつけ医の有無	64
3 医療について	68
(1) 県内の医療の満足度	68
(2) 今後、県に力を入れて欲しい医療	70
(3) A E Dの認知度・利用経験	73
(4) A E Dを使用できるか	75
4 福祉について	77
(1) 地域の福祉の状況について	77
(2) お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策について	82
(3) 「共生社会」の認知度	84

5	県の農林水産物について-----	86
	(1) 千葉県産農林水産物の購入意向-----	86
	(1-1) 千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由-----	88
	(1-2) 千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由-----	90
	(2) 環境にやさしい農産物や制度の認知度-----	92
	(3) 「千葉ブランド水産物」の認知度-----	95
6	防災に関する取組について-----	97
	(1) 防災情報の警戒レベルの意味・取るべき行動の認知度-----	97
	(2) 飲料水や食料、災害用トイレ（簡易・携帯）の備蓄状況-----	99
	(3) 地震や台風などの災害への対策-----	103
7	公金のキャッシュレス化の推進について-----	106
	(1) 公金の納付に当たり不便と感ずることの有無-----	106
	(1-1) キャッシュレス決済を拡大すべきだと思ふ場面-----	108
	(2) 便利だと思ふ公金の納付方法-----	110
8	生涯学習について-----	113
	(1) 今後学習したいと思ふこと-----	113
	(1-1) 学習する上で困っていること-----	116
	(1-2) 学習したいと思わない理由-----	119
	(2) 生涯学習の情報を得る手段-----	122
9	SDGs・多様性尊重等について-----	125
	(1) SDGsの言葉の認知度-----	125
	(2) 「ダイバーシティ」概念の認知度-----	127
	(2-1) 千葉県における「ダイバーシティ社会」の実現について-----	129
	(3) 「多様性尊重条例」の認知度-----	132
	(4) 社会全体での男女の地位の平等感-----	134
	(5) 男女共同参画社会を実現するための取組-----	136
10	県の魅力について-----	139
	(1) 千葉県の魅力-----	139
11	広報について-----	143
	(1) 県政に関する情報を得る手段-----	143
12	県政への要望-----	146
	(1) 県政への要望-----	146
	(1-1) 各政策への具体的な要望-----	153
13	自由回答-----	167
	(付) 調査票および単純集計結果-----	173

調 査 の 概 要

1. 調査の目的

この調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の項目

(1) 県民意識調査

- ・ 環境と生活について
- ・ 健康について
- ・ 医療について
- ・ 福祉について
- ・ 県の農林水産物について
- ・ 防災に関する取組について
- ・ 公金のキャッシュレス化の推進について
- ・ 生涯学習について
- ・ SDGs・多様性尊重等について
- ・ 県の魅力について
- ・ 広報について

(2) 県政への要望

3. 調査の設計

(1) 調査地域 千葉県全域

(2) 調査対象 満18歳以上の個人

(3) 標本数 3,000人

(4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックごとに分類し（層化）、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して（二段）、地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

(5) 調査方法 郵送法・オンライン調査法の併用
(郵送配付－郵送・オンライン回収)

(6) 調査時期 令和6年8月30日～令和6年9月24日

4. 調査機関

株式会社マーケティングリサーチサービス

5. 回収結果

標本数 (A)	3,000件
総回収数 (B)	1,539件
有効回収数 (C)	1,535件
うちネット回収数	482件
無効回収数	4件
うちネット回収数	2件
回収率 (B/A)	51.30%
有効回収率 (C/A)	51.17%

標本抽出方法

調査対象：千葉県内の市町村に居住する満18歳以上の個人

標本数：3,000人

地点数：市部 192地点

郡部 8地点

計 200地点

抽出法：層化二段無作為抽出法

[層化]

県内を、次の11地域に分類した。

地域名	該当市郡名
①千葉地域	千葉市、市原市
②葛南地域	市川市、船橋市、習志野市、八千代市、浦安市
③東葛飾地域	松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市、鎌ヶ谷市
④印旛地域	成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、印旛郡
⑤香取地域	香取市、香取郡
⑥海匝地域	銚子市、旭市、匝瑳市
⑦山武地域	東金市、山武市、大網白里市、山武郡
⑧長生地域	茂原市、長生郡
⑨夷隅地域	勝浦市、いすみ市、夷隅郡
⑩安房地域	館山市、鴨川市、南房総市、安房郡
⑪君津地域	木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市

(注) ここでいう市とは、
令和6年4月1日現在市制施行の
地域をさす。



[標本数の配分]

各地域別の層における満18歳以上の人口(令和5年4月1日現在の推定数)に対して、3,000の標本数を比例配分した。

[抽出]

1. 令和2年国勢調査時に設定された調査区を、第1次抽出単位となる調査単位として使用した。
 2. 調査地点の抽出は、調査地点が2地点以上に割り当てられた層については、

$$\left(\frac{\text{層における調査区数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right)$$
 を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。
 3. 抽出に際しての各層内における市町村の配列順序は、令和2年国勢調査時の「標準地域コード一覧」に従った。
 4. 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内（町・丁目・番地等を指定）を、住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出した。
- 以上の結果、各地域別（層別）の標本数・調査地点数は、次のとおりである。

地域	人口・標本数・ 調査地点数
①千葉地域	1,074,543 600 40
②葛南地域	1,443,349 795 53
③東葛飾地域	1,308,633 720 48
④印旛地域	620,420 345 23
⑤香取地域	92,446 45 3
⑥海匝地域	135,411 75 5
⑦山武地域	174,851 105 7
⑧長生地域	127,186 75 5
⑨夷隅地域	60,375 30 2
⑩安房地域	105,099 60 4
⑪君津地域	278,368 150 10
計	5,420,681 3,000 200

(注) 上段は満18歳以上の人口（令和5年4月1日現在）、中段は標本数、下段は調査地点数である。

調査地点一覧

地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数	
① 千葉地域	千葉市中央区亥鼻2丁目	15	① 千葉地域	市原市南岩崎	15	
	千葉市中央区川戸町	15		市原市辰巳台東3丁目	15	
	千葉市中央区末広4丁目	15		市原市千種3丁目	15	
	千葉市中央区椿森1丁目	15		市原市ちはら台西6丁目	15	
	千葉市中央区登戸2丁目	15		② 葛南地域	市川市市川1丁目	15
	千葉市中央区本千葉町	15			市川市新田2丁目	15
	千葉市中央区都町5丁目	15			市川市東大和田2丁目	15
	千葉市花見川区朝日ヶ丘2丁目	15			市川市南八幡5丁目	15
	千葉市花見川区こてはし台2丁目	15			市川市宮久保5丁目	15
	千葉市花見川区武石町2丁目	15			市川市若宮3丁目	15
	千葉市花見川区花見川	15			市川市中国分2丁目	15
	千葉市花見川区幕張本郷4丁目	15			市川市稲越町	15
	千葉市稲毛区稲丘町	15	市川市田尻1丁目		15	
	千葉市稲毛区小仲台5丁目	15	市川市南大野2丁目		15	
	千葉市稲毛区園生町	15	市川市妙典1丁目		15	
	千葉市稲毛区萩台町	15	市川市相之川3丁目		15	
	千葉市若葉区大宮町	15	市川市福栄1丁目		15	
	千葉市若葉区加曽利町	15	市川市本塩		15	
	千葉市若葉区高品町	15	船橋市宮本6丁目		15	
	千葉市若葉区都賀2丁目	15	船橋市駿河台2丁目		15	
	千葉市若葉区みつわ台1丁目	15	船橋市本町2丁目		15	
	千葉市緑区大椎町	15	船橋市海神6丁目		15	
	千葉市緑区誉田町2丁目	15	船橋市本郷町		15	
	千葉市緑区あすみが丘8丁目	15	船橋市北本町2丁目		15	
	千葉市緑区おゆみ野中央4丁目	15	船橋市行田3丁目		15	
	千葉市緑区あすみが丘東2丁目	15	船橋市馬込町		15	
	千葉市美浜区打瀬1丁目	15	船橋市夏見5丁目		15	
	千葉市美浜区高洲3丁目	15	船橋市金杉6丁目		15	
	千葉市美浜区真砂2丁目	15	船橋市二和西6丁目		15	
	市原市飯沼	15	船橋市高野台5丁目		15	
	市原市五井	15	船橋市前原東1丁目		15	
	市原市八幡北町2丁目	15	船橋市前原西8丁目		15	
	市原市能満	15	船橋市七林町		15	
	市原市椎の木台1丁目	15	船橋市三山6丁目		15	
	市原市青葉台5丁目	15	船橋市習志野5丁目	15		
	市原市土宇	15	船橋市芝山6丁目	15		

地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数
②葛南地域	船橋市松が丘3丁目	15	③東葛飾地域	野田市山崎新町	15
	船橋市大穴北4丁目	15		野田市中里	15
	船橋市習志野台3丁目	15		野田市関宿元町	15
	船橋市楠が山町	15		柏市明原2丁目	15
	習志野市谷津5丁目	15		柏市加賀1丁目	15
	習志野市鷺沼1丁目	15		柏市北柏2丁目	15
	習志野市大久保4丁目	15		柏市南逆井7丁目	15
	習志野市東習志野5丁目	15		柏市中央1丁目	15
	習志野市実籾4丁目	15		柏市豊四季	15
	八千代市萱田	15		柏市西柏台2丁目	15
	八千代市吉橋	15		柏市花野井	15
	八千代市勝田台3丁目	15		柏市船戸山高野	15
	八千代市村上団地	15		柏市みどり台4丁目	15
	八千代市八千代台西2丁目	15		柏市若柴	15
	八千代市ゆりのき台1丁目	15		柏市逆井5丁目	15
	八千代市村上南3丁目	15		柏市高柳1丁目	15
	浦安市当代島2丁目	15		流山市加3丁目	15
	浦安市堀江2丁目	15		流山市平和台5丁目	15
	浦安市東野1丁目	15		流山市大字平方	15
	浦安市入船5丁目	15		流山市宮園3丁目	15
浦安市日の出2丁目	15	流山市駒木台	15		
③東葛飾地域	松戸市大谷口	15	流山市おおたかの森北1丁目	15	
	松戸市上矢切	15	我孫子市久寺家1丁目	15	
	松戸市古ヶ崎2丁目	15	我孫子市寿1丁目	15	
	松戸市小金原7丁目	15	我孫子市東我孫子1丁目	15	
	松戸市下矢切	15	我孫子市湖北台6丁目	15	
	松戸市新松戸南2丁目	15	我孫子市布佐西町	15	
	松戸市常盤平4丁目	15	我孫子市南新木1丁目	15	
	松戸市西馬橋幸町	15	鎌ヶ谷市東道野辺6丁目	15	
	松戸市八ヶ崎7丁目	15	鎌ヶ谷市中央2丁目	15	
	松戸市牧の原1丁目	15	鎌ヶ谷市道野辺中央4丁目	15	
	松戸市松飛台	15	④印旛地域	成田市囀護台	15
	松戸市稔台3丁目	15		成田市中台4丁目	15
	松戸市西馬橋1丁目	15		成田市公津の杜2丁目	15
	松戸市五香5丁目	15		佐倉市弥勒町	15
	松戸市東松戸3丁目	15		佐倉市臼井田	15
	野田市清水公園東1丁目	15		佐倉市稲荷台4丁目	15
	野田市今上	15		佐倉市上志津	15

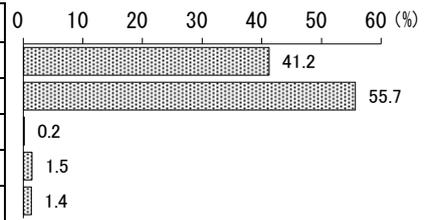
第67回県政に関する世論調査（R6年度）

地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数
④ 印旛地域	佐倉市ユーカリが丘1丁目	15	⑦ 山武地域	山武市戸田	15
	佐倉市春路2丁目	15		大網白里市神房	15
	佐倉市染井野5丁目	15		大網白里市桂山	15
	四街道市大日	15		九十九里町西野	15
	四街道市千代田3丁目	15		横芝光町横芝	15
	四街道市さちが丘1丁目	15	⑧ 長生地域	茂原市上林	15
	四街道市もねの里4丁目	15		茂原市北塚	15
	八街市滝台	15		茂原市緑町	15
	印西市小林大門下2丁目	15		一宮町田町	15
	印西市原山2丁目	15		長柄町中野台／船木	15
	印西市平賀学園台3丁目	15	⑨ 夷隅地域	勝浦市大楠	15
	白井市折立	15		大多喜町三又	15
	白井市池の上3丁目	15	⑩ 安房地域	館山市八幡	15
	富里市新橋	15		鴨川市八色	15
	酒々井町上岩橋	15		南房総市富浦町居倉／久枝	15
栄町安食台5丁目	15	南房総市和田町下三原		15	
⑤ 香取地域	香取市石納	15		⑪ 君津地域	木更津市貝淵3丁目
	香取市野田	15	木更津市請西南3丁目		15
	多古町水戸	15	木更津市八幡台2丁目		15
⑥ 海匝地域	銚子市幸町1丁目	15	木更津市祇園4丁目		15
	銚子市本城町2丁目	15	木更津市金田東6丁目		15
	旭市二	15	君津市北子安1丁目		15
	旭市横根	15	君津市久保3丁目		15
	匝瑳市上谷中	15	富津市大堀		15
⑦ 地山域武	東金市北之幸谷	15	袖ヶ浦市奈良輪		15
	東金市小沼田	15	袖ヶ浦市長浦駅前3丁目		15

回答者の属性

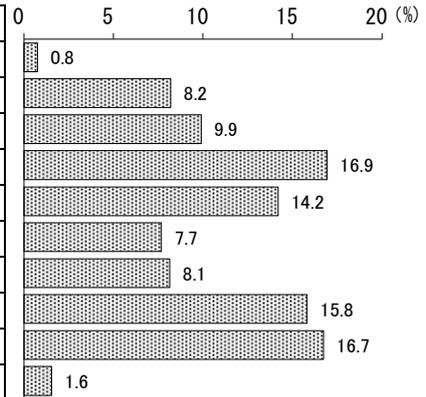
1. 性

	基数	構成比
1 男性	633	41.2
2 女性	855	55.7
3 その他	3	0.2
4 回答しない (無回答)	23	1.5
全体	1,535	100.0



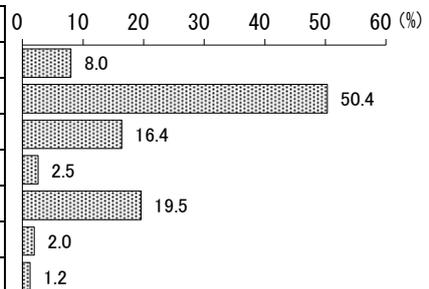
2. 年代

	基数	構成比
1 18～19歳	12	0.8
2 20代	126	8.2
3 30代	152	9.9
4 40代	260	16.9
5 50代	218	14.2
6 60～64歳	118	7.7
7 65～69歳	125	8.1
8 70～74歳	243	15.8
9 75歳以上	257	16.7
(無回答)	24	1.6
全体	1,535	100.0



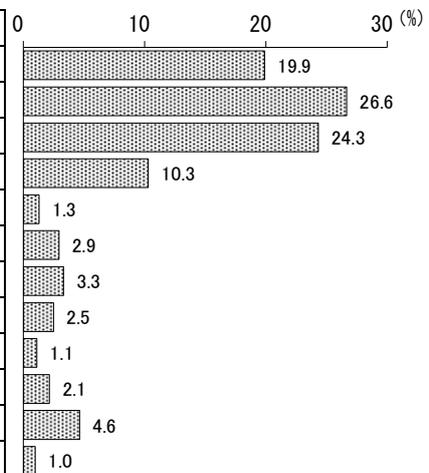
3. 職業

	基数	構成比
1 自営業者	123	8.0
2 勤め人	773	50.4
3 主婦・主夫	251	16.4
4 学生	39	2.5
5 無職	300	19.5
6 その他	30	2.0
(無回答)	19	1.2
全体	1,535	100.0



4. 地域

	基数	構成比
1 千葉地域	305	19.9
2 葛南地域	409	26.6
3 東葛飾地域	373	24.3
4 印旛地域	158	10.3
5 香取地域	20	1.3
6 海匝地域	45	2.9
7 山武地域	51	3.3
8 長生地域	38	2.5
9 夷隅地域	17	1.1
10 安房地域	33	2.1
11 君津地域	71	4.6
(無回答)	15	1.0
全体	1,535	100.0



（報告書の見方）

本報告書を読む際に、次の点に留意してください。

- （1）比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100%にならないことがある。
- （2）基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率はnの件数を100%として算出した。
- （3）1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- （4）複数の選択肢を合わせた表記の回答割合は、選択肢の回答者人数を合わせた値を、全回答者で割った値を採用しているため、選択肢の回答割合を単純に足した値と異なることがある。
- （5）回答の基数（サンプル数）が少ない場合は、解説で当該集計結果に触れていない場合がある。また、派生的設問において、基数が少ない属性が多い場合は、解説を行わない場合がある。
- （6）地域別、性・年代別の解説において、全体の数値との差が認められる確率が一定の基準を超えない属性の数値については、触れていない場合がある。
- （7）この調査の標本誤差は次の式によって得られる。但し、信頼度を95%とする。

$$b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 比率算出の基数（サンプル数）
 P = 回答比率

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

【全体・地域別・性別】

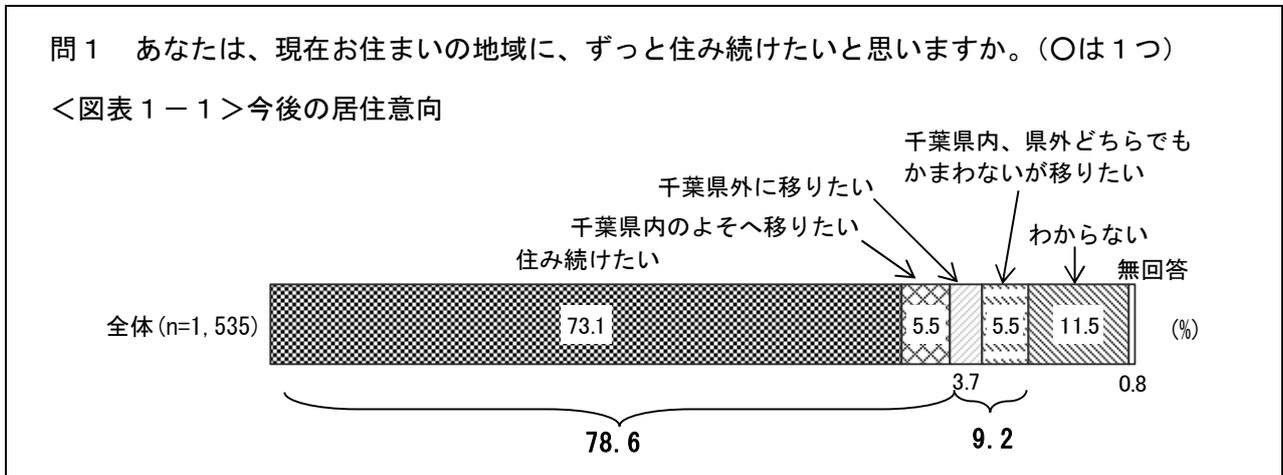
回答比率（P） 基数（n）		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
		総数	1,535人	± 2.17	± 2.89	± 3.31
千葉地域	305	± 4.86	± 6.48	± 7.42	± 7.93	± 8.10
葛南地域	409	± 4.20	± 5.59	± 6.41	± 6.85	± 6.99
東葛飾地域	373	± 4.39	± 5.86	± 6.71	± 7.17	± 7.32
印旛地域	158	± 6.75	± 9.00	± 10.31	± 11.02	± 11.25
香取地域	20	± 18.97	± 25.30	± 28.98	± 30.98	± 31.62
海匠地域	45	± 12.65	± 16.86	± 19.32	± 20.65	± 21.08
山武地域	51	± 11.88	± 15.84	± 18.15	± 19.40	± 19.80
長生地域	38	± 13.76	± 18.35	± 21.02	± 22.47	± 22.94
夷隅地域	17	± 20.58	± 27.44	± 31.43	± 33.60	± 34.30
安房地域	33	± 14.77	± 19.69	± 22.56	± 24.12	± 24.61
君津地域	71	± 10.07	± 13.43	± 15.38	± 16.44	± 16.78
男性	633	± 3.37	± 4.50	± 5.15	± 5.51	± 5.62
女性	855	± 2.90	± 3.87	± 4.43	± 4.74	± 4.84

調査の結果 調査結果の解説

1 環境と生活について

(1) 今後の居住意向

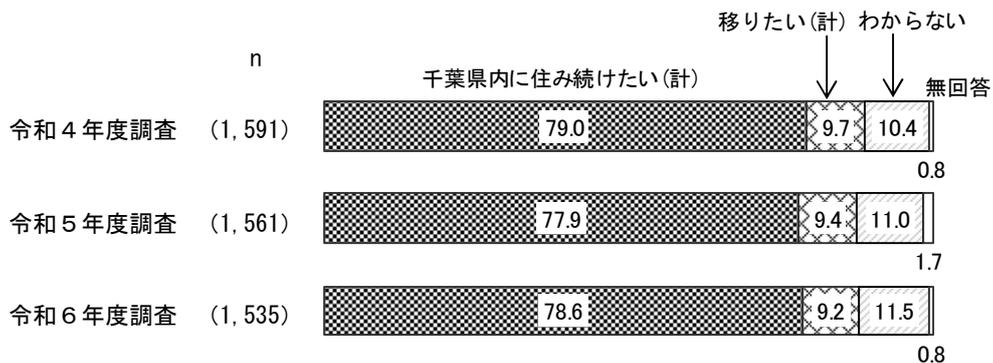
◇『千葉県内に住み続けたい（計）』が約8割



現在お住まいの地域の今後の居住意向を聞いたところ、「住み続けたい」(73.1%)が7割を超え、これと「千葉県内のよそへ移りたい」(5.5%)を合わせた『千葉県内に住み続けたい(計)』(78.6%)が約8割となっている。

一方、「千葉県外に移りたい」(3.7%)と「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」(5.5%)を合わせた『移りたい(計)』(9.2%)が約1割となっている。(図表1-1)

【参考】令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

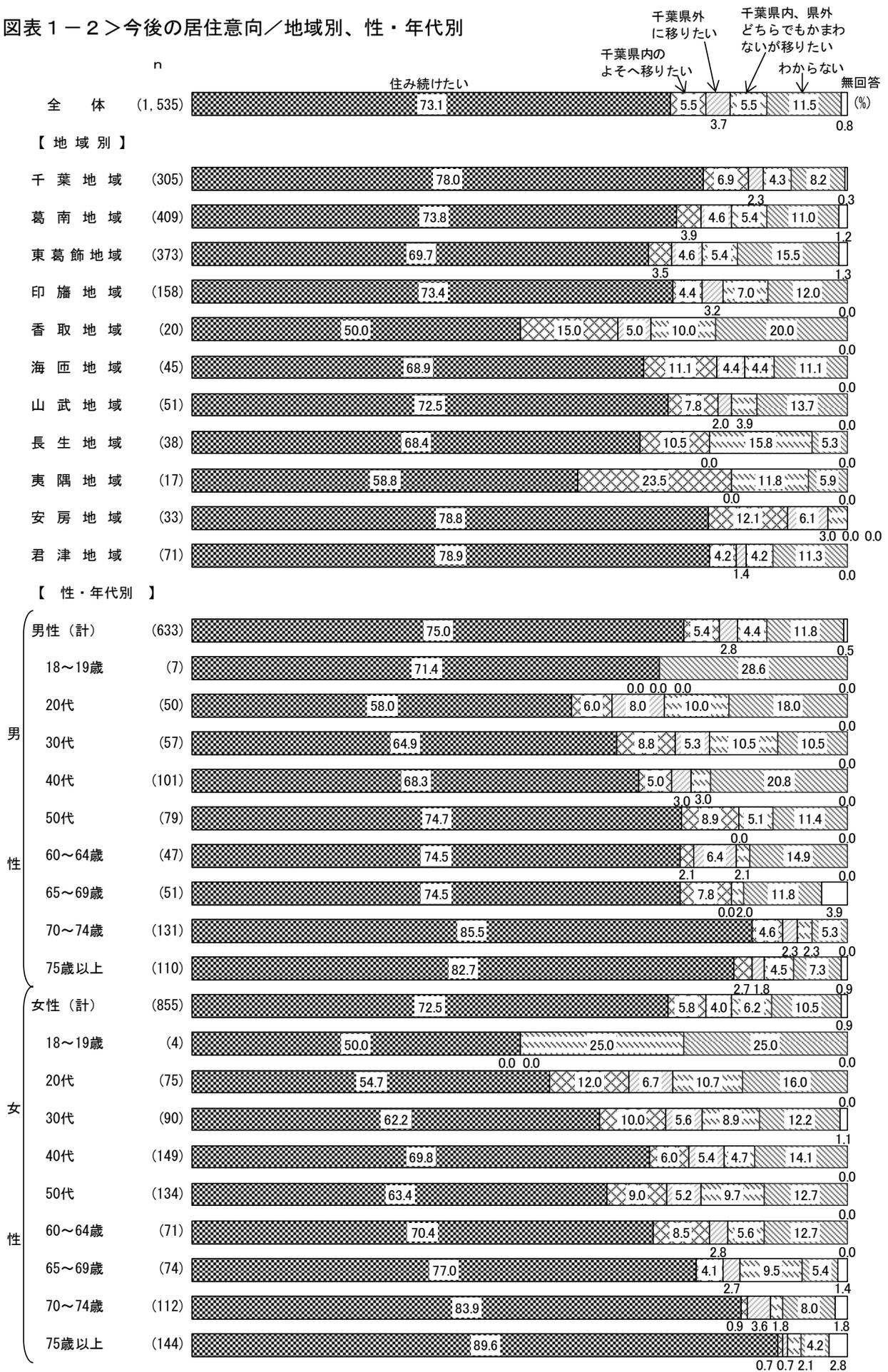
地域別にみると、『千葉県内に住み続けたい(計)』は“千葉地域”(84.9%)が8割台半ばで高くなっている。(図表1-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『千葉県内に住み続けたい(計)』は女性の75歳以上(90.3%)と男性の70～74歳(90.1%)が9割で高くなっている。

一方、『移りたい(計)』は男性の20代(18.0%)と女性の20代(17.3%)が約2割、女性の50代(14.9%)が1割台半ばで高くなっている。(図表1-2)

＜図表 1－2＞今後の居住意向／地域別、性・年代別



（1-1）住み続けたい理由

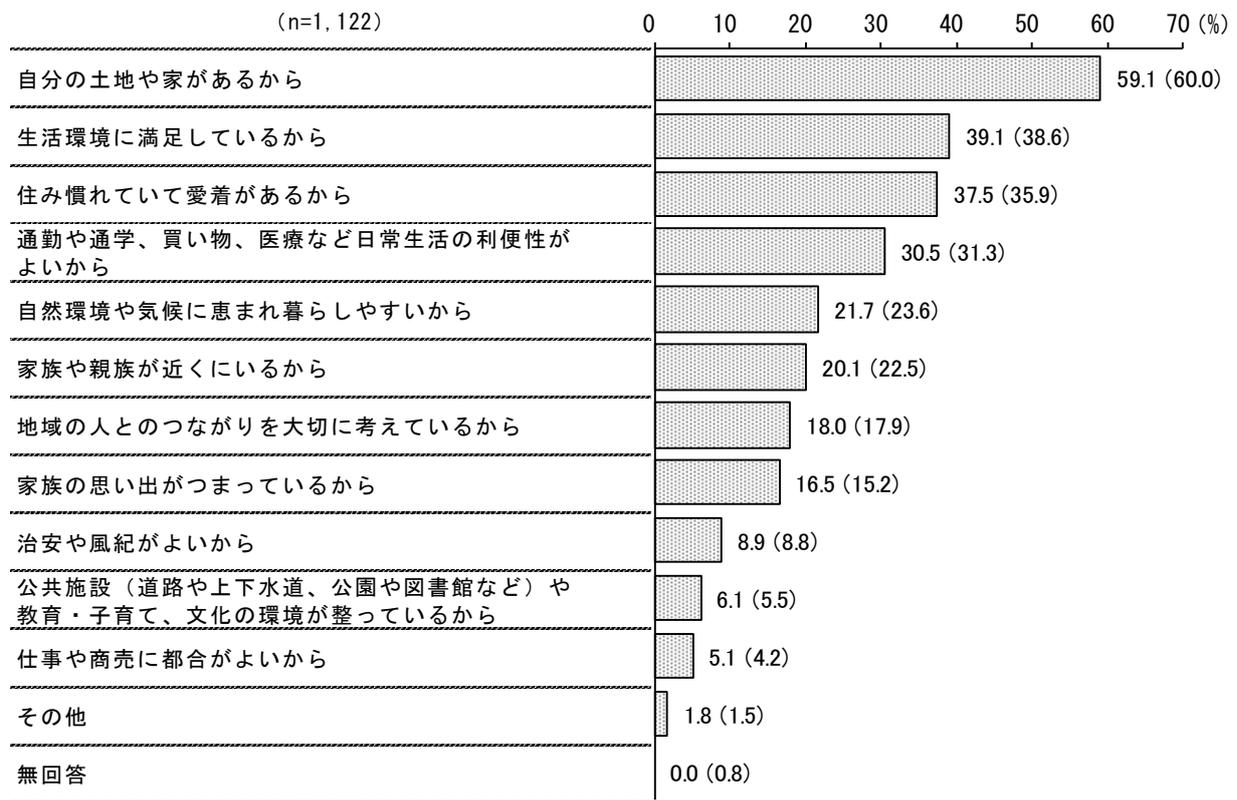
◇「自分の土地や家があるから」が約6割

（問1で「住み続けたい」とお答えの方に）

問1-1 あなたが現在お住まいの地域に、ずっと住み続けたいと思う理由は何ですか。

（〇は3つまで）

<図表1-3>住み続けたい理由（3つまでの複数回答）



注）（ ）の数字は令和5年度の同様の項目による調査結果 n=1,131

「住み続けたい」と回答した1,122人を対象に、住み続けたい理由を聞いたところ、「自分の土地や家があるから」(59.1%)が約6割で最も高く、以下、「生活環境に満足しているから」(39.1%)、「住み慣れていて愛着があるから」(37.5%)、「通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性がよいから」(30.5%)が続く。(図表1-3)

【地域別】

地域別にみると、「自分の土地や家があるから」は“山武地域”(83.8%)が8割台半ば、“海匠地域”(77.4%)が約8割で高くなっている。「生活環境に満足しているから」は“葛南地域”(47.0%)が約5割で高くなっている。(図表1-4)

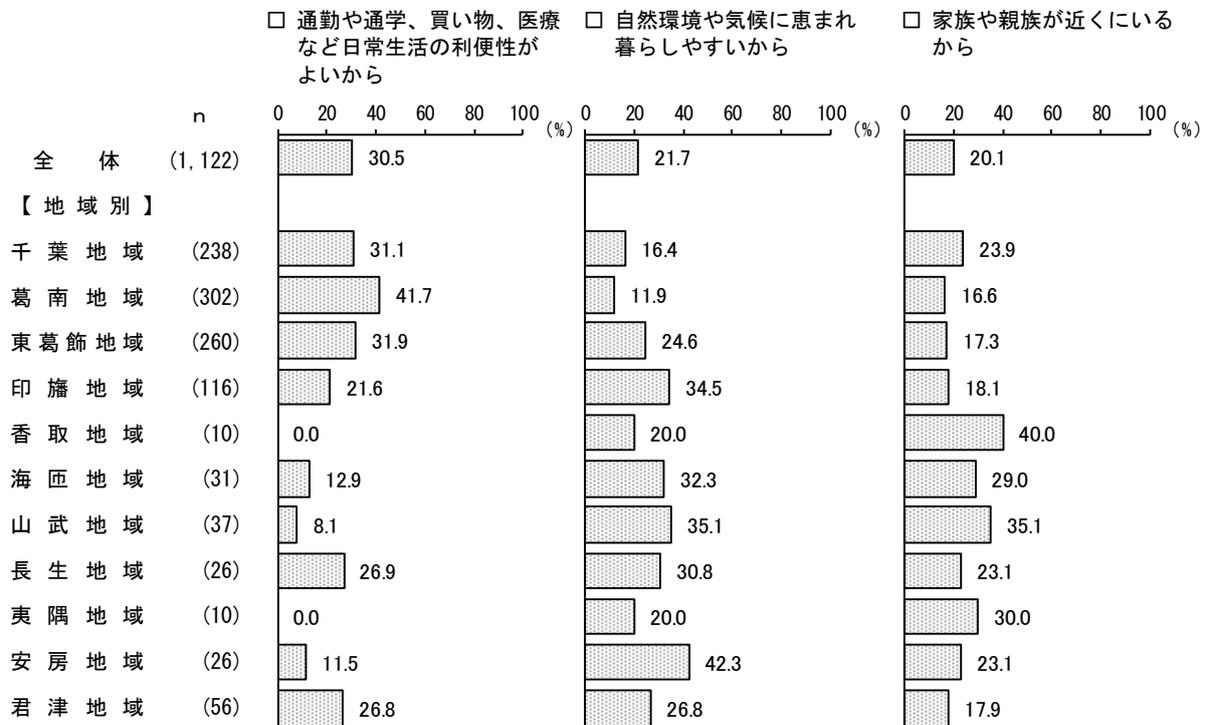
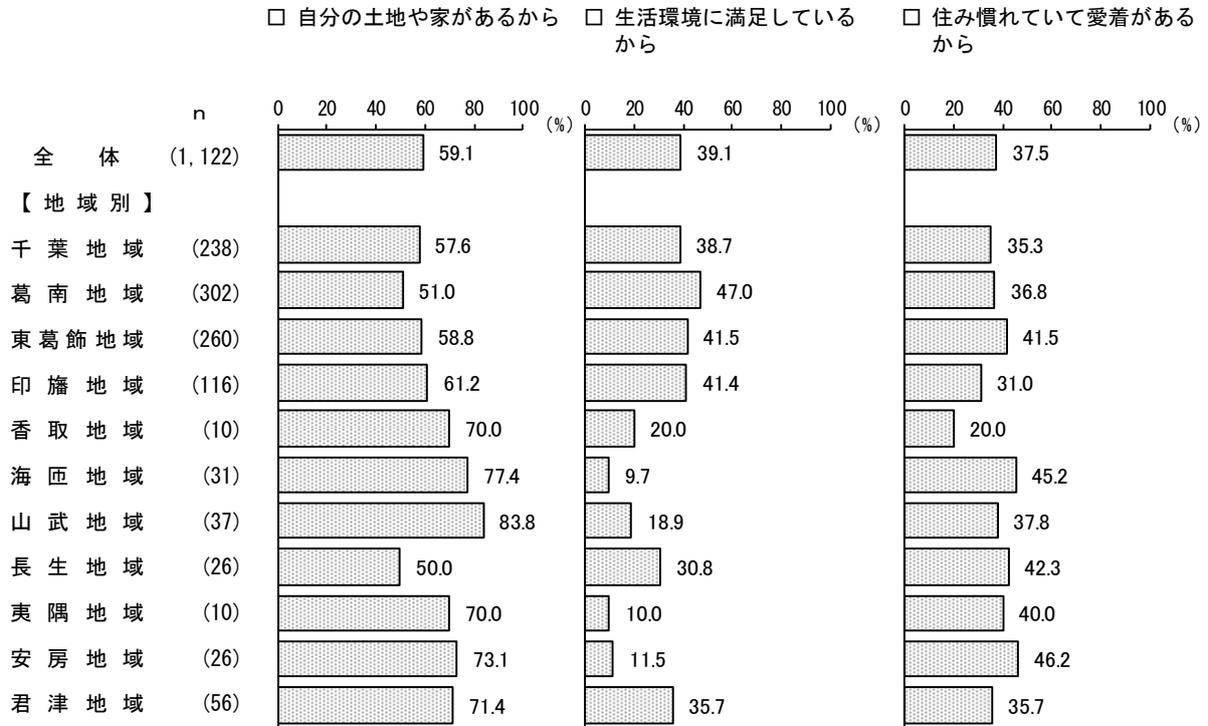
【性・年代別】

性・年代別にみると、「自分の土地や家があるから」は男性の70～74歳(72.3%)と女性の65～69歳(71.9%)が7割を超え、女性の75歳以上(68.2%)が約7割で高くなっている。

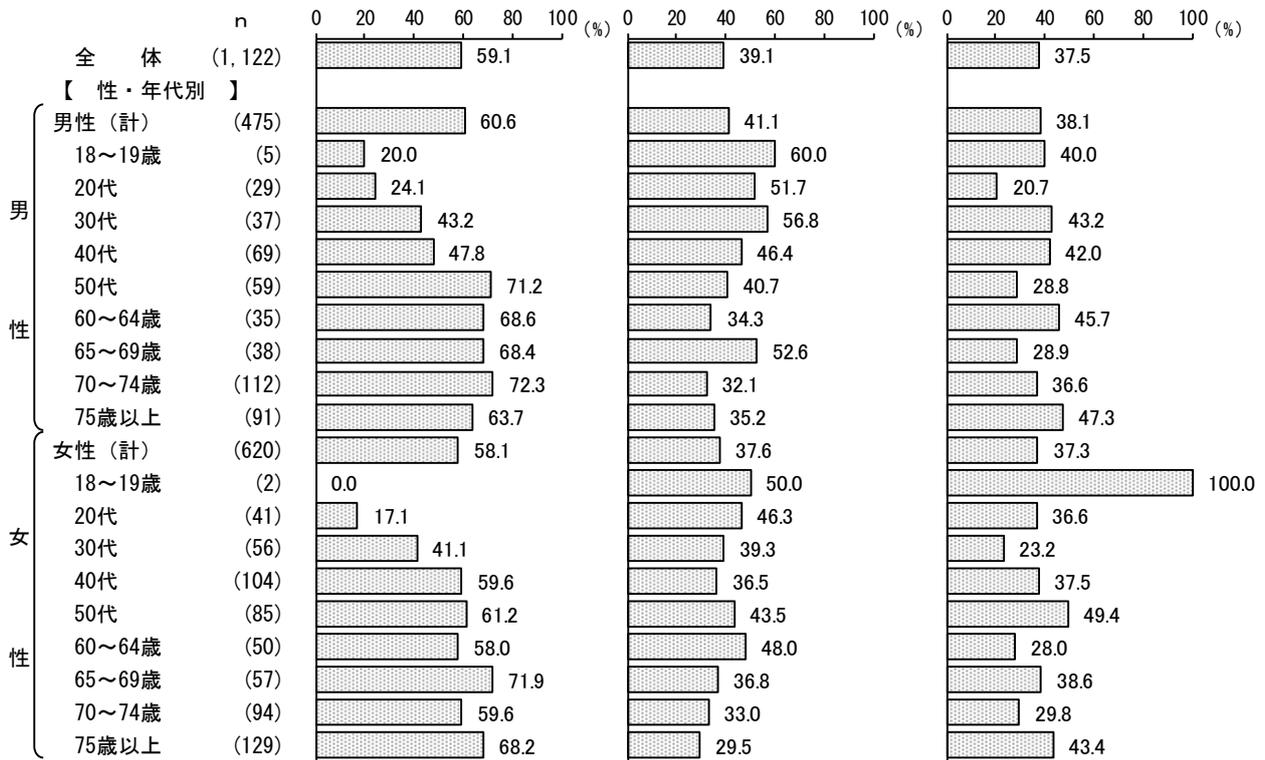
「生活環境に満足しているから」は男性の30代(56.8%)が5割台半ばで高くなっている。

「住み慣れていて愛着があるから」は女性の50代（49.4%）と男性の75歳以上（47.3%）が約5割で高くなっている。（図表1-4）

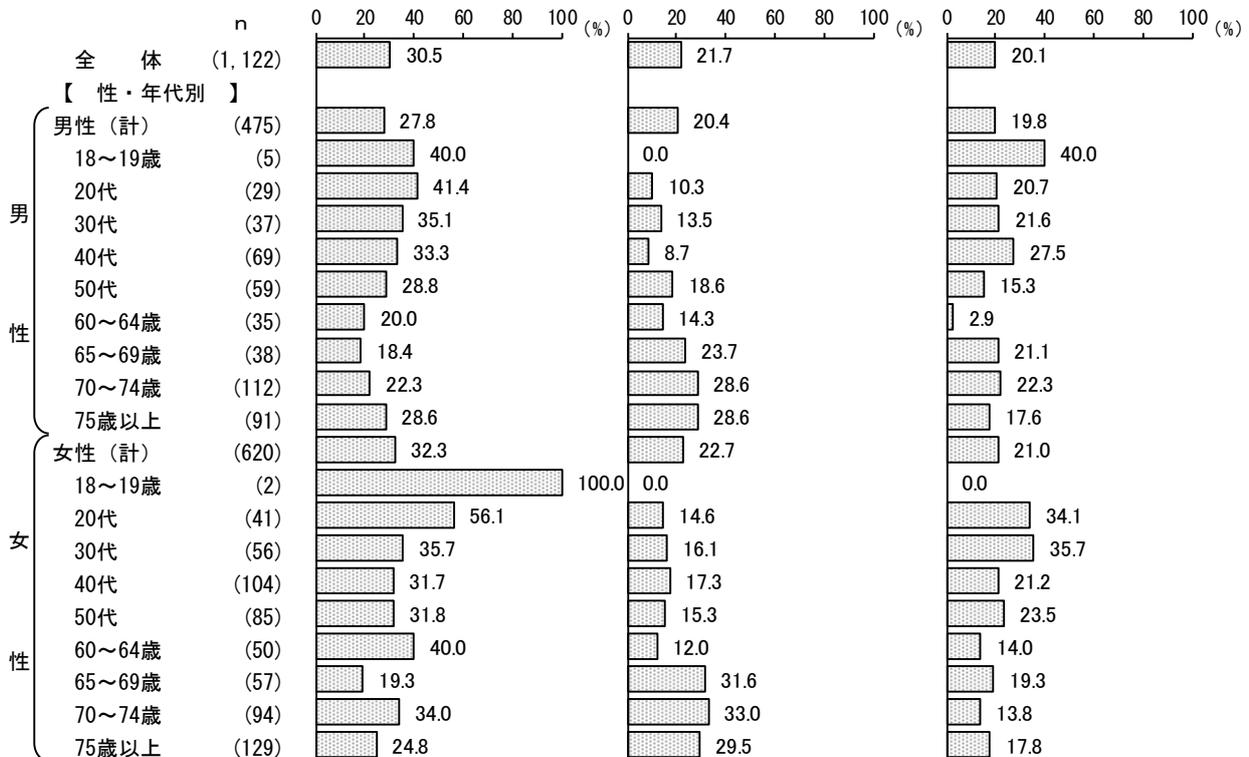
＜図表1-4＞住み続けたい理由（3つまでの複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）



□ 自分の土地や家があるから □ 生活環境に満足しているから □ 住み慣れていて愛着があるから



□ 通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性がよいから □ 自然環境や気候に恵まれ暮らしやすいから □ 家族や親族が近くにいるから



（1－2）移りたい理由

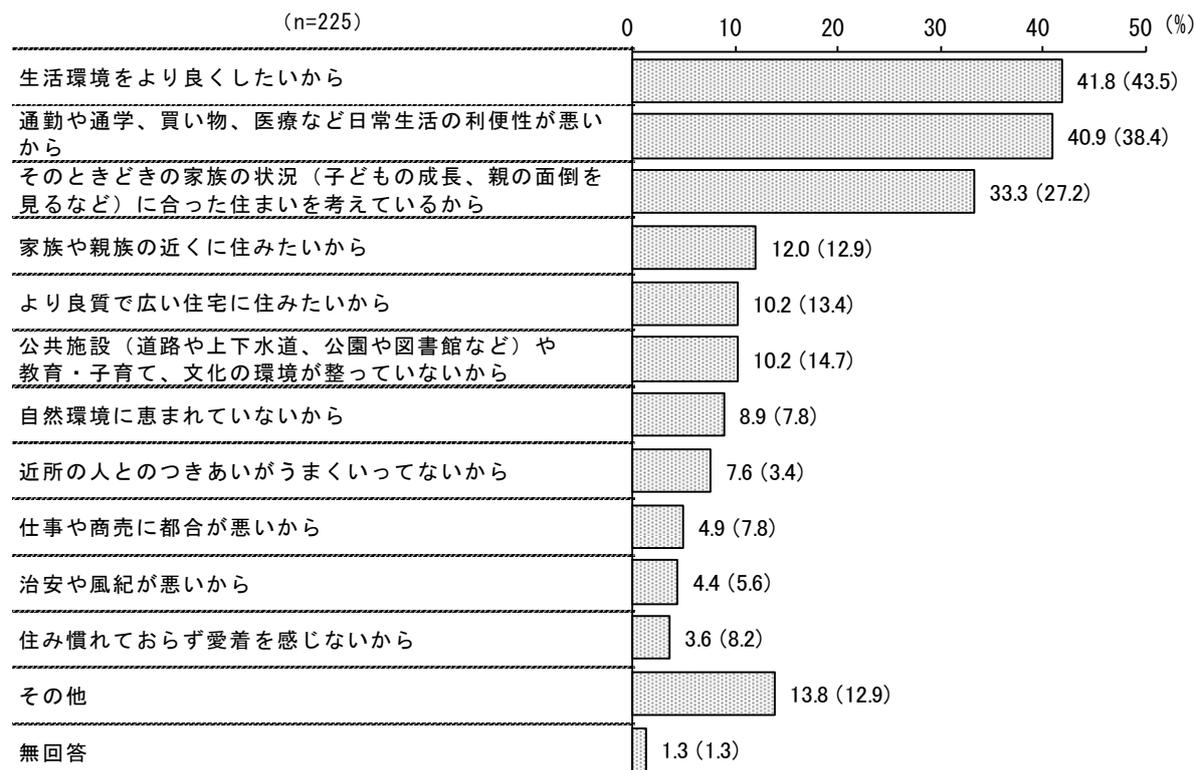
◇「生活環境をより良くしたいから」が4割を超える

（問1で「千葉県内のよそへ移りたい」「千葉県外に移りたい」「千葉県内、県外どちらでもかまわないうちに移りたい」のいずれかをお答えの方に）

問1－2 あなたが現在お住まいの地域から移りたいと思う理由は何ですか。

（○は3つまで）

＜図表1－5＞移りたい理由（3つまでの複数回答）



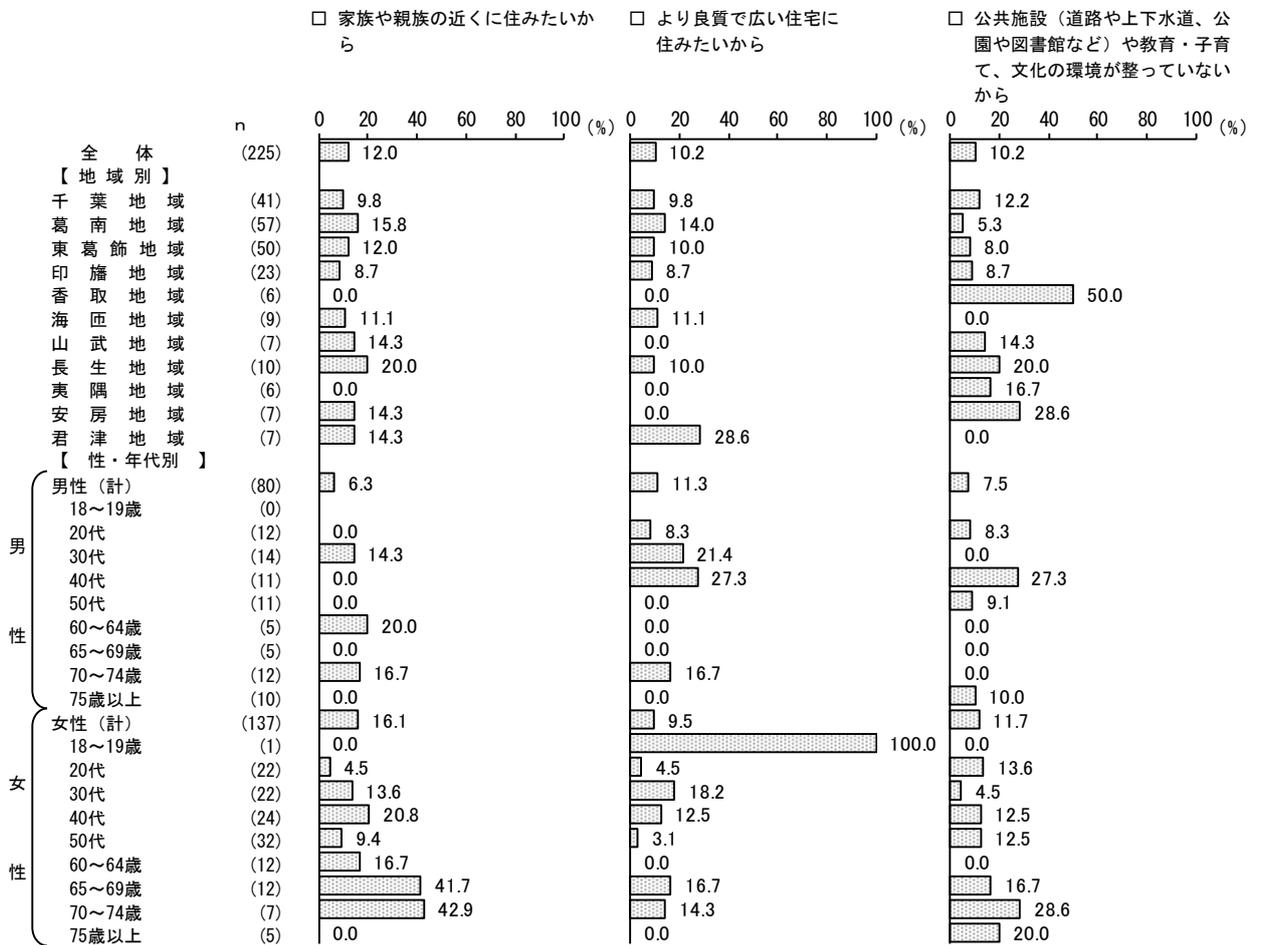
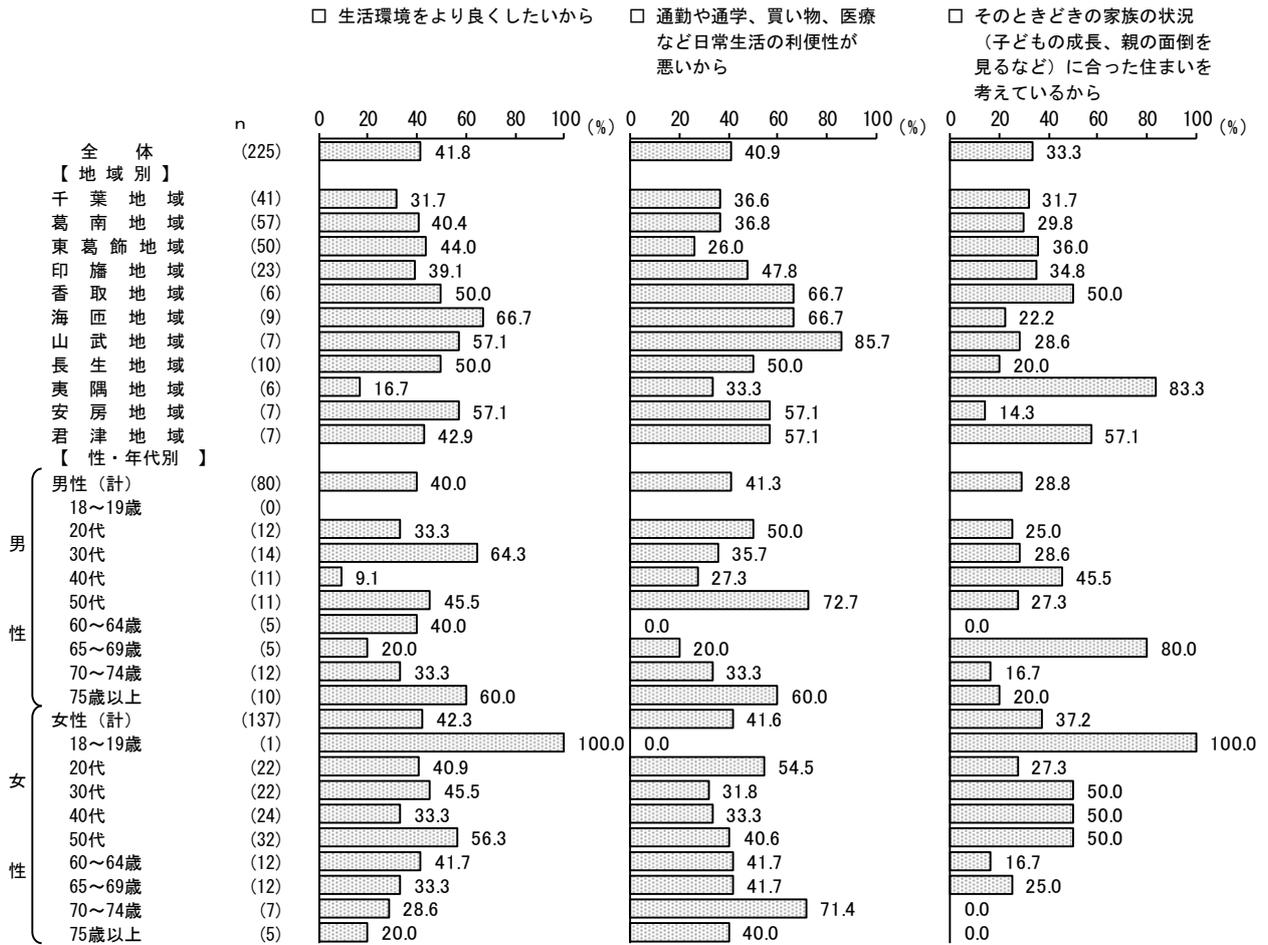
注) () の数字は令和5年度の同様の項目による調査結果 n = 232

「移りたい」と回答した225人を対象に、移りたい理由を聞いたところ、「生活環境をより良くしたいから」(41.8%)が4割を超えて最も高く、以下、「通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性が悪いから」(40.9%)、「そのときどきの家族の状況(子どもの成長、親の面倒を見るなど)に合った住まいを考えているから」(33.3%)、「家族や親族の近くに住みたいから」(12.0%)が続く。(図表1－5)

※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

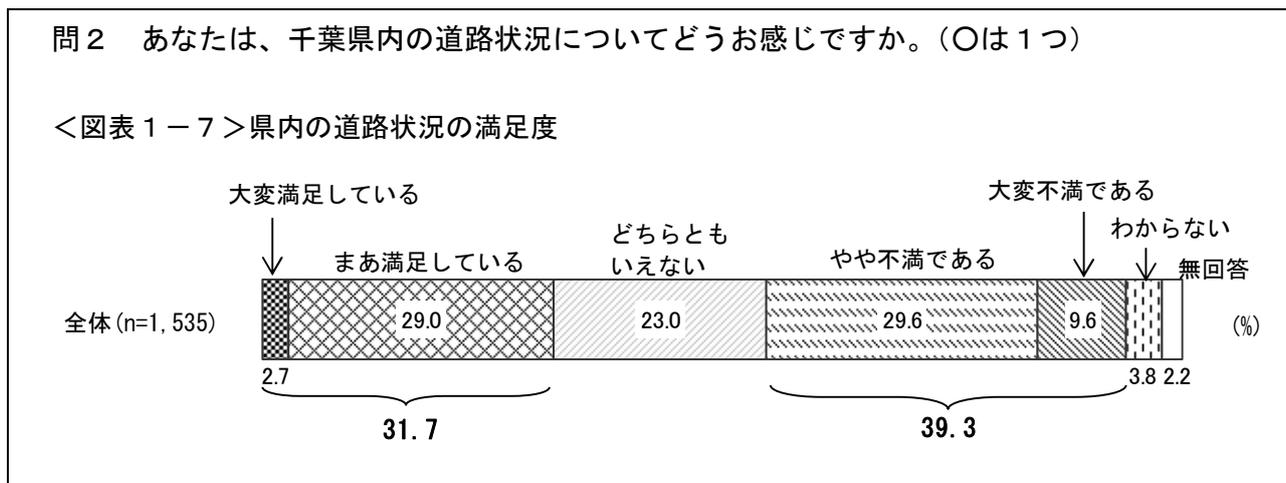
(8ページ「報告書の見方(5)」を参照)(図表1－6)

[参考] <図表1-6> 移りたい理由（3つまでの複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）



（２）県内の道路状況の満足度

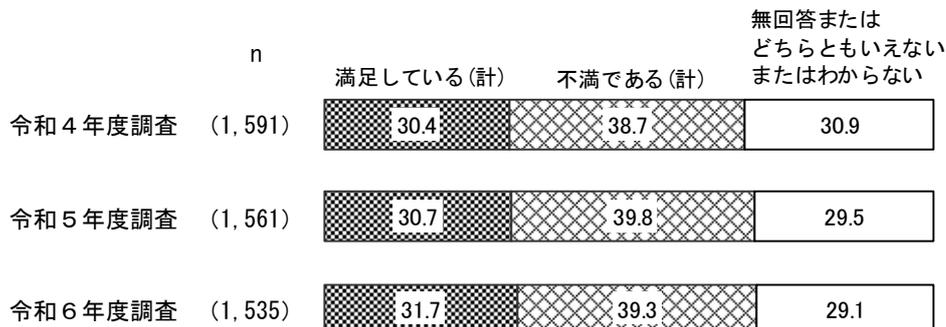
◇『満足している（計）』が3割を超える



県内の道路状況の満足度を聞いたところ、「大変満足している」(2.7%)と「まあ満足している」(29.0%)を合わせた『満足している(計)』(31.7%)が3割を超えている。

一方、「やや不満である」(29.6%)と「大変不満である」(9.6%)を合わせた『不満である(計)』(39.3%)は約4割となっている。(図表1-7)

〔参考〕令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

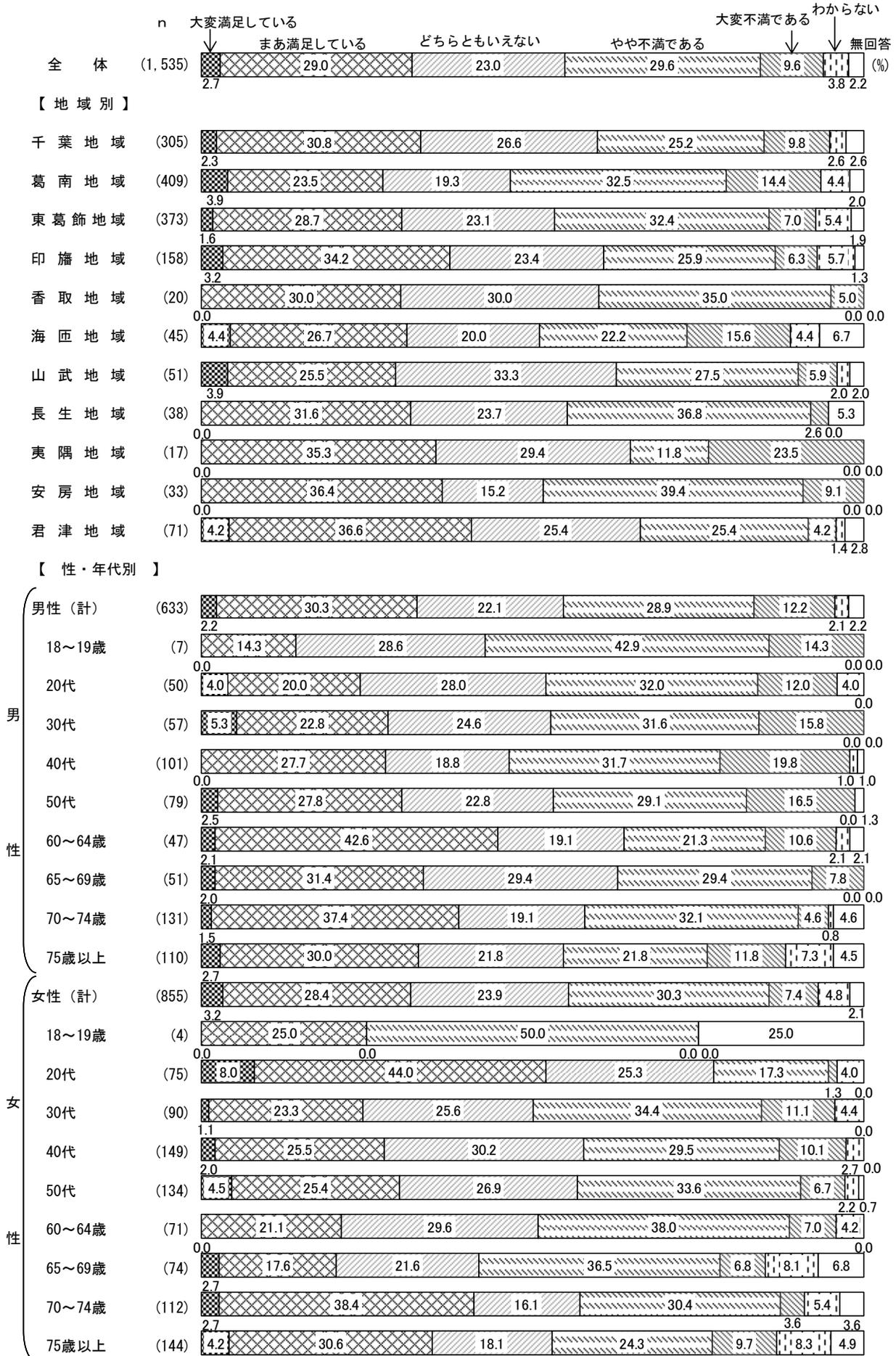
地域別にみると、『不満である(計)』は“葛南地域”(46.9%)が4割台半ばで高くなっている。(図表1-8)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『満足している(計)』は女性の20代(52.0%)が5割を超え、女性の70～74歳(41.1%)が4割を超えて高くなっている。

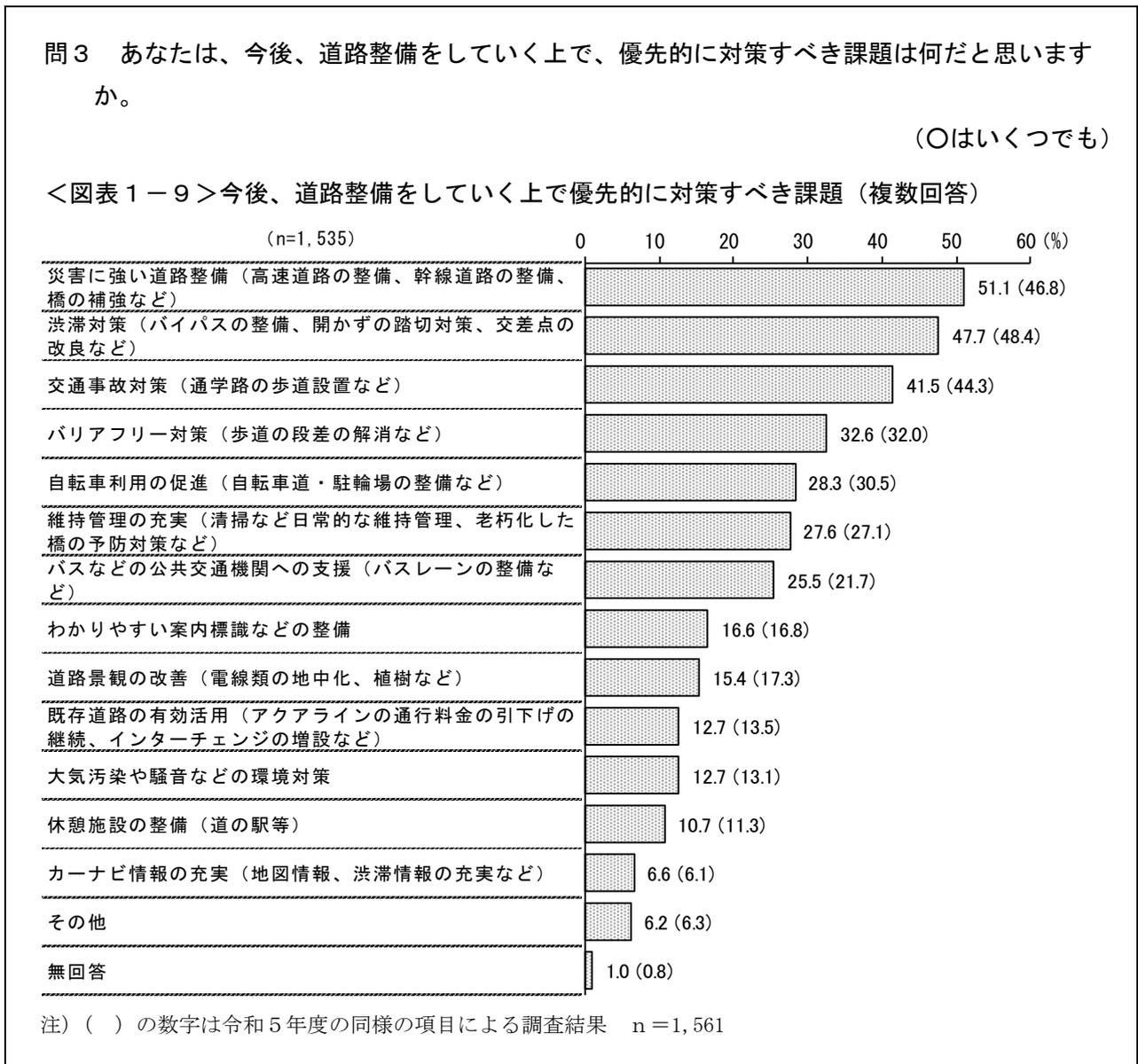
一方、『不満である(計)』は男性の40代(51.5%)が5割を超えて高くなっている。(図表1-8)

<図表1-8> 県内の道路状況の満足度／地域別、性・年代別



（3）今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題

◇「災害に強い道路整備（高速道路の整備、幹線道路の整備、橋の補強など）」が5割を超える



今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題を聞いたところ、「災害に強い道路整備（高速道路の整備、幹線道路の整備、橋の補強など）」（51.1%）が5割を超えて最も高く、以下、「渋滞対策（バイパスの整備、開かずの踏切対策、交差点の改良など）」（47.7%）、「交通事故対策（通学路の歩道設置など）」（41.5%）、「バリアフリー対策（歩道の段差の解消など）」（32.6%）が続く。（図表 1-9）

【地域別】

地域別にみると、「災害に強い道路整備（高速道路の整備、幹線道路の整備、橋の補強など）」は「海匠地域」（66.7%）と「山武地域」（64.7%）が6割台半ばで高くなっている。

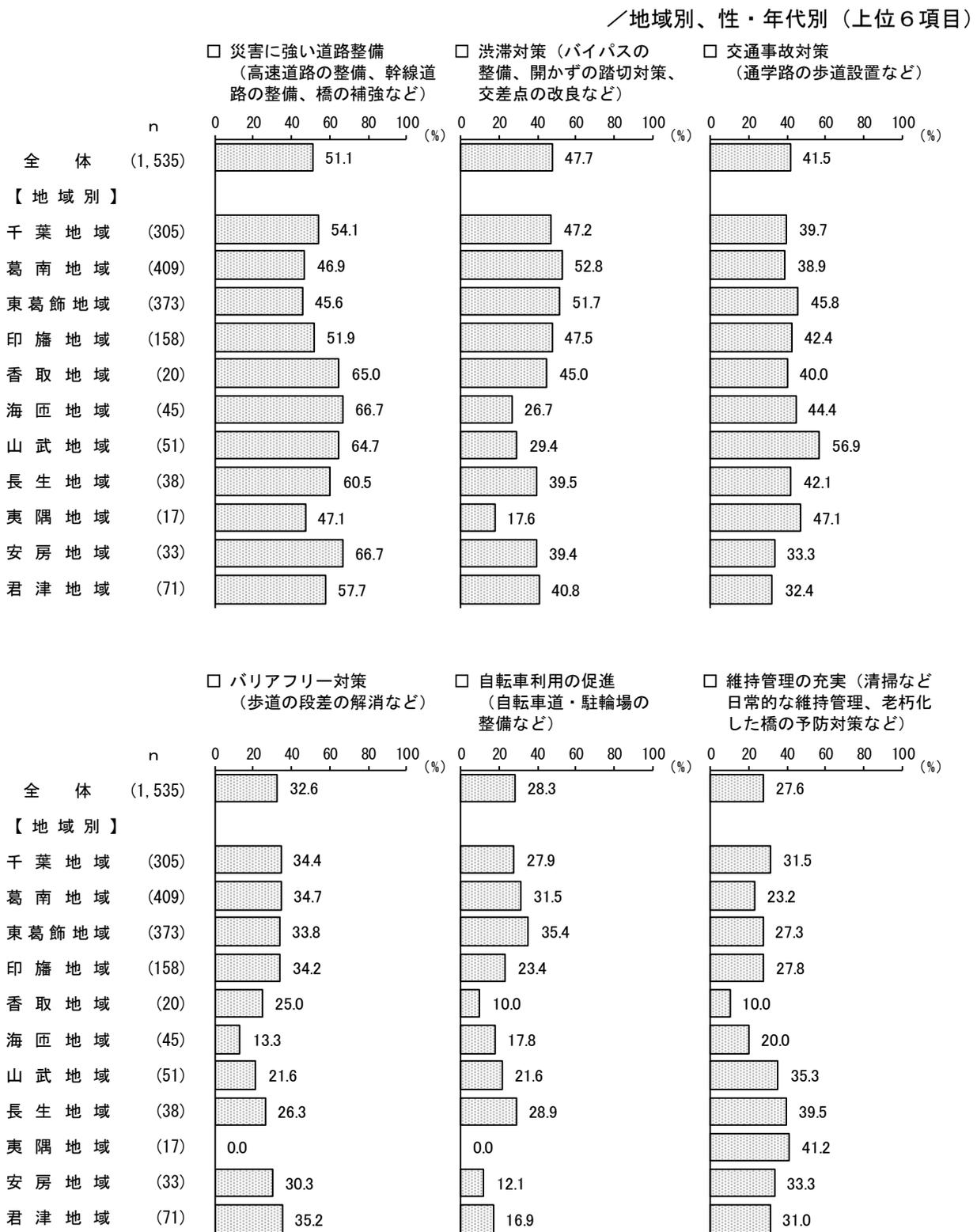
「渋滞対策（バイパスの整備、開かずの踏切対策、交差点の改良など）」は「葛南地域」（52.8%）が5割を超えて高くなっている。「交通事故対策（通学路の歩道設置など）」は「山武地域」（56.9%）が5割台半ばで高くなっている。（図表 1-10）

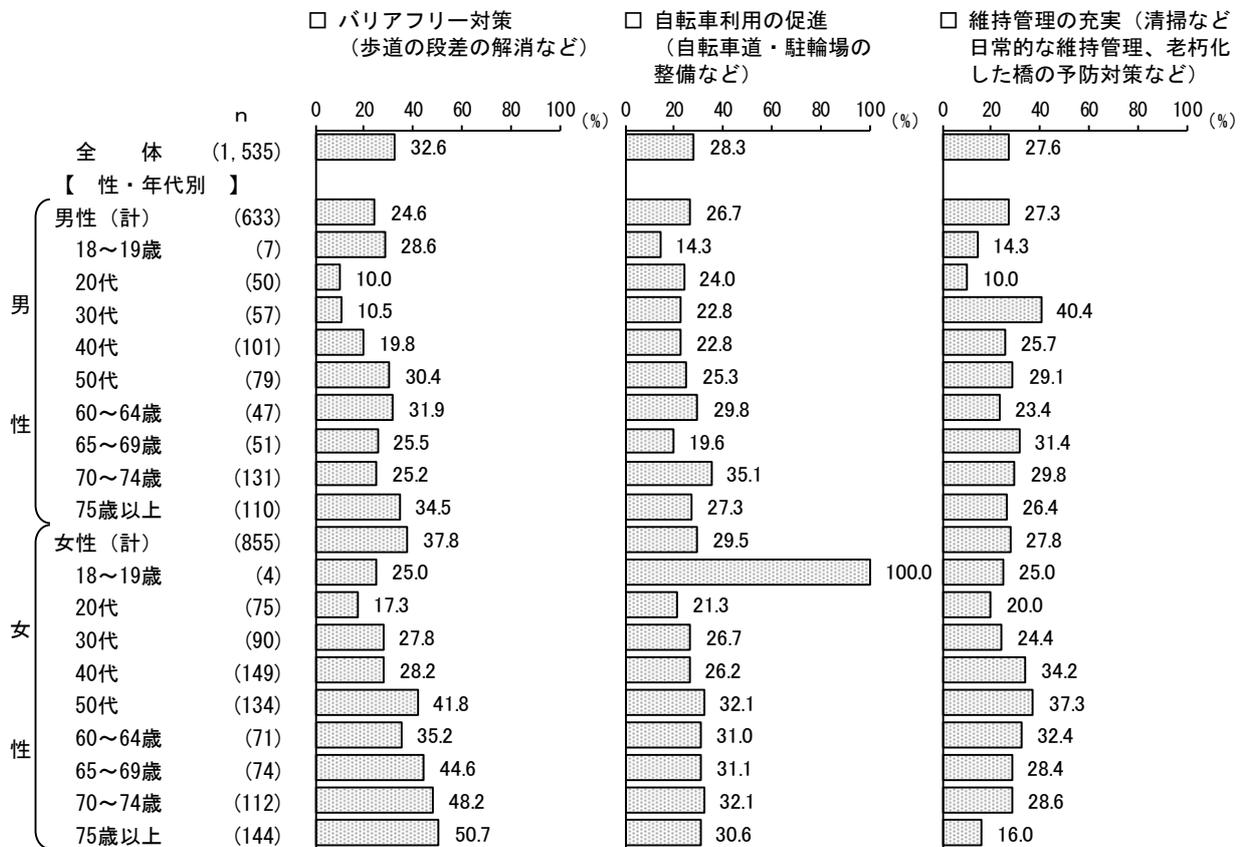
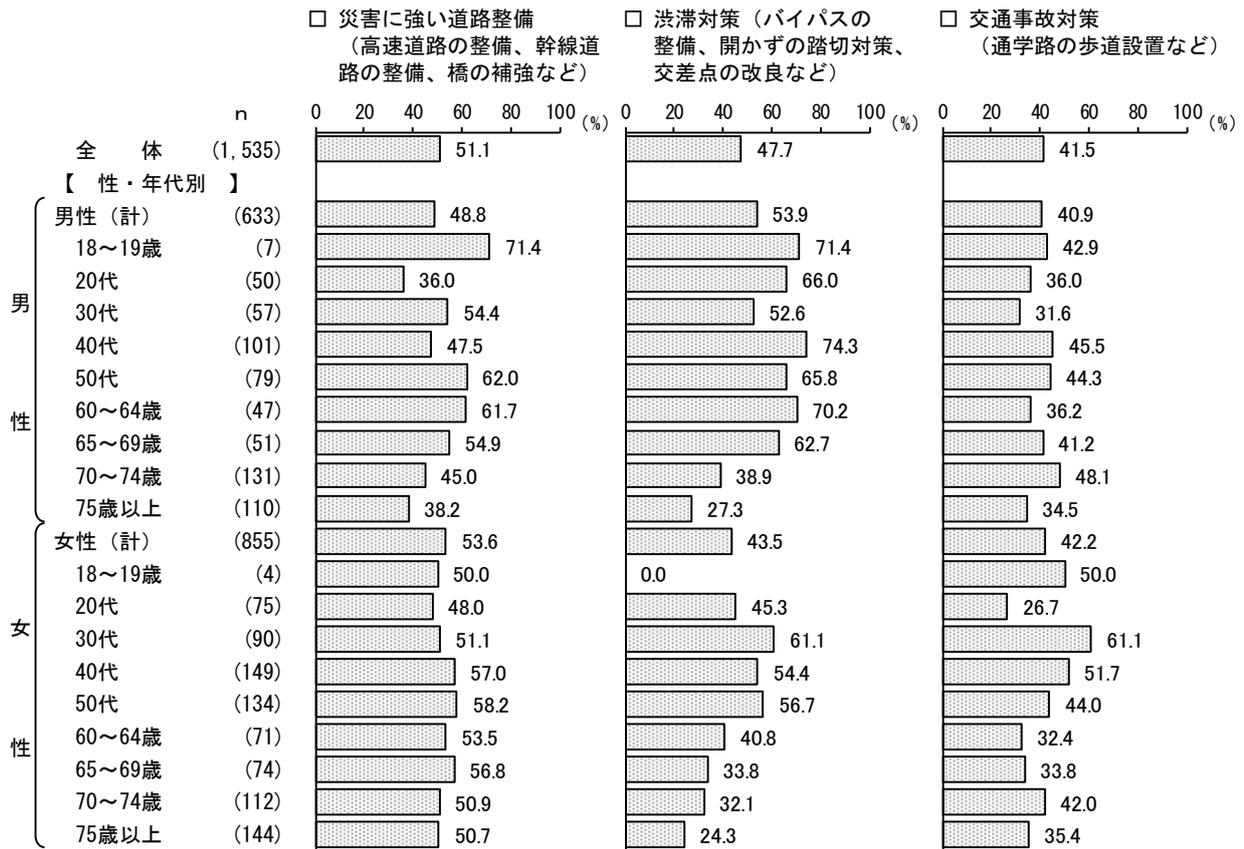
【性・年代別】

性・年代別にみると、「災害に強い道路整備（高速道路の整備、幹線道路の整備、橋の補強など）」は男性の50代（62.0%）が6割を超えて高くなっている。

「渋滞対策（バイパスの整備、開かずの踏切対策、交差点の改良など）」は男性の40代（74.3%）が7割台半ば、男性の60～64歳（70.2%）で7割、男性の20代（66.0%）と男性の50代（65.8%）が6割台半ば、男性の65～69歳（62.7%）と女性の30代（61.1%）が6割を超え、女性の50代（56.7%）が5割台半ばで高くなっている。（図表1-10）

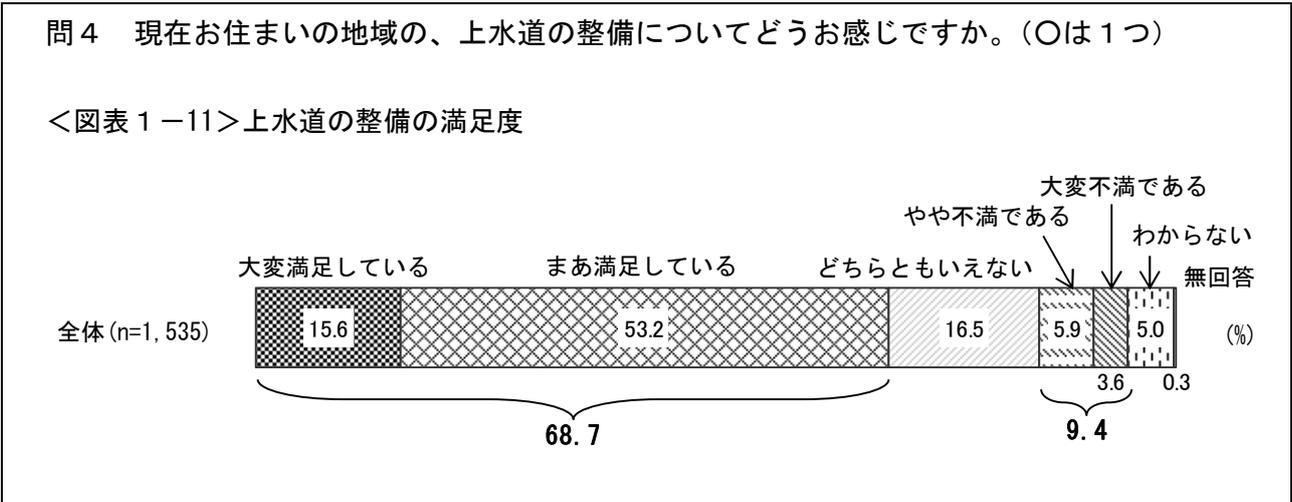
<図表1-10> 今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題（複数回答）





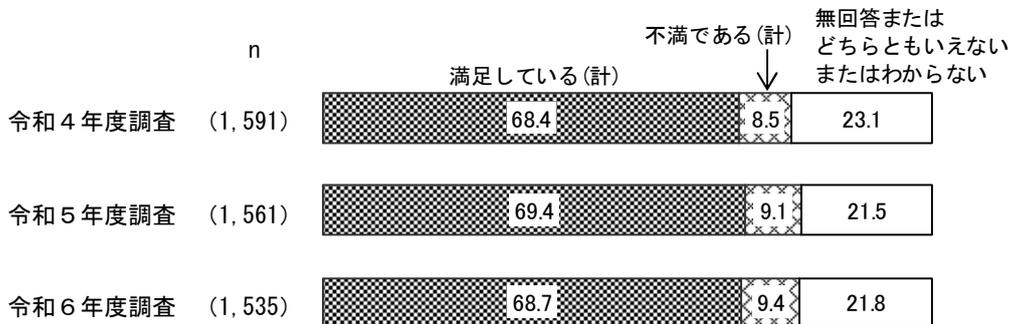
（４）上水道の整備の満足度

◇『満足している（計）』が約7割



現在お住まいの地域の上水道の整備の満足度を聞いたところ、「大変満足している」（15.6%）と「まあ満足している」（53.2%）を合わせた『満足している（計）』（68.7%）が約7割となっている。一方、「やや不満である」（5.9%）と「大変不満である」（3.6%）を合わせた『不満である（計）』（9.4%）が約1割となっている。（図表1-11）

〔参考〕令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

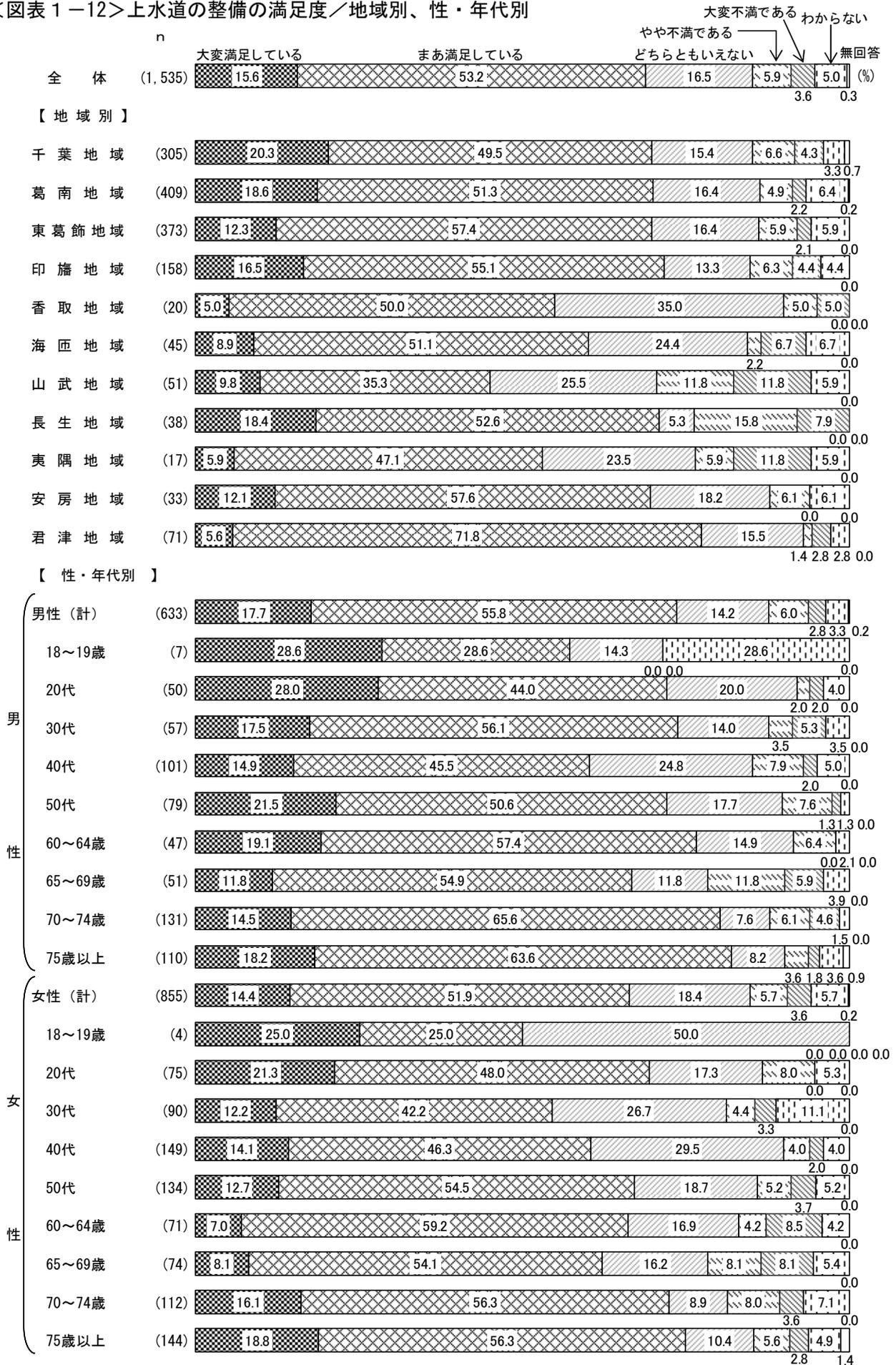
地域別にみると、『不満である（計）』は“長生地域”（23.7%）と“山武地域”（23.5%）が2割台半ばで高くなっている。（図表1-12）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『満足している（計）』は男性の75歳以上（81.8%）が8割を超え、男性の70～74歳（80.2%）が8割で高くなっている。

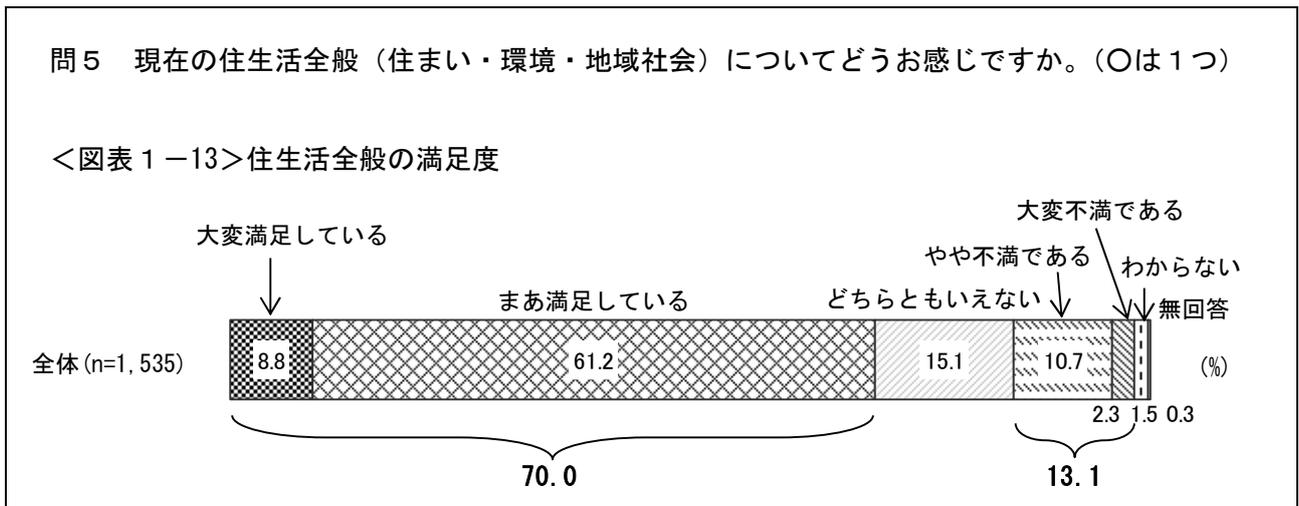
一方、『不満である（計）』は男性の65～69歳（17.6%）と女性の65～69歳（16.2%）が1割台半ばで高くなっている。（図表1-12）

<図表 1-12> 上水道の整備の満足度／地域別、性・年代別



（5）住生活全般の満足度

◇『満足している（計）』が7割



現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」（8.8%）と「まあ満足している」（61.2%）を合わせた『満足している（計）』（70.0%）が7割となっている。

一方、「やや不満である」（10.7%）と「大変不満である」（2.3%）を合わせた『不満である（計）』（13.1%）が1割を超えている。（図表1-13）

〔参考〕令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



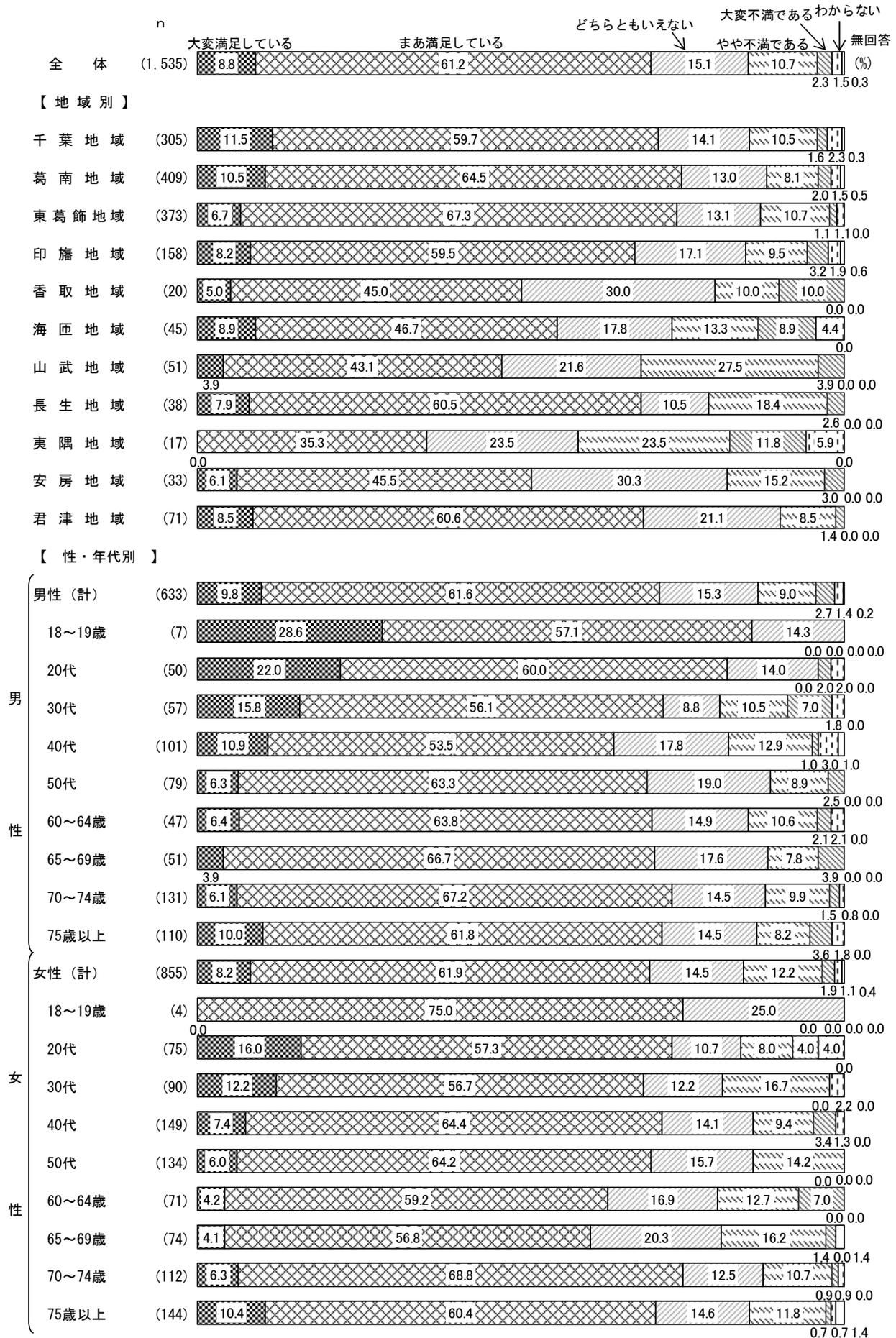
【地域別】

地域別にみると、『満足している（計）』は“葛南地域”（75.1%）が7割台半ばで高くなっている。一方、『不満である（計）』は“山武地域”（31.4%）が3割を超えて高くなっている。（図表1-14）

【性・年代別】

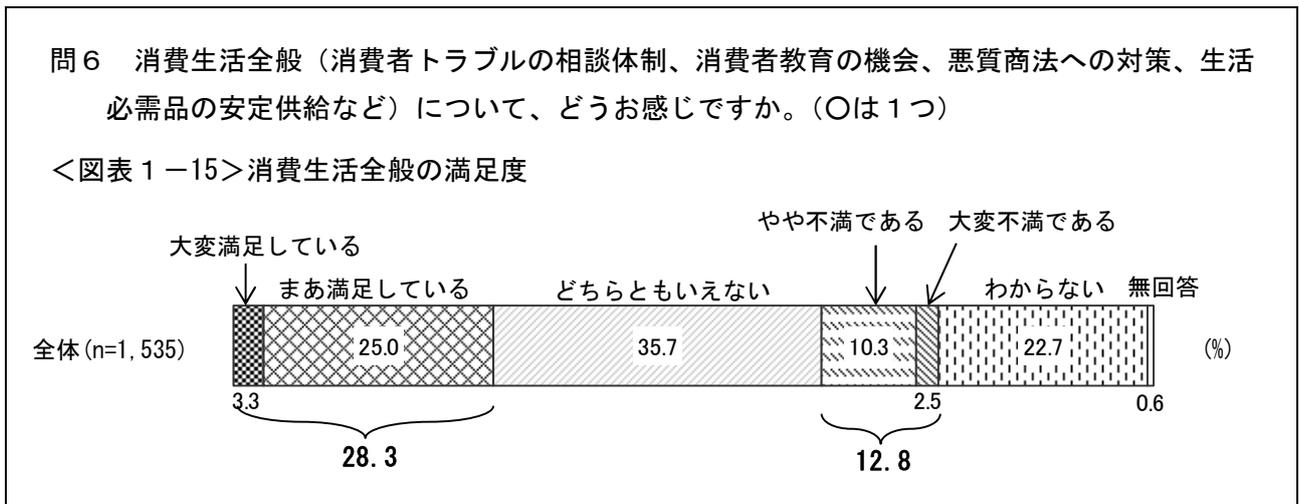
性・年代別にみると、「大変満足している」は男性の20代（22.0%）が2割を超え、女性の20代（16.0%）が1割台半ばで高くなっている。（図表1-14）

<図表 1-14>住生活全般の満足度／地域別、性・年代別



（6）消費生活全般の満足度

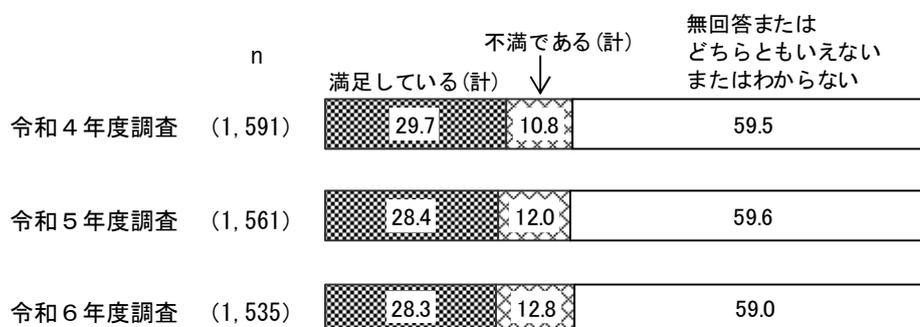
◇『満足している（計）』が約3割



消費生活全般（消費者トラブルの相談体制、消費者教育の機会、悪質商法への対策、生活必需品の安定供給など）について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」（3.3%）と「まあ満足している」（25.0%）を合わせた『満足している（計）』（28.3%）が約3割となっている。

一方、「やや不満である」（10.3%）と「大変不満である」（2.5%）を合わせた『不満である（計）』（12.8%）が1割を超えている。（図表1-15）

〔参考〕令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



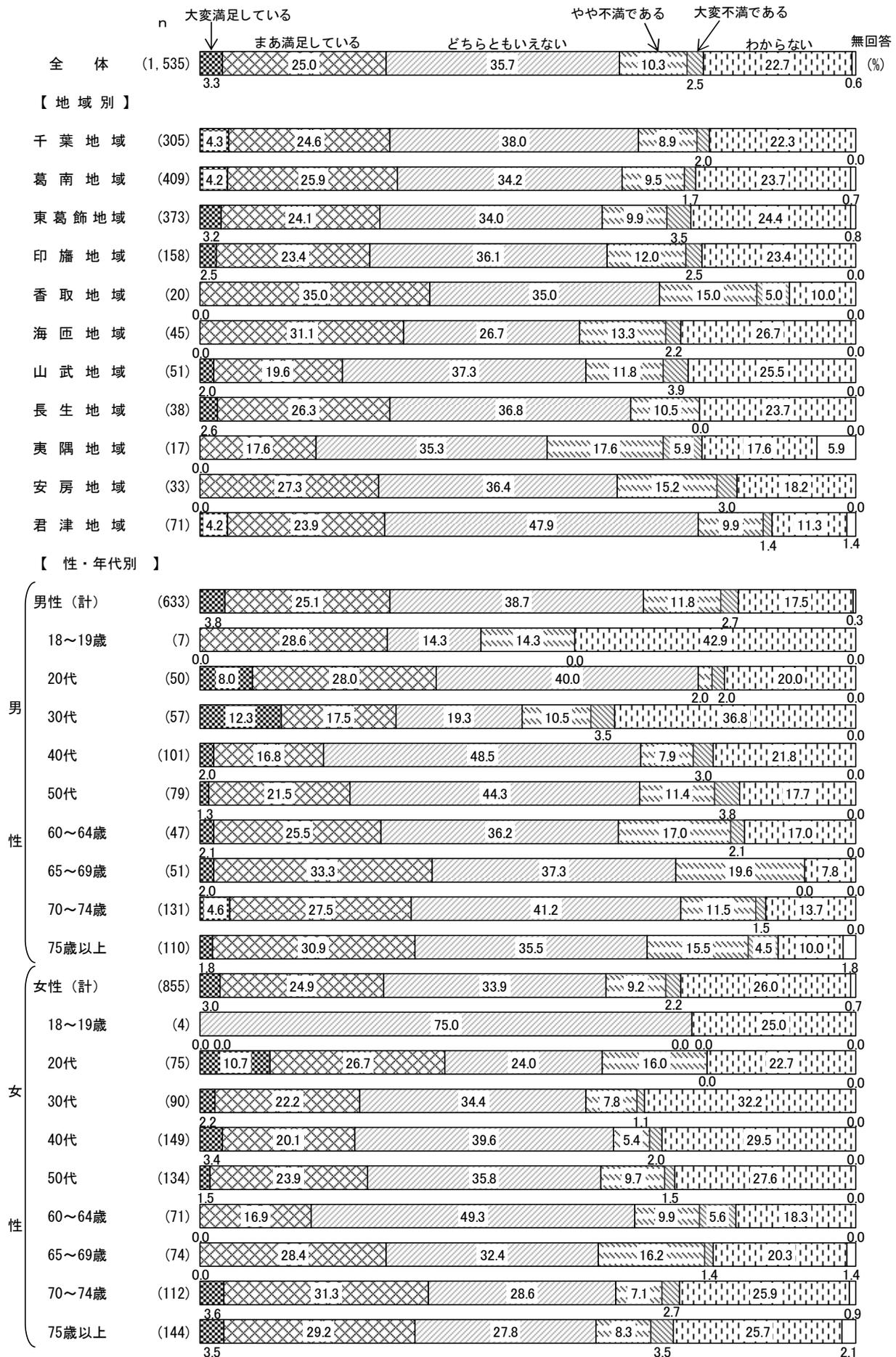
【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表1-16）

【性・年代別】

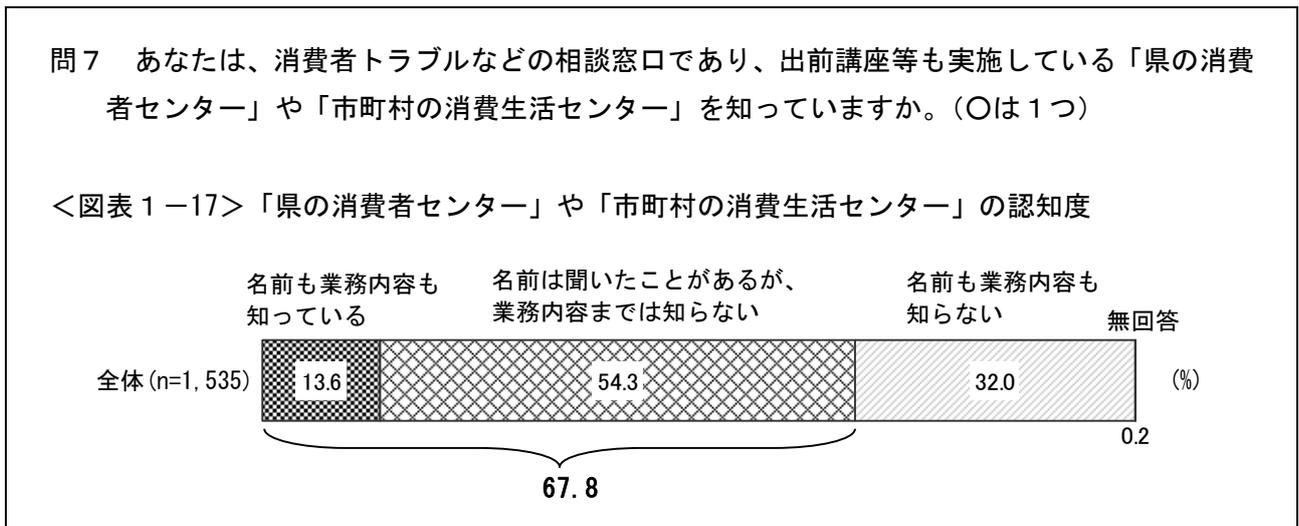
性・年代別にみると、『不満である（計）』は男性の75歳以上（20.0%）が2割で高くなっている。（図表1-16）

<図表 1-16>消費生活全般の満足度／地域別、性・年代別



（7）「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」の認知度

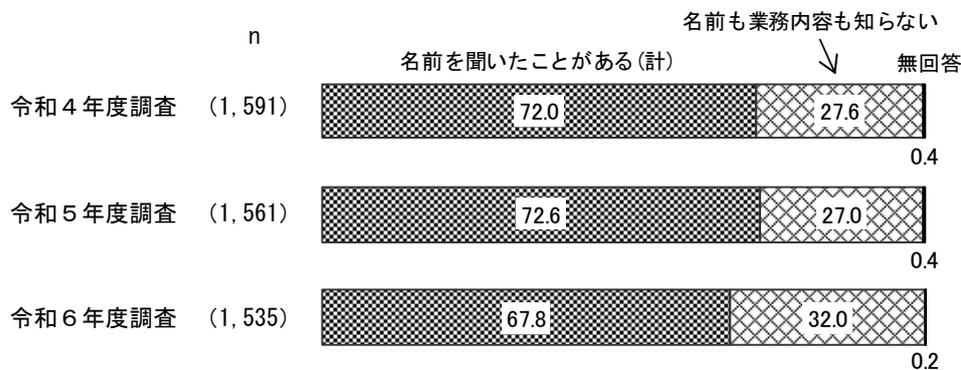
◇『名前を聞いたことがある（計）』が約7割



「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」を知っているか聞いたところ、「名前も業務内容も知っている」(13.6%)と「名前は聞いたことがあるが、業務内容までは知らない」(54.3%)を合わせた『名前を聞いたことがある（計）』(67.8%)が約7割となっている。

一方、「名前も業務内容も知らない」(32.0%)が3割を超えている。(図表1-17)

【参考】令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

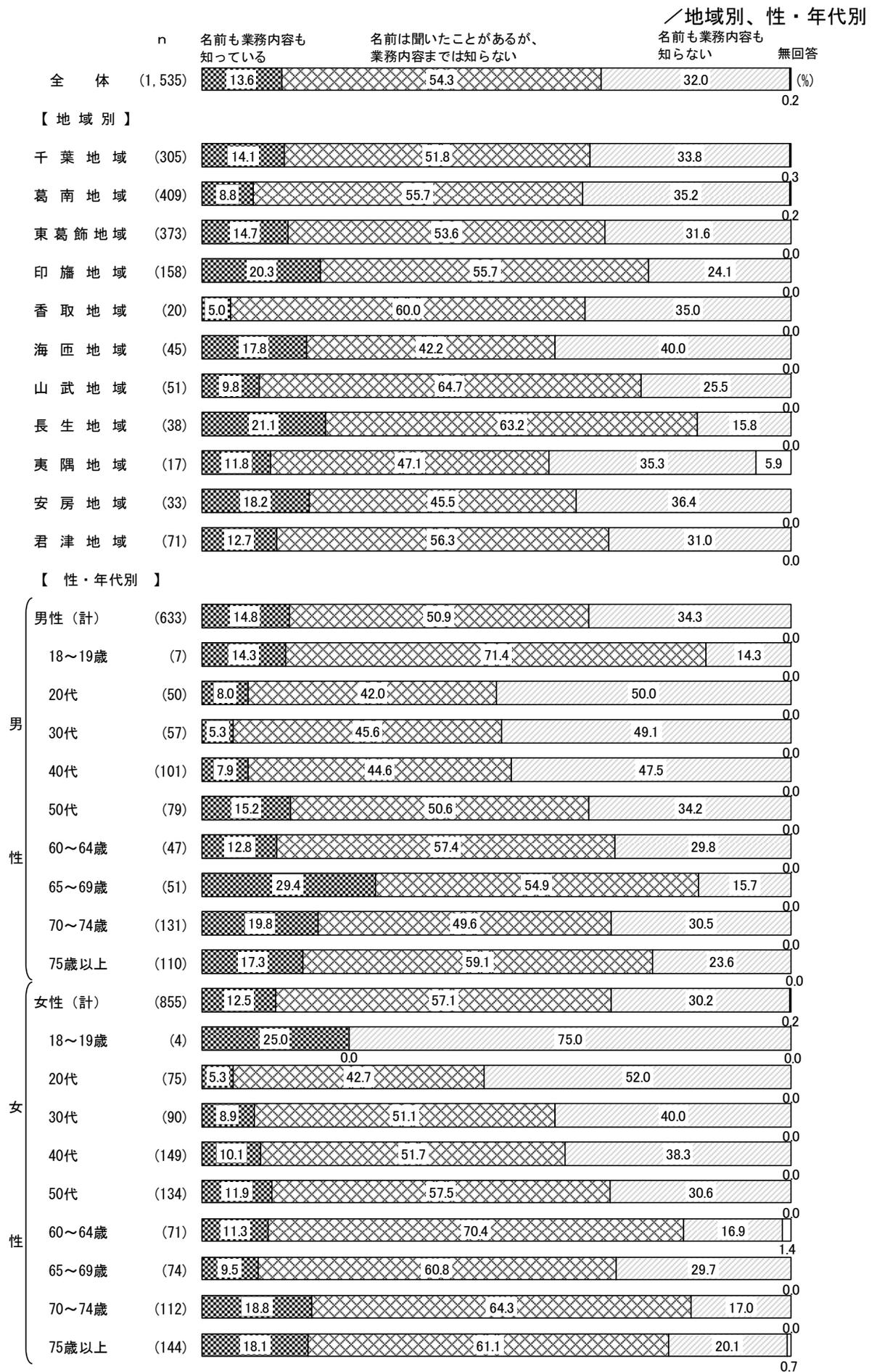
地域別にみると、『名前を聞いたことがある（計）』は“長生地域”（84.2%）が8割台半ば、“印旛地域”（75.9%）が7割台半ばで高くなっている。(図表1-18)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『名前を聞いたことがある（計）』は男性の65～69歳（84.3%）が8割台半ば、女性の70～74歳（83.0%）と女性の60～64歳（81.7%）が8割を超え、女性の75歳以上（79.2%）が約8割、男性の75歳以上（76.4%）が7割台半ばで高くなっている。

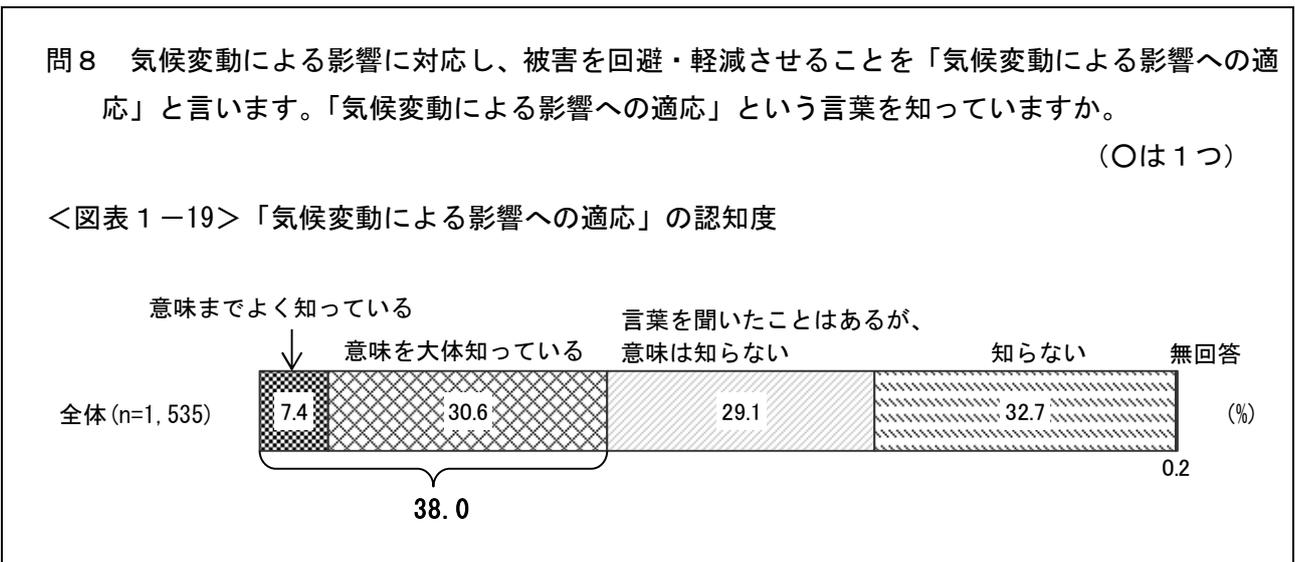
一方「名前も業務内容も知らない」は女性の20代（52.0%）が5割を超え、男性の20代（50.0%）が5割、男性の30代（49.1%）と男性の40代（47.5%）が約5割で高くなっている。(図表1-18)

<図表 1-18> 「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」の認知度



（8）「気候変動による影響への適応」の認知度

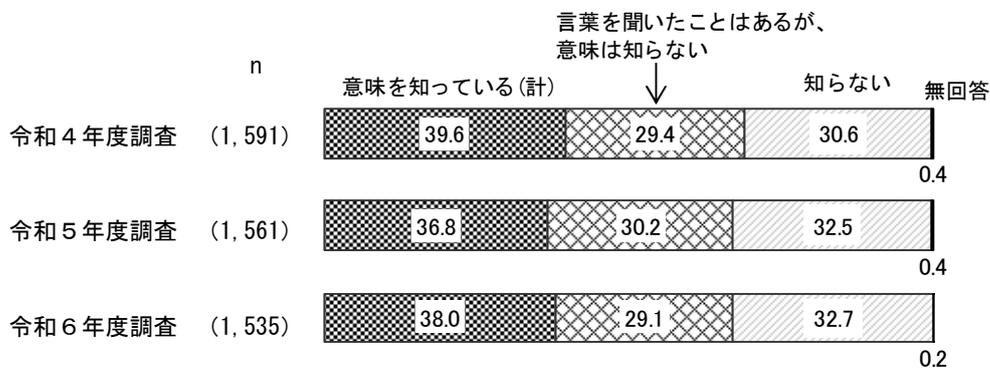
◇『意味を知っている（計）』が約4割



「気候変動による影響への適応」について、その認知度を聞いたところ、「意味までよく知っている」（7.4%）と「意味を大体知っている」（30.6%）を合わせた『意味を知っている（計）』（38.0%）が約4割となっている。

一方、「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」（29.1%）は約3割、「知らない」（32.7%）は3割を超えている。（図表1-19）

〔参考〕令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表1-20）

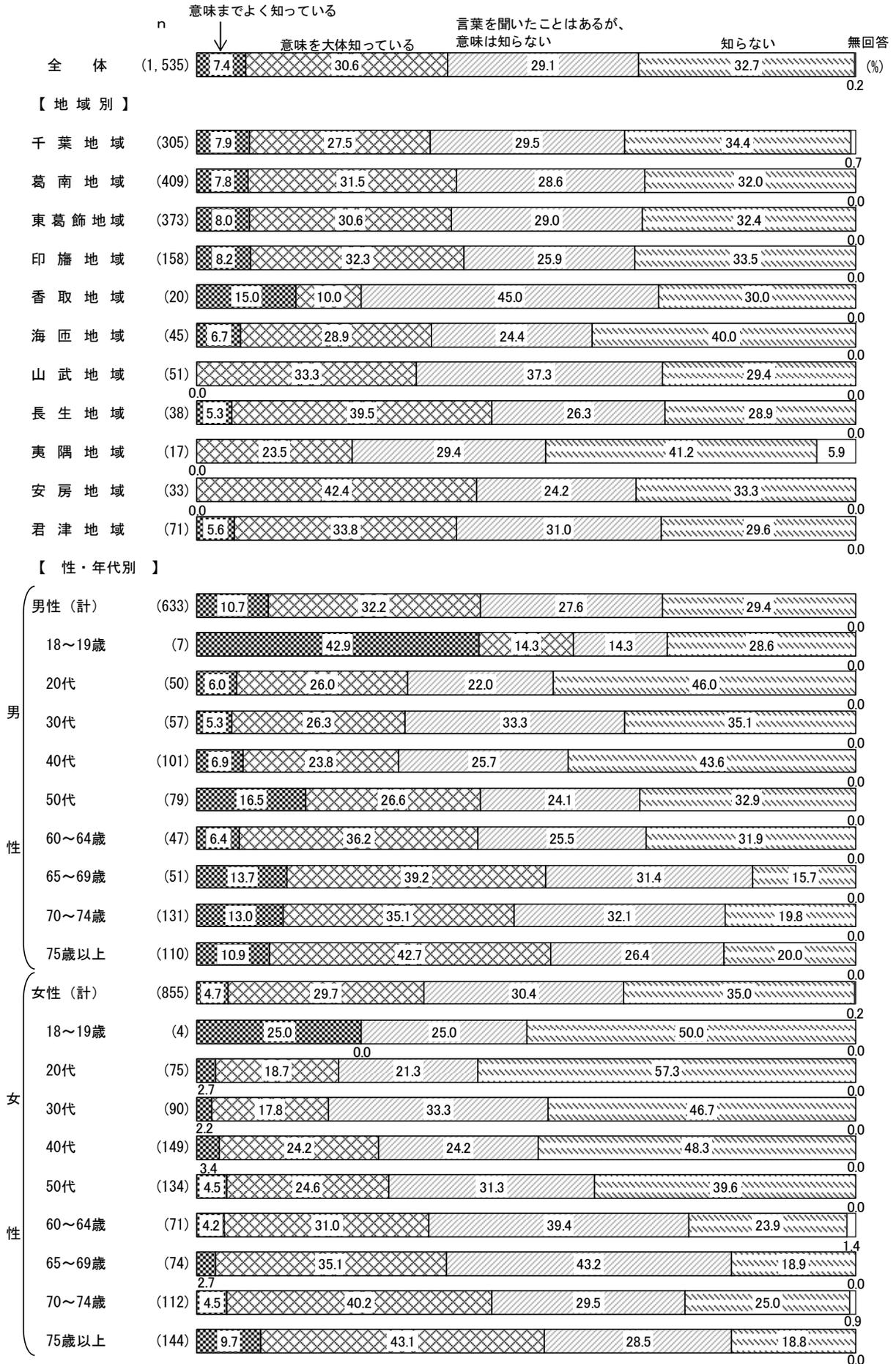
【性・年代別】

性・年代別にみると、『意味を知っている（計）』は男性の75歳以上（53.6%）が5割台半ば、男性の65～69歳（52.9%）と女性の75歳以上（52.8%）が5割を超え、男性の70～74歳（48.1%）が約5割で高くなっている。

一方、「知らない」は女性の20代（57.3%）が約6割、女性の40代（48.3%）が約5割、女性の30代（46.7%）、男性の20代（46.0%）、男性の40代（43.6%）が4割台半ばで高くなっている。

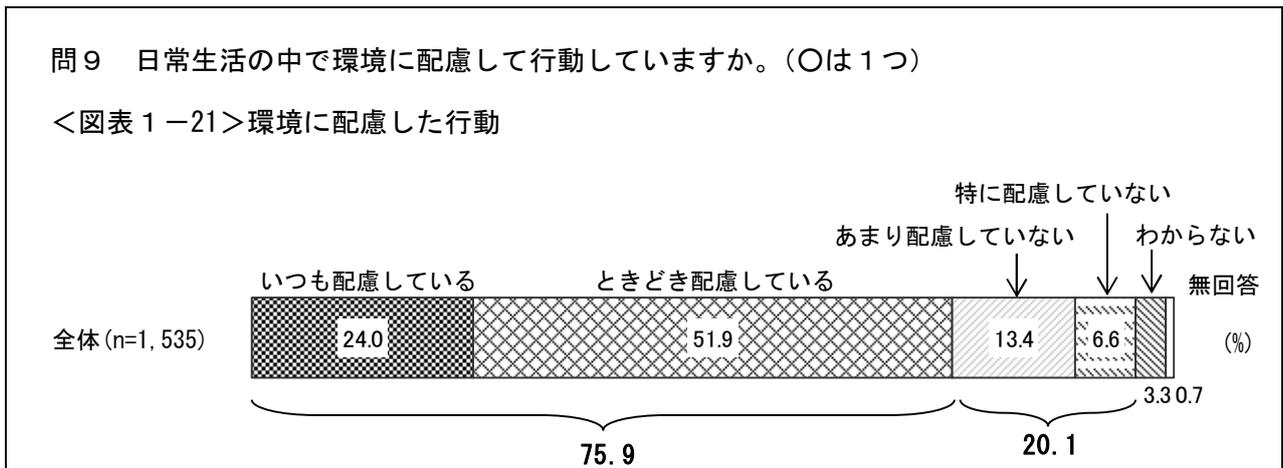
（図表1-20）

<図表 1-20> 「気候変動による影響への適応」の認知度／地域別、性・年代別



（9）環境に配慮した行動

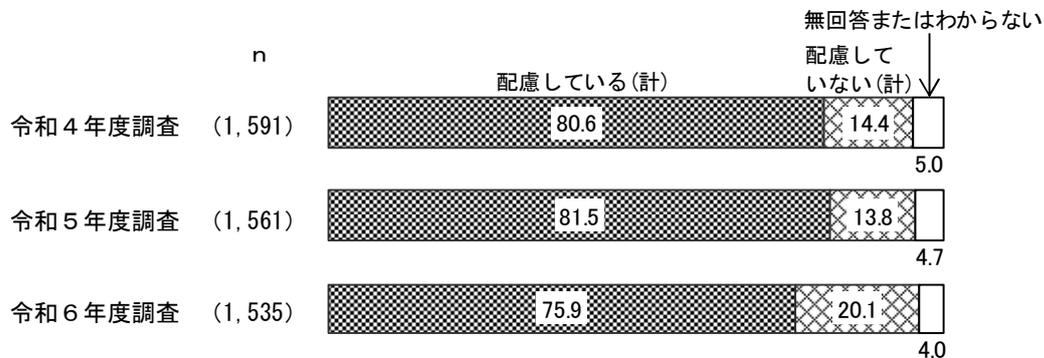
◇『配慮している（計）』が7割台半ば



日常生活の中で環境に配慮して行動しているか聞いたところ、「いつも配慮している」（24.0%）と「ときどき配慮している」（51.9%）を合わせた『配慮している（計）』（75.9%）が7割台半ばとなっている。

一方、「あまり配慮していない」（13.4%）と「特に配慮していない」（6.6%）を合わせた『配慮していない（計）』（20.1%）が2割となっている。（図表1-21）

〔参考〕令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

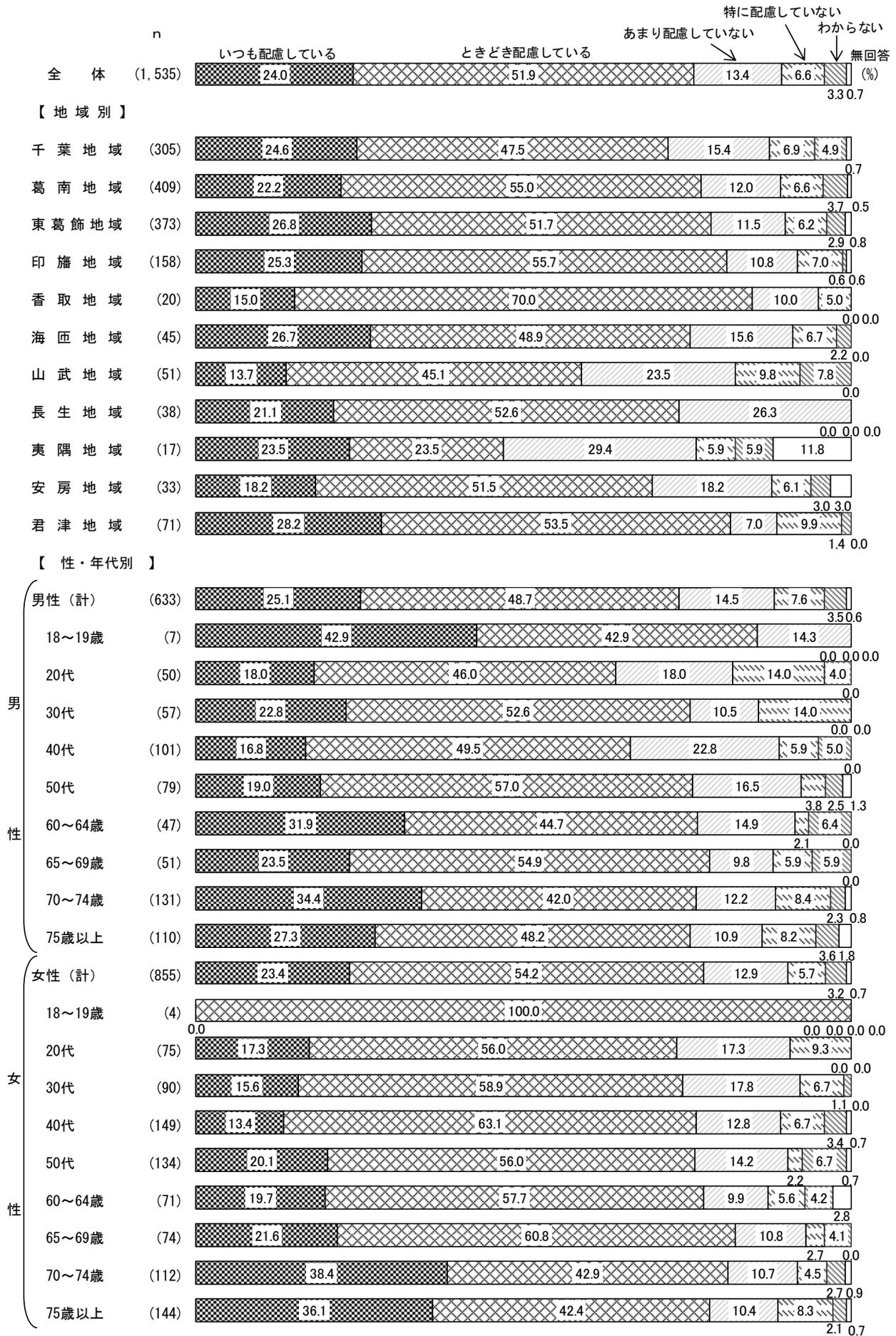
地域別にみると、『配慮していない（計）』は“山武地域”（33.3%）が3割を超えて高くなっている。（図表1-22）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「いつも配慮している」は女性の70～74歳（38.4%）が約4割、女性の75歳以上（36.1%）と男性の70～74歳（34.4%）が3割台半ばで高くなっている。

一方『配慮していない（計）』は男性の20代（32.0%）が3割を超え、男性の40代（28.7%）が約3割で高くなっている。（図表1-22）

<図表 1-22>環境に配慮した行動／地域別、性・年代別



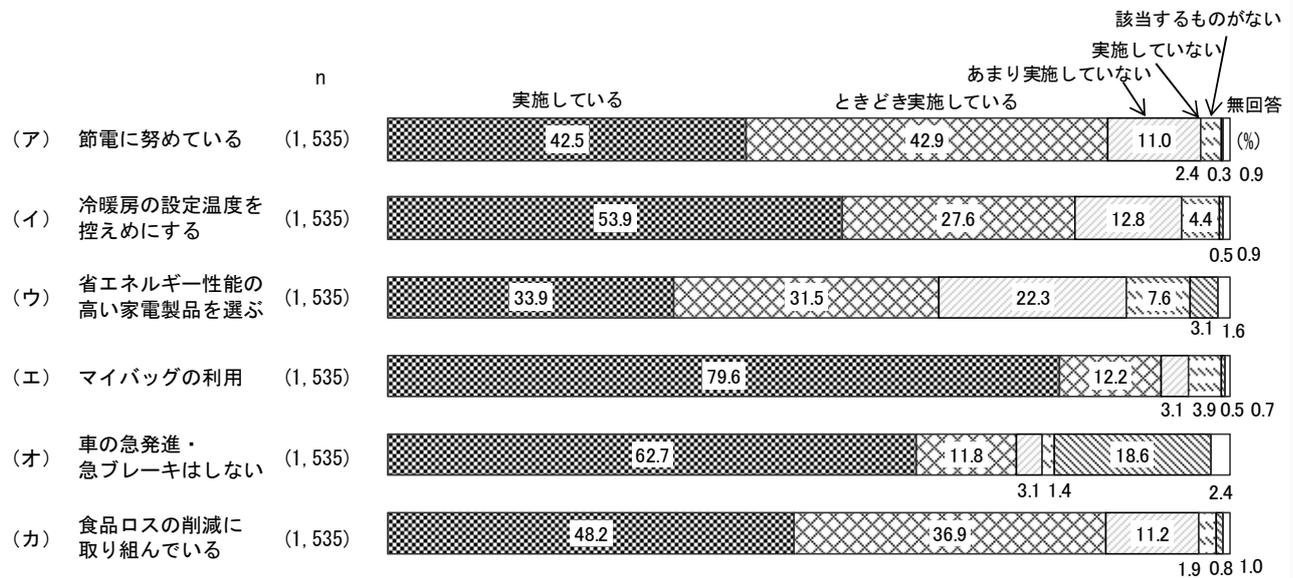
(10) 普段の生活で環境に配慮した取組の実施状況

◇『実施している（計）』が最も高いのは〈マイバッグの利用〉で9割を超える

問10 あなたは、普段の生活で環境に配慮した次のような取組を行っていますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

<図表1-23> 普段の生活で環境に配慮した取組の実施状況

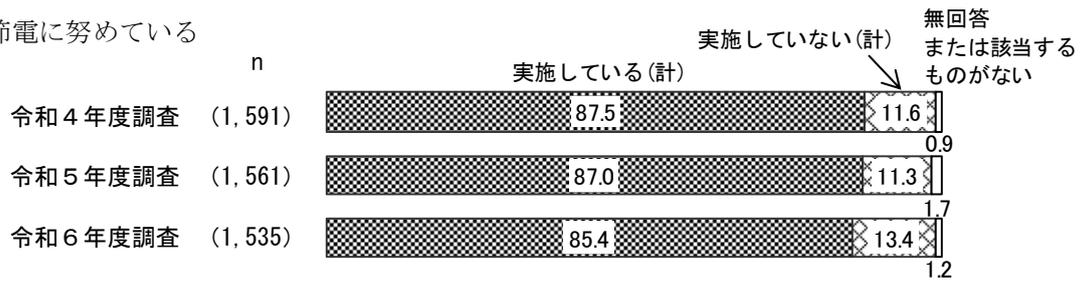


普段の生活で行っている環境保全の取組に関する6つの項目について、それぞれの実施状況を聞いたところ、「実施している」と「ときどき実施している」を合わせた『実施している（計）』が最も高いのは、「(エ) マイバッグの利用」(91.8%)で9割を超え、以下、「(ア) 節電に努めている」(85.4%)と「(カ) 食品ロスの削減に取り組んでいる」(85.1%)が8割台半ばで続く。

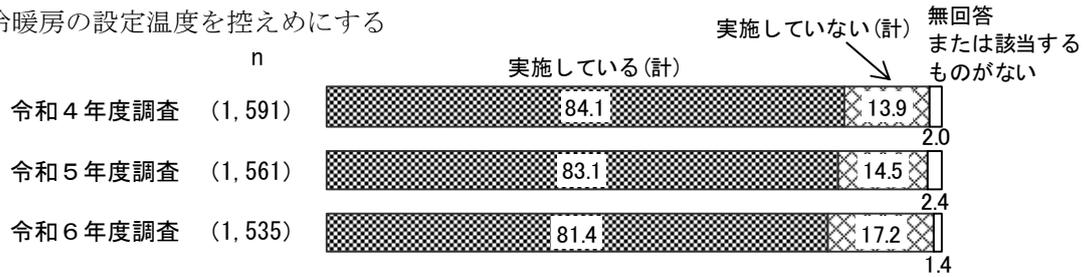
一方、「あまり実施していない」と「実施していない」を合わせた『実施していない（計）』が最も高いのは、「(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」(29.9%)で約3割となっており、以下、「(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする」(17.2%)が約2割、「(ア) 節電に努めている」(13.4%)が1割を超えて続く。(図表1-23)

[参考] 令和 4 年度・5 年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

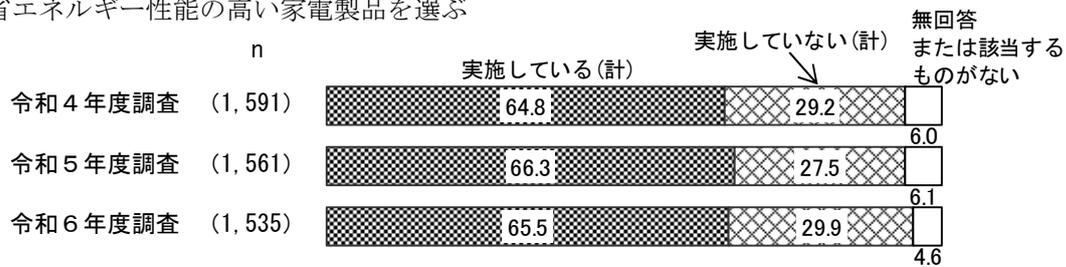
(ア) 節電に努めている



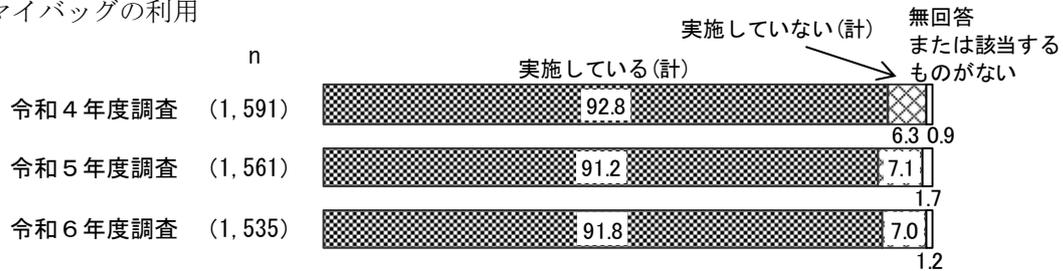
(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする



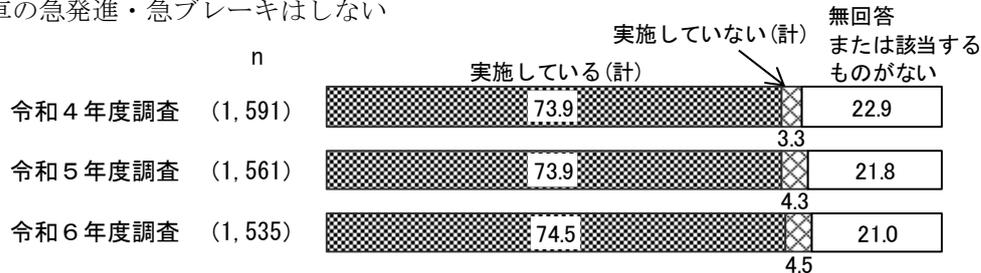
(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ



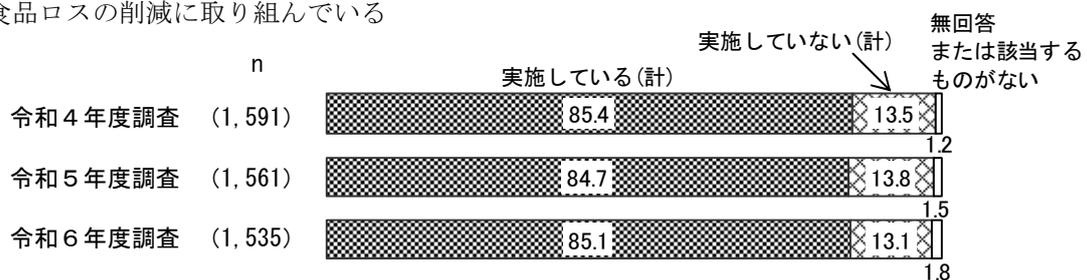
(エ) マイバッグの利用



(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない



(カ) 食品ロスの削減に取り組んでいる



【地域別】

地域別にみると、「(ア) 節電に努めている」、「(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする」、「(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」、「(エ) マイバッグの利用」で大きな傾向の違いは見られない。

「(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない」の『実施している(計)』は“印旛地域”(84.8%)が8割台半ばで高くなっている。

一方、『実施していない(計)』は“山武地域”(13.7%)が1割台半ば、“海匝地域”(13.3%)が1割を超えて高くなっている。

「(カ) 食品ロスの削減に取り組んでいる」の『実施していない(計)』は“長生地域”(26.3%)が2割台半ばで高くなっている。(図表1-24)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 節電に努めている」の『実施している(計)』は男性の75歳以上(91.8%)が9割を超えて高くなっている。

一方、『実施していない(計)』は男性の20代(30.0%)が3割、男性の40代(26.7%)が2割台半ばで高くなっている。

「(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする」の『実施している(計)』は女性の70～74歳(91.1%)が9割を超え、男性の70～74歳(90.8%)が9割、女性の75歳以上(88.9%)が約9割で高くなっている。

一方、『実施していない(計)』は男性の30代(35.1%)が3割台半ば、女性の20代(30.7%)と男性の40代(30.7%)が3割、男性の20代(28.0%)が約3割で高くなっている。

「(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」の『実施している(計)』は女性の70～74歳(83.9%)が8割台半ばで高くなっている。

一方、『実施していない(計)』は男性の40代(46.5%)、男性の20代(46.0%)、女性の20代(45.3%)が4割台半ばで高くなっている。

「(エ) マイバッグの利用」の『実施している(計)』は女性の60～64歳(98.6%)、女性の70～74歳(98.2%)が約10割、女性の40代(96.6%)と女性の50代(96.3%)が9割台半ばで高くなっている。

一方、『実施していない(計)』は男性の20代(16.0%)、男性の40代(14.9%)、男性の30代(14.0%)が1割台半ばで高くなっている。

「(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない」の『実施している(計)』は男性の60～64歳(93.6%)が9割台半ば、男性の65～69歳(88.2%)が約9割、男性の70～74歳(84.0%)が8割台半ばで高くなっている。

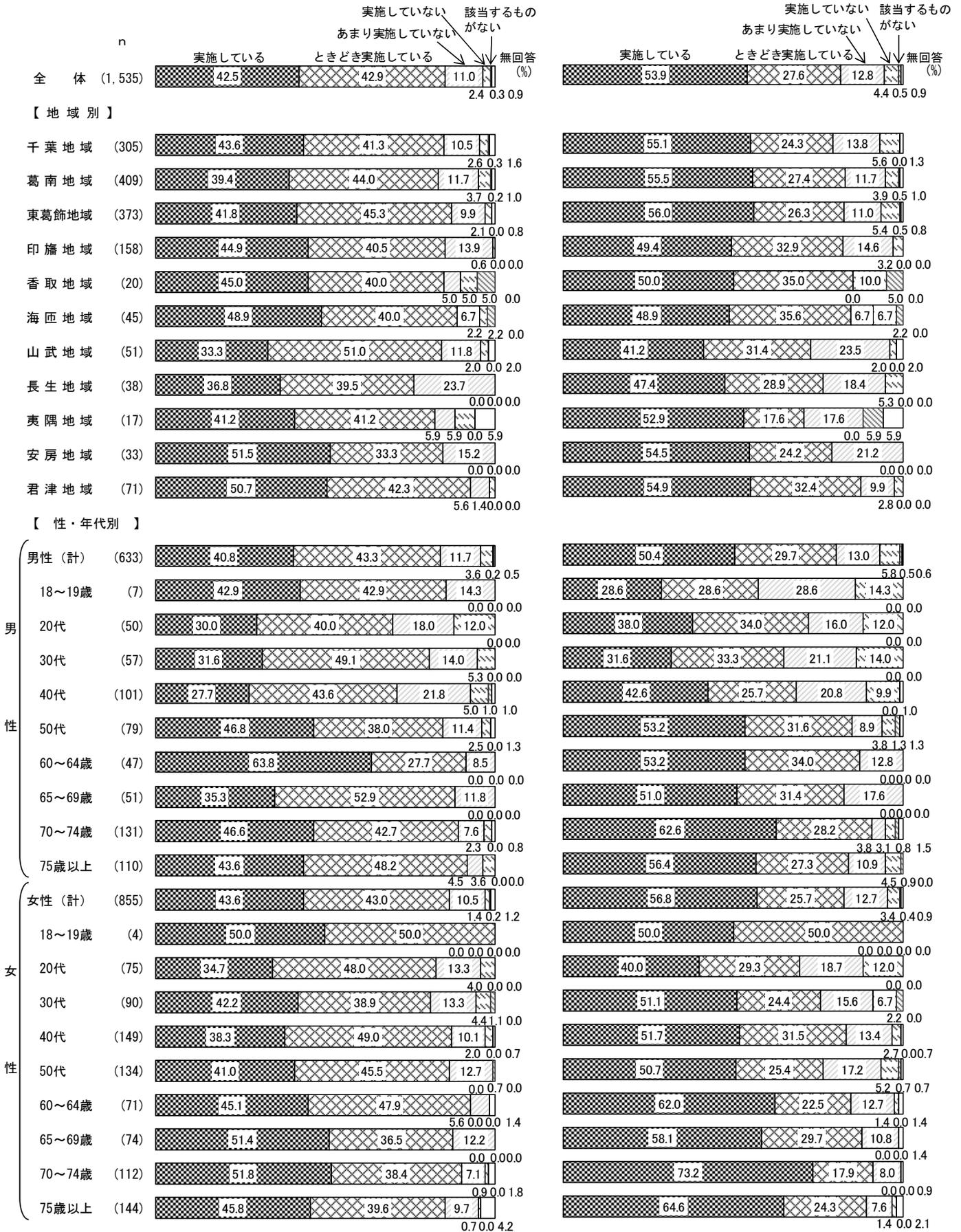
一方、『実施していない(計)』は男性の40代(10.9%)が1割で高くなっている。

「(カ) 食品ロスの削減に取り組んでいる」の『実施していない(計)』は男性の40代(20.8%)が2割で高くなっている。(図表1-24)

<図表 1-24> 普段の生活で環境に配慮した取組の実施状況／地域別、性・年代別

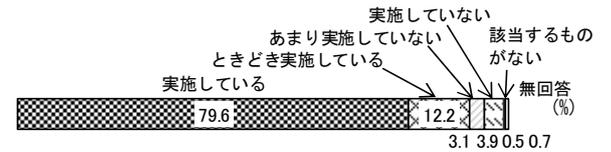
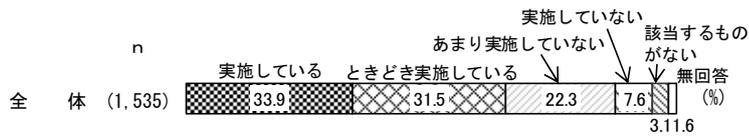
(ア) 節電に努めている

(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする

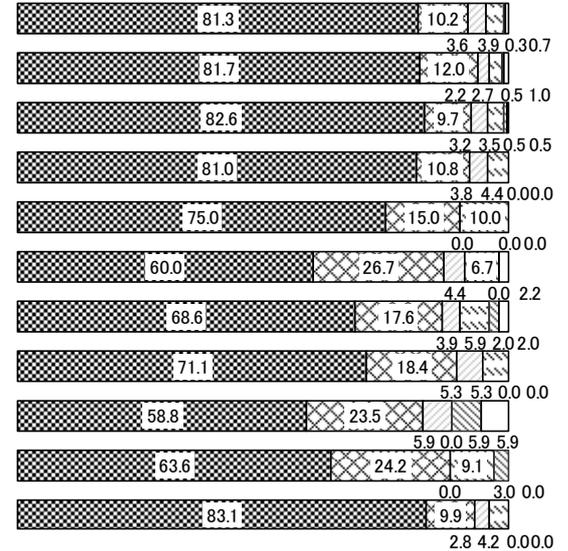
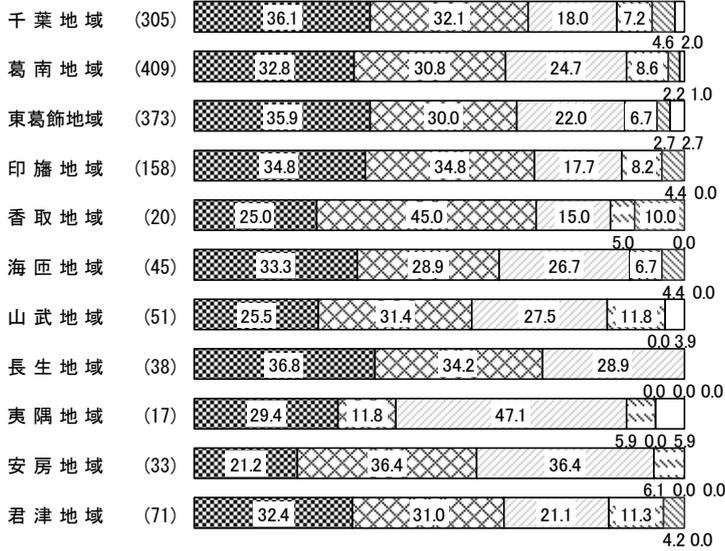


(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ

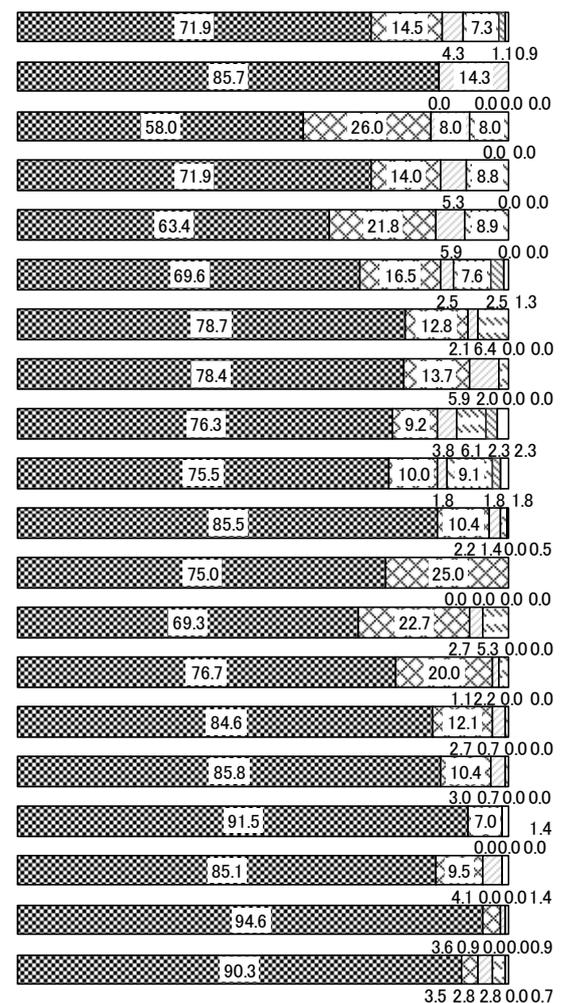
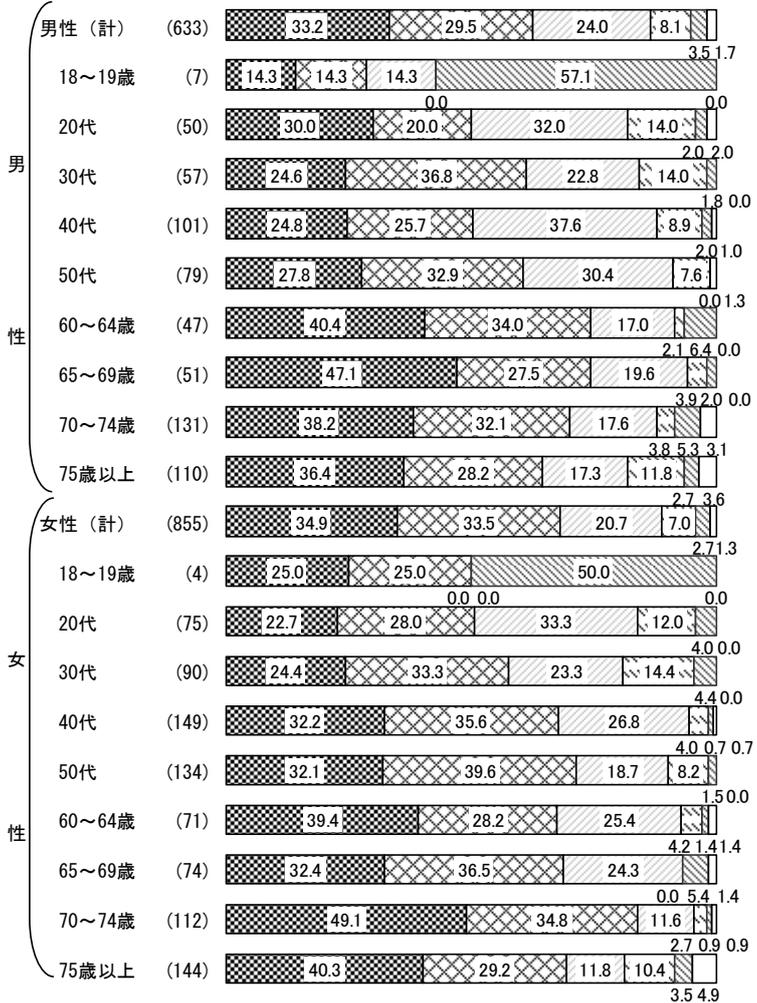
(エ) マイバッグの利用



【地域別】

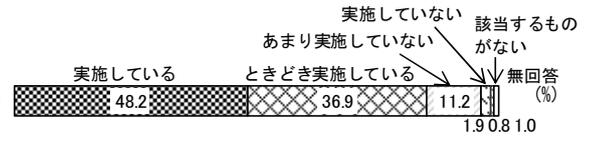
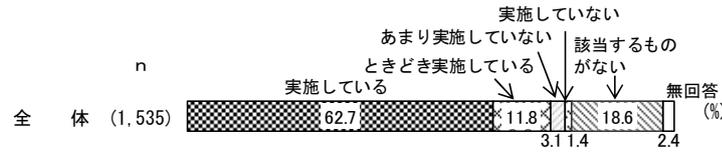


【性・年代別】

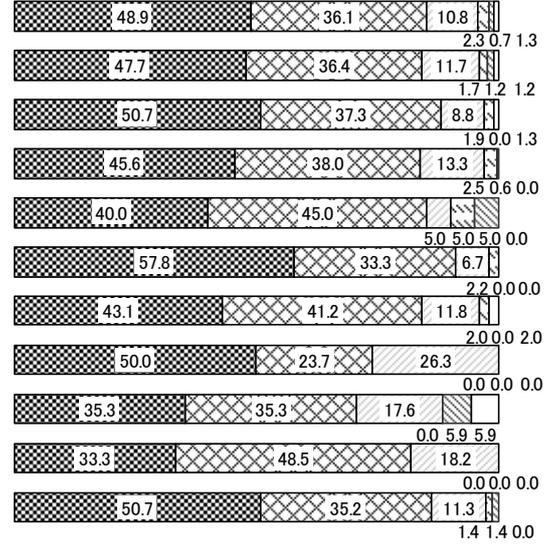
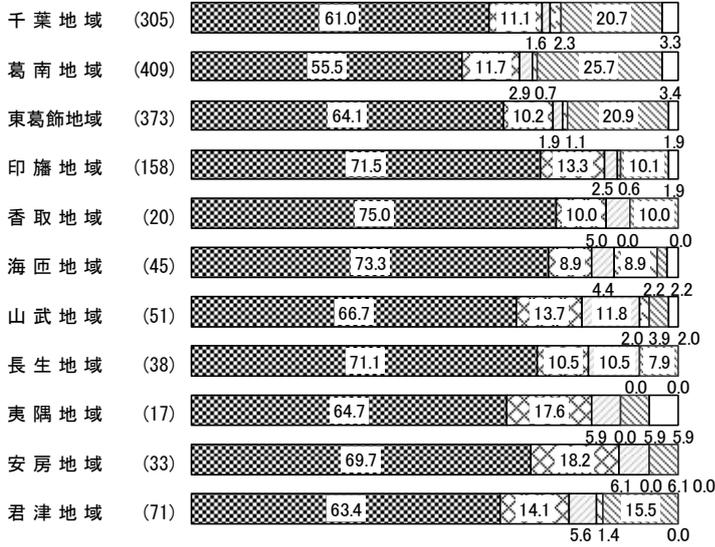


(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない

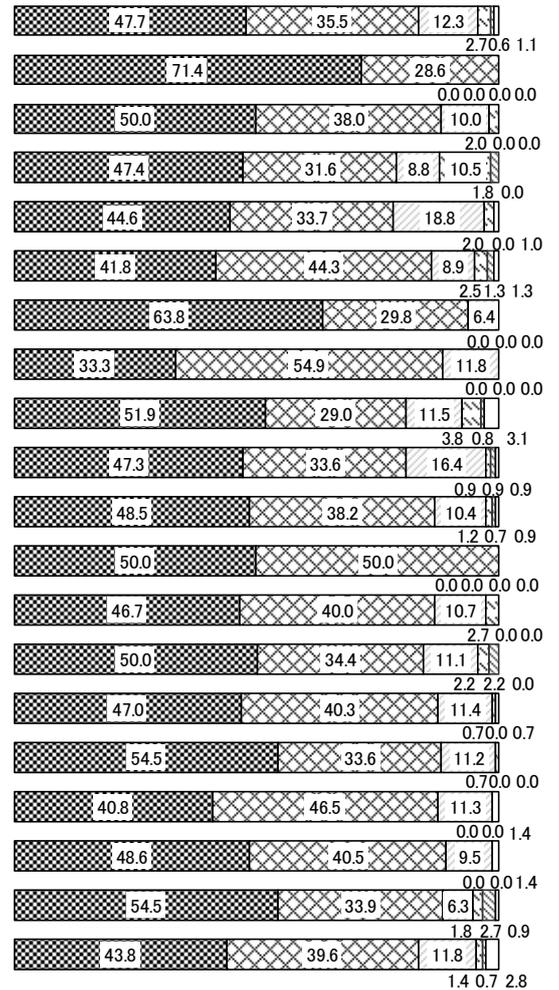
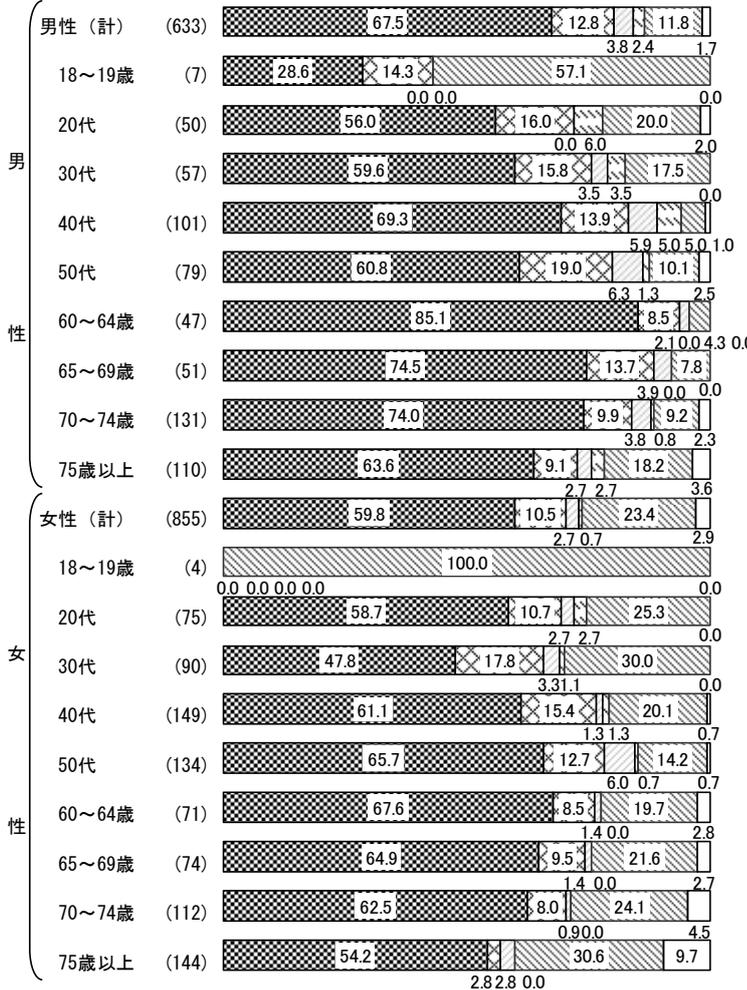
(カ) 食品ロスの削減に取り組んでいる



【地域別】

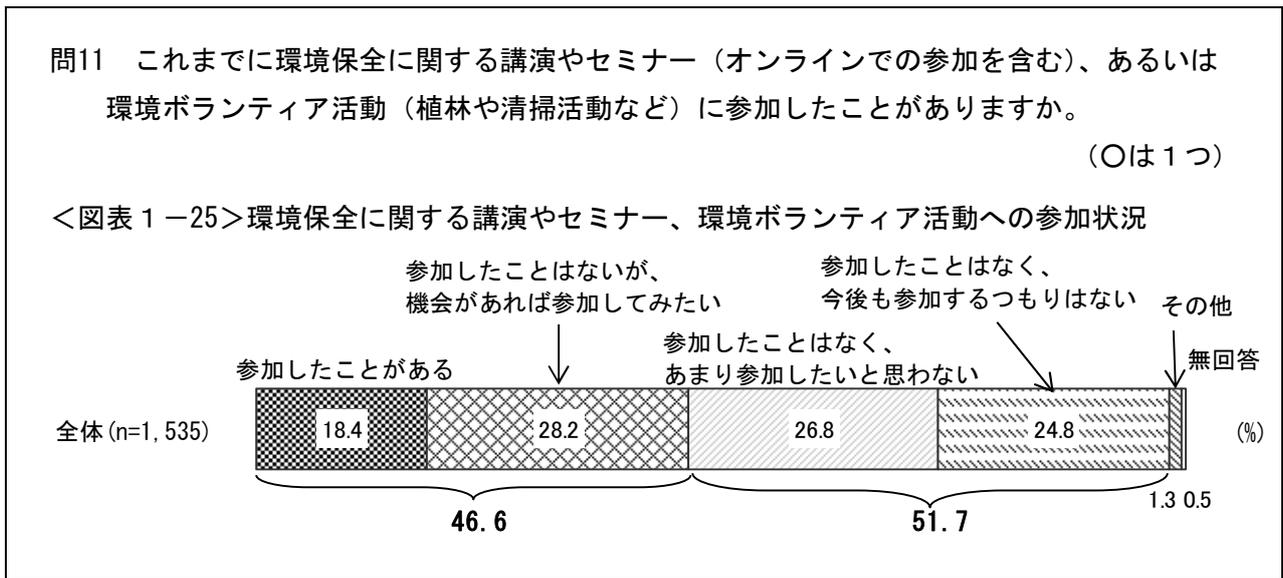


【性・年代別】



(11) 環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況

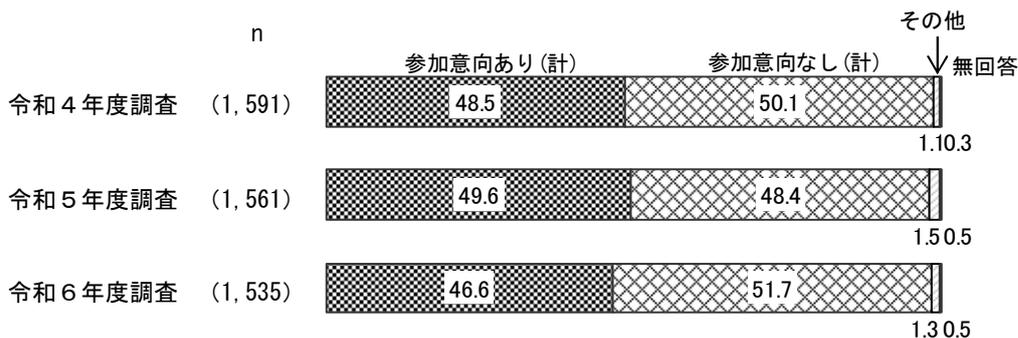
◇『参加意向あり（計）』が4割台半ば



環境保全に関する講演やセミナー（オンライン参加含む）、環境ボランティア活動への参加状況を聞いたところ、「参加したことがある」（18.4%）が約2割となっており、これと「参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」（28.2%）を合わせた『参加意向あり（計）』（46.6%）が4割台半ばとなっている。

一方、「参加したことはなく、あまり参加したいと思わない」（26.8%）と「参加したことはなく、今後も参加するつもりはない」（24.8%）を合わせた『参加意向なし（計）』（51.7%）が5割を超えている。（図表1-25）

【参考】令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

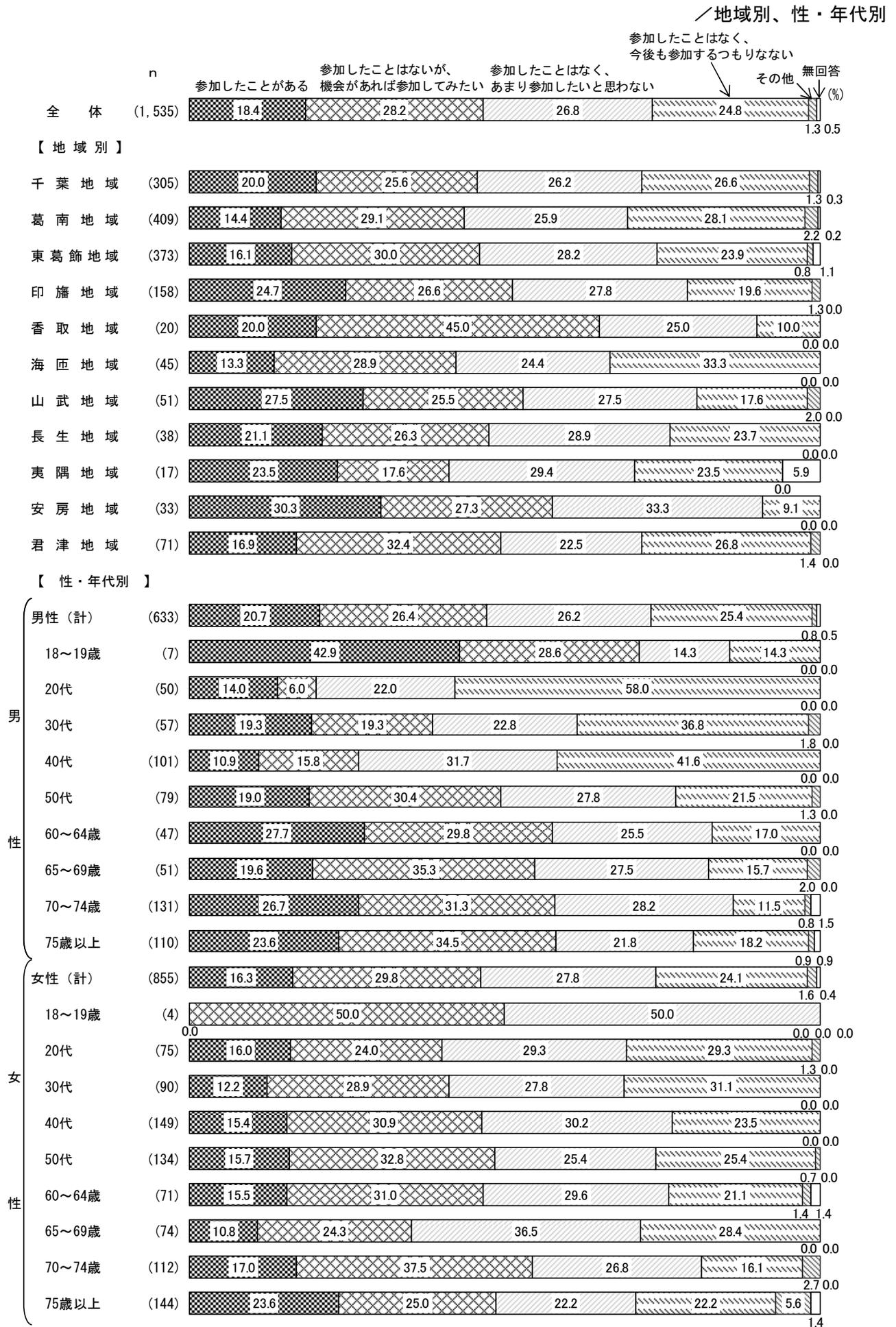
地域別にみると、「参加したことがある」は“印旛地域”（24.7%）が2割台半ばで高くなっている。（図表1-26）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『参加意向あり（計）』は男性の75歳以上（58.2%）と男性の70～74歳（58.0%）が約6割で高くなっている。

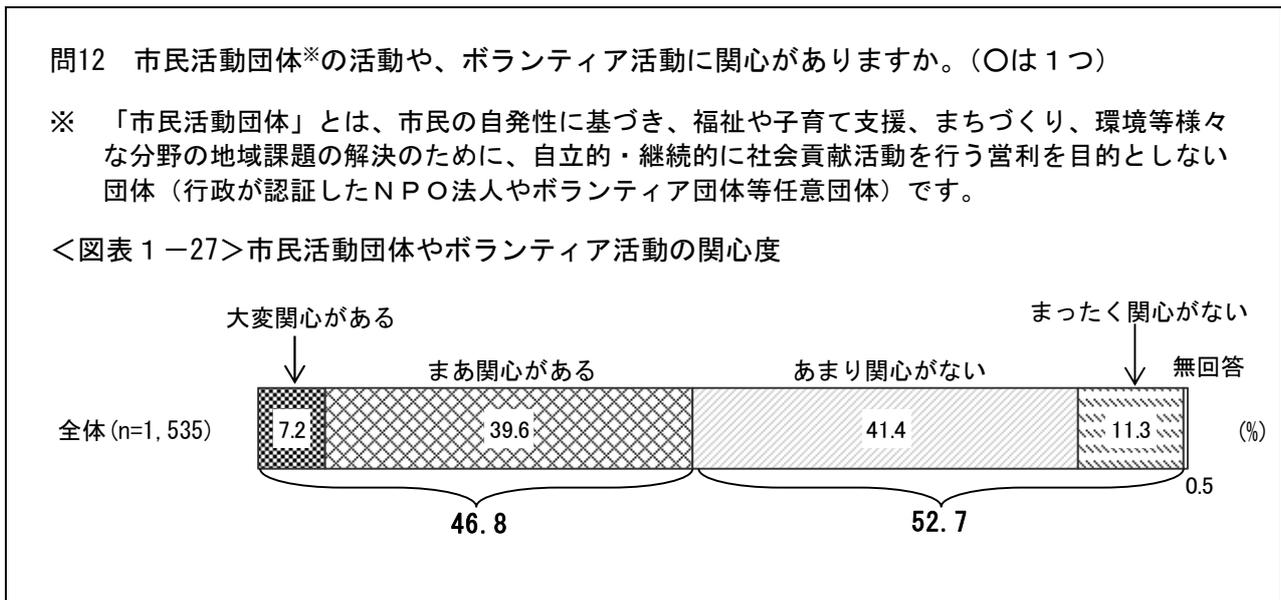
一方、『参加意向なし（計）』は男性の20代（80.0%）が8割、男性の40代（73.3%）が7割を超えて、女性の65～69歳（64.9%）が6割台半ばで高くなっている。（図表1-26）

＜図表 1-26＞環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況



(12) 市民活動団体やボランティア活動の関心度

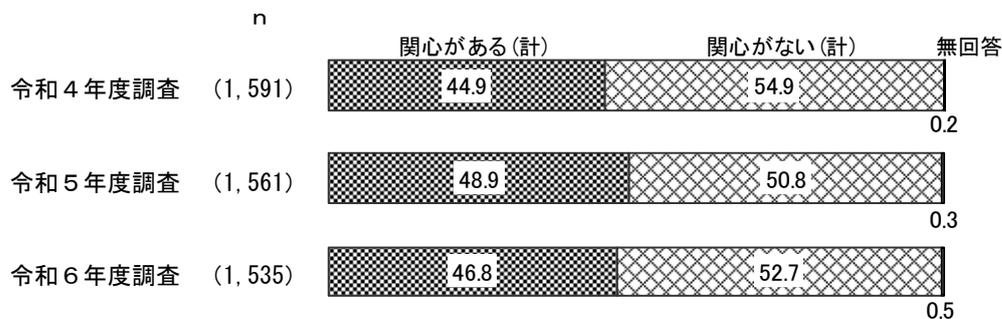
◇『関心がある（計）』が4割台半ば



市民活動団体の活動や、ボランティア活動への関心度を聞いたところ、「大変関心がある」(7.2%)と「まあ関心がある」(39.6%)を合わせた『関心がある(計)』(46.8%)が4割台半ばとなっている。

一方、「あまり関心がない」(41.4%)と「まったく関心がない」(11.3%)を合わせた『関心がない(計)』(52.7%)が5割を超えている。(図表1-27)

〔参考〕令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、『関心がない(計)』は“葛南地域”(58.7%)が約6割で高くなっている。

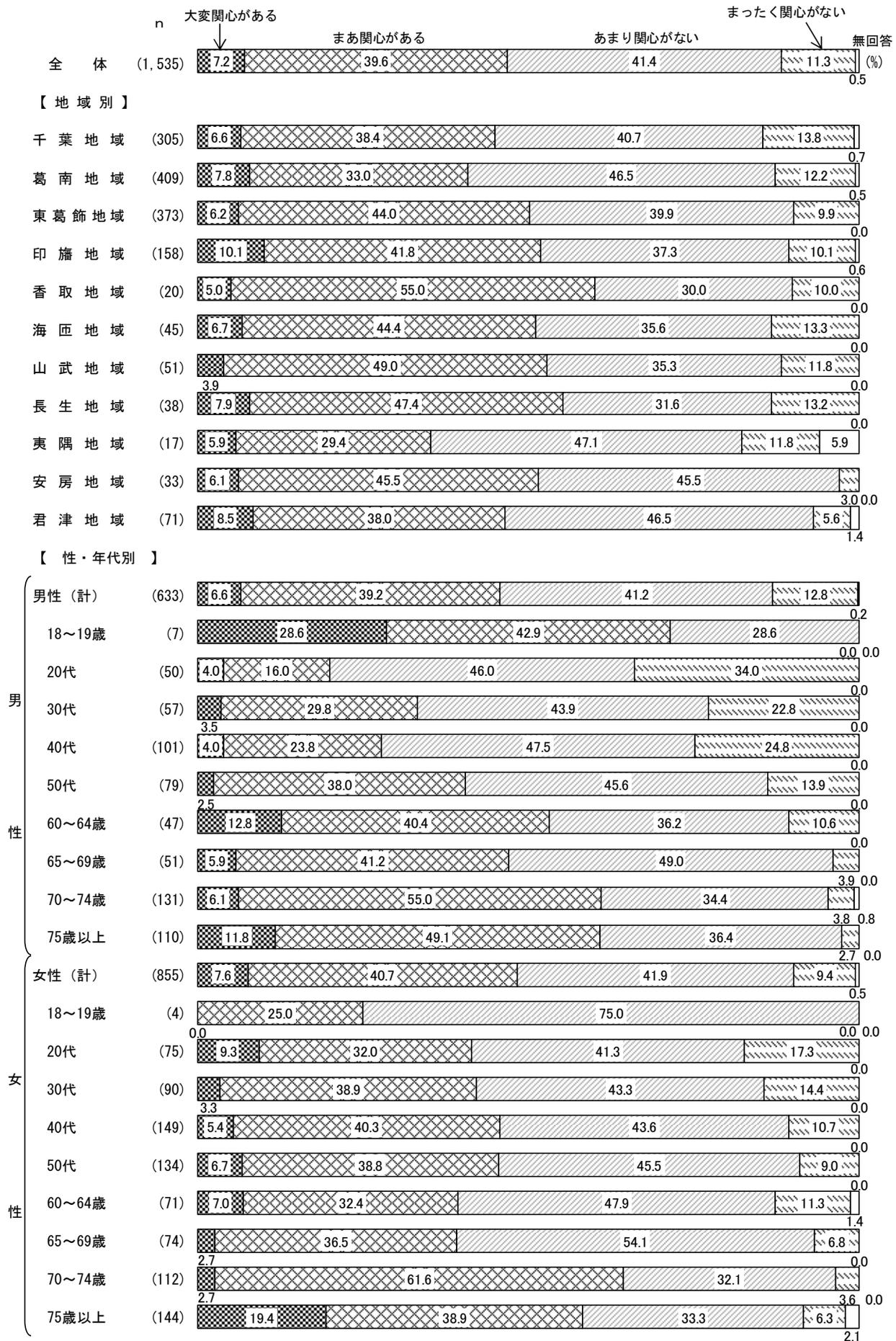
(図表1-28)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『関心がある(計)』は女性の70～74歳(64.3%)が6割台半ば、男性の70～74歳(61.1%)が6割を超え、男性の75歳以上(60.9%)が6割、女性の75歳以上(58.3%)が約6割で高くなっている。

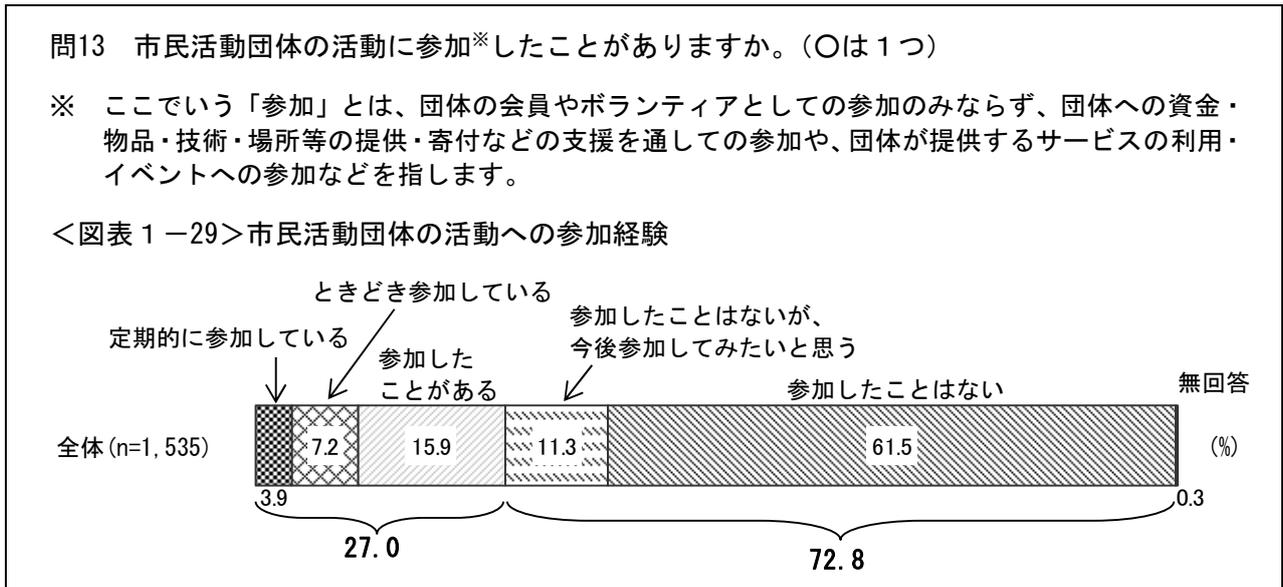
一方、『関心がない(計)』は男性の20代(80.0%)が8割、男性の40代(72.3%)が7割を超え、男性の30代(66.7%)が6割台半ばで高くなっている。(図表1-28)

<図表 1-28> 市民活動団体やボランティア活動の関心度／地域別、性・年代別



(13) 市民活動団体の活動への参加経験

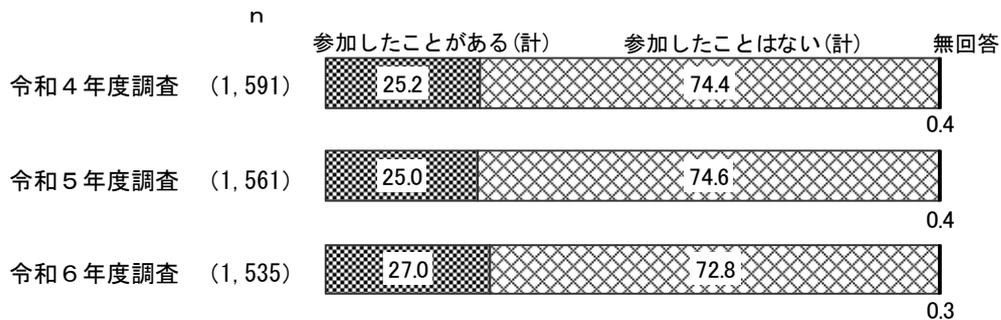
◇『参加したことがある（計）』が約3割



市民活動団体の活動への参加経験を聞いたところ、「定期的に参加している」(3.9%)、「ときどき参加している」(7.2%)、「参加したことがある」(15.9%)の3つを合わせた『参加したことがある(計)』(27.0%)が約3割となっている。

一方、「参加したことはないが、今後参加してみたいと思う」(11.3%)と「参加したことはない」(61.5%)を合わせた『参加したことはない(計)』(72.8%)が7割を超えている。(図表1-29)

【参考】令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

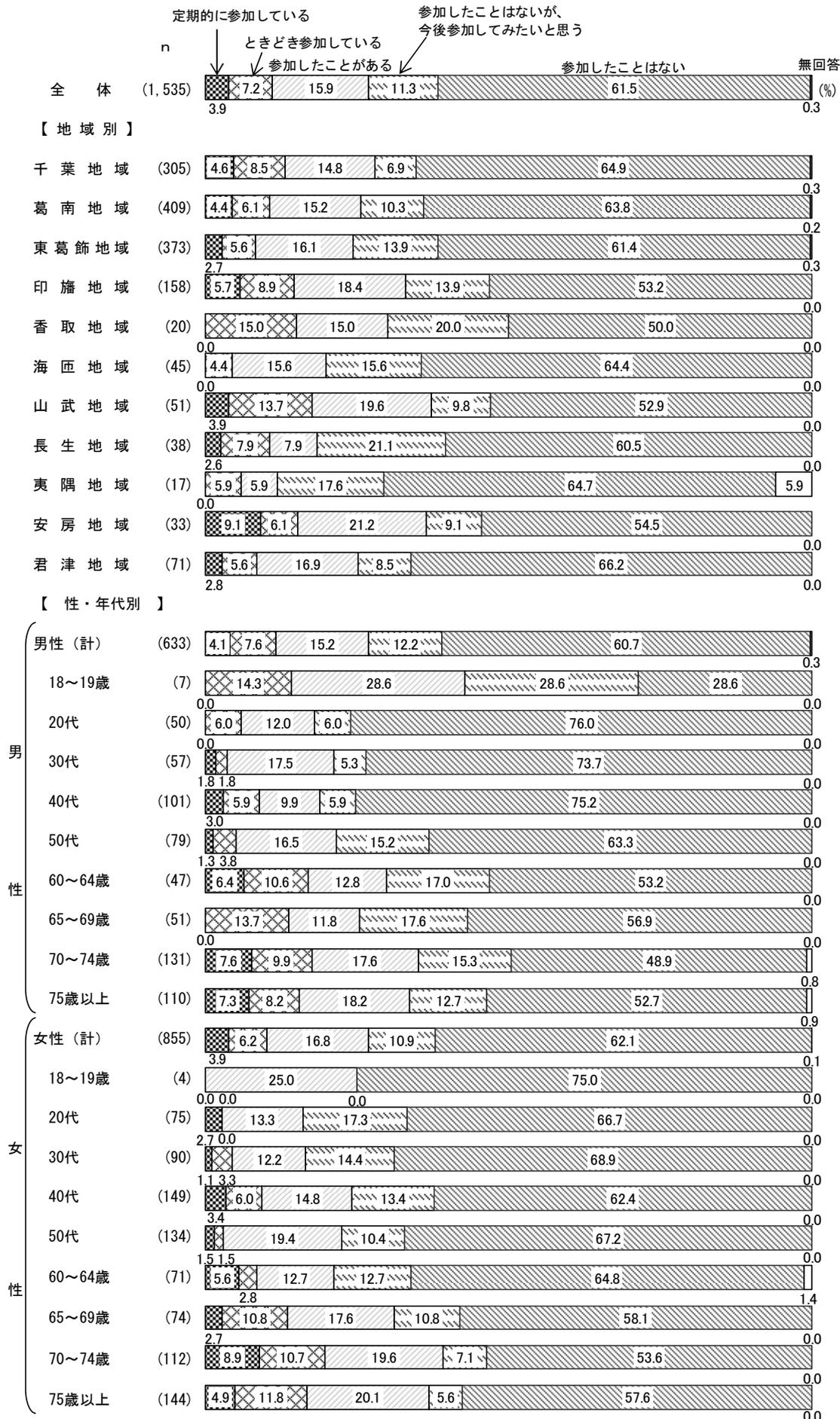
地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。(図表1-30)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『参加したことがある(計)』は女性の70～74歳(39.3%)が約4割、女性の75歳以上(36.8%)と男性の70～74歳(35.1%)が3割台半ばで高くなっている。

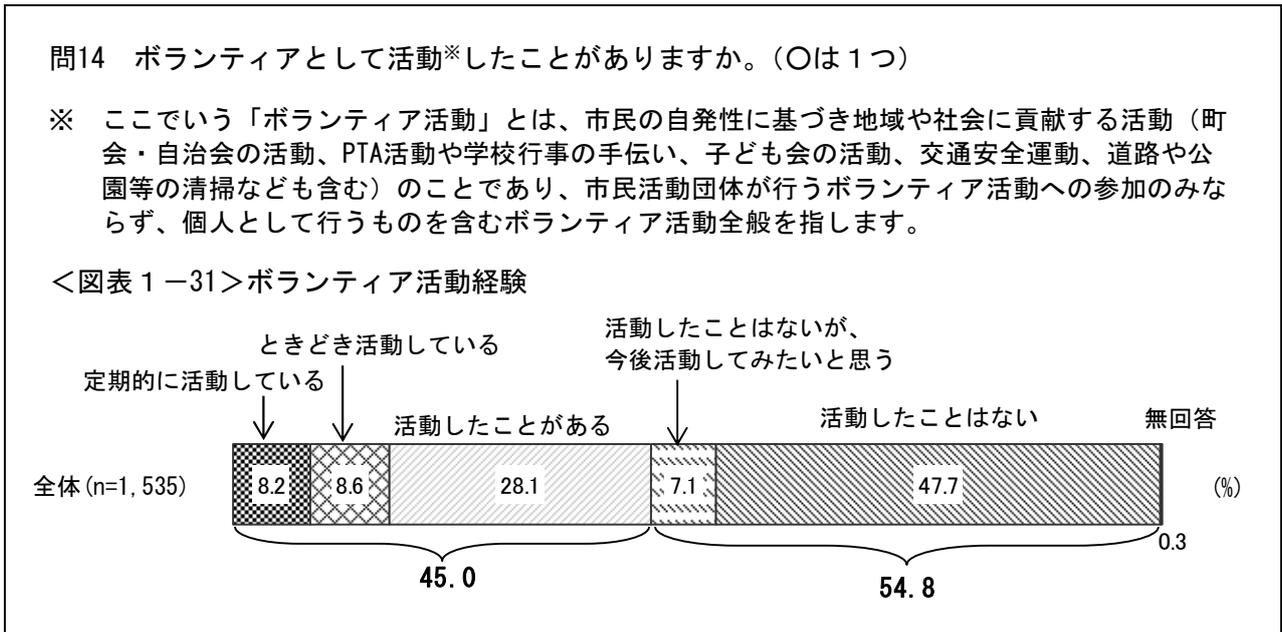
一方、『参加したことはない(計)』は女性の20代(84.0%)が8割台半ば、女性の30代(83.3%)と男性の40代(81.2%)が8割を超えて高くなっている。(図表1-30)

<図表 1-30> 市民活動団体の活動への参加経験／地域別、性・年代別



(14) ボランティア活動経験

◇『活動したことがある（計）』が4割台半ば

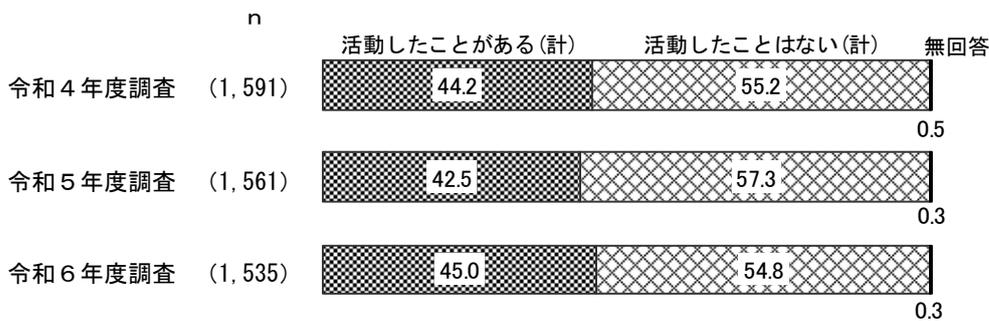


ボランティアとして活動したことがあるか聞いたところ、「定期的活動している」(8.2%)、「ときどき活動している」(8.6%)、「活動したことがある」(28.1%)の3つを合わせた『活動したことがある(計)』(45.0%)が4割台半ばとなっている。

一方、「活動したことはないが、今後活動してみたいと思う」(7.1%)と「活動したことはない」(47.7%)を合わせた『活動したことはない(計)』(54.8%)が5割台半ばとなっている。

(図表1-31)

〔参考〕令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、『活動したことがある(計)』は“印旛地域”(53.8%)が5割台半ばで高くなっている。一方、『活動したことはない(計)』は“葛南地域”(59.7%)が約6割で高くなっている。

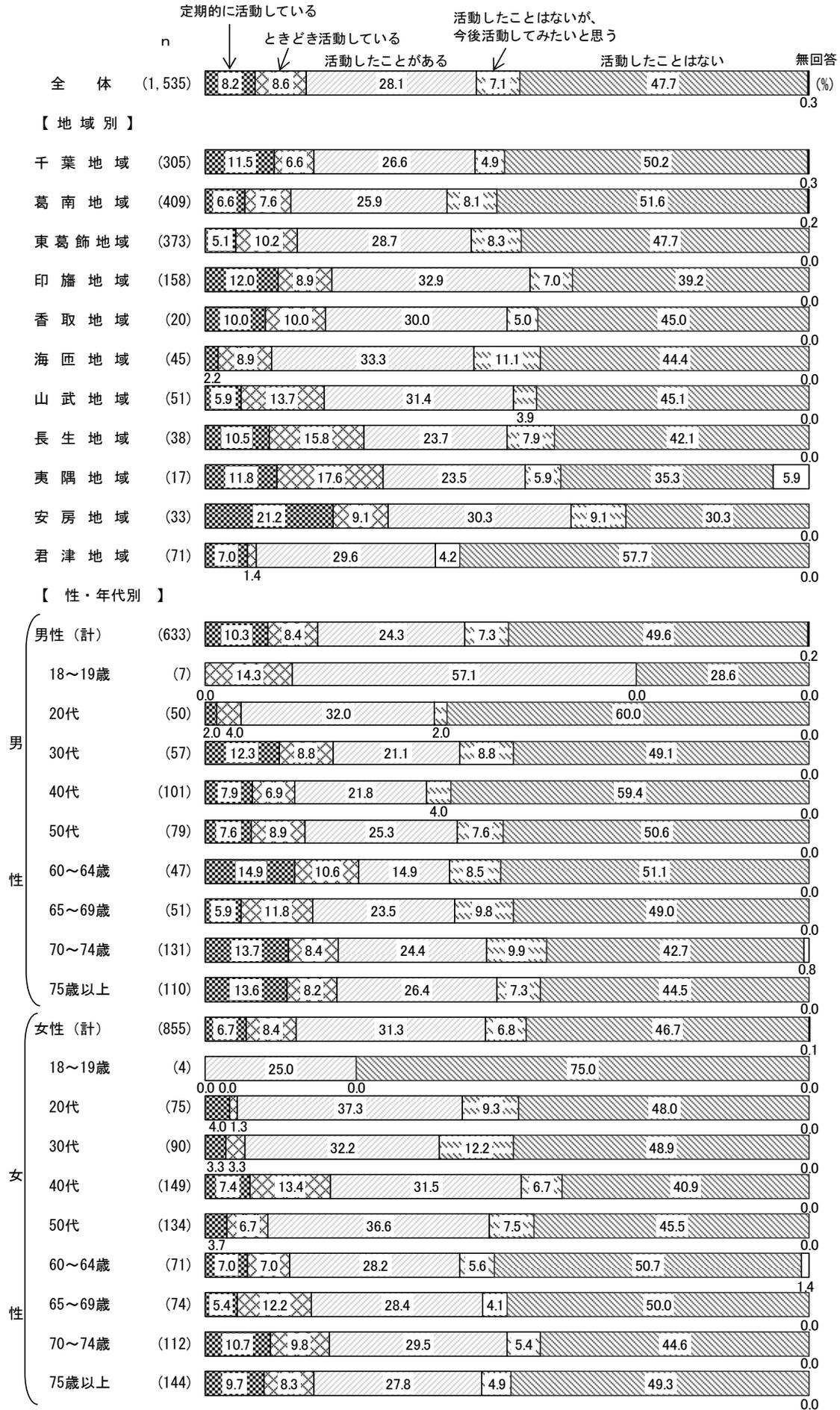
(図表1-32)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「定期的活動している」は男性の70～74歳(13.7%)と男性の75歳以上(13.6%)が1割台半ばで高くなっている。

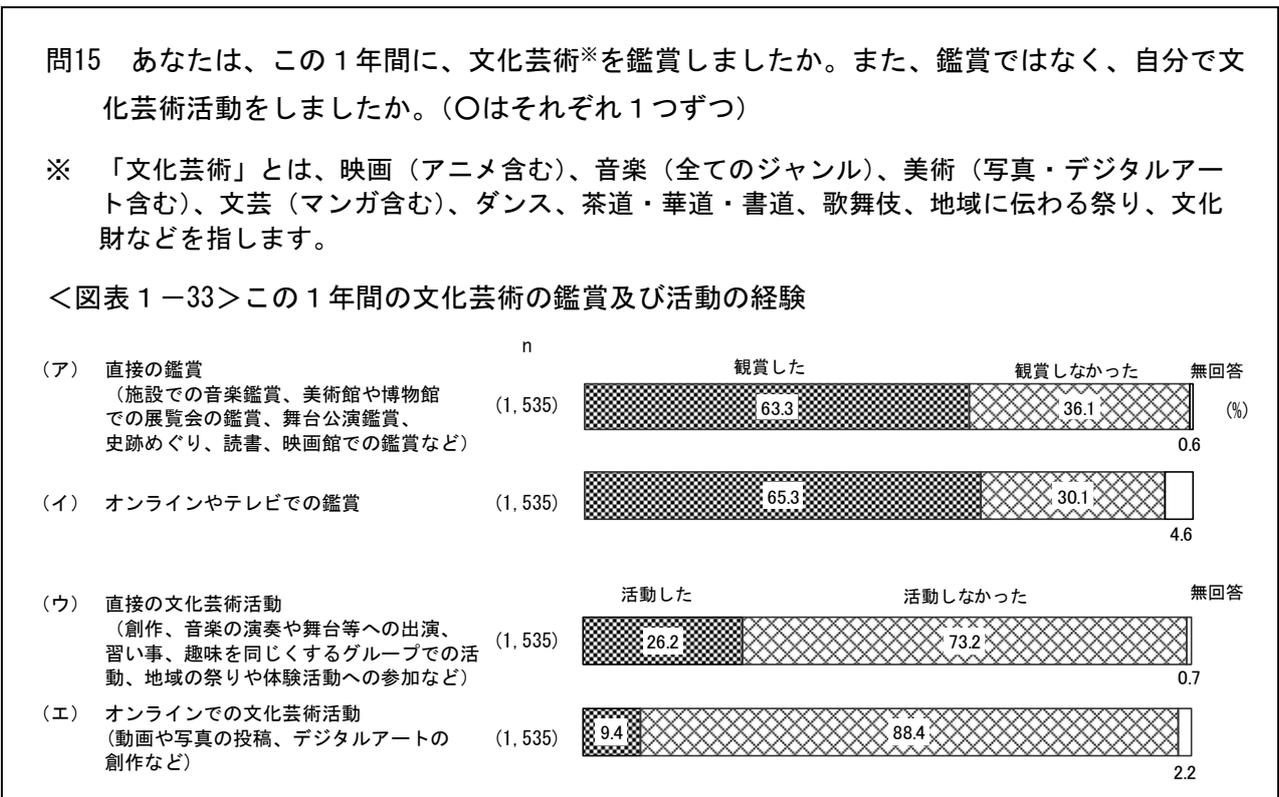
一方、「活動したことはない」は男性の40代(59.4%)が約6割で高くなっている。(図表1-32)

<図表 1-32> ボランティア活動経験／地域別、性・年代別



(15) この1年間の文化芸術の鑑賞及び活動の経験

◇鑑賞は〈オンラインやテレビ〉が6割台半ば、活動は〈直接〉が2割台半ば

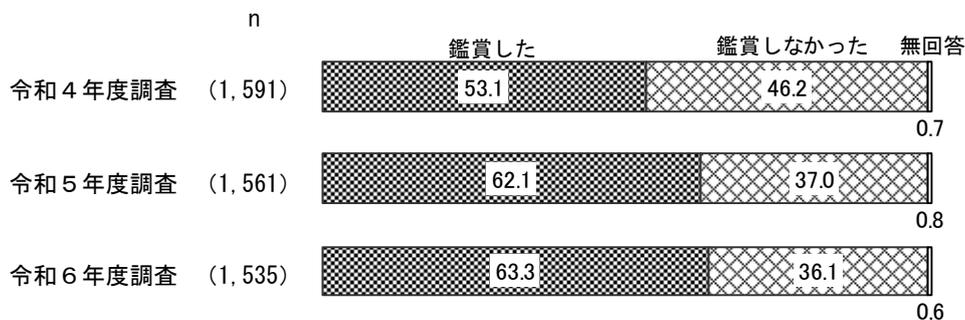


この1年間の文化芸術の鑑賞及び活動の経験を聞いたところ、鑑賞については「(イ) オンラインやテレビでの鑑賞」(65.3%)が6割台半ば、「(ア) 直接の鑑賞」(63.3%)が6割を超えており、(ア)か(イ)いずれか、又はその両方を通じて鑑賞した県民の割合は77.0%となった。

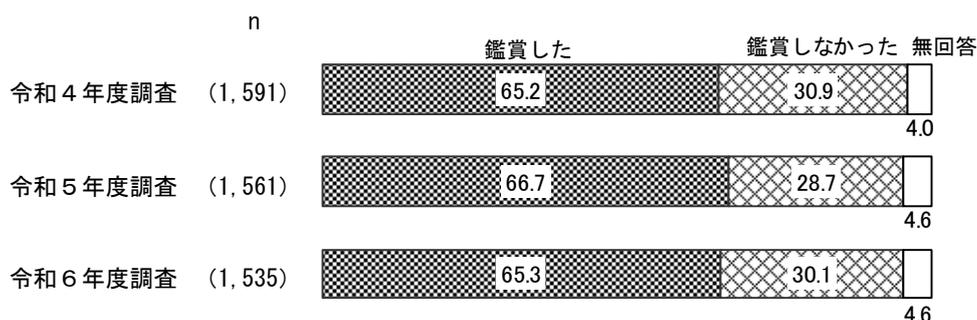
活動については「(ウ) 直接の文化芸術活動」(26.2%)が2割台半ば、「(エ) オンラインでの文化芸術活動」(9.4%)が約1割となっており、(ウ)か(エ)いずれか、又はその両方を通じて活動した県民の割合は28.9%となった。(図表1-33)

[参考] 令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較 (単位: %)

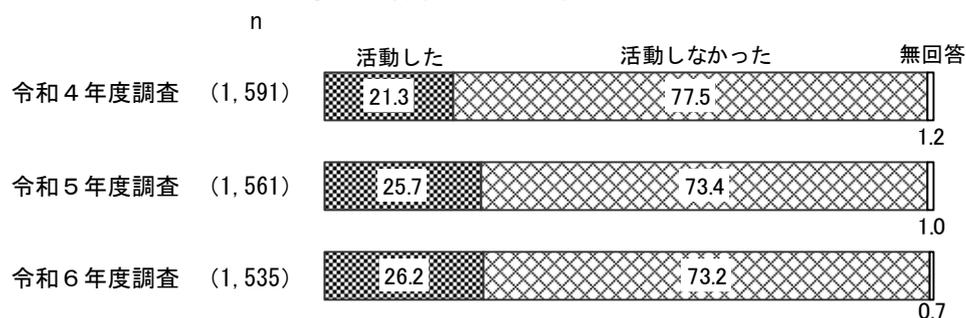
(ア) 直接の鑑賞 (施設での音楽鑑賞、美術館や博物館での展覧会の鑑賞、舞台公演鑑賞、史跡めぐり、読書、映画館での鑑賞など)



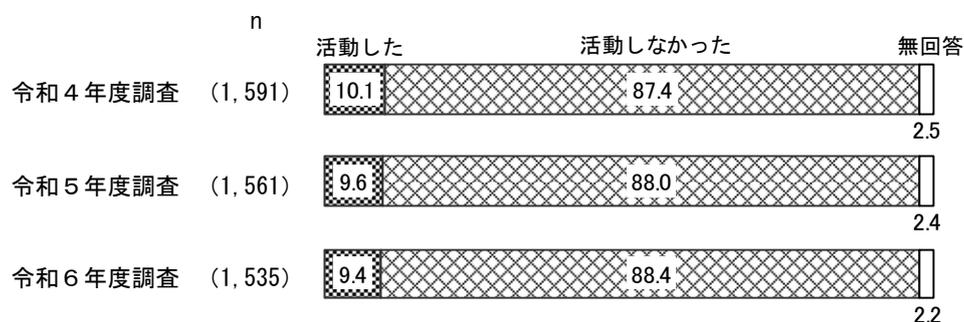
（イ） オンラインやテレビでの鑑賞



（ウ） 直接の文化芸術活動（創作、音楽の演奏や舞台等への出演、習い事、趣味を同じくするグループでの活動、地域の祭りや体験活動への参加など）



（エ） オンラインでの文化芸術活動（動画や写真の投稿、デジタルアートの創作など）



【地域別】

地域別にみると、鑑賞について「(ア) 直接の鑑賞」で「鑑賞した」は“印旛地域”(70.9%)が7割で高くなっている。一方、「鑑賞しなかった」は“山武地域”(52.9%)が5割を超えて高くなっている。

「(イ) オンラインやテレビでの鑑賞」は大きな傾向の違いはみられない。

活動については、「(ウ) 直接の文化芸術活動」で「活動した」は“安房地域”(42.4%)が4割を超えて高くなっている。一方、「活動しなかった」は“君津地域”(84.5%)が8割台半ばで高くなっている。

「(エ) オンラインでの文化芸術活動」は大きな傾向の違いはみられない。(図表 1-34)

【性・年代別】

性・年代別にみると、鑑賞について「(ア) 直接の鑑賞」で「鑑賞した」は女性の20代（88.0%）が約9割、女性の40代（77.9%）が約8割、女性の30代（75.6%）が7割台半ばで高くなっている。

一方、「鑑賞しなかった」は男性の75歳以上（59.1%）が約6割、女性の75歳以上（52.1%）が5割を超え、女性の70～74歳（45.5%）が4割台半ばで高くなっている。

「(イ) オンラインやテレビでの鑑賞」で「鑑賞した」は女性の20代（82.7%）が8割を超え、女性の40代（78.5%）が約8割で高くなっている。

一方、「鑑賞しなかった」は男性の75歳以上（40.9%）が4割、女性の70～74歳（38.4%）が約4割で高くなっている。

活動について「(ウ) 直接の文化芸術活動」で「活動した」は女性の75歳以上（37.5%）と女性の20代（37.3%）が約4割、女性の70～74歳（35.7%）が3割台半ばで高くなっている。

一方、「活動しなかった」は男性の50代（87.3%）が約9割、男性の65～69歳（86.3%）と男性の75歳以上（85.5%）が8割台半ばで高くなっている。

「(エ) オンラインでの文化芸術活動」で「活動した」は女性の20代（36.0%）が3割台半ば、男性の20代（20.0%）が2割、女性の30代（16.7%）が1割台半ばで高くなっている。

一方、「活動しなかった」は男性の70～74歳（94.7%）が9割台半ばで高くなっている。

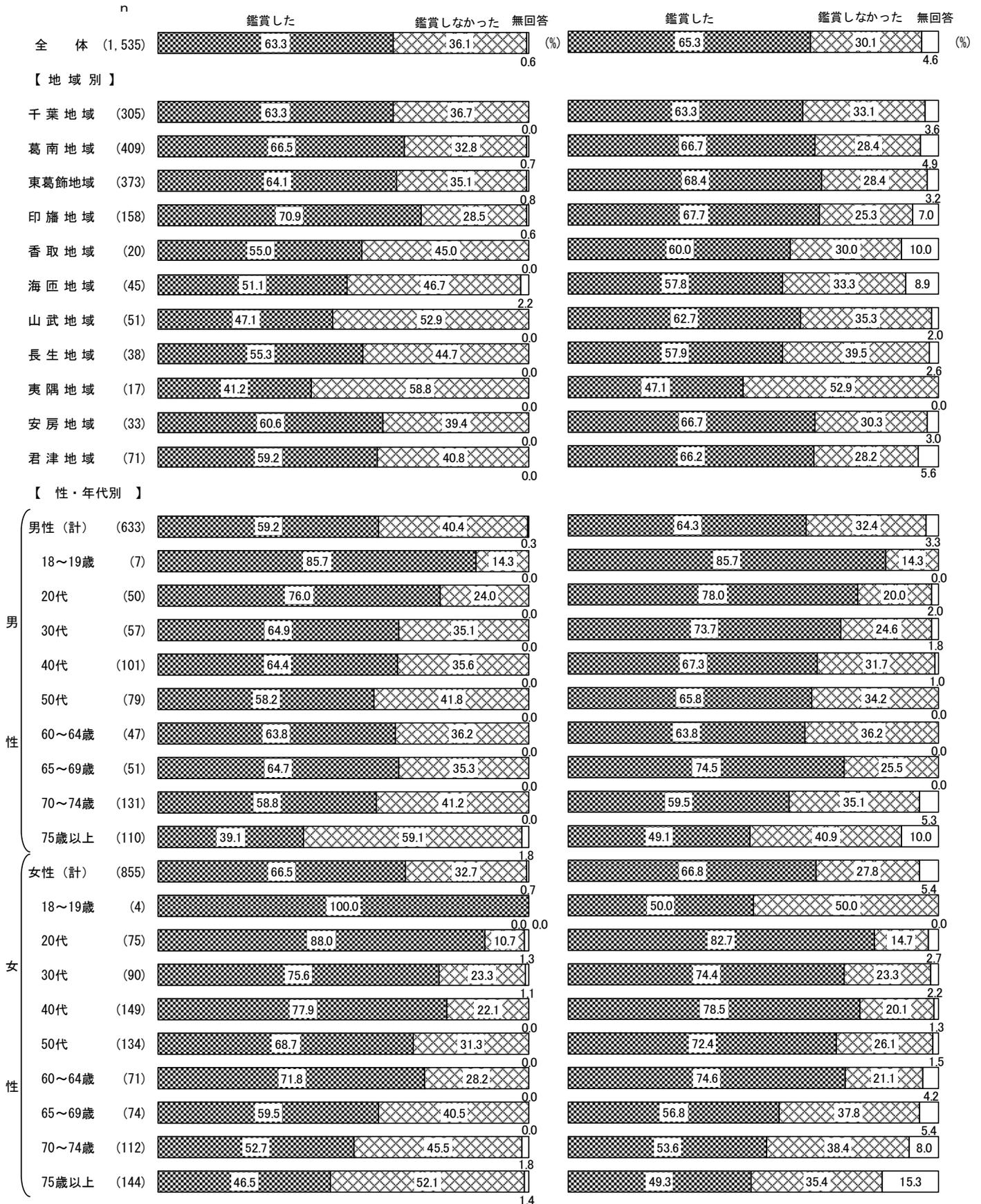
（図表1-34）

<図表 1-34>この 1 年間の文化芸術の鑑賞及び活動の経験／地域別、性・年代別

(ア) 直接の鑑賞

(イ) オンラインやテレビでの鑑賞

(施設での音楽鑑賞、美術館や博物館での
展覧会の鑑賞、舞台公演鑑賞、史跡めぐり、
読書、映画館での鑑賞など)

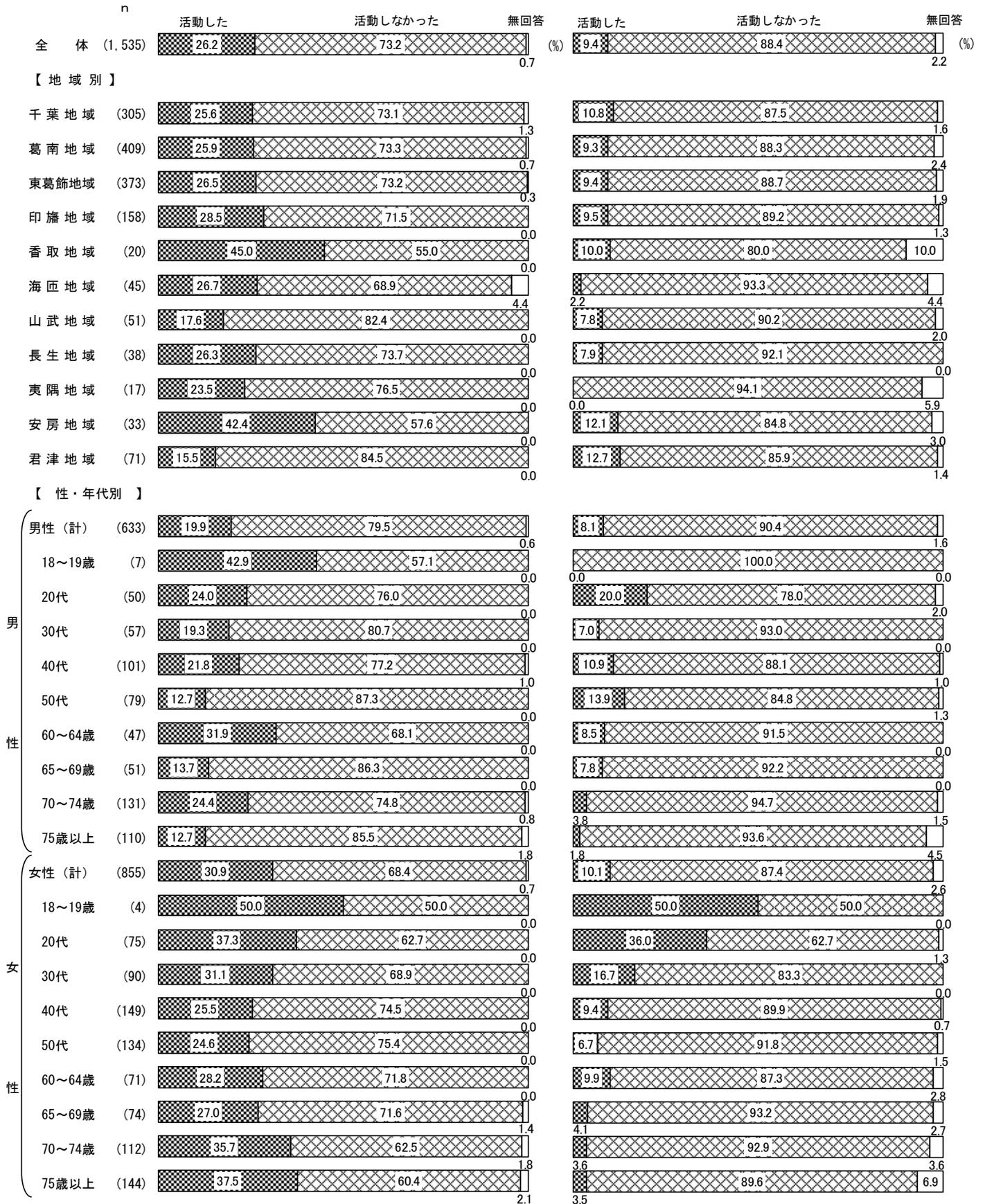


(ウ) 直接の文化芸術活動

(創作、音楽の演奏や舞台等への出演、習い事、趣味を同じくするグループでの活動、地域の祭りや体験活動への参加など)

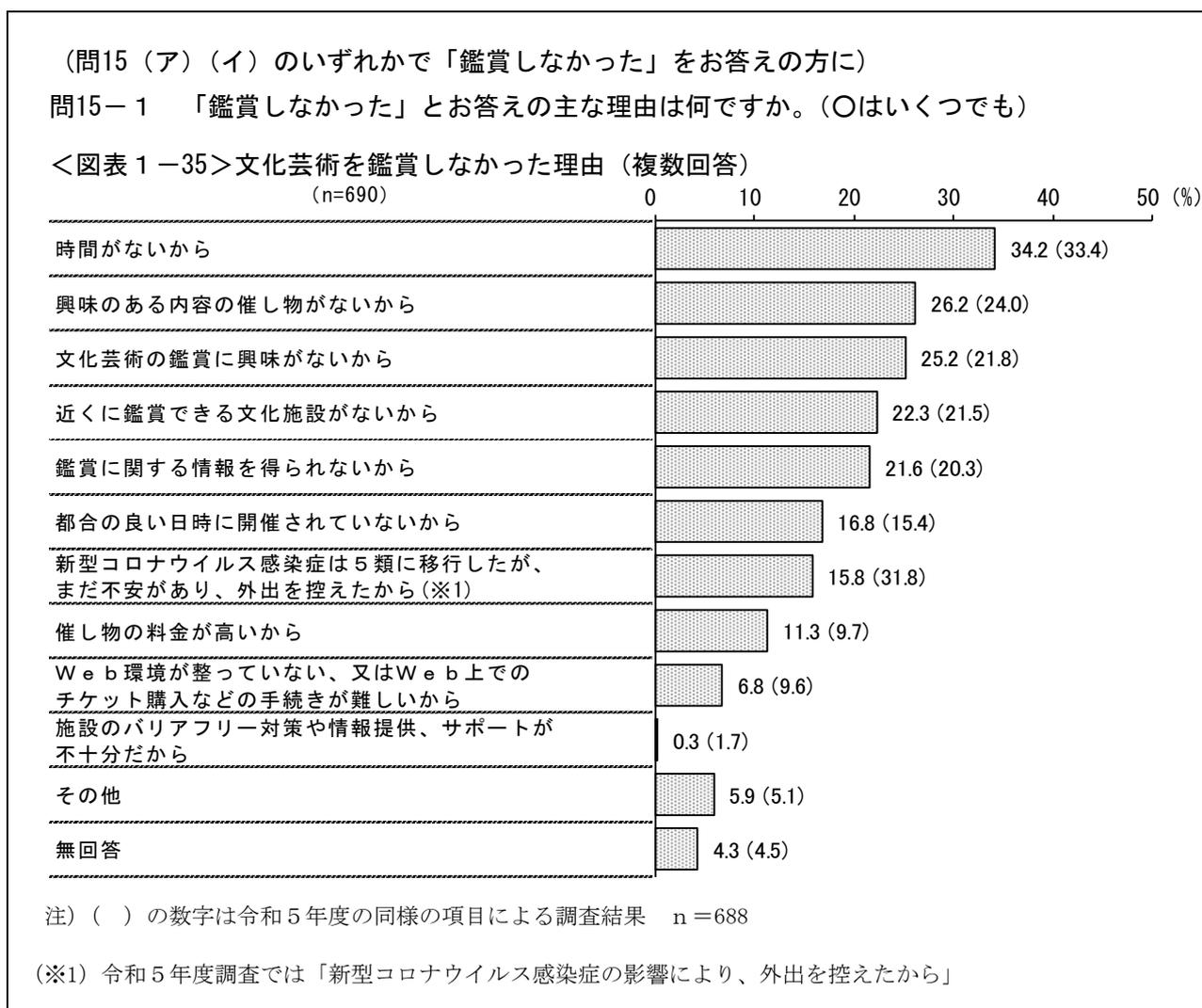
(エ) オンラインでの文化芸術活動

(動画や写真の投稿、デジタルアートの創作など)



（15－1）文化芸術を鑑賞しなかった理由

◇「時間がないから」が3割台半ば



この1年間の文化芸術の鑑賞について、直接またはオンラインやテレビで鑑賞しなかったと回答した690人を対象に、鑑賞しなかった理由を聞いたところ、「時間がないから」（34.2%）が3割台半ばで最も高く、以下、「興味のある内容の催し物がないから」（26.2%）、「文化芸術の鑑賞に興味がないから」（25.2%）、「近くに鑑賞できる文化施設がないから」（22.3%）が続く。（図表 1－35）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表 1－36）

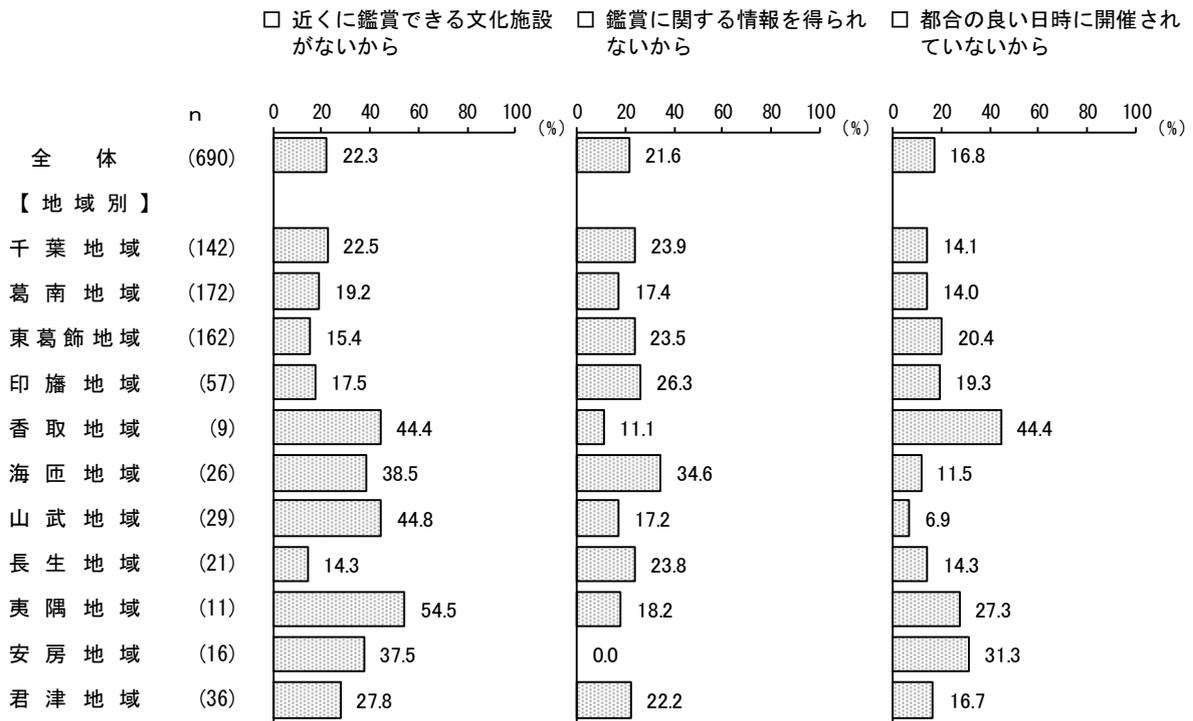
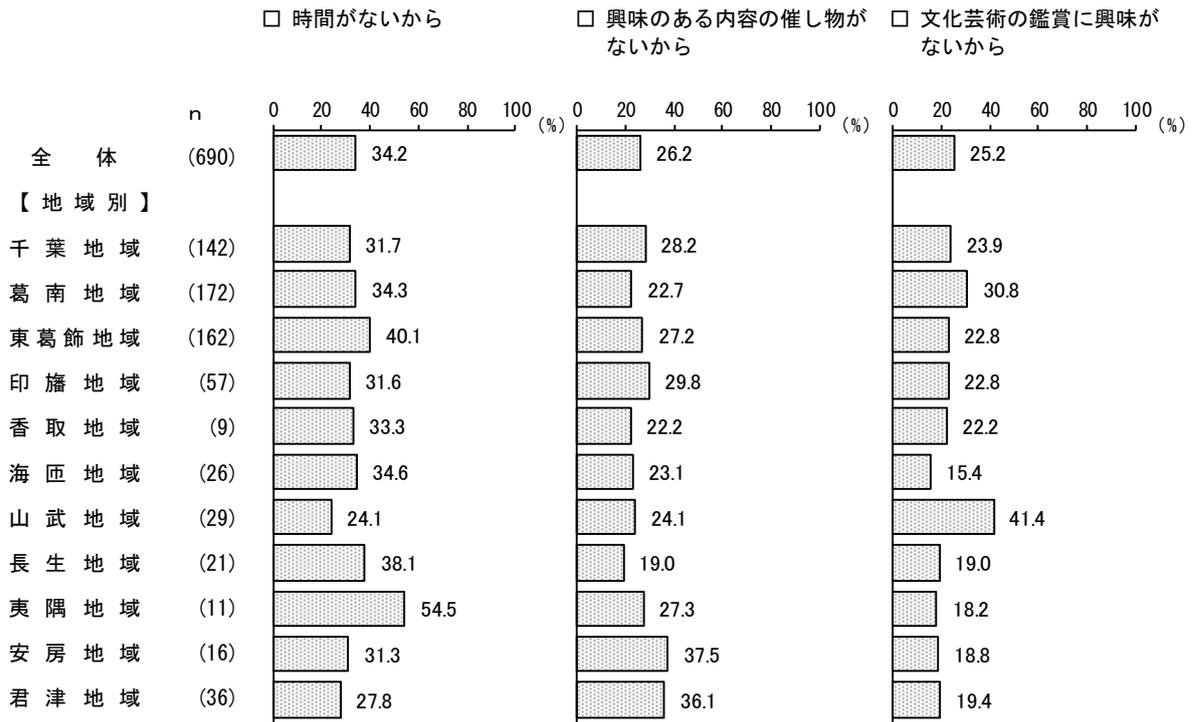
【性・年代別】

性・年代別にみると「時間がないから」は女性の40代（56.8%）と男性の50代（54.1%）が5割台半ばで高くなっている。

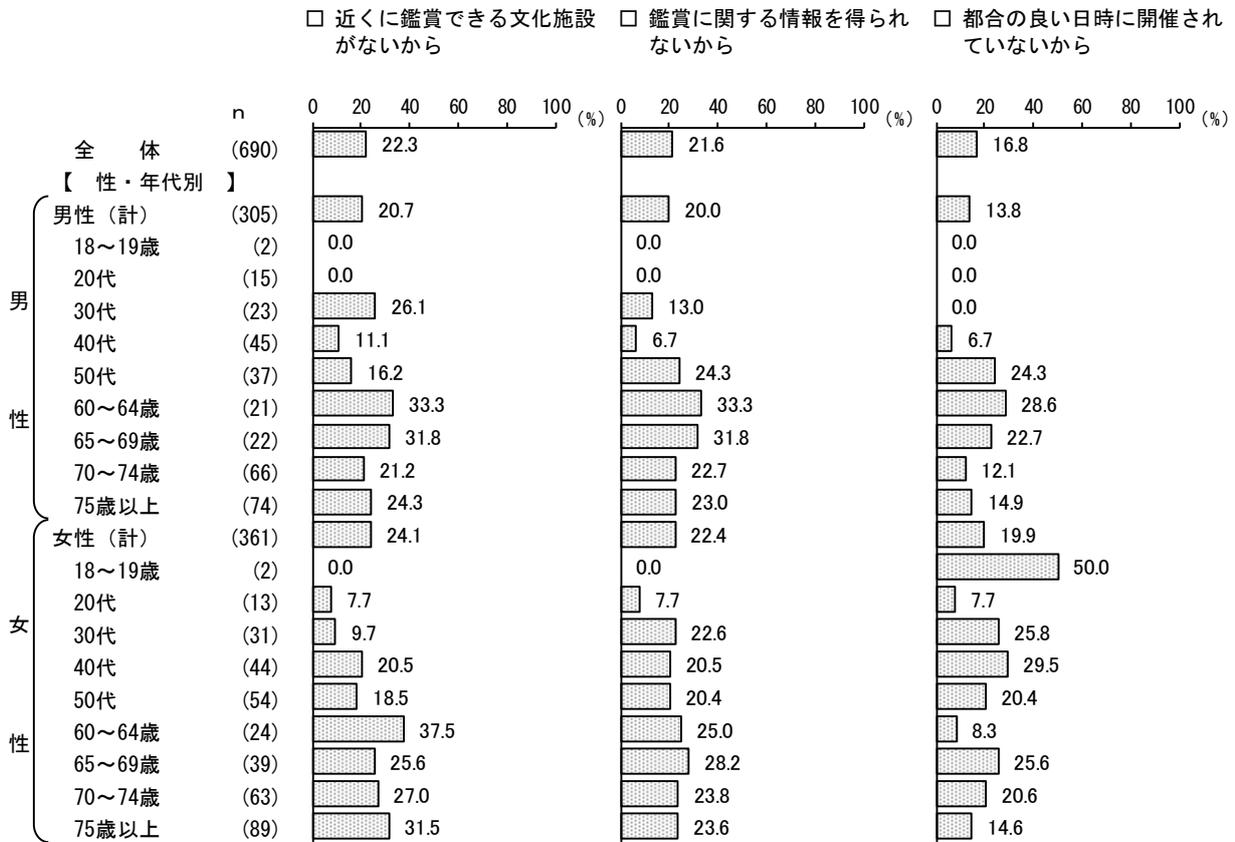
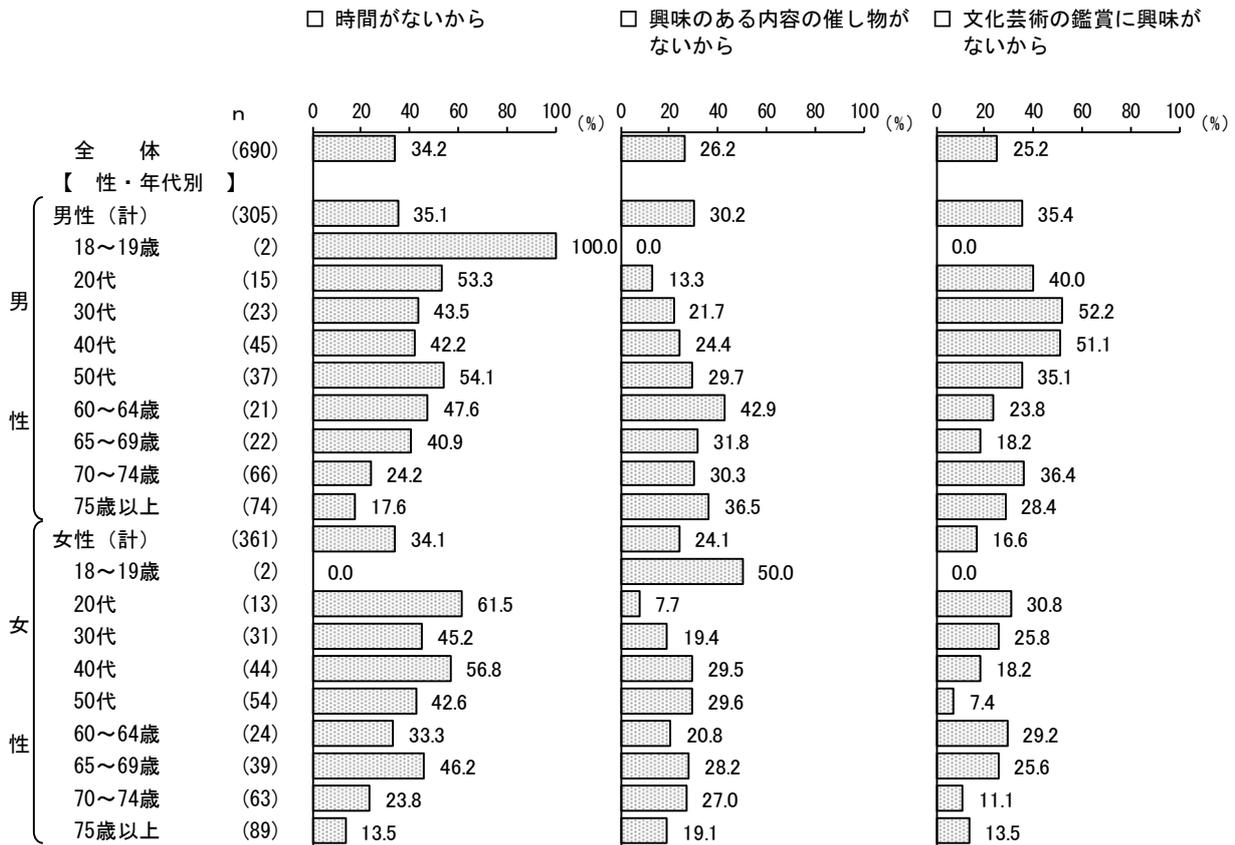
「興味のある内容の催し物がないから」は男性の75歳以上（36.5%）が3割台半ばで高くなっている。

「文化芸術の鑑賞に興味がないから」は男性の40代（51.1%）が5割を超え、男性の70～74歳（36.4%）が3割台半ばで高くなっている。（図表 1－36）

<図表1-36>文化芸術を鑑賞しなかった理由（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）



第 67 回県政に関する世論調査（R 6 年度）

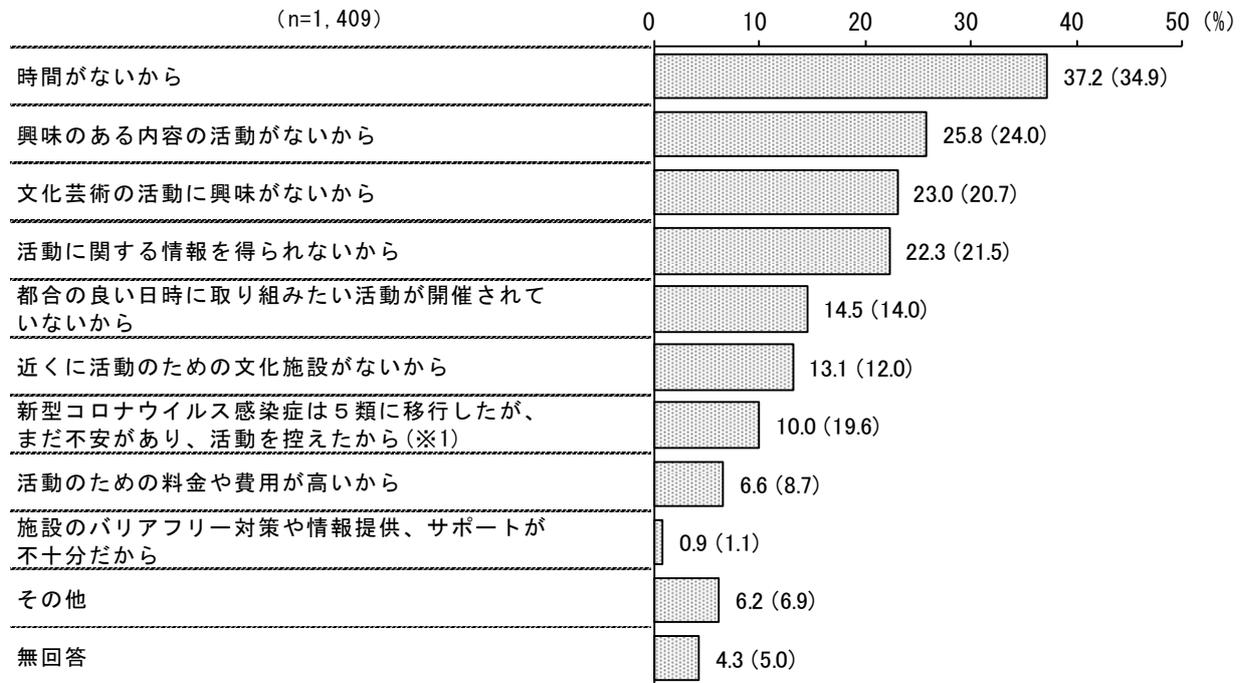


(15-2) 文化芸術活動をしなかった理由

◇「時間がないから」が約4割

(問15(ウ)(エ)のいずれかで「活動しなかった」をお答えの方に)
問15-2 「活動しなかった」とお答えの主な理由は何ですか。(〇はいくつでも)

<図表1-37>文化芸術活動をしなかった理由(複数回答)



注) () の数字は令和5年度の同様の項目による調査結果 n=1,417

(※1) 令和5年度調査では「新型コロナウイルス感染症の影響により、活動を控えたから」

この1年間の文化芸術活動について、直接またはオンラインで活動しなかったと回答した1,409人を対象に、活動しなかった理由を聞いたところ、「時間がないから」(37.2%)が約4割で最も高く、以下、「興味のある内容の活動がないから」(25.8%)、「文化芸術の活動に興味がないから」(23.0%)、「活動に関する情報を得られないから」(22.3%)が続く。(図表1-37)

【地域別】

地域別にみると、「活動に関する情報を得られないから」は“海匠地域”(35.7%)が3割台半ばで高くなっている。(図表1-38)

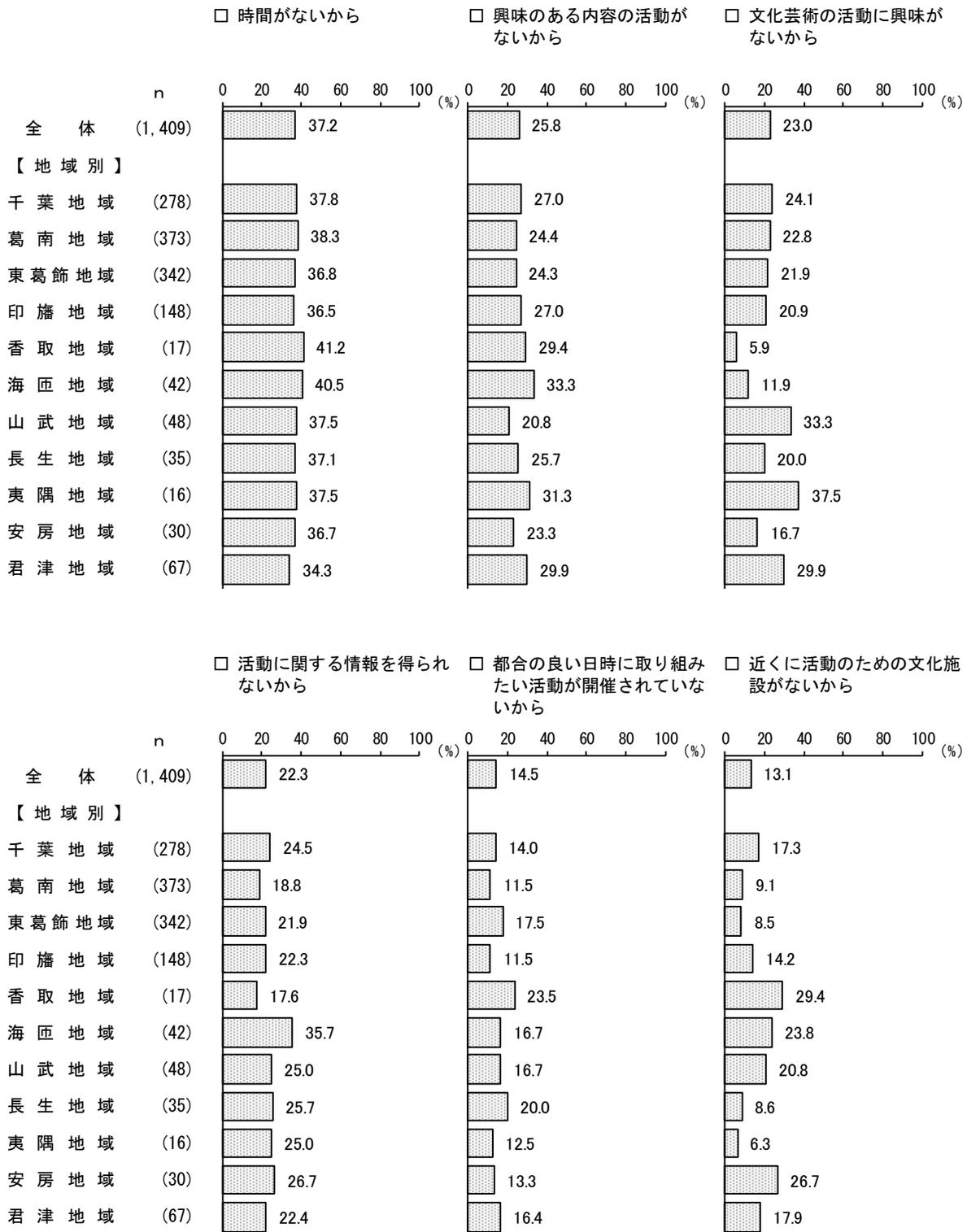
【性・年代別】

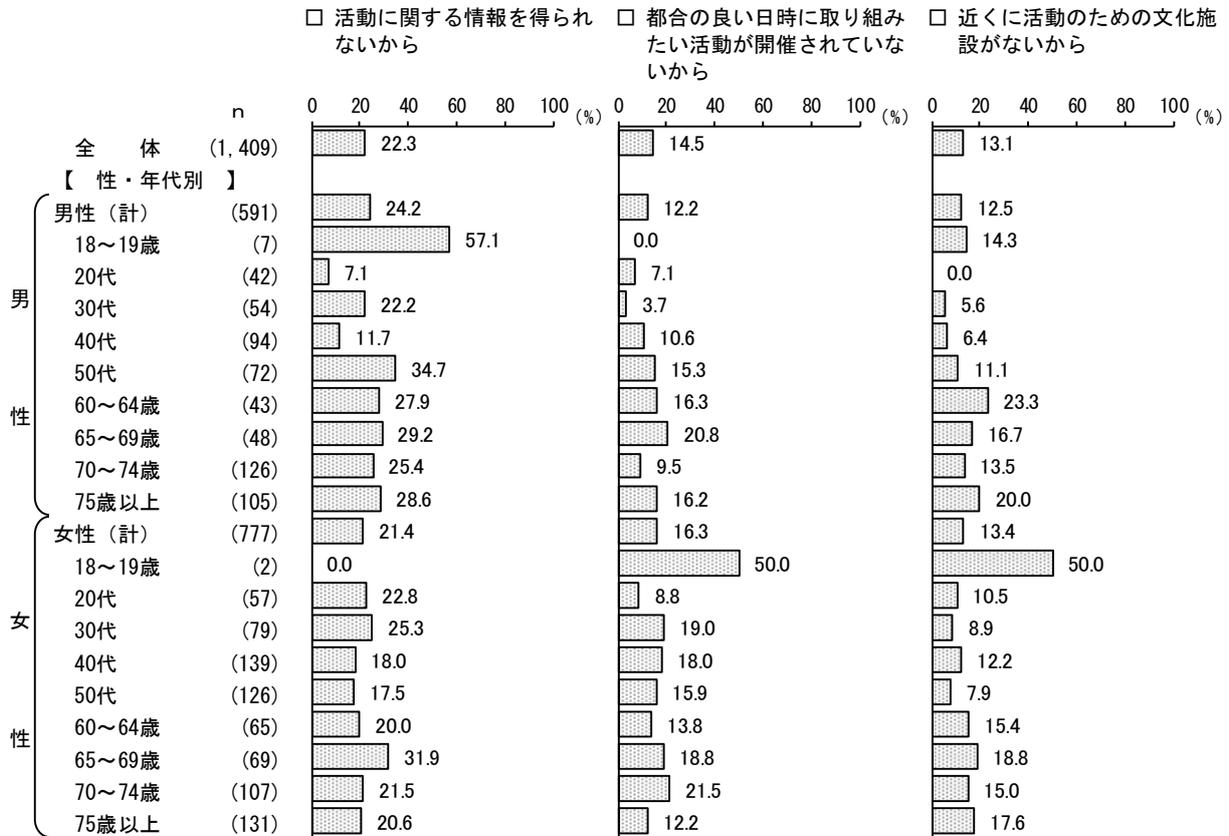
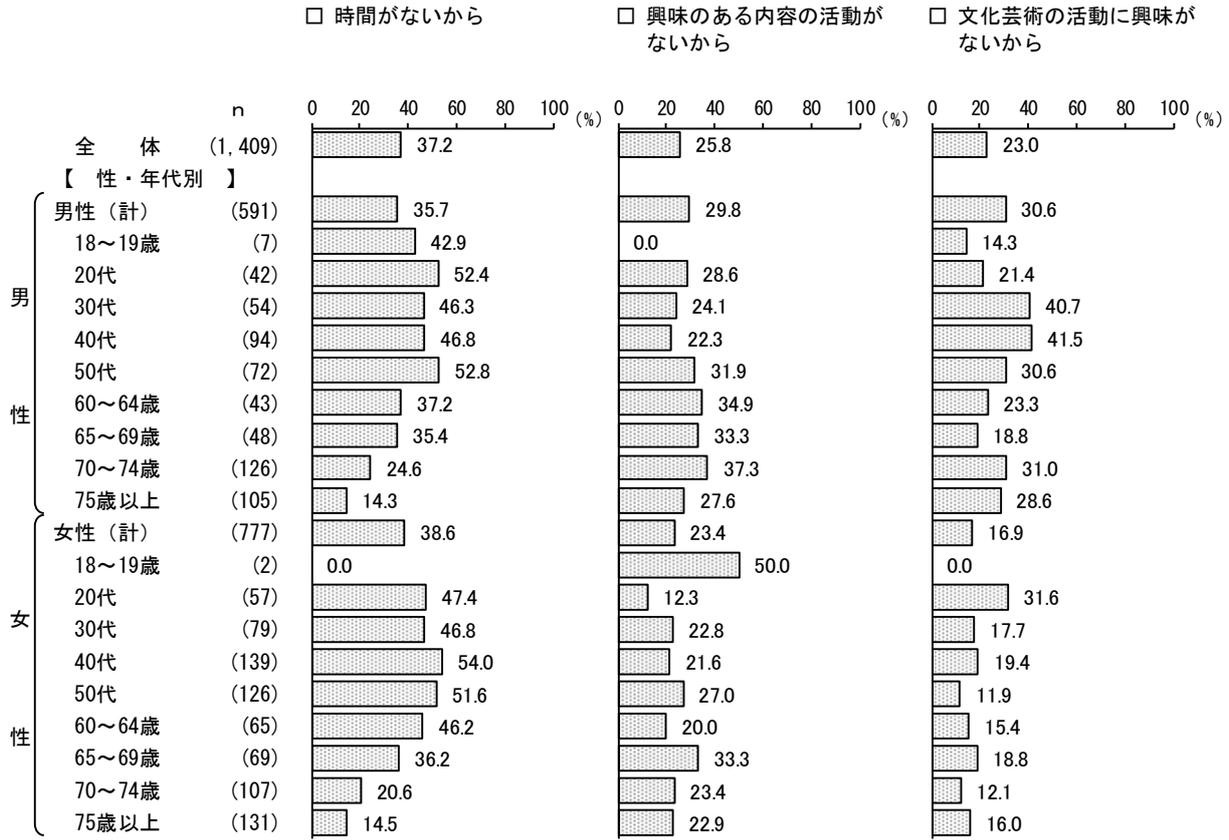
性・年代別にみると、「時間がないから」は女性の40代(54.0%)が5割台半ば、男性の50代(52.8%)、男性の20代(52.4%)、女性の50代(51.6%)が5割を超え、男性の40代(46.8%)が4割台半ばで高くなっている。

「興味のある内容の活動がないから」は男性の70~74歳(37.3%)が約4割で高くなっている。

「文化芸術の活動に興味がないから」は男性の40代(41.5%)が4割を超え、男性の30代(40.7%)が4割、男性の70～74歳(31.0%)が3割を超えて高くなっている。(図表1-38)

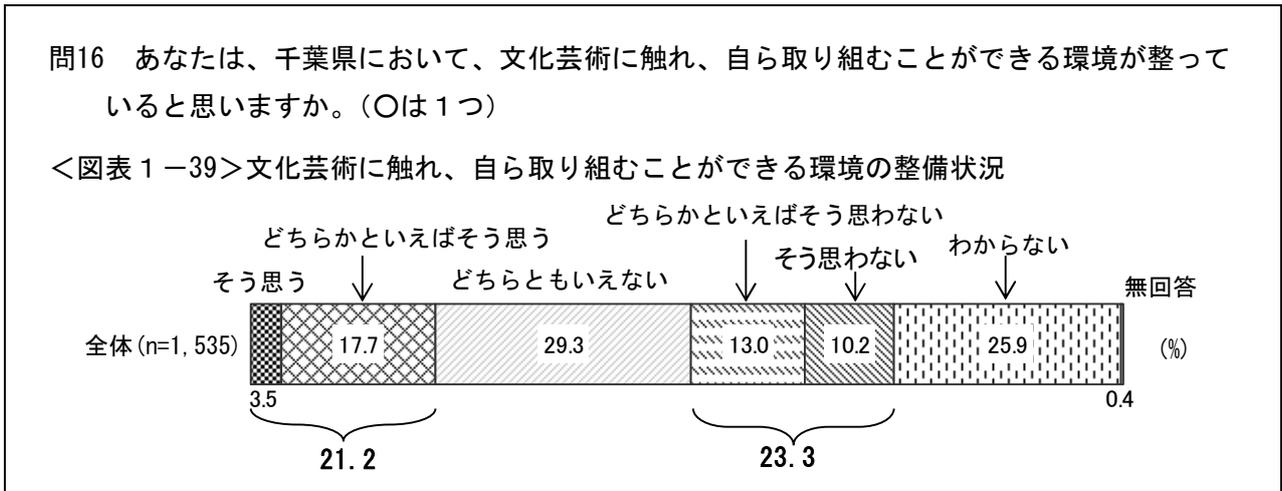
<図表1-38>文化芸術活動をしなかった理由(複数回答)／地域別、性・年代別(上位6項目)





(16) 文化芸術に触れ、自ら取り組むことができる環境の整備状況

◇『そう思う（計）』が2割を超える



千葉県において、文化芸術に触れ、自ら取り組むことができる環境が整っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(3.5%)と「どちらかといえばそう思う」(17.7%)を合わせた『そう思う(計)』(21.2%)が2割を超えている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(13.0%)と「そう思わない」(10.2%)を合わせた『そう思わない(計)』(23.3%)が2割を超えている。

また、「どちらともいえない」(29.3%)が約3割、「わからない」(25.9%)が2割台半ばとなっている。(図表 1-39)

【参考】令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）

	n	そう思う (計)	そう思わない (計)	無回答 またはどちらともいえない またはわからない
令和4年度調査	(1,591)	19.7	24.1	56.2
令和5年度調査	(1,561)	22.1	24.1	53.8
令和6年度調査	(1,535)	21.2	23.3	55.5

【地域別】

地域別にみると、『そう思う(計)』は“印旛地域”(28.5%)が約3割で高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は“長生地域”(36.8%)が3割台半ばで高くなっている。

(図表 1-40)

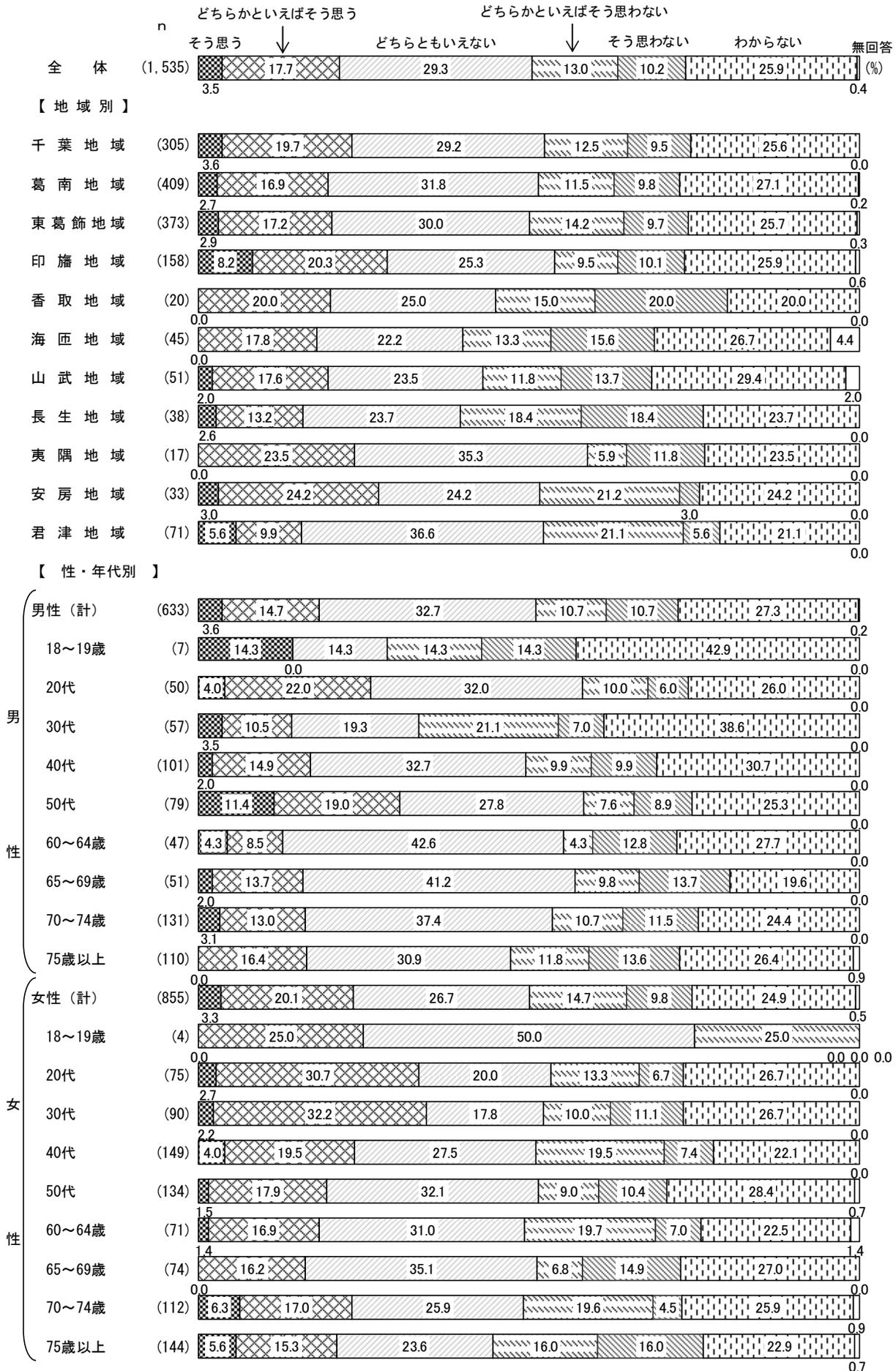
【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う(計)』は女性の30代(34.4%)が3割台半ば、女性の20代(33.3%)が3割を超え、男性の50代(30.4%)が3割で高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は女性の75歳以上(31.9%)が3割を超えて高くなっている。

(図表 1-40)

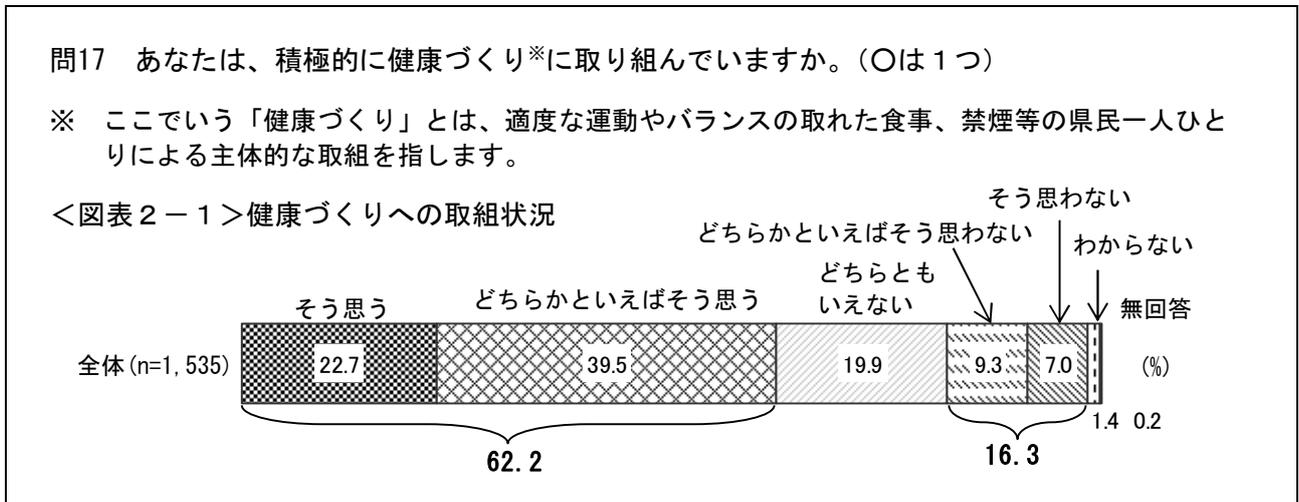
<図表1-40>文化芸術に触れ、自ら取り組むことができる環境の整備状況／地域別、性・年代別



2 健康について

（1）健康づくりへの取組状況

◇『そう思う（計）』が6割を超える



積極的に健康づくりに取り組んでいるか聞いたところ、「そう思う」(22.7%)と「どちらかといえばそう思う」(39.5%)を合わせた『そう思う(計)』(62.2%)が6割を超えている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(9.3%)と「そう思わない」(7.0%)を合わせた『そう思わない(計)』(16.3%)が1割台半ばとなっている。(図表2-1)

〔参考〕令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

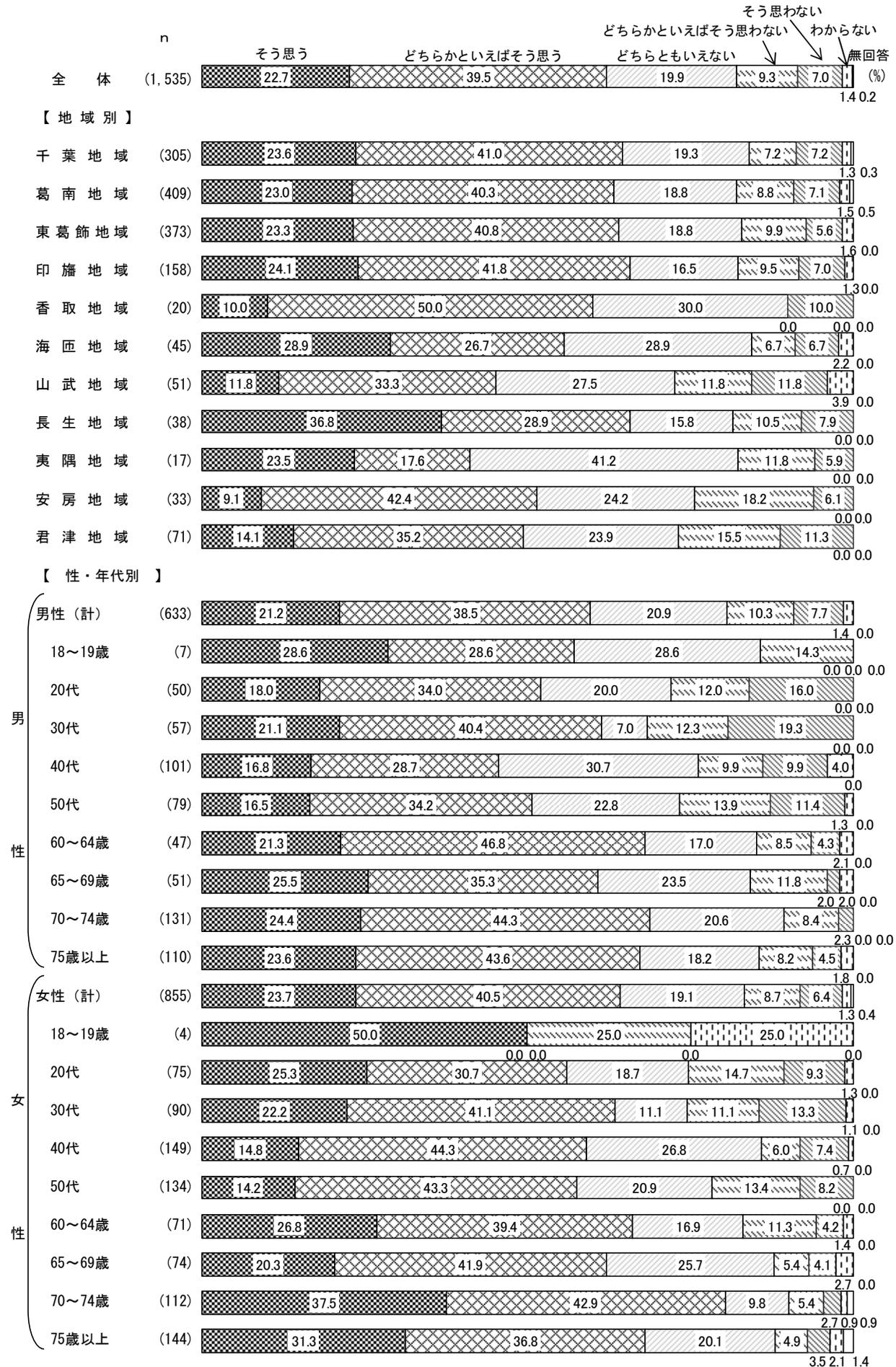
地域別にみると、『そう思わない(計)』は“君津地域”(26.8%)が2割台半ばで高くなっている。(図表2-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う(計)』は女性の70～74歳(80.4%)が8割で高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性の30代(31.6%)が3割を超え、男性の20代(28.0%)が約3割、男性の50代(25.3%)と女性の30代(24.4%)が2割台半ばで高くなっている。

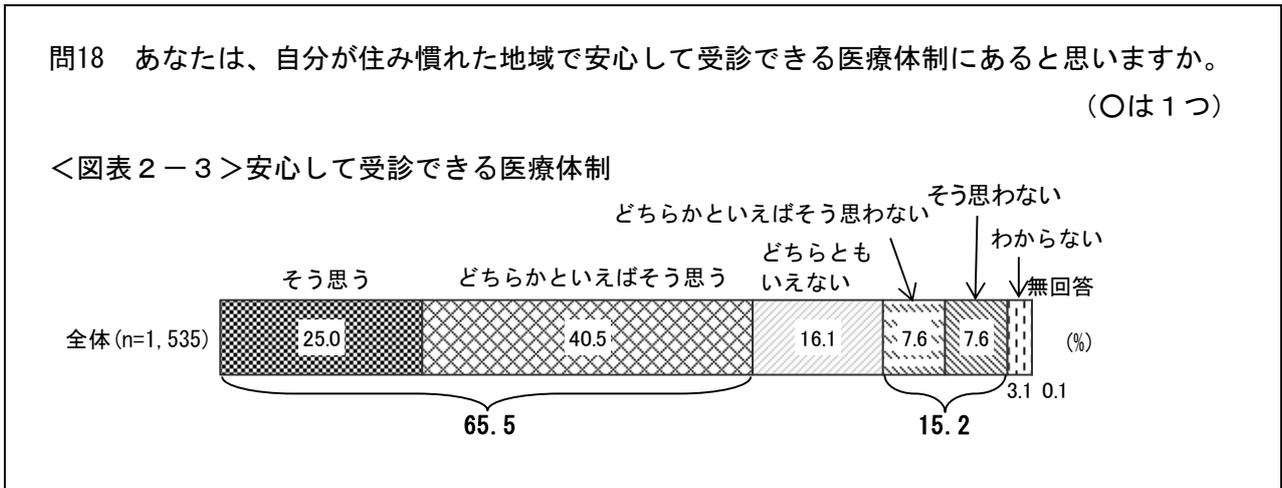
(図表2-2)

<図表2-2>健康づくりへの取組状況／地域別、性・年代別



（2）安心して受診できる医療体制

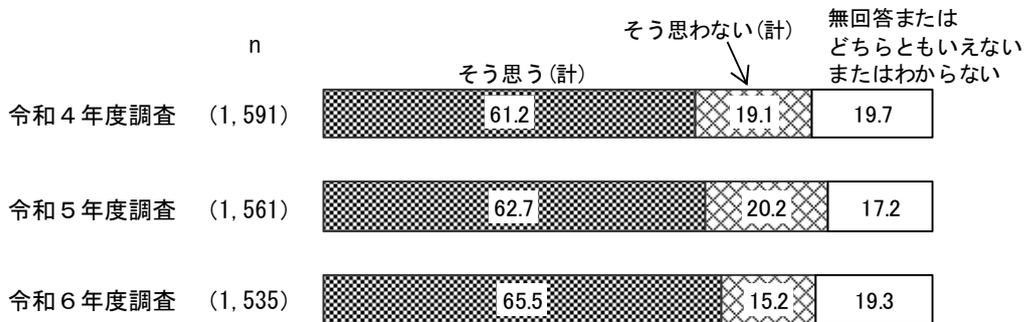
◇『そう思う（計）』が6割台半ば



住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制にあると思うか聞いたところ、「そう思う」（25.0%）と「どちらかといえばそう思う」（40.5%）を合わせた『そう思う（計）』（65.5%）が6割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（7.6%）と「そう思わない」（7.6%）を合わせた『そう思わない（計）』（15.2%）が1割台半ばとなっている。（図表2-3）

【参考】令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、『そう思う（計）』は“葛南地域”（70.4%）が7割で高くなっている。

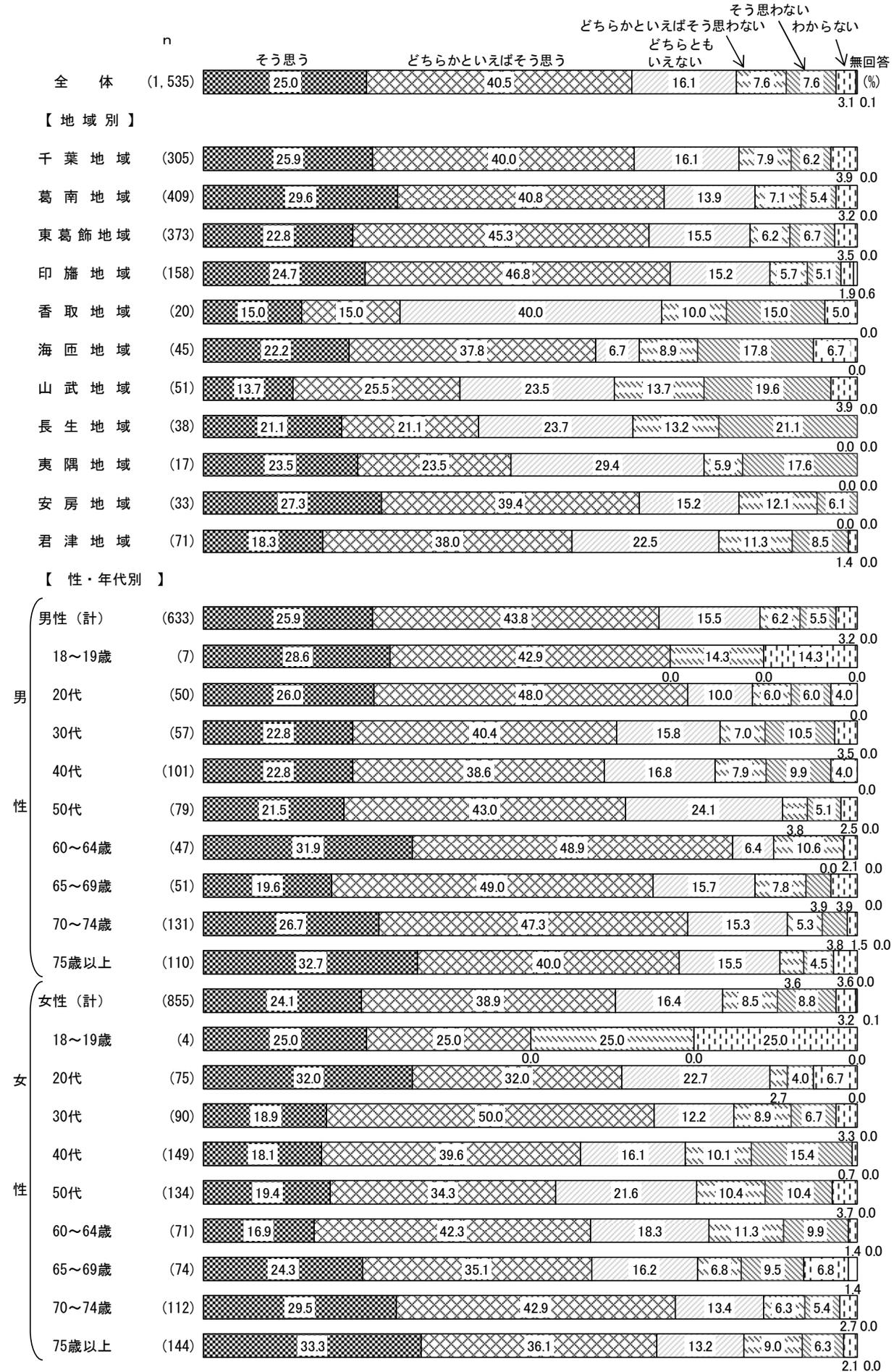
一方、『そう思わない（計）』は“長生地域”（34.2%）が3割台半ば、“山武地域”（33.3%）が3割を超え、“海匝地域”（26.7%）が2割台半ばで高くなっている。（図表2-4）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う（計）』は男性の60～64歳（80.9%）が8割、男性の70～74歳（74.0%）が7割台半ばで高くなっている。

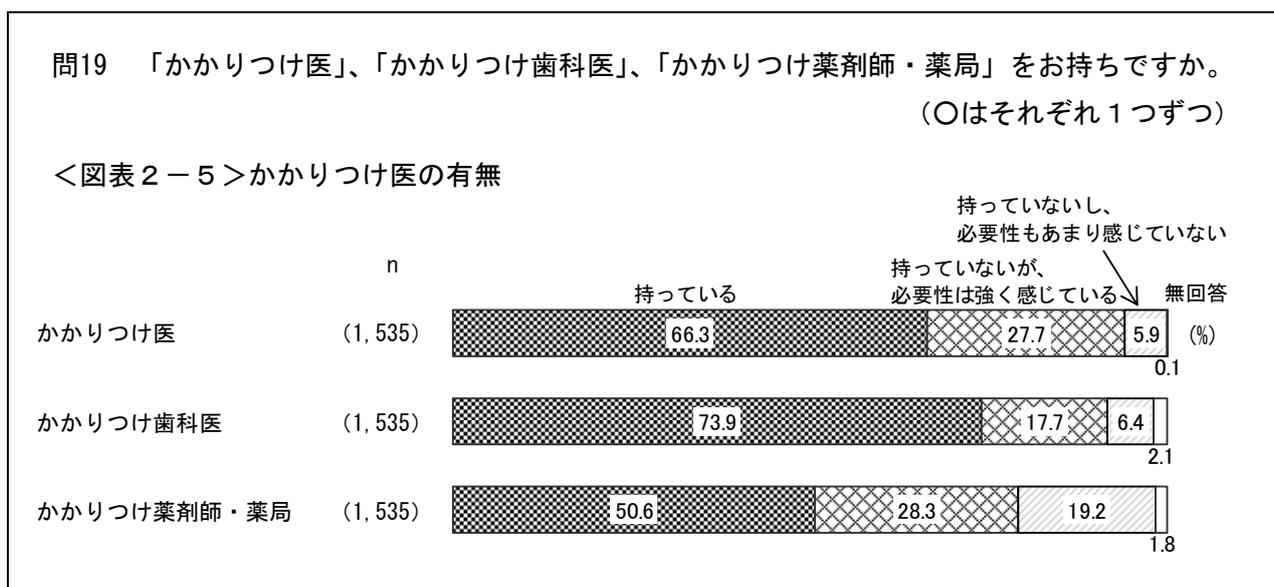
一方、『そう思わない（計）』は女性の40代（25.5%）が2割台半ばで高くなっている。（図表2-4）

<図表2-4>安心して受診できる医療体制／地域別、性・年代別



（3）かかりつけ医の有無

◇かかりつけ歯科医を持っているが7割台半ば、かかりつけ医を持っているが6割台半ば



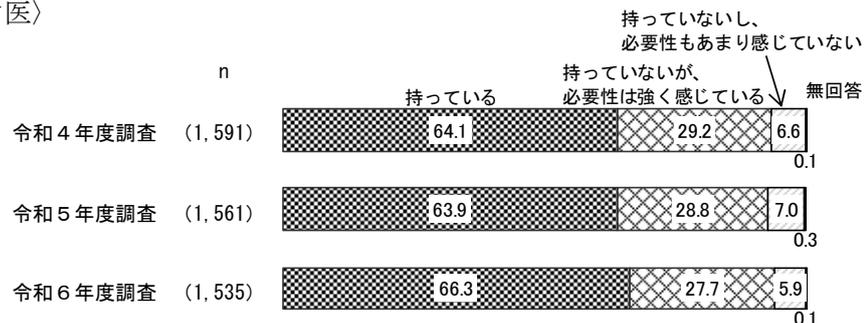
かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師・薬局を持っているかどうかを聞いたところ、「持っている」は〈かかりつけ歯科医〉（73.9%）が7割台半ば、〈かかりつけ医〉（66.3%）が6割台半ば、〈かかりつけ薬剤師・薬局〉（50.6%）が5割となっている。

また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は〈かかりつけ薬剤師・薬局〉（28.3%）と〈かかりつけ医〉（27.7%）が約3割、〈かかりつけ歯科医〉（17.7%）が約2割となっている。

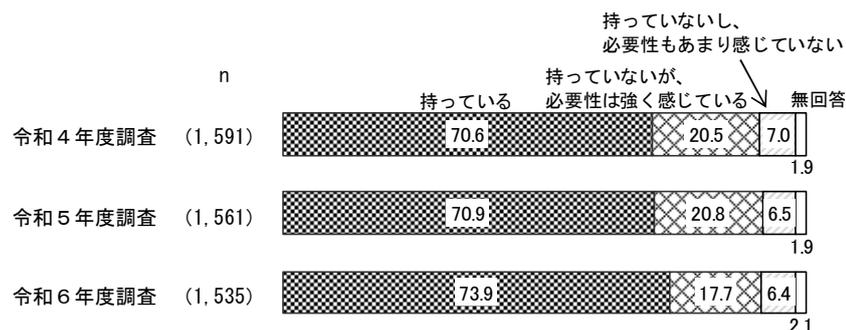
「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は〈かかりつけ薬剤師・薬局〉（19.2%）が約2割となっている。（図表2-5）

〔参考〕令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）

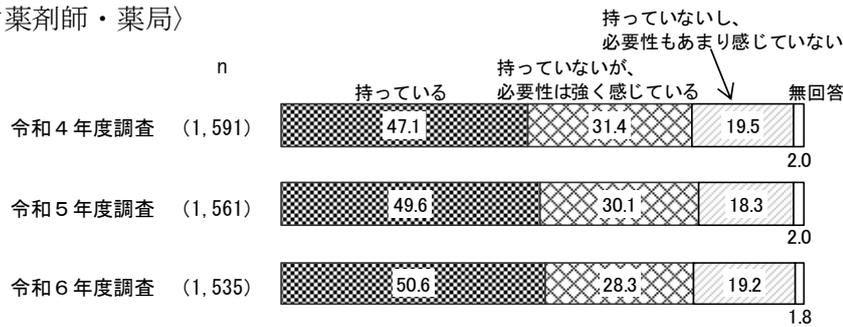
〈かかりつけ医〉



〈かかりつけ歯科医〉



〈かかりつけ薬剤師・薬局〉



【地域別】

地域別にみると、〈かかりつけ医〉を「持っている」は“千葉地域”（71.5%）が7割を超えて高くなっている。また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は“東葛飾地域”（33.0%）と“葛南地域”（31.5%）が3割を超えて高くなっている。

〈かかりつけ歯科医〉については、「持っていないが、必要性は強く感じている」は“千葉地域”（22.0%）が2割を超えて高くなっている。また、「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は“海匝地域”（17.8%）が約2割で高くなっている。

〈かかりつけ薬剤師・薬局〉については、「持っている」は“印旛地域”（58.2%）が約6割で高くなっている。（図表2-6）

【性・年代別】

性・年代別にみると、〈かかりつけ医〉を「持っている」は女性の75歳以上（86.8%）が8割台半ば、女性の70～74歳（83.0%）と男性の75歳以上（81.8%）が8割を超え、男性の70～74歳（75.6%）が7割台半ばで高くなっている。

「持っていないが、必要性は強く感じている」は男性の30代（52.6%）が5割を超え、女性の30代（42.2%）が4割を超え、女性の40代（40.3%）が4割、男性の40代（39.6%）が約4割で高くなっている。

「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は男性の20代（18.0%）が約2割、女性の30代（11.1%）が1割を超えて高くなっている。

〈かかりつけ歯科医〉を「持っている」は女性の60～64歳（85.9%）が8割台半ば、女性の75歳以上（83.3%）と女性の70～74歳（83.0%）が8割を超えて高くなっている。

「持っていないが、必要性は強く感じている」は男性の20代（36.0%）が3割台半ば、男性の40代（30.7%）が3割で高くなっている。

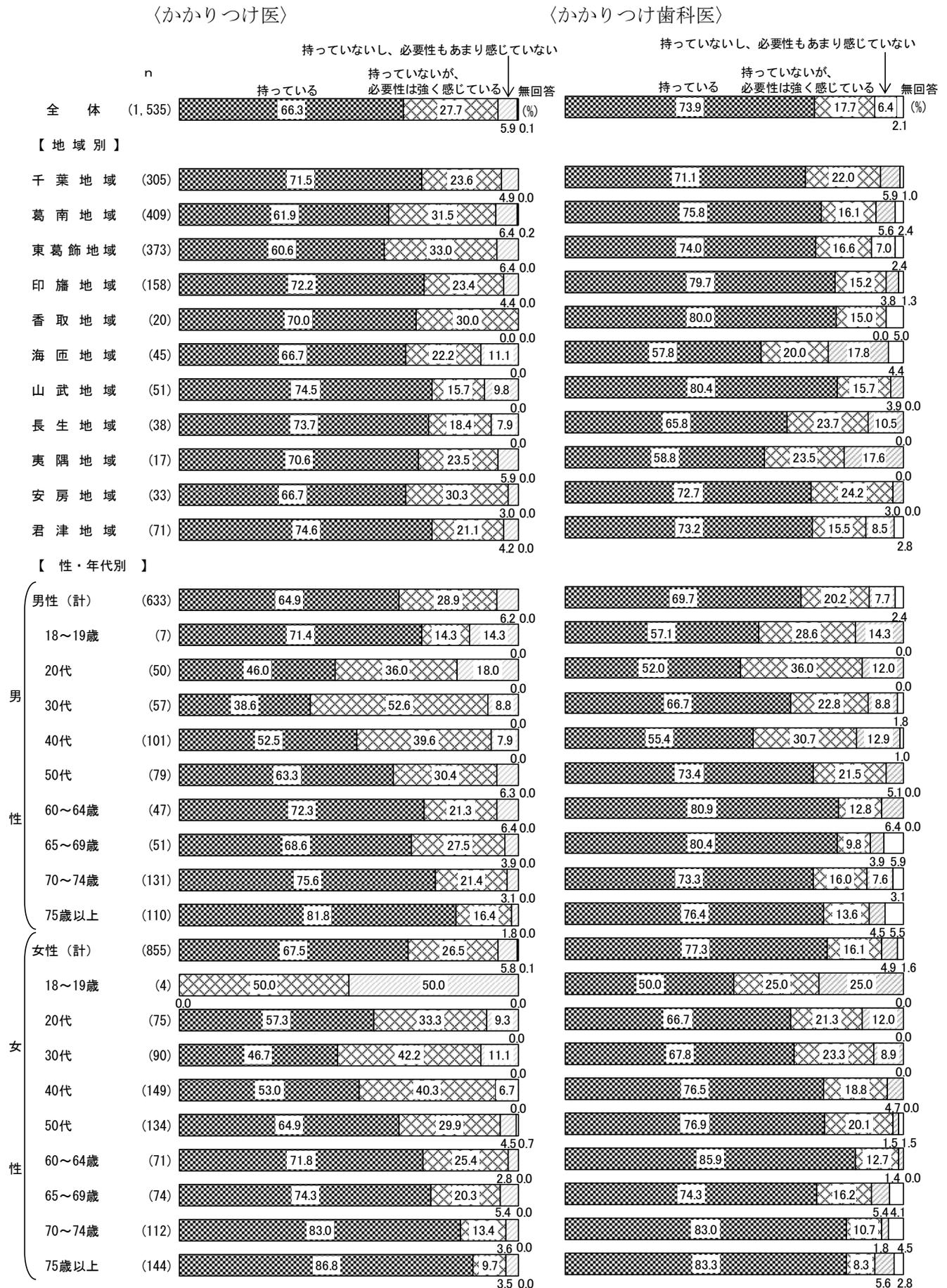
「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は男性の40代（12.9%）と女性の20代（12.0%）が1割を超えて高くなっている。

〈かかりつけ薬剤師・薬局〉を「持っている」は女性の75歳以上（77.8%）が約8割、女性の70～74歳（69.6%）が約7割、男性の75歳以上（63.6%）が6割台半ば、男性の70～74歳（62.6%）が6割を超えて高くなっている。

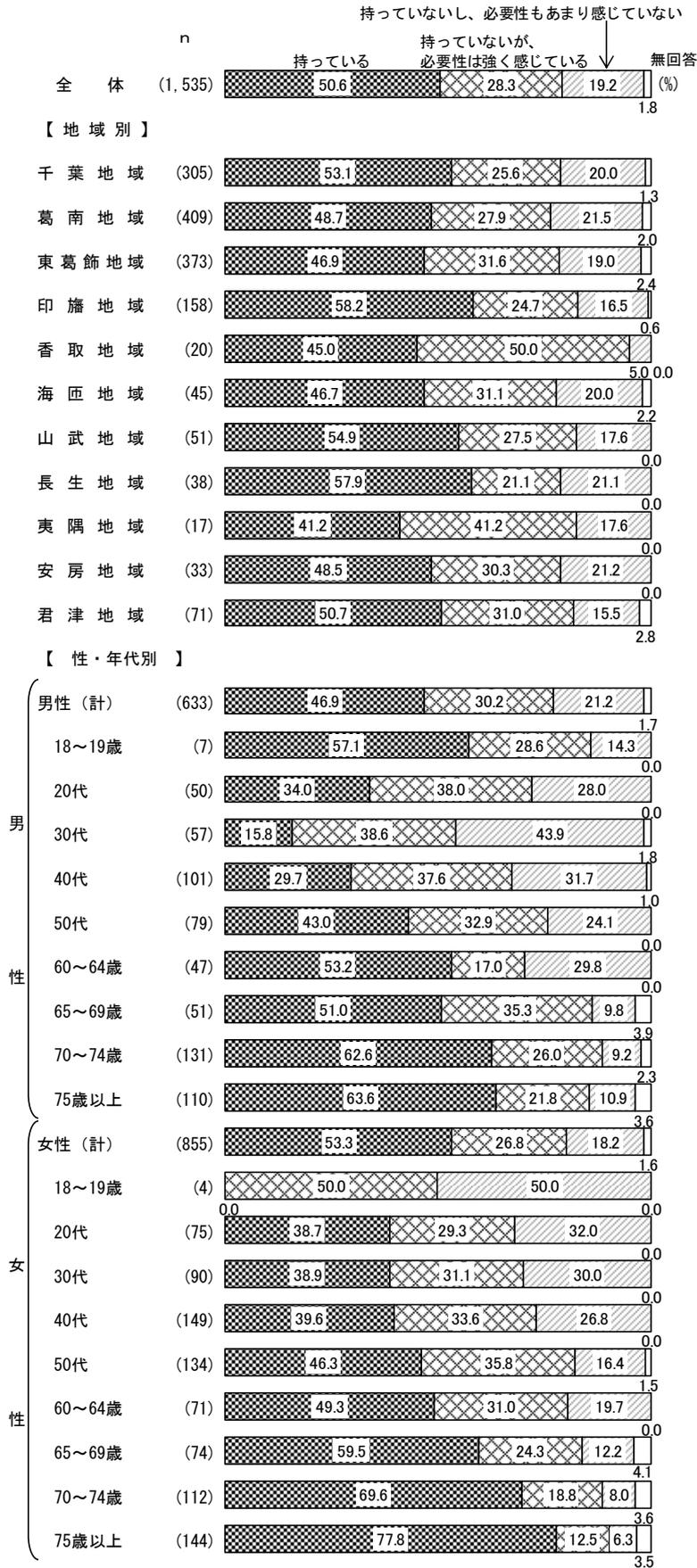
「持っていないが、必要性は強く感じている」は男性の40代（37.6%）が約4割、女性の50代（35.8%）が3割台半ばで高くなっている。

「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は男性の30代（43.9%）が4割台半ば、女性の20代（32.0%）と男性の40代（31.7%）が3割を超え、女性の30代（30.0%）が3割、女性の40代（26.8%）が2割台半ばで高くなっている。（図表2-6）

<図表2-6>かかりつけ医の有無／地域別、性・年代別



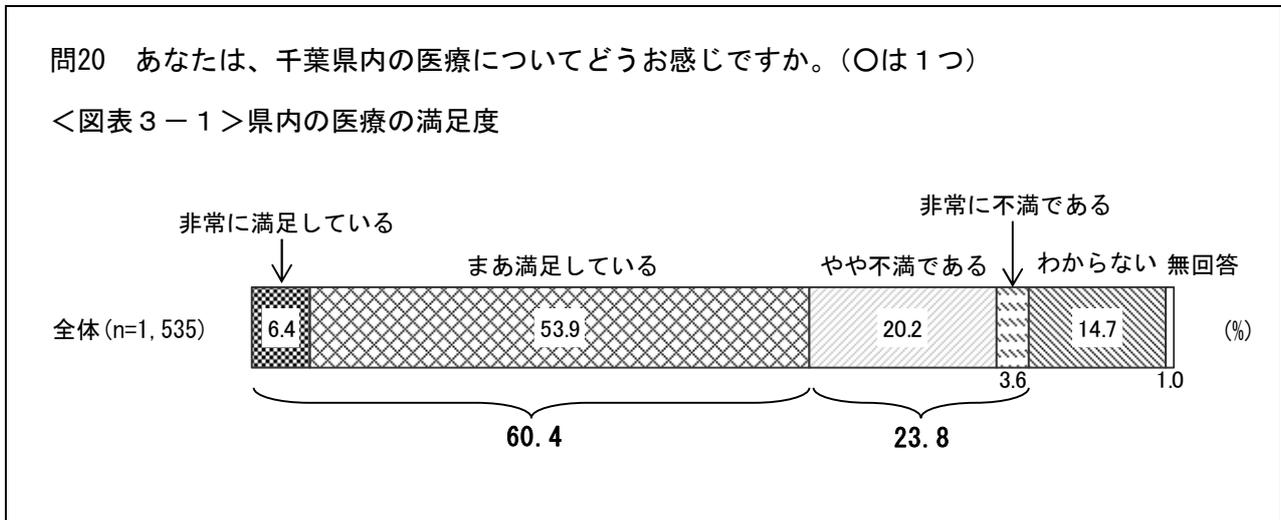
〈かかりつけ薬剤師・薬局〉



3 医療について

(1) 県内の医療の満足度

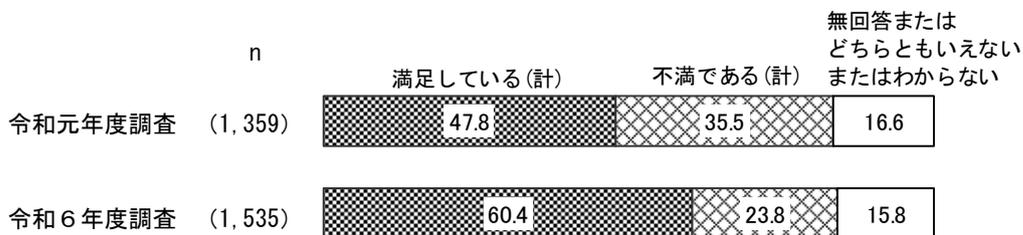
◇『満足している（計）』が6割



県内の医療の満足度を聞いたところ、「非常に満足している」（6.4%）と「まあ満足している」（53.9%）を合わせた『満足している（計）』（60.4%）が6割となっている。

一方、「やや不満である」（20.2%）と「非常に不満である」（3.6%）を合わせた『不満である（計）』（23.8%）は2割台半ばとなっている。（図表3-1）

〔参考〕 令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

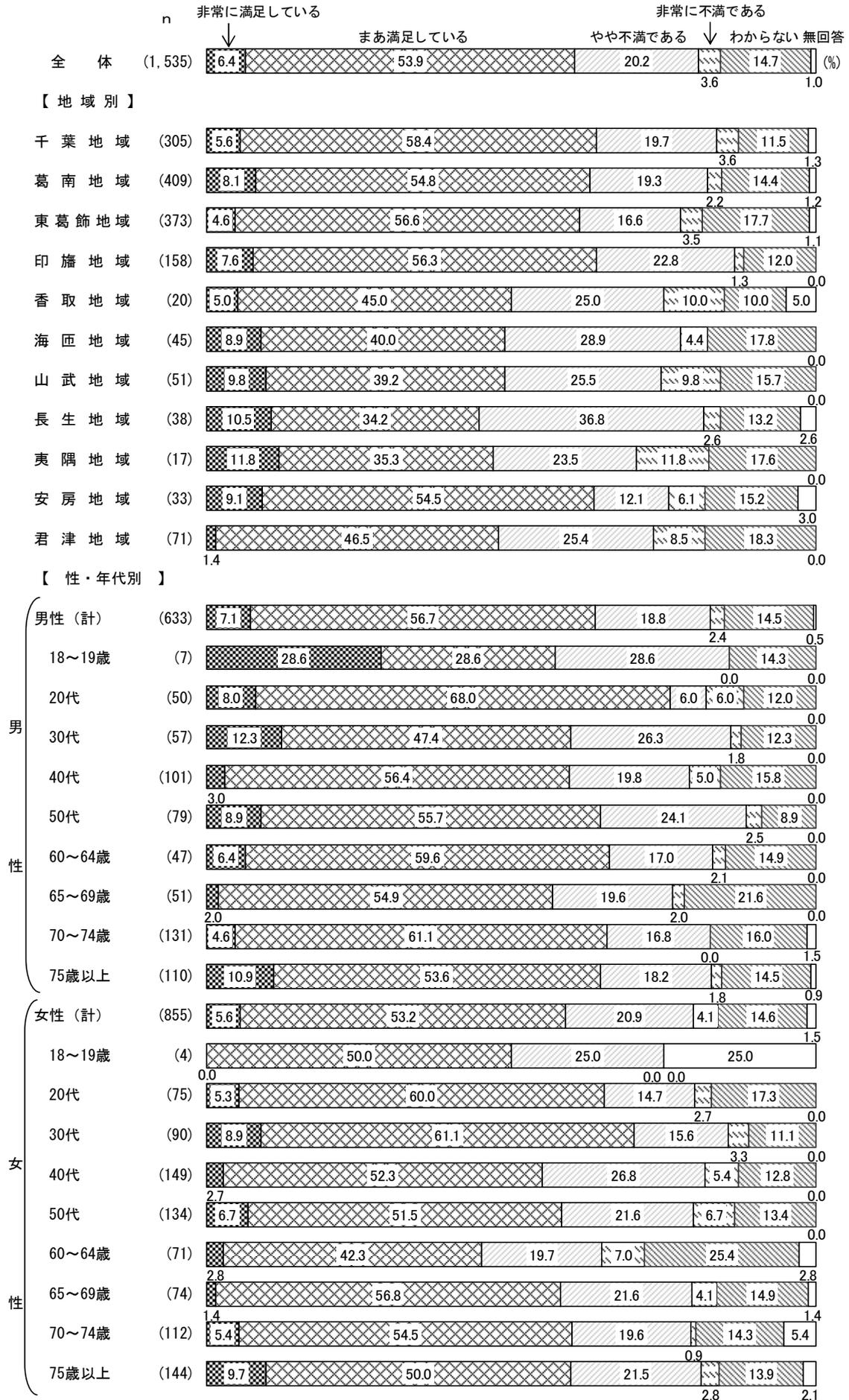
地域別にみると、『不満である（計）』は“長生地域”（39.5%）が約4割、“君津地域”（33.8%）が3割台半ばで高くなっている。（図表3-2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『満足している（計）』は男性の20代（76.0%）が7割台半ばで高くなっている。

一方、『不満である（計）』は女性の40代（32.2%）が3割を超えて高くなっている。（図表3-2）

<図表3-2>県内の医療の満足度／地域別、性・年代別



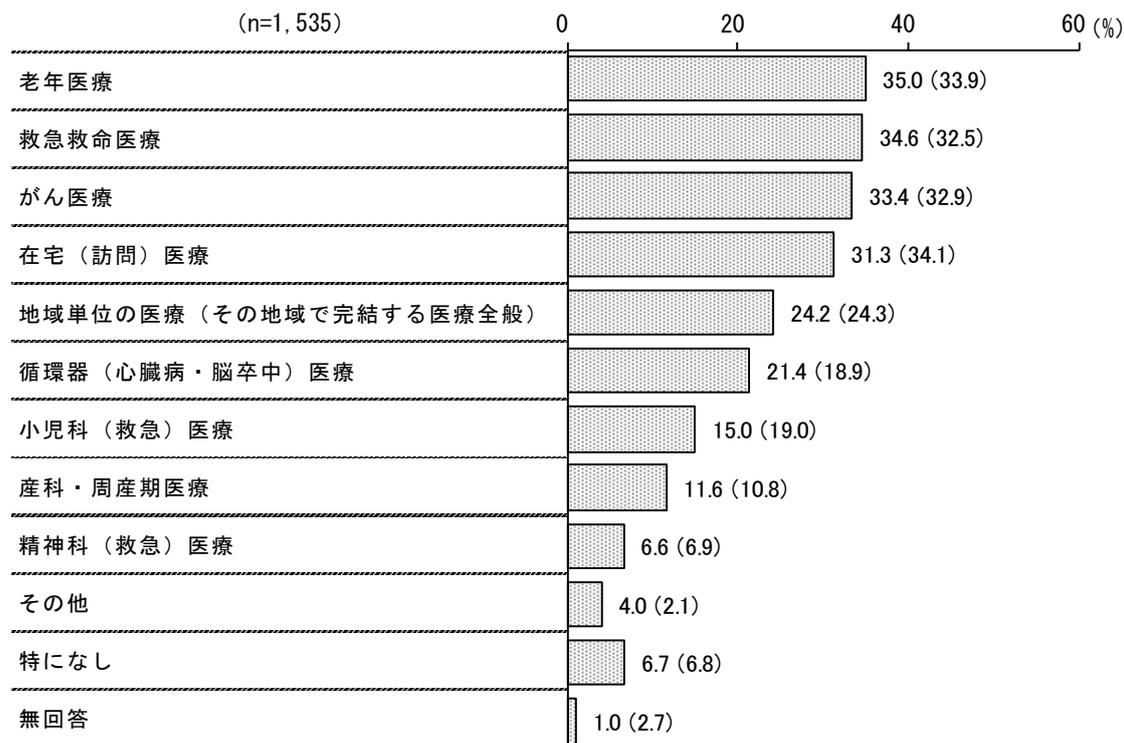
（2）今後、県に力を入れて欲しい医療

◇「老年医療」が3割台半ば

問21 あなたが今後、県に力を入れて欲しい医療について次の中から選んでください。

（○は3つまで）

＜図表3-3＞今後、県に力を入れて欲しい医療（3つまでの複数回答）



注）（ ）の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n=1,359

今後、県に力を入れて欲しい医療について聞いたところ、「老年医療」（35.0%）が3割台半ばで最も高く、以下、「救急救命医療」（34.6%）、「がん医療」（33.4%）、「在宅（訪問）医療」（31.3%）が続く。（図表3-3）

【地域別】

地域別にみると、「在宅（訪問）医療」は“印旛地域”（45.6%）が4割台半ばで高くなっている。（図表3-4）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「老年医療」は女性の75歳以上（61.8%）が6割を超え、女性の65～69歳（55.4%）と男性の70～74歳（55.0%）が5割台半ば、女性の60～64歳（52.1%）が5割を超えて高くなっている。

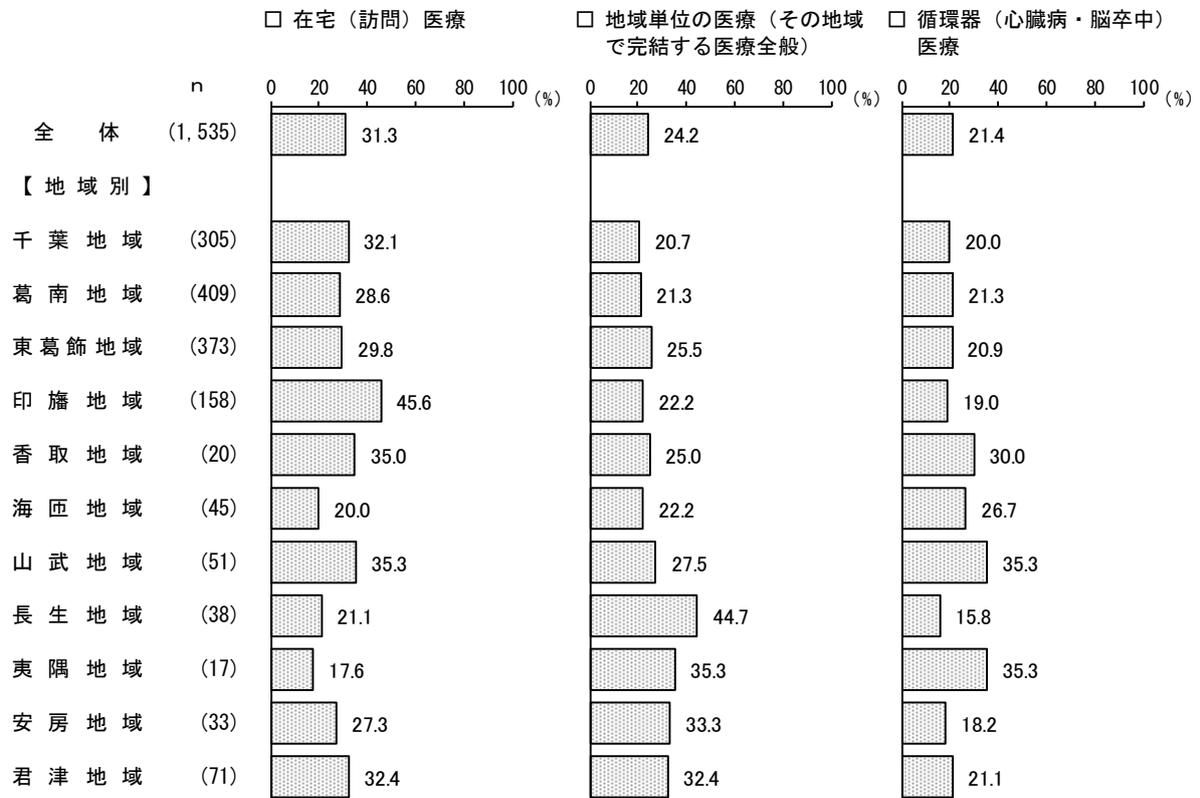
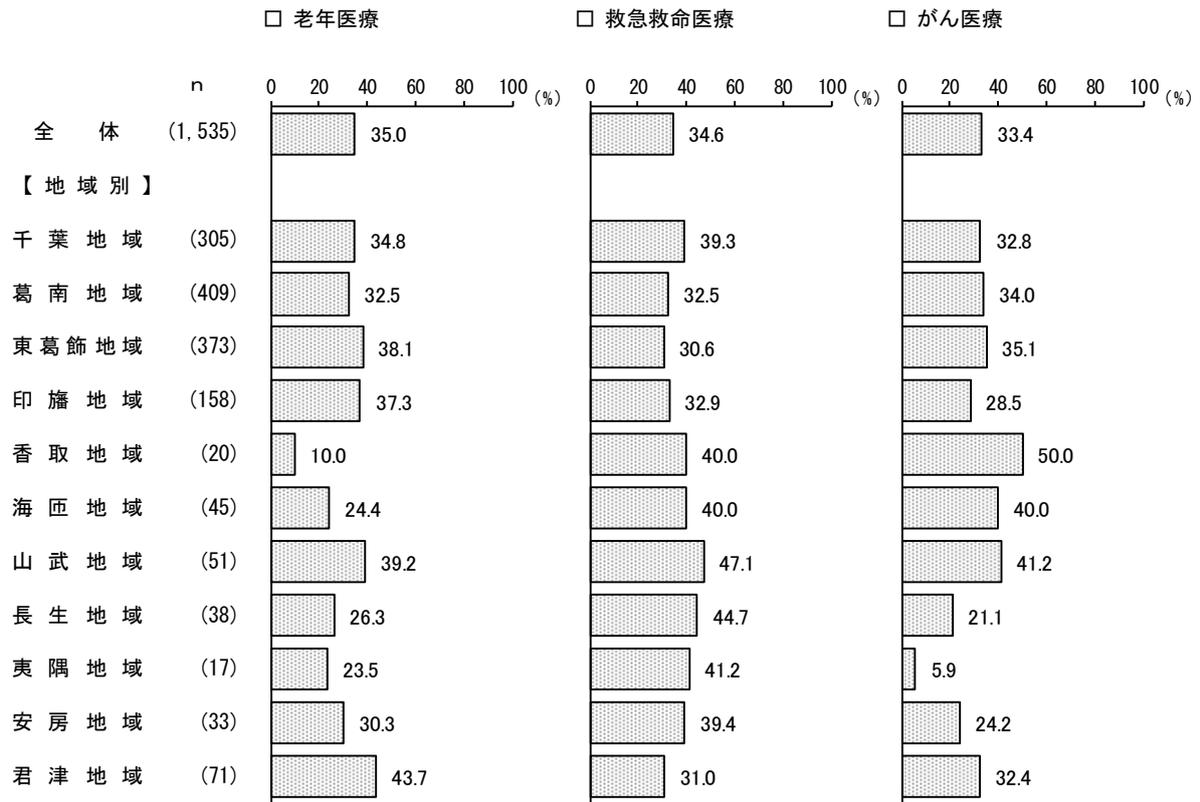
「救急救命医療」は男性の50代（48.1%）が約5割、女性の40代（45.0%）が4割台半ばで高くなっている。

「がん医療」は男性の50代（49.4%）が約5割、男性の40代（45.5%）が4割台半ばで高くなっている。

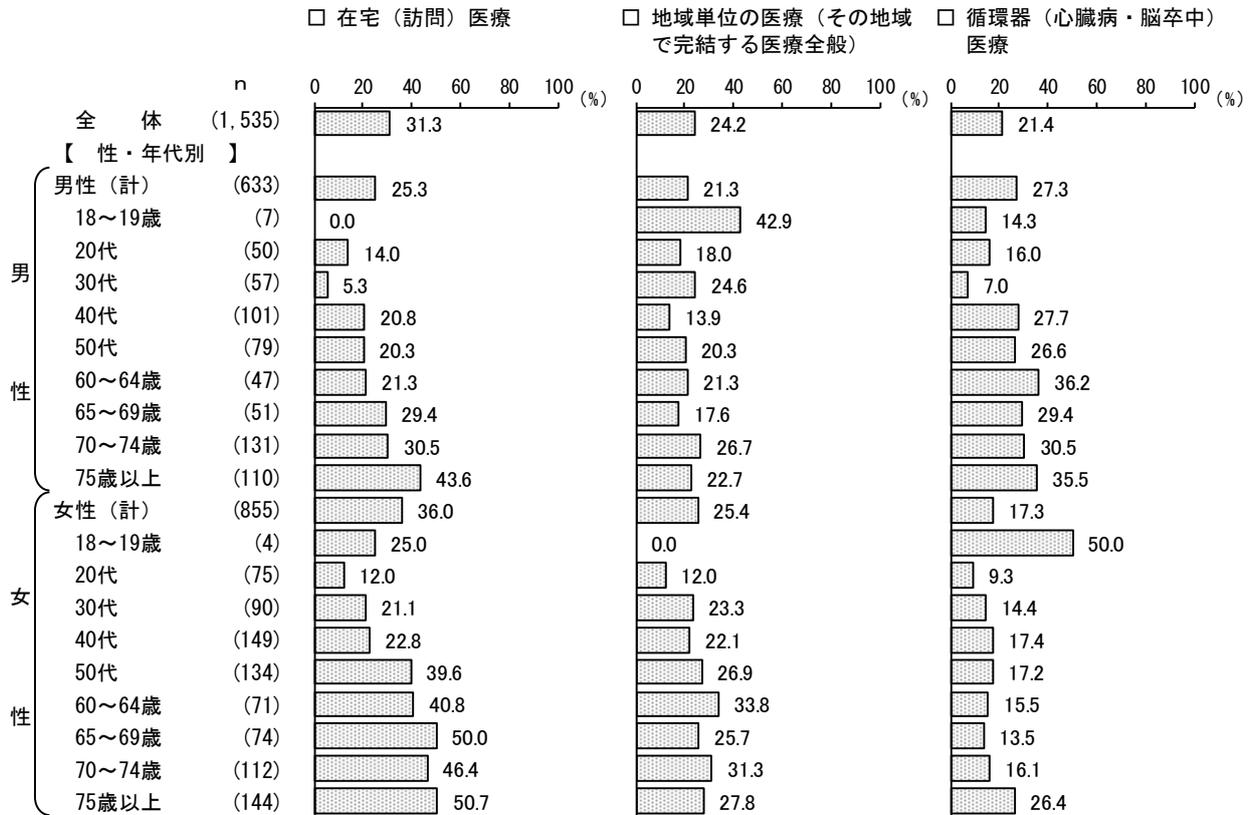
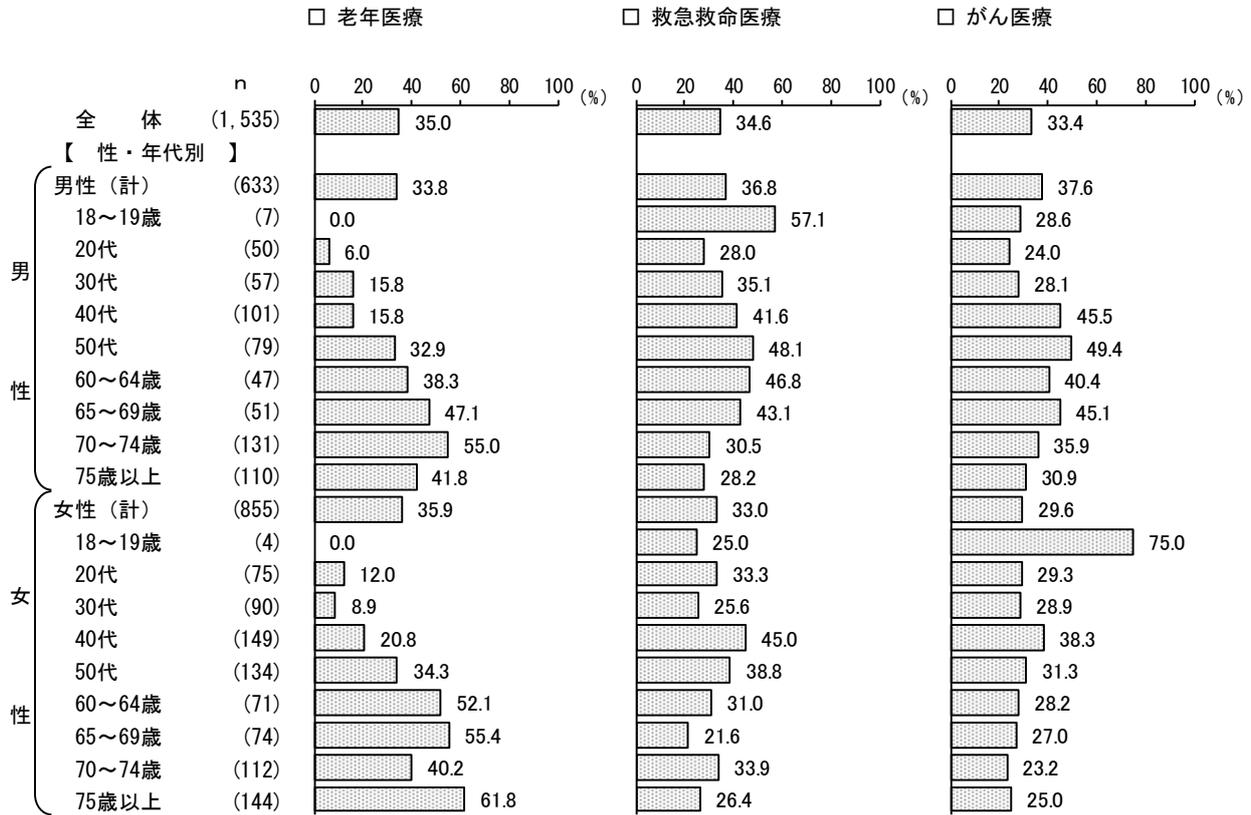
「在宅（訪問）医療」は女性の75歳以上（50.7%）と女性の65～69歳（50.0%）が5割、女性の70～74歳（46.4%）と男性の75歳以上（43.6%）が4割台半ばで高くなっている。（図表3-4）

<図表3-4> 今後、県に力を入れて欲しい医療（3つまでの複数回答）

／地域別、性・年代別（上位6項目）



第67回県政に関する世論調査（R6年度）



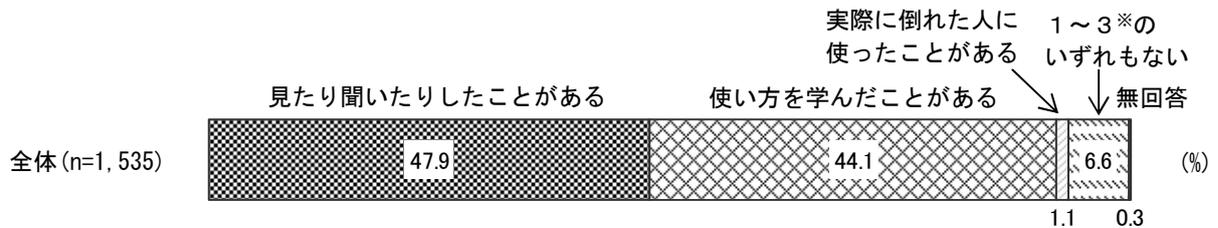
（3）AEDの認知度・利用経験

◇「見たり聞いたりしたことがある」が約5割

問22 あなたは、AED（自動体外式除細動器）※という機器について見聞きしたり、使ったことがありますか。（○は1つ）

※ AED（自動体外式除細動器）とは、心臓がけいれんし血液を流すポンプ機能を失った状態（心室細動）になった心臓に対して、電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための医療機器です。

<図表3-5> AEDの認知度・利用経験

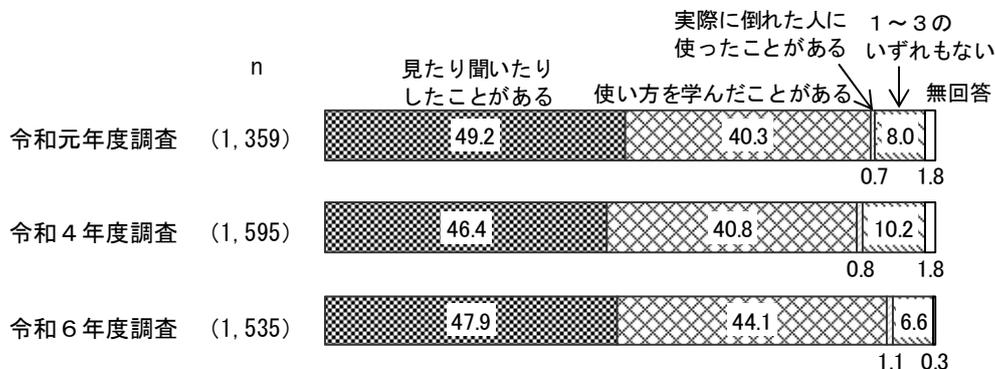


※ 1～3とは、「見たり聞いたりしたことがある」、「使い方を学んだことがある」、「実際に倒れた人に使ったことがある」を指します。

AED（自動体外式除細動器）について見聞きしたり、使ったことがあるか聞いたところ、「見たり聞いたりしたことがある」（47.9%）が約5割、「使い方を学んだことがある」（44.1%）が4割台半ばとなっている。

一方、「1～3のいずれもない」（6.6%）は1割未満となっている。（図表3-5）

〔参考〕令和元年度・4年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、「見たり聞いたりしたことがある」は“海匠地域”（66.7%）が6割台半ばで高くなっている。

また「使い方を学んだことがある」は“印旛地域”（54.4%）が5割台半ばで高くなっている。

（図表3-6）

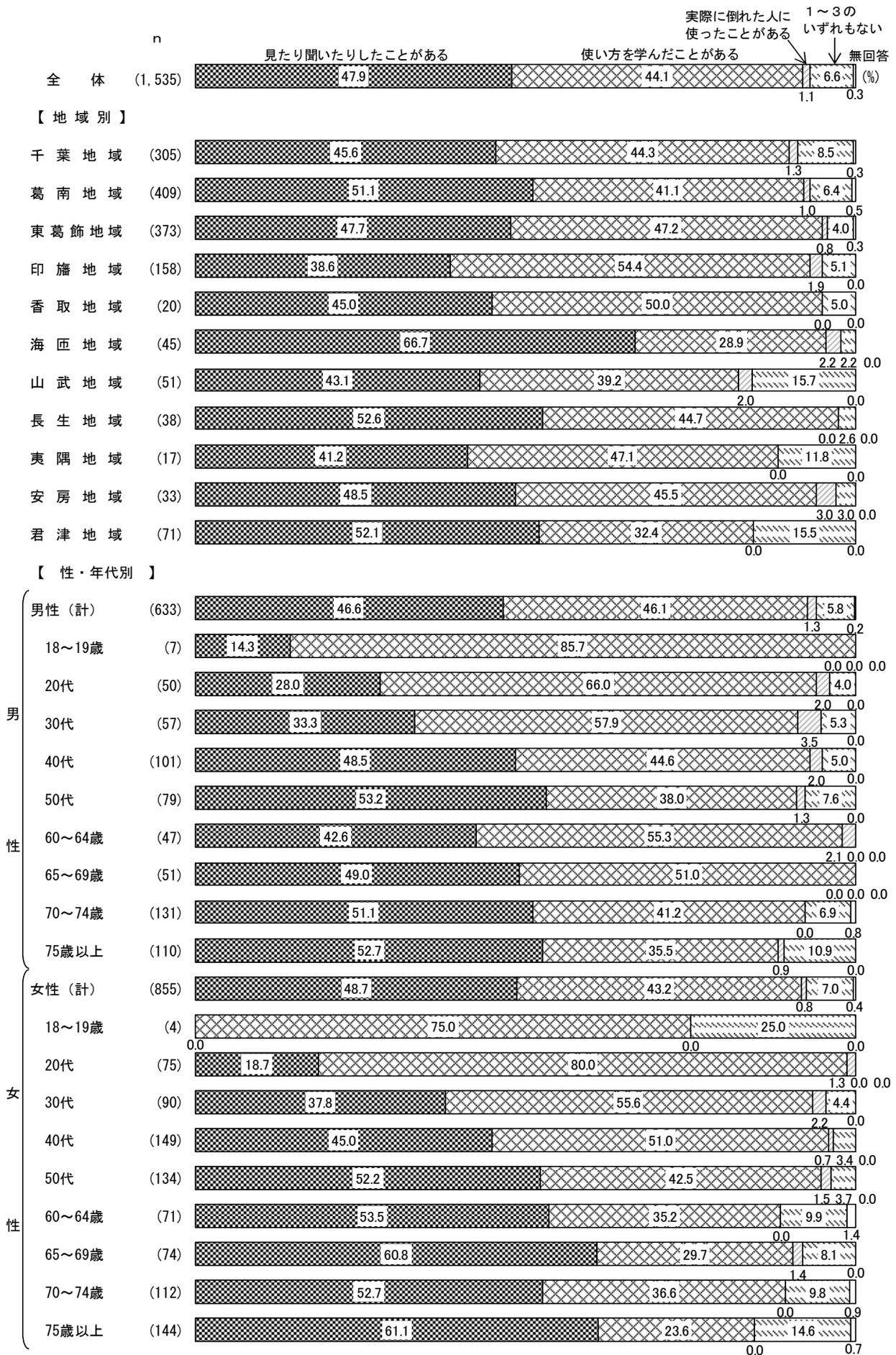
【性・年代別】

性・年代別にみると、「見たり聞いたりしたことがある」は女性の75歳以上（61.1%）が6割を超え、女性の65～69歳（60.8%）が6割で高くなっている。

また「使い方を学んだことがある」は女性の20代（80.0%）が8割、男性の20代（66.0%）が6割台半ば、男性の30代（57.9%）が約6割、女性の30代（55.6%）が5割台半ばで高くなっている。

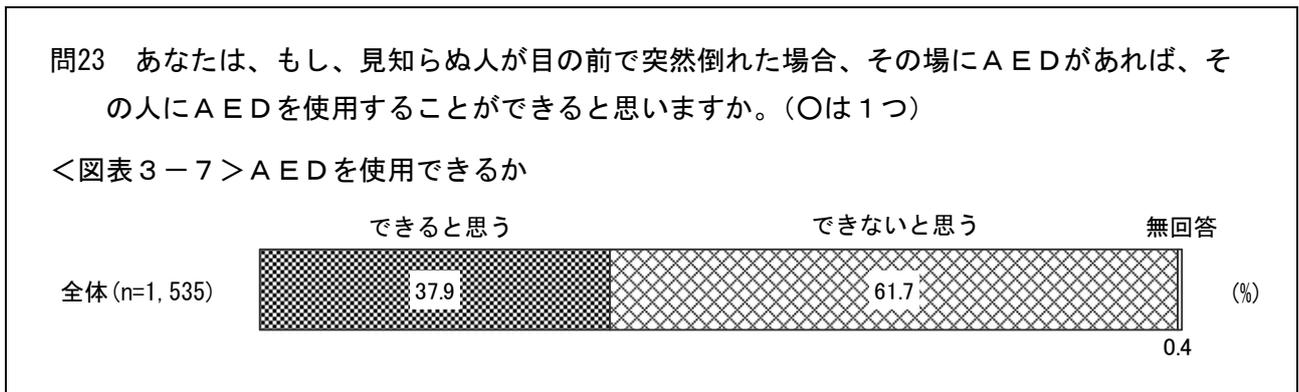
（図表3-6）

<図表3-6> AEDの認知度・利用経験／地域別、性・年代別



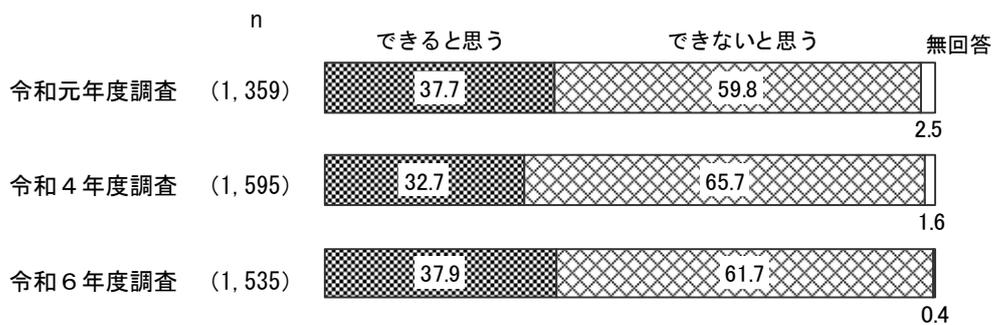
（４）AEDを使用できるか

◇「できると思う」が約4割



AEDを使用できるか聞いたところ、「できると思う」（37.9%）が約4割となっている。一方、「できないと思う」（61.7%）は6割を超えている。（図表3-7）

〔参考〕令和元年度・4年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



※令和元年度、令和4年度では「できると思う」は「できる」、「できないと思う」は「できない」で実施

【地域別】

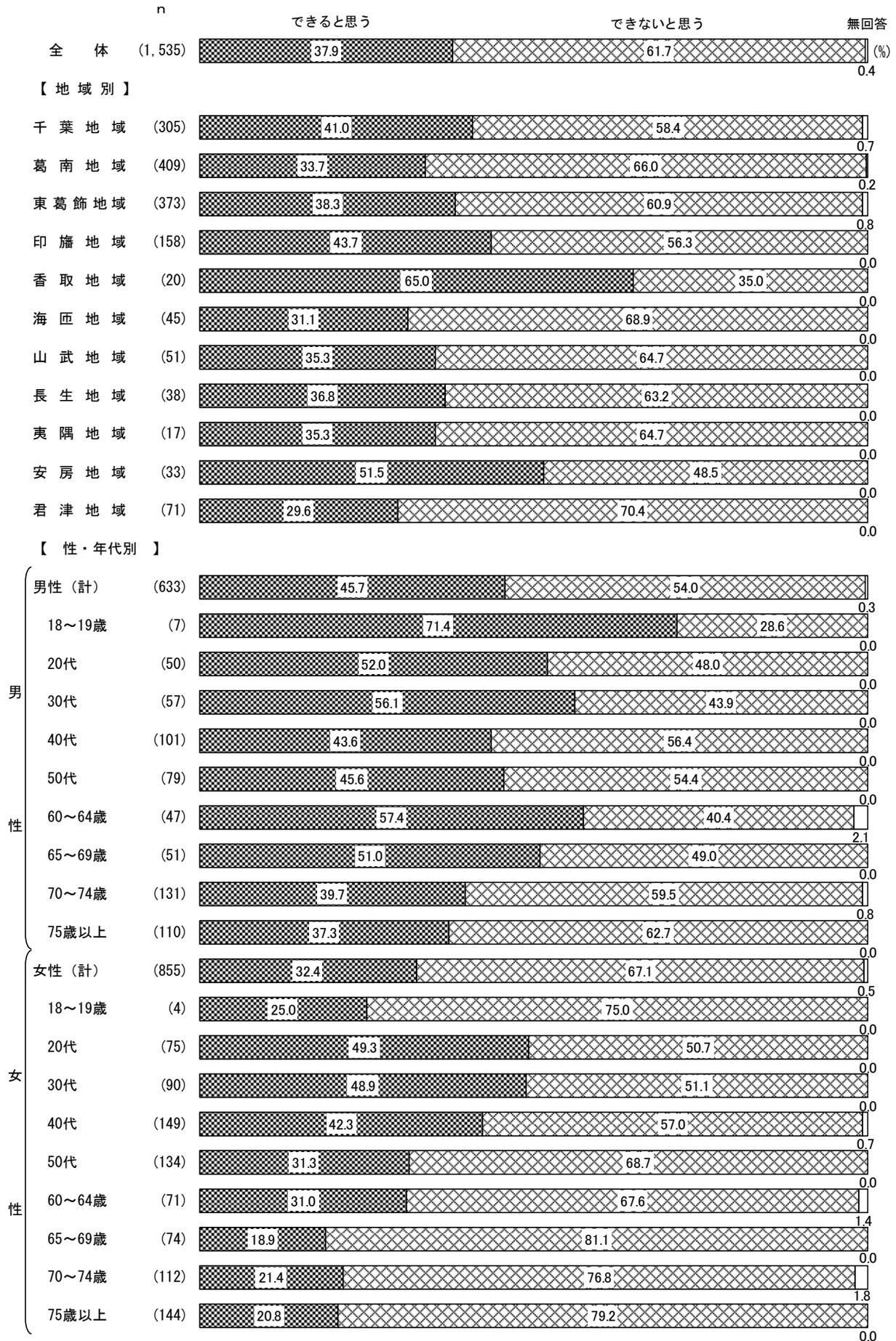
地域別にみると、「できないと思う」は“葛南地域”（66.0%）が6割台半ばで高くなっている。（図表3-8）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「できると思う」は男性の60～64歳（57.4%）が約6割、男性の30代（56.1%）が5割台半ば、男性の20代（52.0%）が5割を超え、女性の20代（49.3%）と女性の30代（48.9%）が約5割で高くなっている。

一方、「できないと思う」は女性の65～69歳（81.1%）が8割を超え、女性の75歳以上（79.2%）が約8割、女性の70～74歳（76.8%）が7割台半ばで高くなっている。（図表3-8）

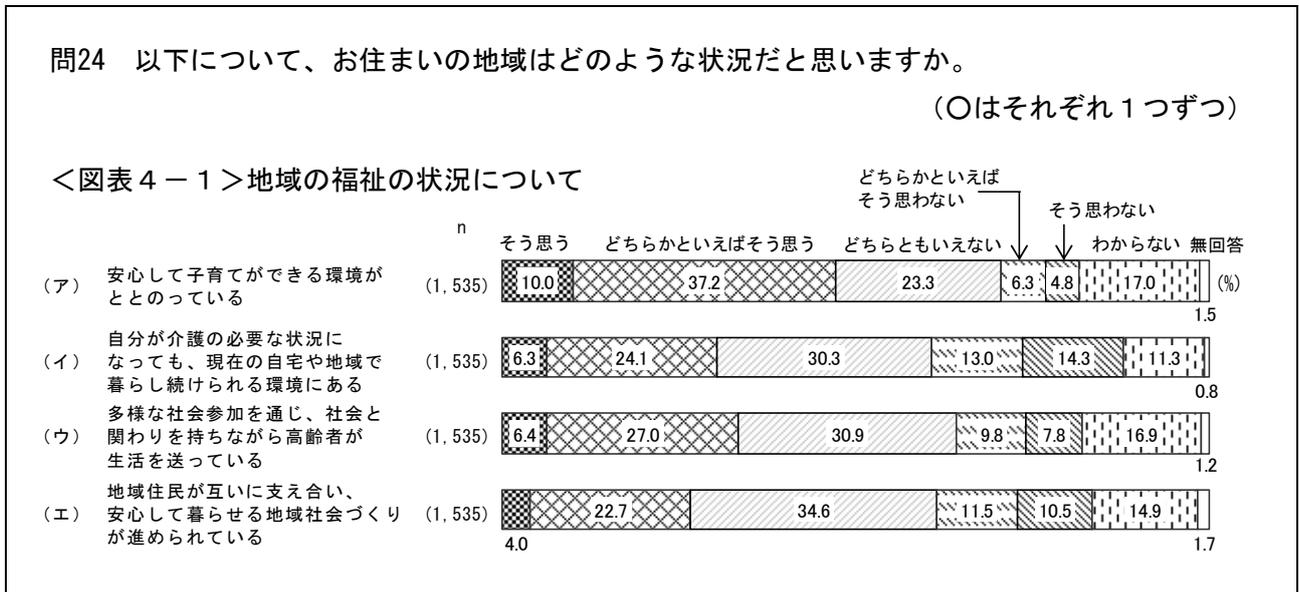
<図表3-8> AEDを使用できるか／地域別、性・年代別



4 福祉について

(1) 地域の福祉の状況について

◇『そう思う（計）』が＜安心して子育てができる環境がととのっている＞で約5割

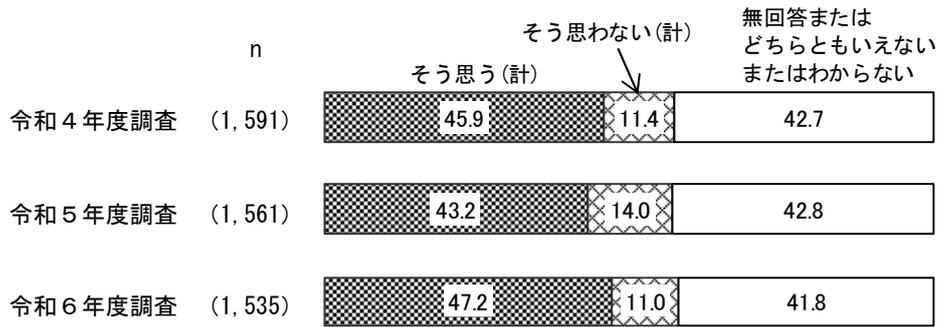


地域の福祉の状況に関する4項目について、お住まいの地域がどのような状況か聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』は、「(ア) 安心して子育てができる環境がととのっている」(47.2%)で約5割、「(ウ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」(33.4%)が3割を超え、「(イ) 自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」(30.4%)が3割となっている。

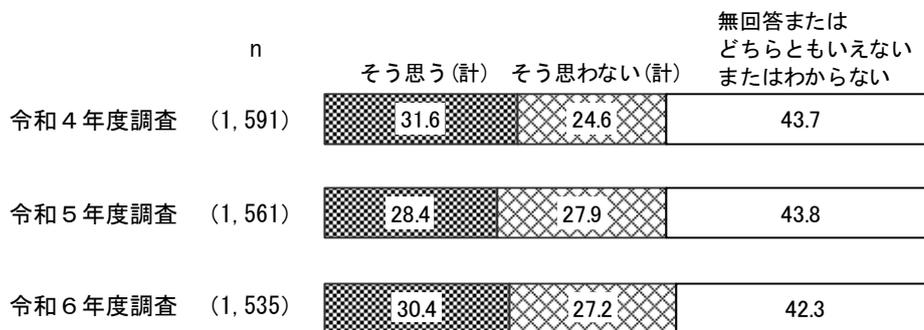
一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』は、「(イ) 自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」(27.2%)で約3割となっており、「(エ) 地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められている」(22.0%)が2割を超え、「(ウ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」(17.7%)が約2割となっている。(図表4-1)

〔参考〕令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

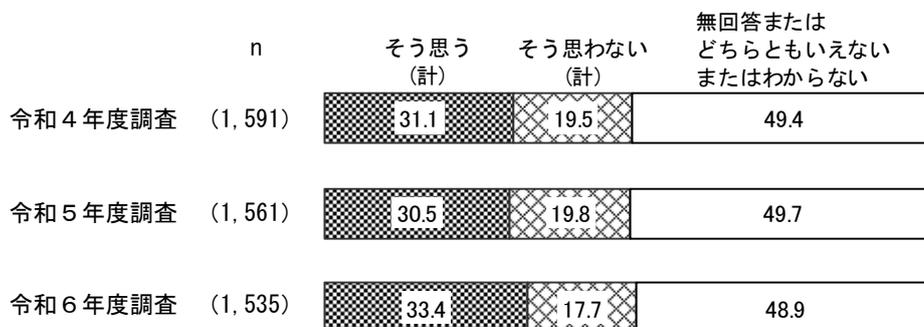
安心して子育てができる環境がととのっている



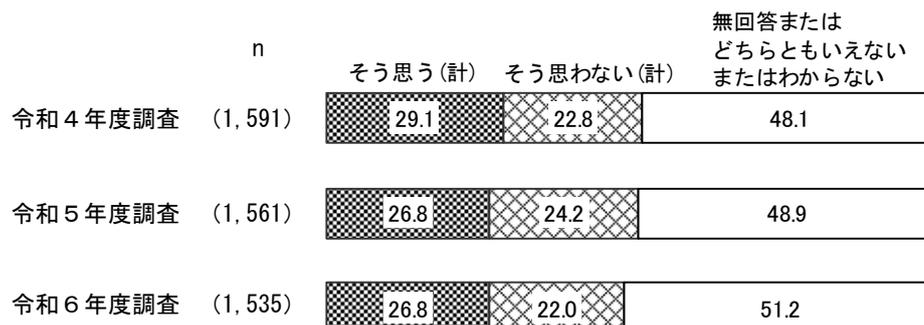
自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある



多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている



地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められている



【地域別】

地域別にみると、「(ア) 安心して子育てができる環境がととのっている」の『そう思わない(計)』は“長生地域”(23.7%)と“山武地域”(23.5%)が2割台半ば、“海匝地域”(22.2%)が2割を超えて高くなっている。

「(イ) 自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」の『そう思わない(計)』は“長生地域”(50.0%)が5割、“山武地域”(47.1%)が約5割で高くなっている。

「(ウ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」の『そう思わない(計)』は“山武地域”(29.4%)が約3割で高くなっている。

「(エ) 地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められている」の『そう思わない(計)』は“山武地域”(35.3%)と“君津地域”(35.2%)が3割台半ばで高くなっている。(図表4-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 安心して子育てができる環境がととのっている」の『そう思う(計)』は女性の50代(56.7%)が5割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は女性の40代(16.1%)が1割台半ばで高くなっている。

「(イ) 自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」の『そう思う(計)』は女性の70～74歳(44.6%)が4割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は男性の30代(40.4%)が4割、女性の40代(36.9%)が3割台半ばで高くなっている。

「(ウ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」の『そう思う(計)』は女性の70～74歳(47.3%)が約5割で高くなっている。

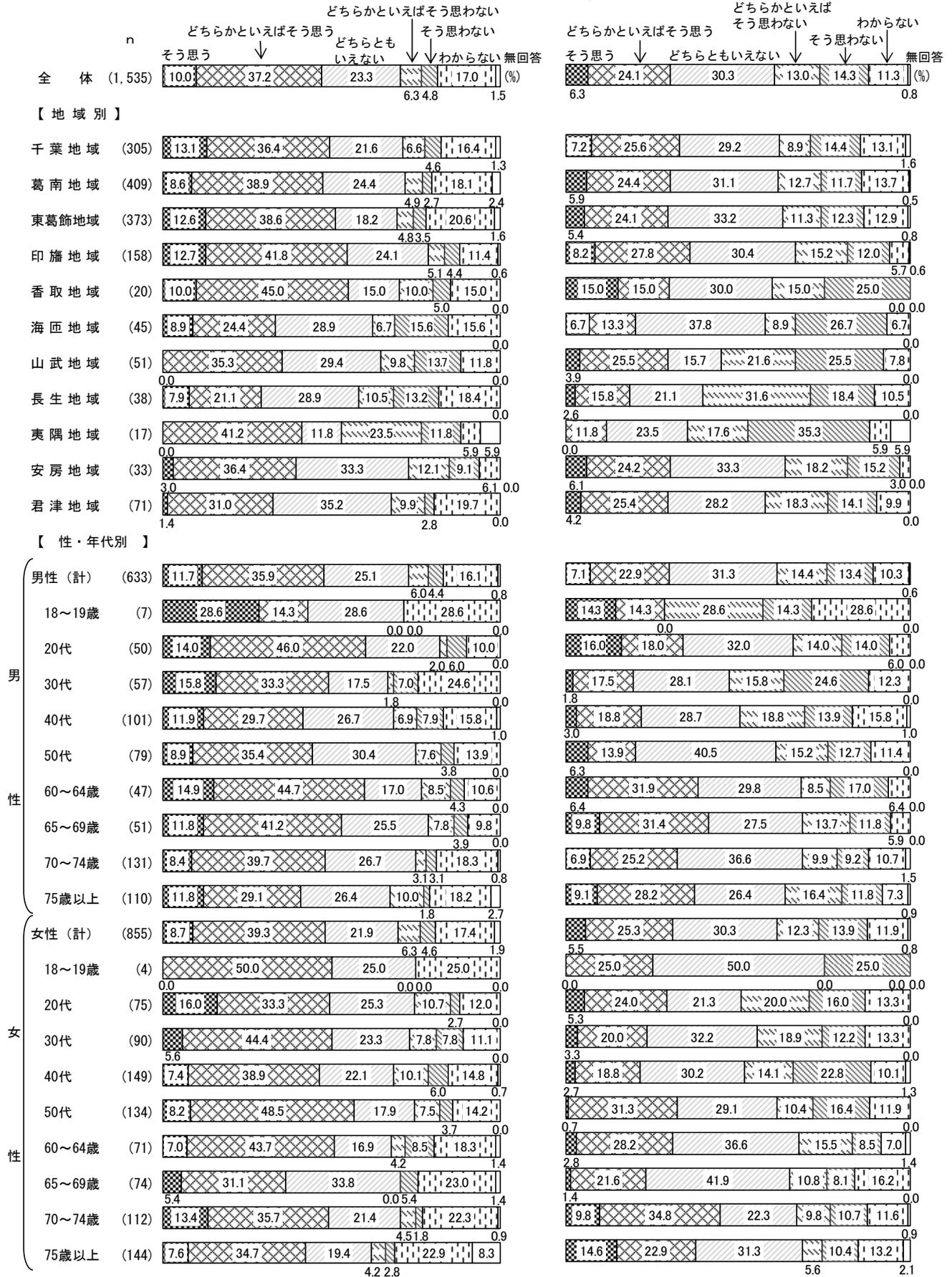
「(エ) 地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められている」の『そう思う(計)』は男性の20代(42.0%)が4割を超え、男性の30代(38.6%)が約4割で高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は男性の40代(30.7%)が3割で高くなっている。(図表4-2)

＜図表4-2＞地域の福祉の状況について／地域別、性・年代別

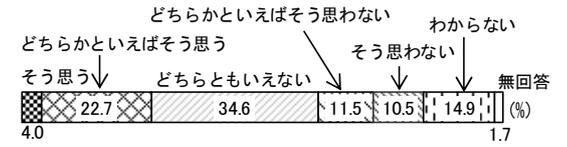
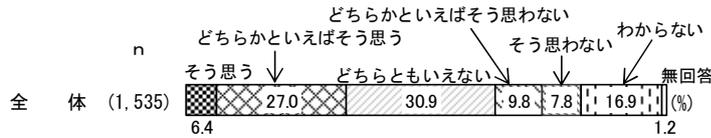
(ア) 安心して子育てができる環境がととのっている

(イ) 自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある

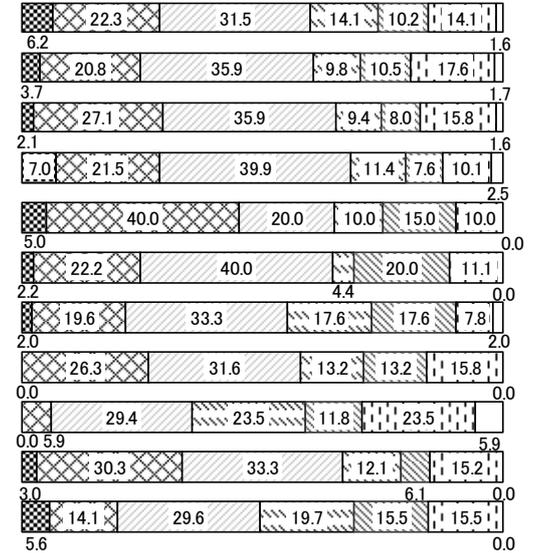
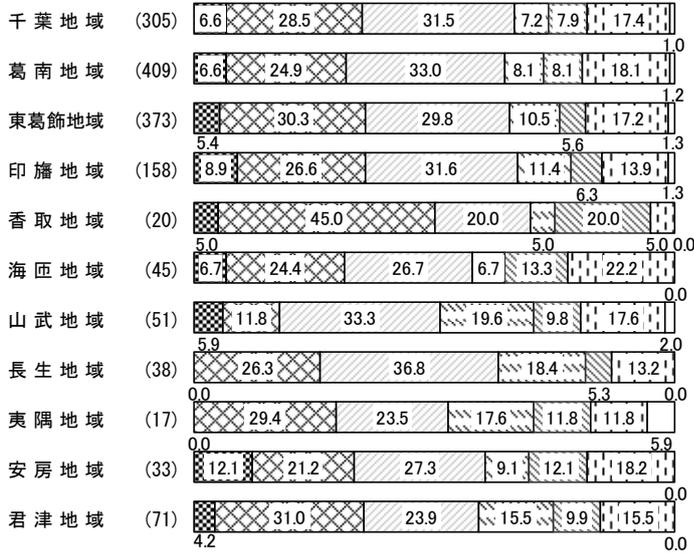


(ウ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている

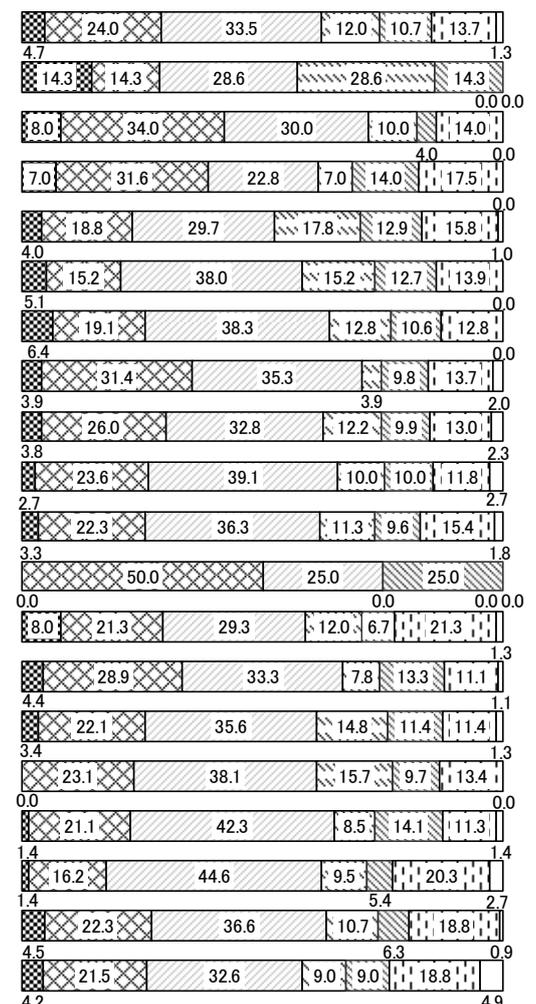
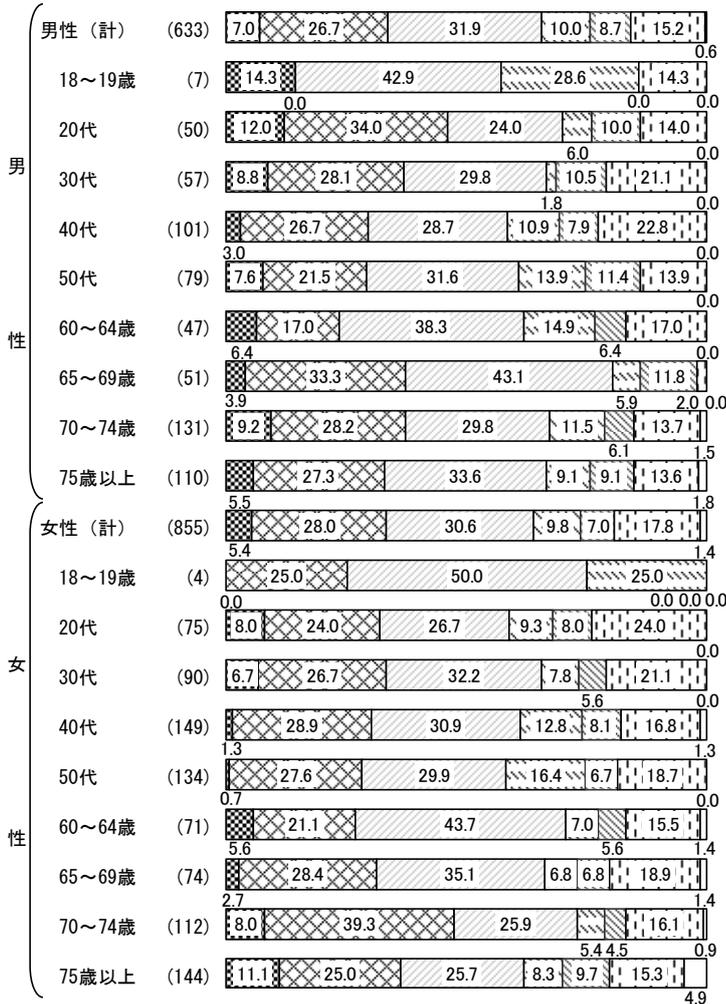
(エ) 地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められている



【地域別】

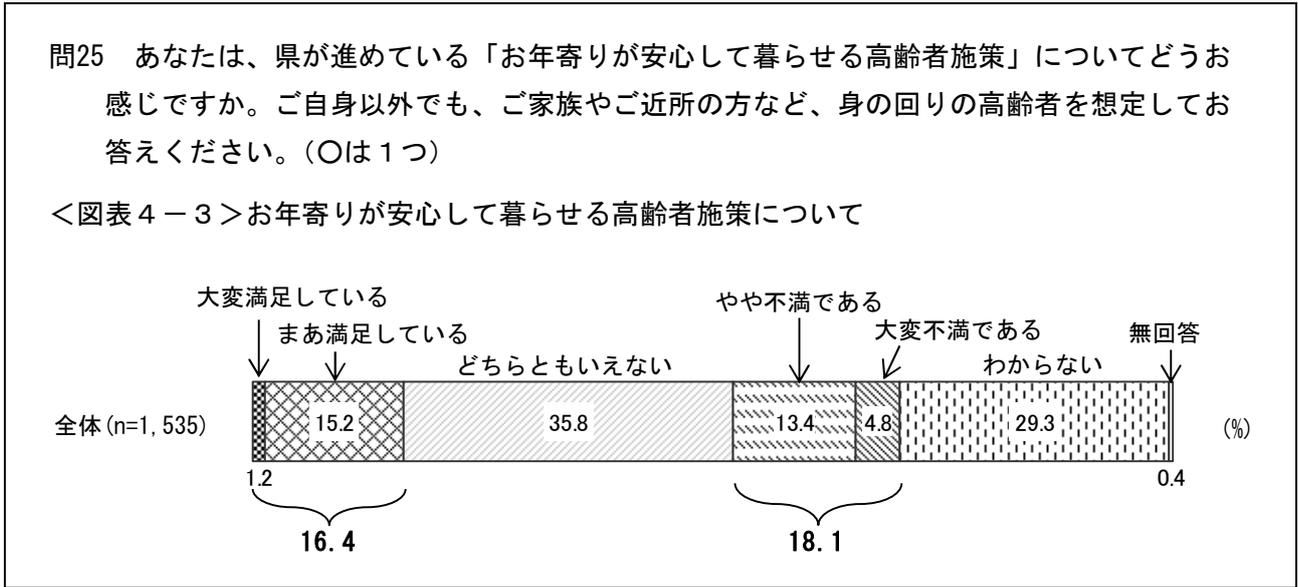


【性・年代別】



（2）お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策について

◇『満足している（計）』が1割台半ば

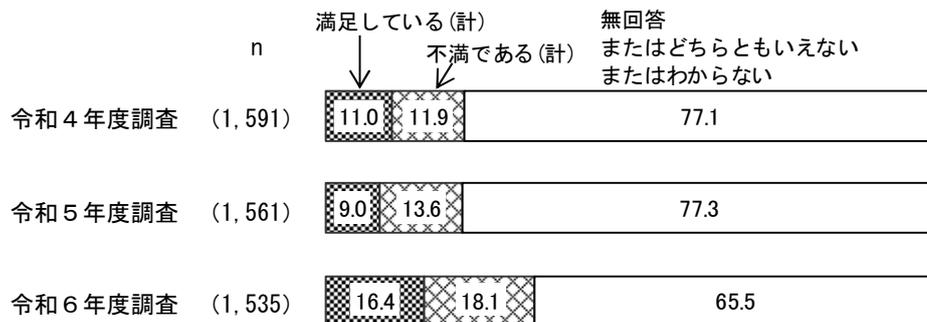


県が進めている「お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策」について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(1.2%)と「まあ満足している」(15.2%)を合わせた『満足している(計)』(16.4%)が1割台半ばとなっている。

一方、「やや不満である」(13.4%)と「大変不満である」(4.8%)を合わせた『不満である(計)』(18.1%)が約2割となっている。

また、「どちらともいえない」(35.8%)が3割台半ばとなっている。(図表4-3)

〔参考〕令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



※設問文の「ご自身以外でも、ご家族やご近所の方など、身の回り的高齢者を想定してお答えください。」は、令和6年度調査で追加

【地域別】

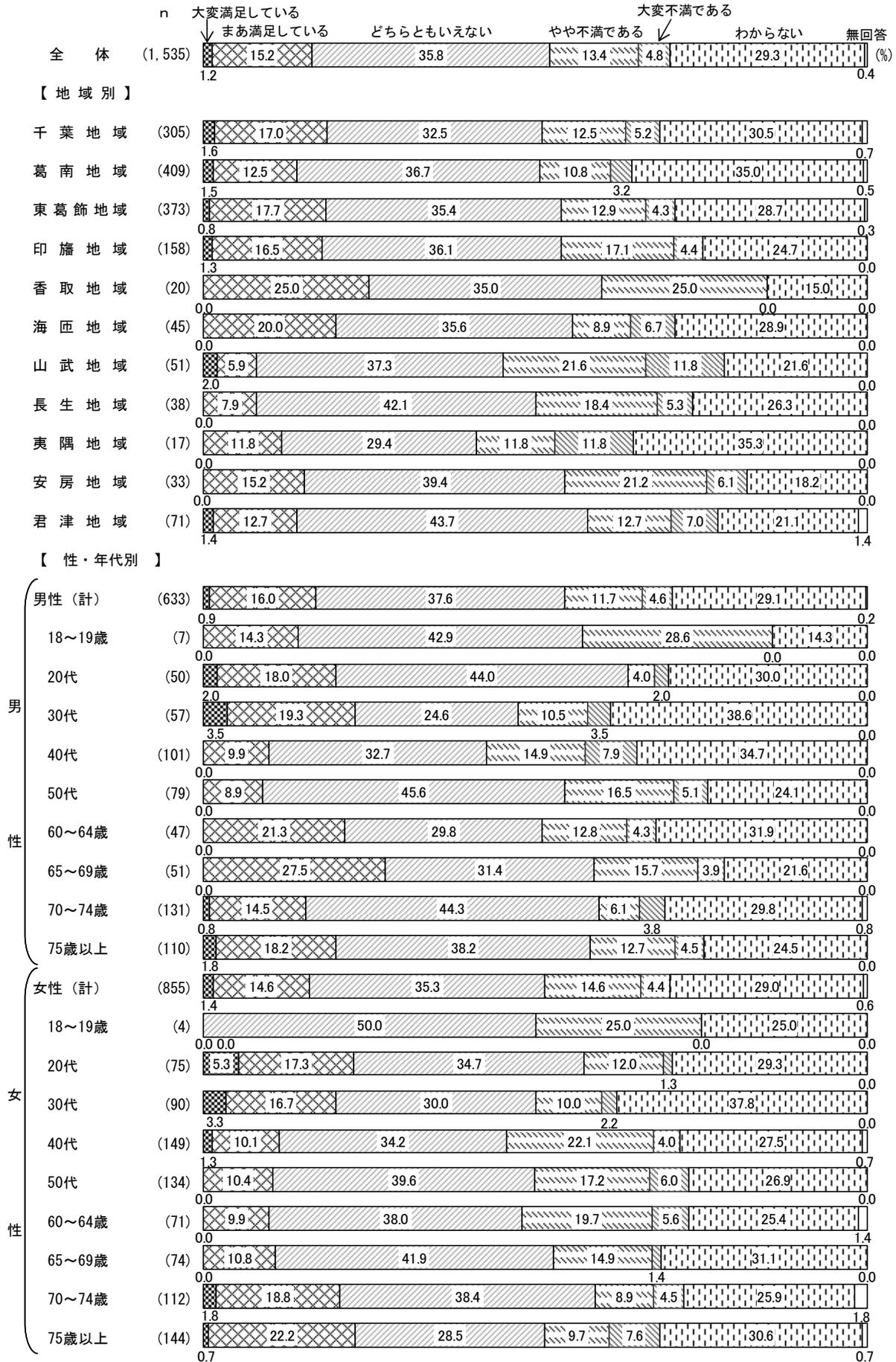
地域別にみると、『不満である(計)』は“山武地域”(33.3%)が3割を超えて高くなっている。(図表4-4)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『満足している(計)』は男性の65~69歳(27.5%)が約3割、女性の75歳以上(22.9%)が2割を超えて高くなっている。

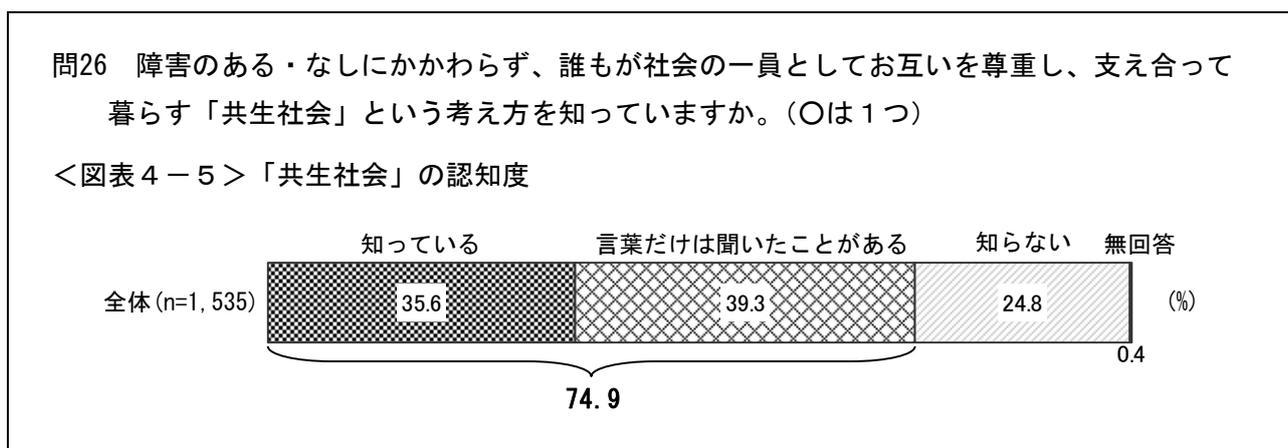
一方、『不満である(計)』は女性の40代(26.2%)が2割台半ばで高くなっている。(図表4-4)

<図表4-4>お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策について／地域別、性・年代別



（3）「共生社会」の認知度

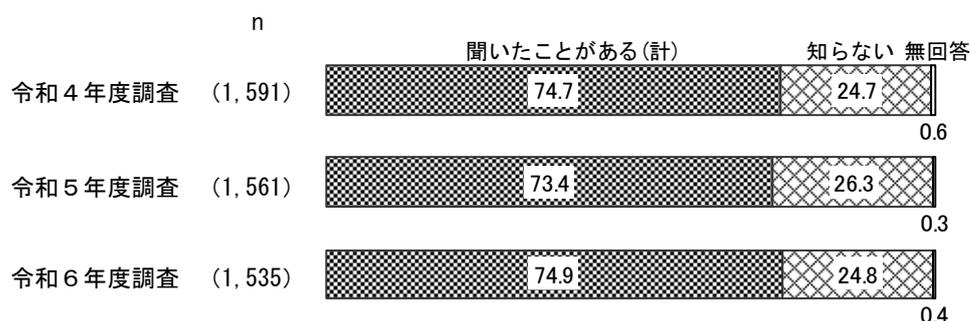
◇『聞いたことがある（計）』が7割台半ば



「共生社会」という考え方を知っているか聞いたところ、「知っている」(35.6%)と「言葉だけは聞いたことがある」(39.3%)を合わせた『聞いたことがある(計)』(74.9%)が7割台半ばとなっている。

一方、「知らない」(24.8%)が2割台半ばとなっている。(図表4-5)

【参考】令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、『聞いたことがある(計)』は“東葛飾地域”(79.4%)が約8割で高くなっている。

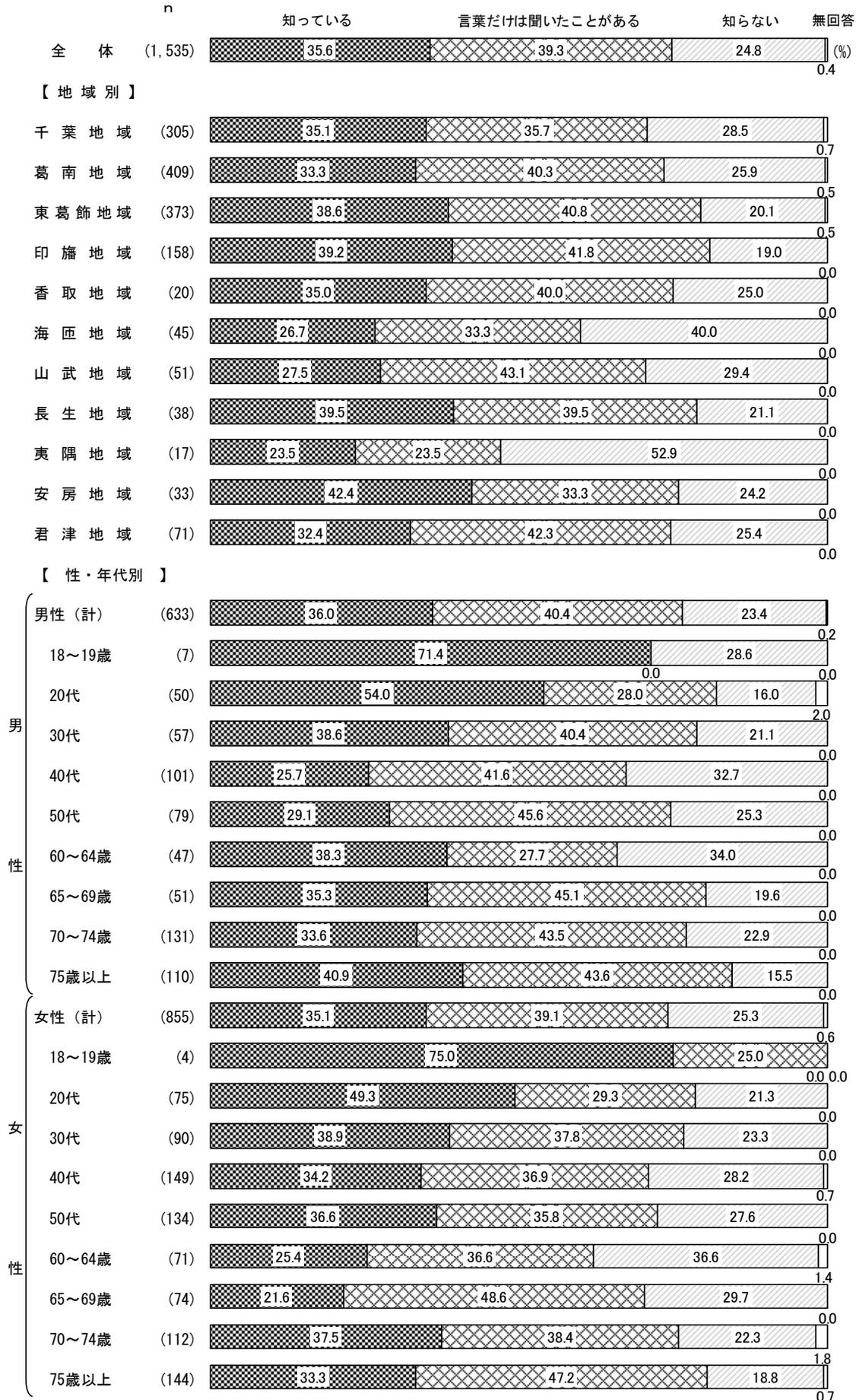
一方、「知らない」は“海匝地域”(40.0%)が4割で高くなっている。(図表4-6)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『聞いたことがある(計)』は男性の75歳以上(84.5%)が8割台半ばで高くなっている。

一方、「知らない」は女性の60～64歳(36.6%)が3割台半ばで高くなっている。(図表4-6)

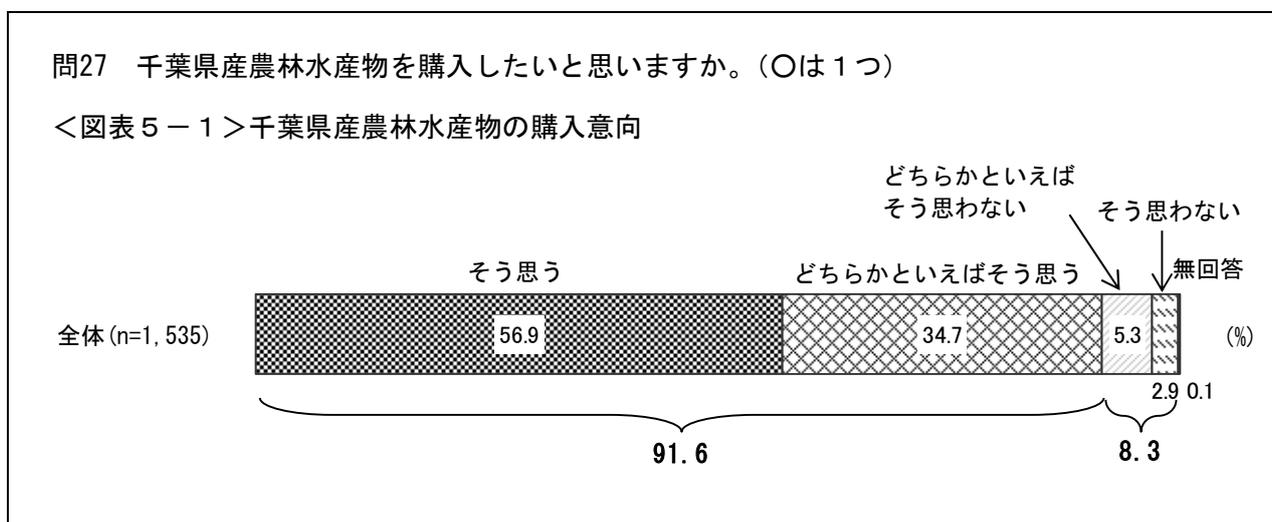
<図表4-6> 「共生社会」の認知度／地域別、性・年代別



5 県の農林水産物について

（1）千葉県産農林水産物の購入意向

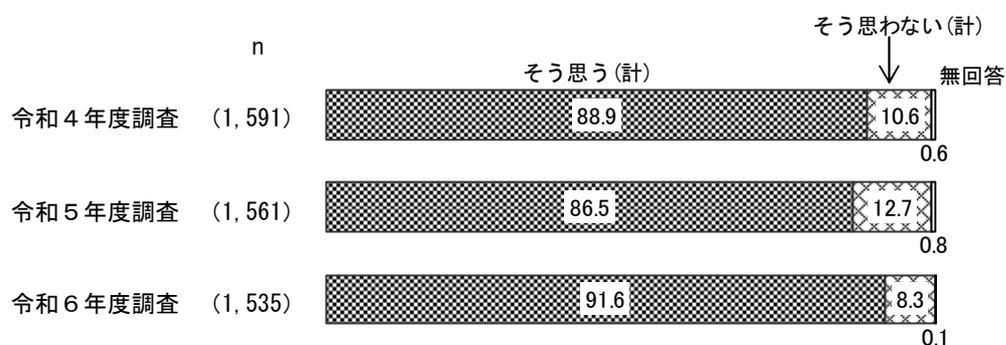
◇『そう思う（計）』が9割を超える



千葉県産農林水産物を購入したいと思いますか聞いたところ、「そう思う」（56.9%）と「どちらかといえばそう思う」（34.7%）を合わせた『そう思う（計）』（91.6%）が9割を超えている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（5.3%）と「そう思わない」（2.9%）を合わせた『そう思わない（計）』（8.3%）は約1割となっている。（図表5-1）

【参考】令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

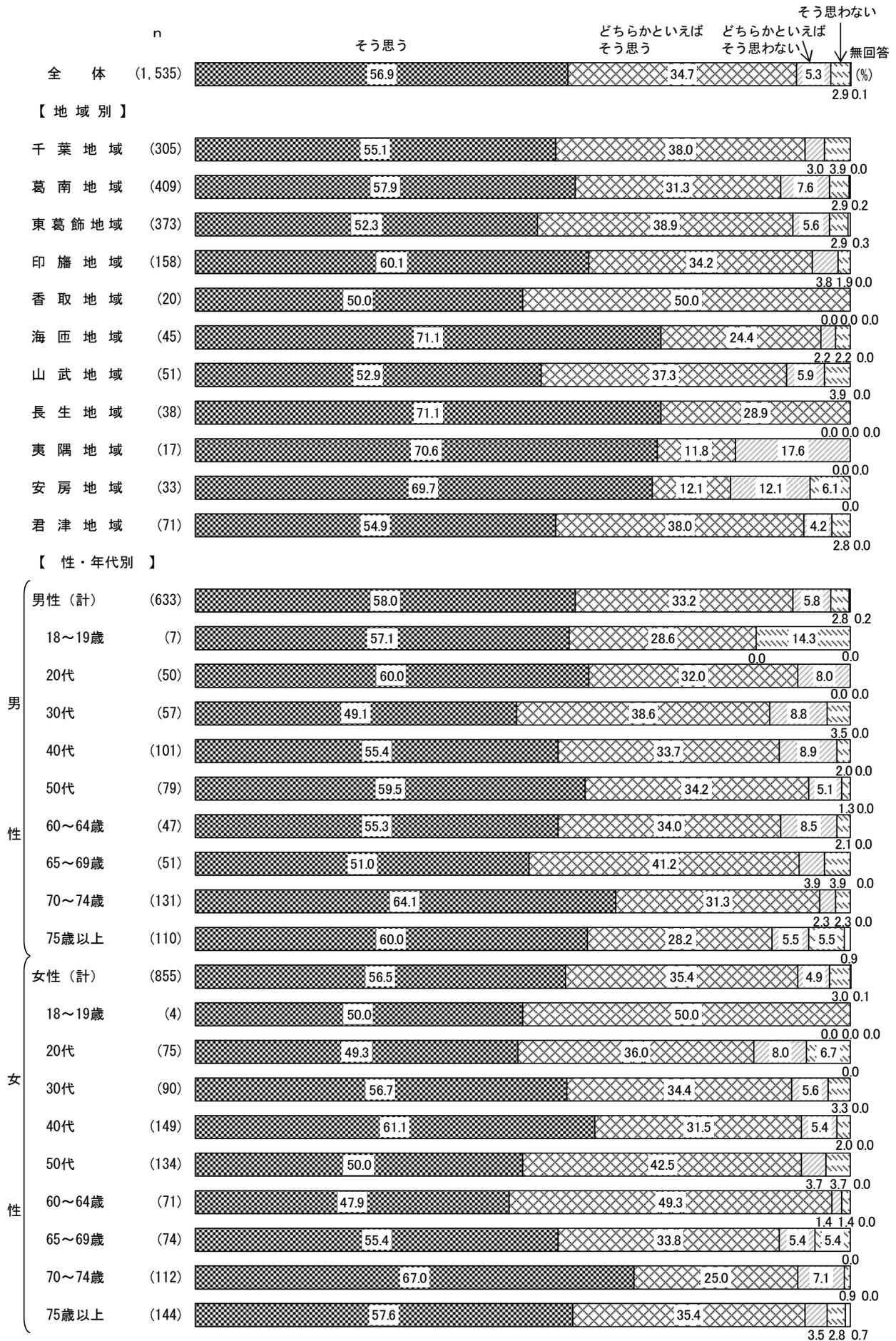
地域別にみると、『そう思わない（計）』は“安房地域”（18.2%）が約2割で高くなっている。

（図表5-2）

【性・年代別】

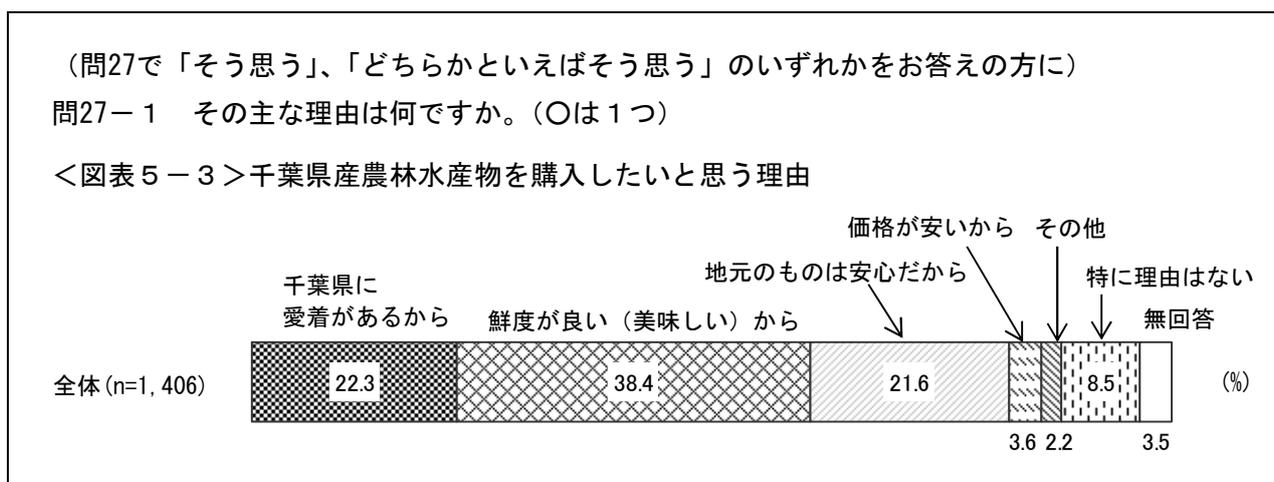
性・年代別にみると、『そう思わない（計）』は女性の20代（14.7%）が1割台半ばで高くなっている。（図表5-2）

<図表5-2>千葉県産農林水産物の購入意向／地域別、性・年代別



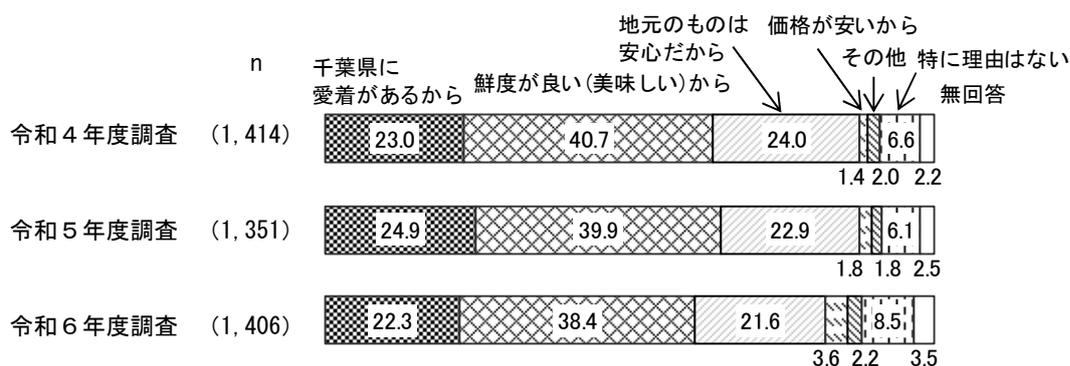
（1-1）千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由

◇「鮮度が良い（美味しい）から」が約4割



千葉県産農林水産物を購入したいと回答した1,406人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「鮮度が良い（美味しい）から」（38.4%）が約4割で最も高く、以下、「千葉県に愛着があるから」（22.3%）、「地元のものは安心だから」（21.6%）が続く。（図表5-3）

【参考】令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、「鮮度が良い（美味しい）から」は“長生地域”（55.3%）が5割台半ばで高くなっている。

「千葉県に愛着があるから」は“千葉地域”（26.8%）が2割台半ばで高くなっている。

（図表5-4）

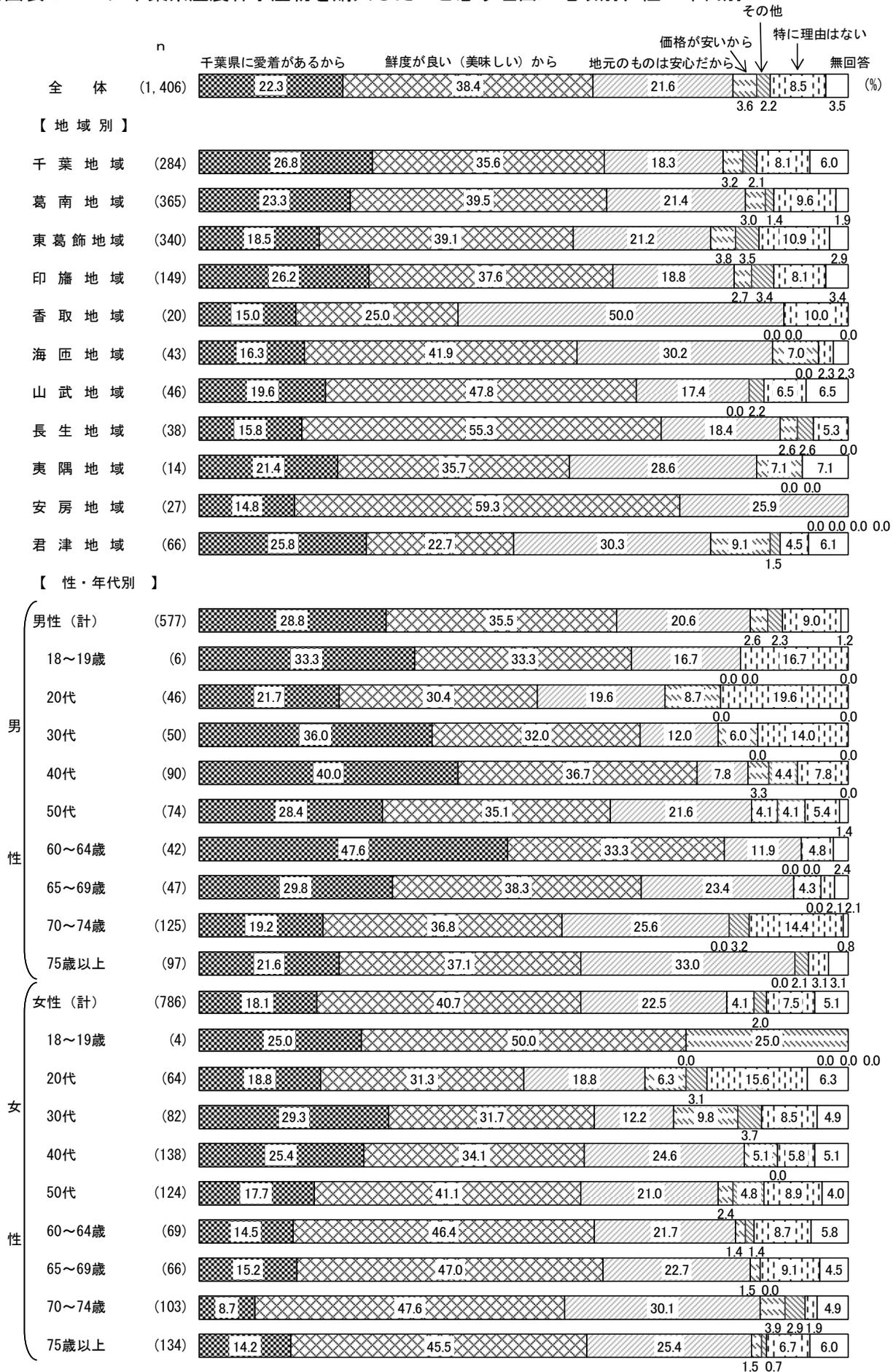
【性・年代別】

性・年代別にみると、「鮮度が良い（美味しい）から」は女性の70～74歳（47.6%）が約5割で高くなっている。

「千葉県に愛着があるから」は男性の60～64歳（47.6%）が約5割、男性の40代（40.0%）が4割、男性の30代（36.0%）が3割台半ばで高くなっている。

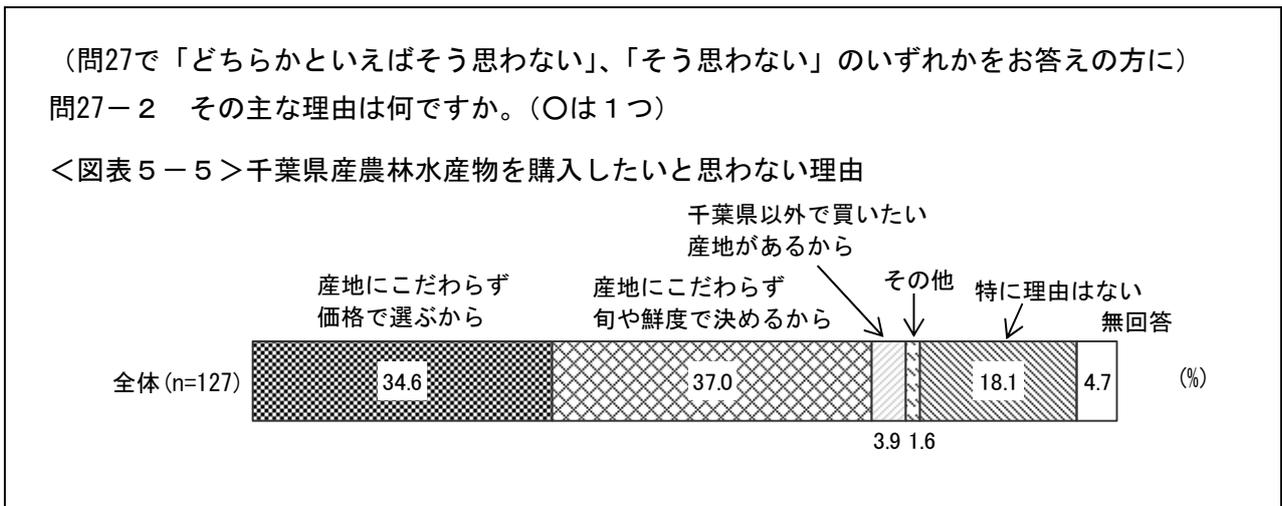
「地元のものは安心だから」は男性の75歳以上（33.0%）が3割を超え、女性の70～74歳（30.1%）が3割で高くなっている。（図表5-4）

<図表5-4>千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由／地域別、性・年代別



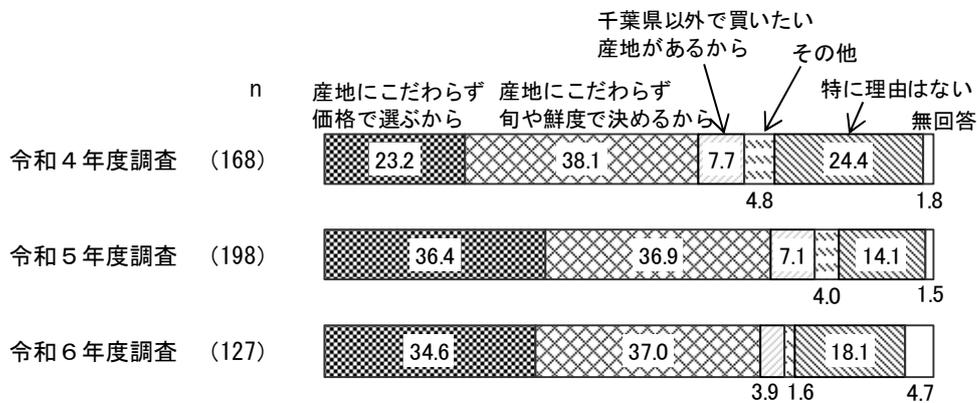
（1-2）千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由

◇「産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから」が約4割



千葉県産農林水産物を購入したいと思わないと回答した127人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから」（37.0%）が約4割で最も高く、以下、「産地にこだわらず価格で選ぶから」（34.6%）、「千葉県以外で買いたい産地があるから」（3.9%）が続く。一方、「特に理由はない」（18.1%）が約2割となっている。（図表5-5）

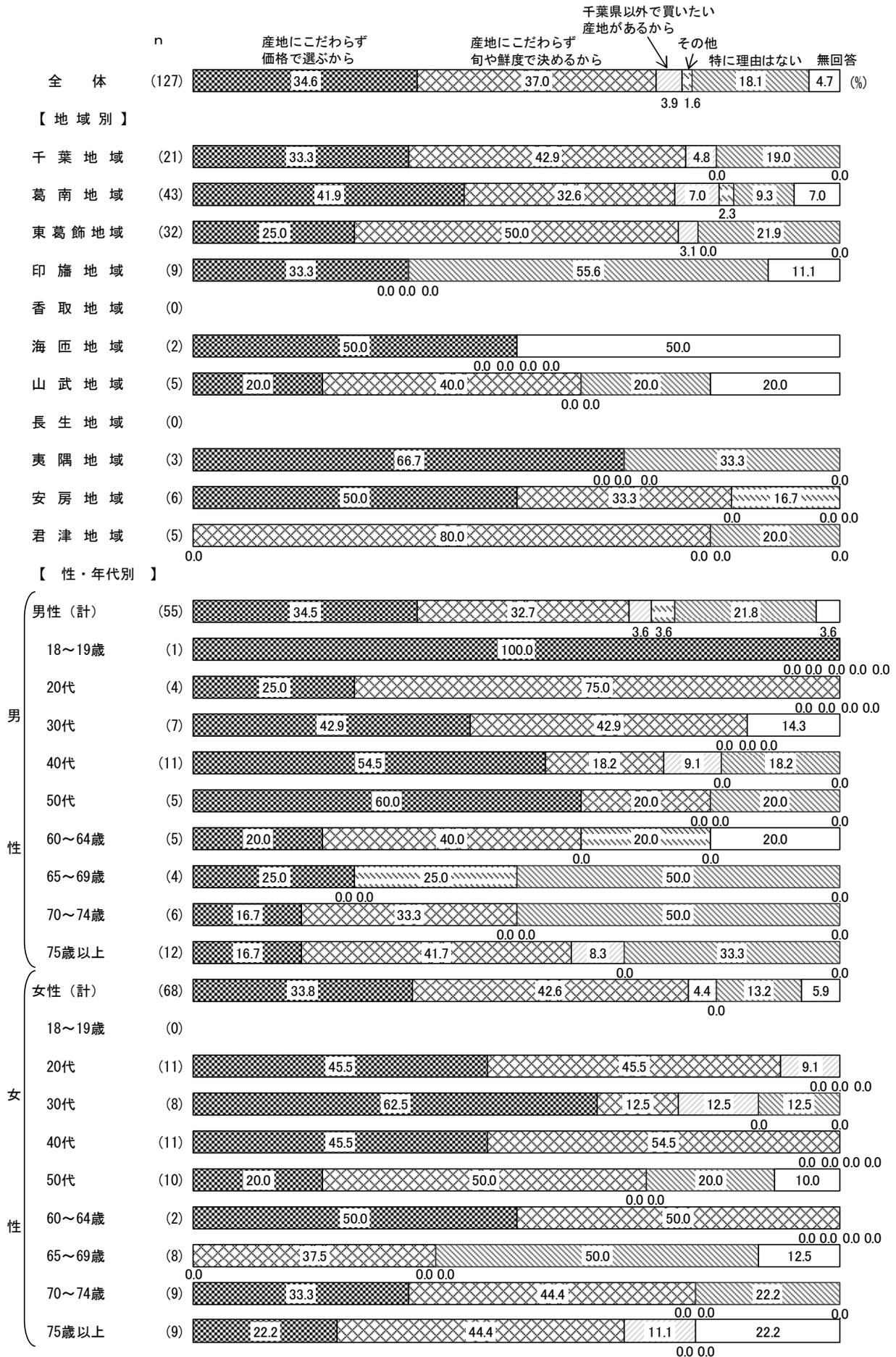
〔参考〕令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

（8ページ「報告書の見方（5）」を参照）（図表5-6）

[参考] <図表5-6> 千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由／地域別、性・年代別



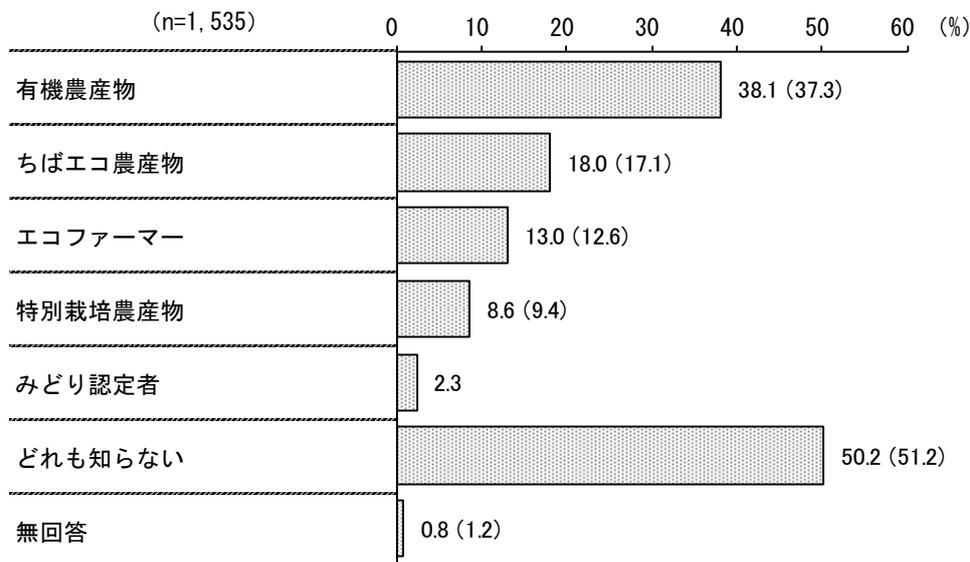
（2）環境にやさしい農産物や制度の認知度

◇「有機農産物」が約4割

問28 千葉県では、農薬や化学肥料をできるだけ減らすなど、「環境にやさしい農業に取り組む農業者」や「環境にやさしい農産物」についての認証制度を設けています。次の農産物や制度を知っていますか。（○はいくつでも）

- ※「有機農産物」：「有機農産物の日本農林規格」に基づき生産された農産物。化学肥料・化学合成農薬を使用しないこと、遺伝子組換え技術を利用しないことなどを基本として生産されたことを国の登録認証機関が認証する
- 「ちばエコ農産物」：県の基準に基づき化学肥料・化学合成農薬の使用を通常の5割以下で栽培し、県が認証した農産物
- 「エコファーマー」：「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律」に基づき、たい肥等による土づくり、化学肥料・化学合成農薬の使用低減技術に取り組む栽培計画を立て、県が認定した農業者
- 「特別栽培農産物」：国のガイドラインに基づき化学肥料・化学合成農薬の使用を通常の5割以下に減らして栽培し、生産者が定める責任者が確認した農産物
- 「みどり認定者」：「環境と調和のとれた食料システムの環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律」に基づき、土づくり、化学肥料・化学合成農薬の使用低減など、農業に由来する環境負荷の低減を図るための実施計画を立て、これを県が認定した農業者

<図表5-7>環境にやさしい農産物や制度の認知度（複数回答）



注) () の数字は令和5年度の同様の項目による調査結果 n=1,561

農薬や化学肥料の使用量の低減などに取り組む農業者・農産物や認証する制度を聞いたことがあるか聞いたところ、「有機農産物」(38.1%)が約4割で最も高く、以下、「ちばエコ農産物」(18.0%)、「エコファーマー」(13.0%)、「特別栽培農産物」(8.6%)が続く。(図表5-7)

【地域別】

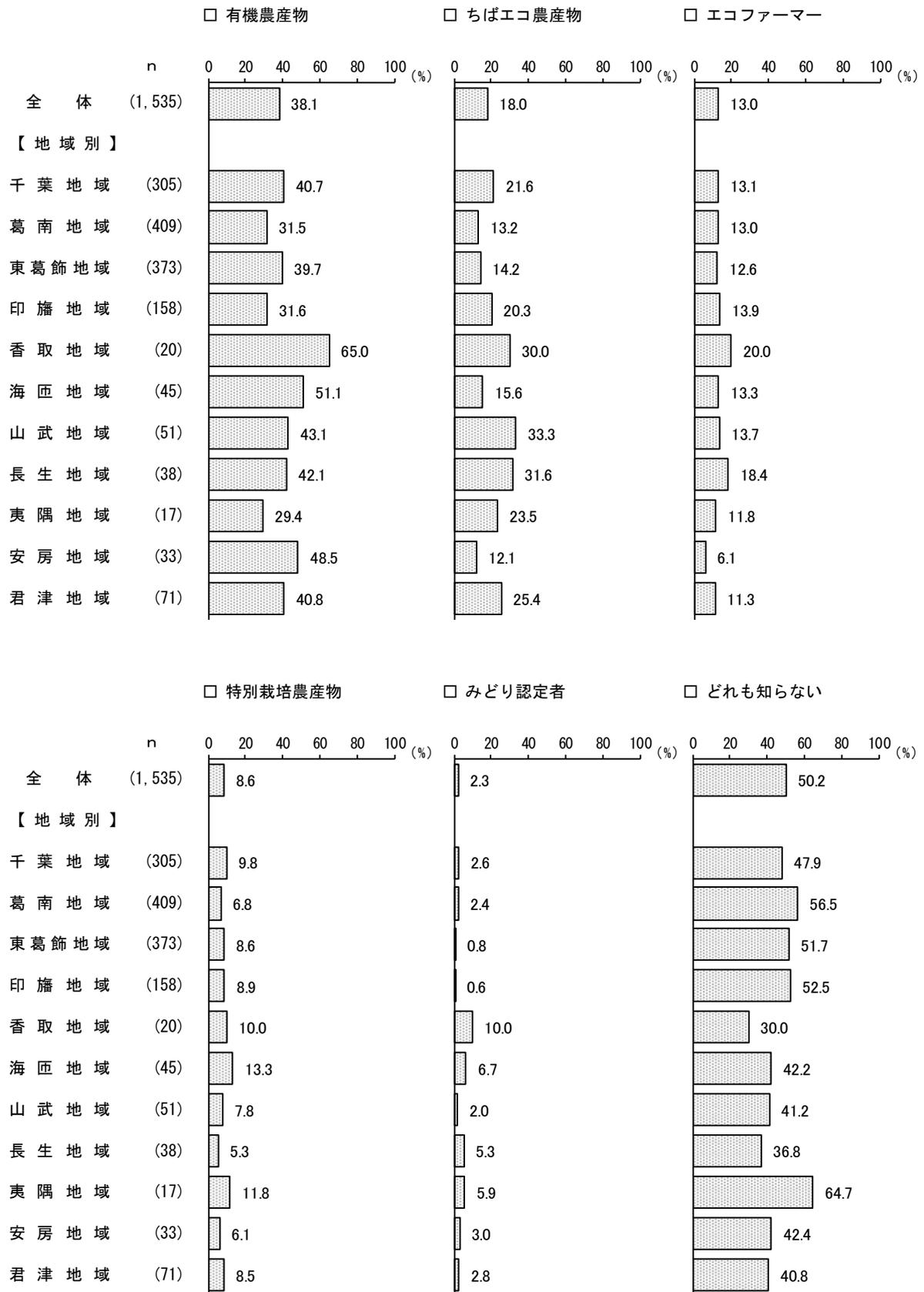
地域別にみると、「ちばエコ農産物」は“山武地域”(33.3%)と“長生地域”(31.6%)が3割を超えて高くなっている。(図表5-8)

【性・年代別】

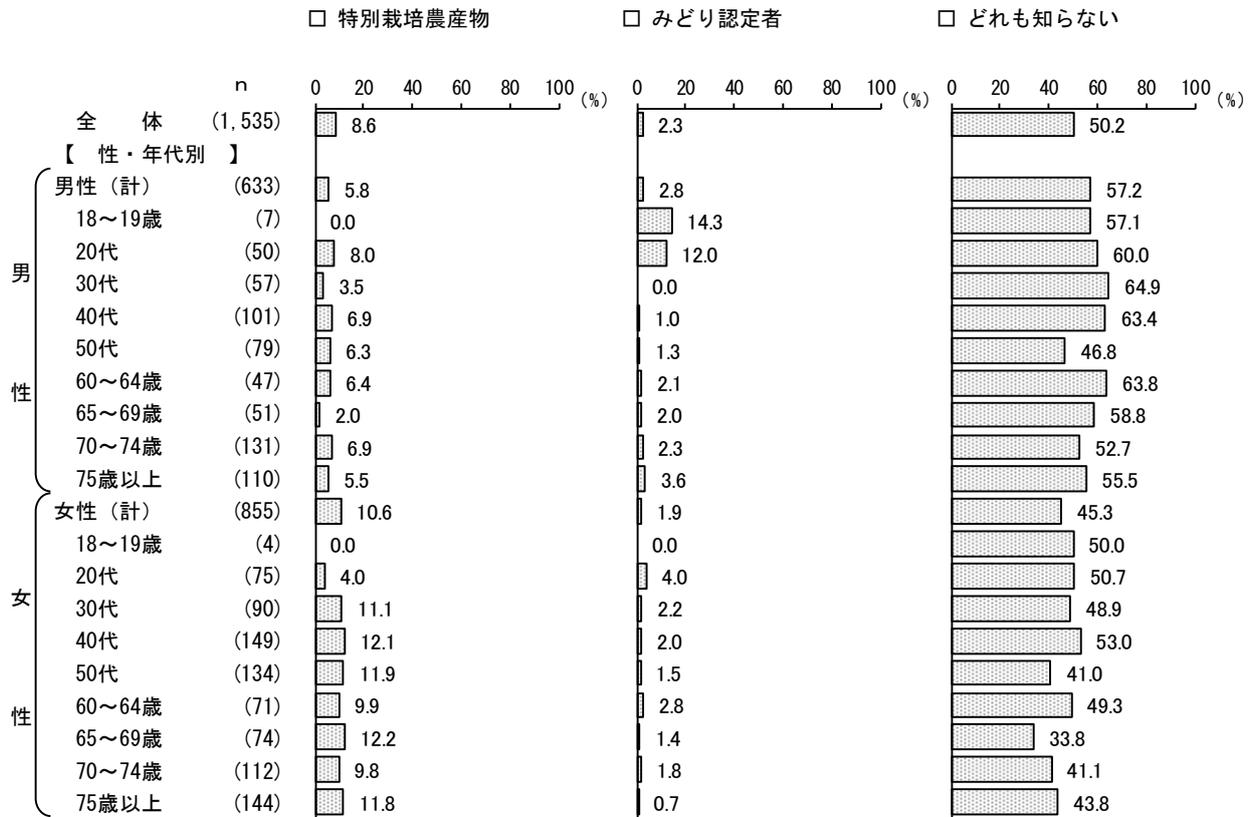
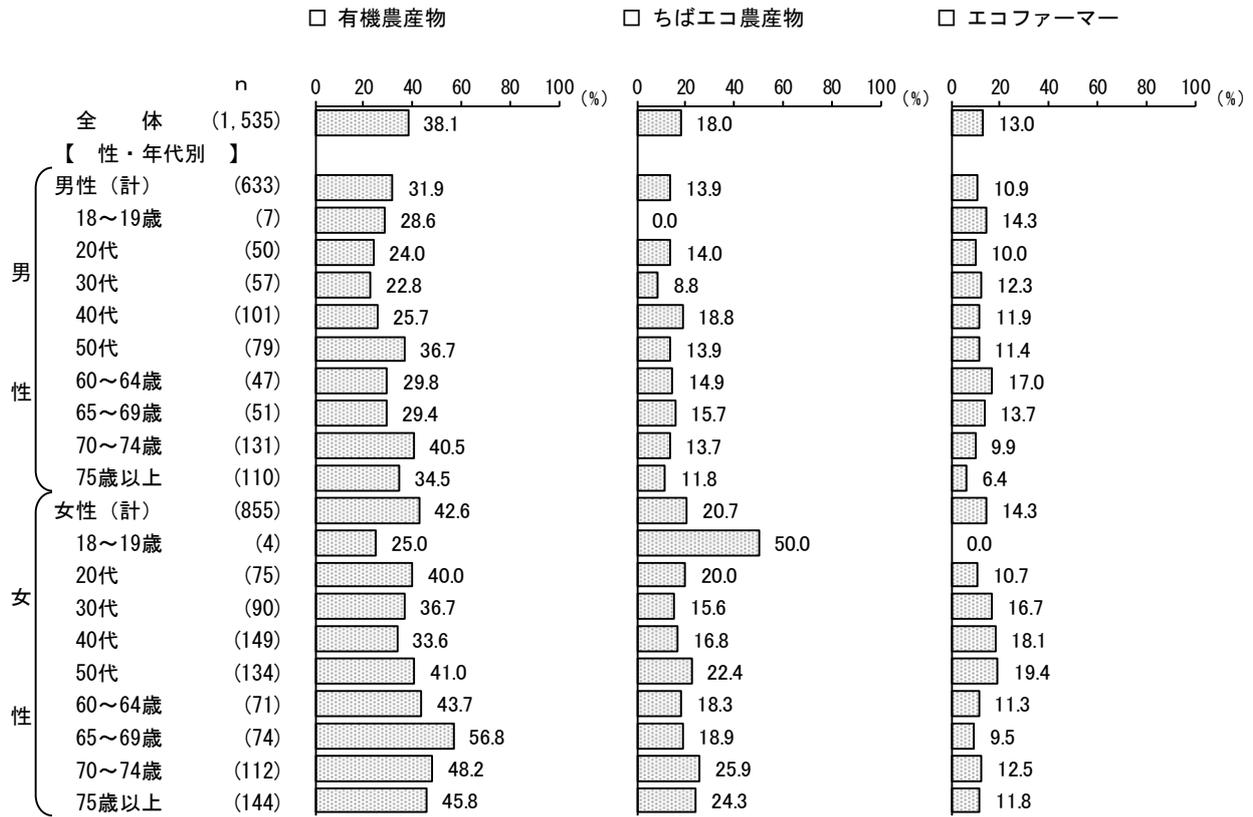
性・年代別にみると、「有機農産物」は女性の65～69歳(56.8%)が5割台半ば、女性の70～74歳(48.2%)が約5割、女性の75歳以上(45.8%)が4割台半ばで高くなっている。

「ちばエコ農産物」は女性の70～74歳（25.9%）と女性の75歳以上（24.3%）が2割台半ばで高くなっている。（図表5－8）

＜図表5－8＞環境にやさしい農産物や制度の認知度（複数回答）／地域別、性・年代別

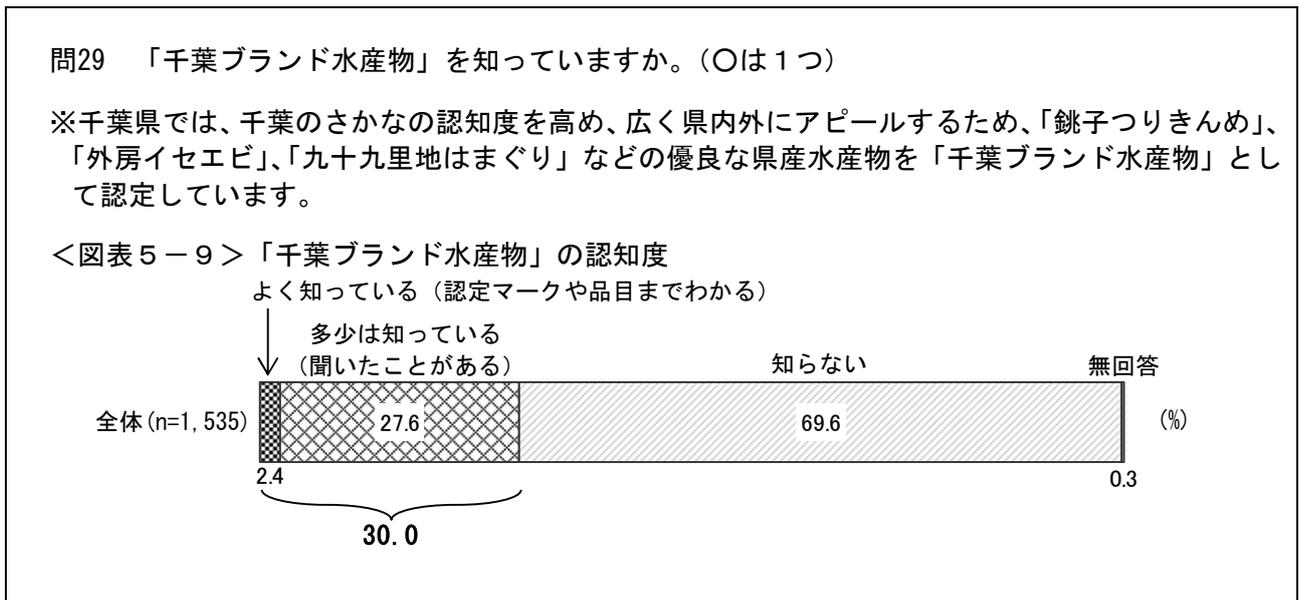


第67回県政に関する世論調査（R6年度）



（3）「千葉ブランド水産物」の認知度

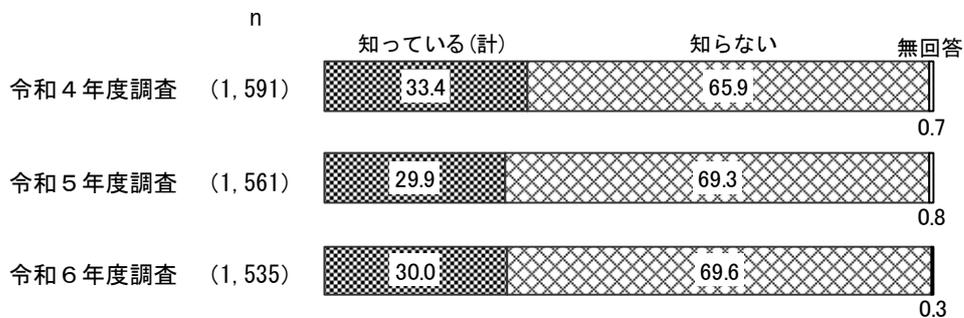
◇『知っている（計）』が3割



「千葉ブランド水産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている（認定マークや品目までわかる）」（2.4%）と「多少は知っている（聞いたことがある）」（27.6%）を合わせた『知っている（計）』（30.0%）が3割となっている。

一方、「知らない」（69.6%）が約7割となっている。（図表5-9）

【参考】令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、『知っている（計）』は“海匝地域”（46.7%）と“長生地域”（44.7%）が4割台半ば、“千葉地域”（36.7%）が3割台半ばで高くなっている。

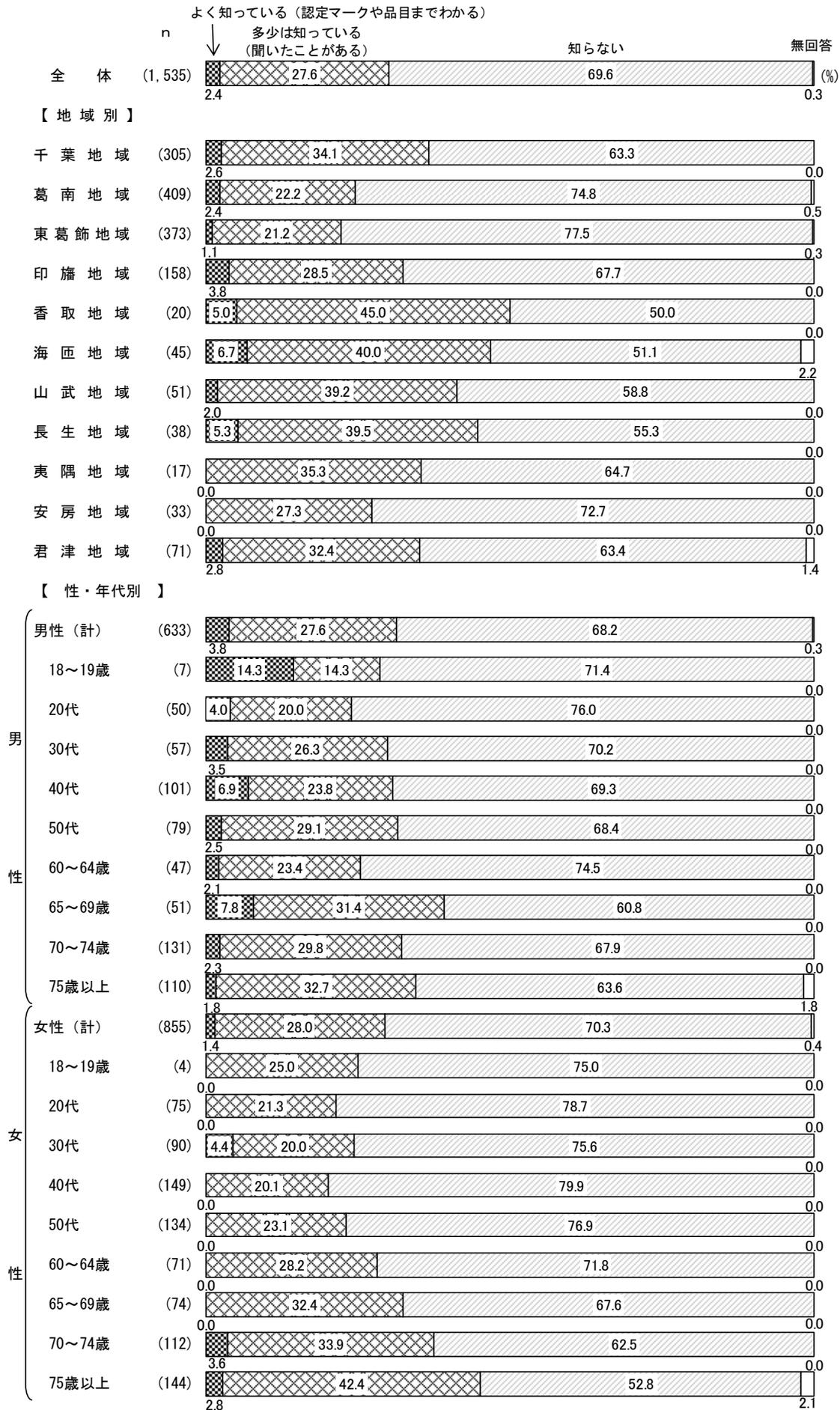
一方、「知らない」は“東葛飾地域”（77.5%）が約8割、“葛南地域”（74.8%）が7割台半ばで高くなっている。（図表5-10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『知っている（計）』は女性の75歳以上（45.1%）が4割台半ばで高くなっている。

一方、「知らない」は女性の40代（79.9%）が約8割で高くなっている。（図表5-10）

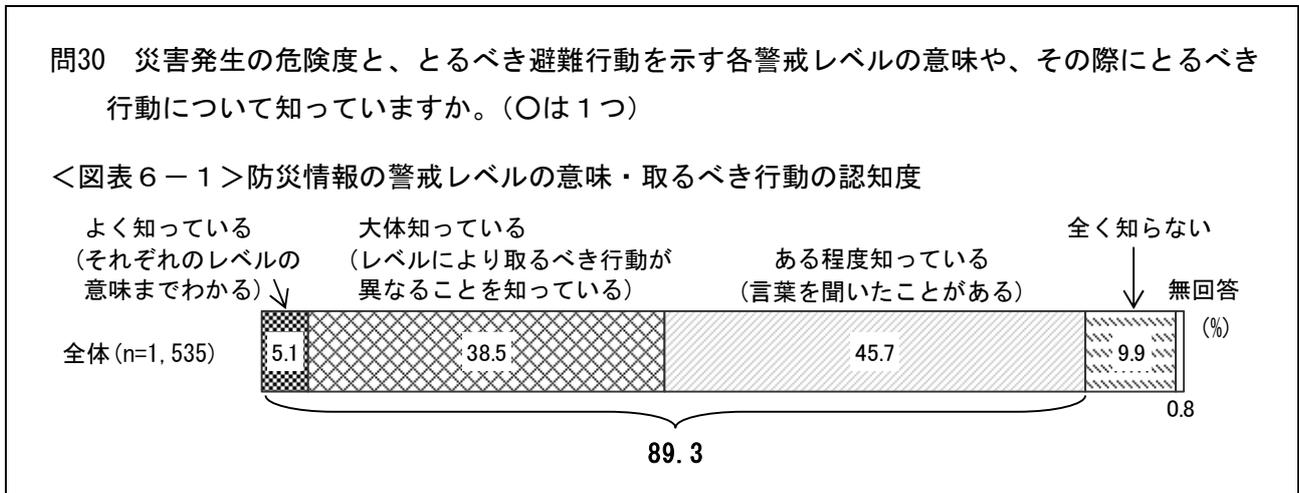
＜図表5-10＞「千葉ブランド水産物」の認知度／地域別、性・年代別



6 防災に関する取組について

(1) 防災情報の警戒レベルの意味・取るべき行動の認知度

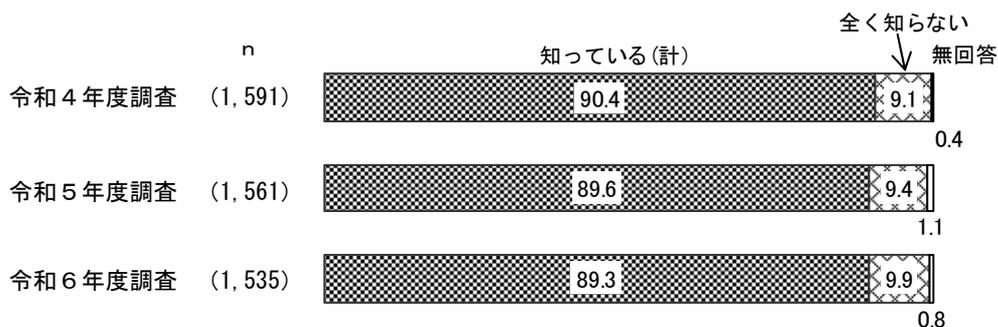
◇『知っている（計）』が約9割



水害・土砂災害の防災情報の伝え方で、各警戒レベルの意味や、その際にとるべき行動について知っているか聞いたところ、「よく知っている（それぞれのレベルの意味までわかる）」（5.1%）と「大体知っている（レベルにより取るべき行動が異なることを知っている）」（38.5%）、「ある程度知っている（言葉を聞いたことがある）」（45.7%）の3つを合わせた『知っている（計）』（89.3%）が約9割となっている。

一方、「全く知らない」（9.9%）が約1割となっている。（図表6-1）

【参考】 令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果（単位：%）



【地域別】

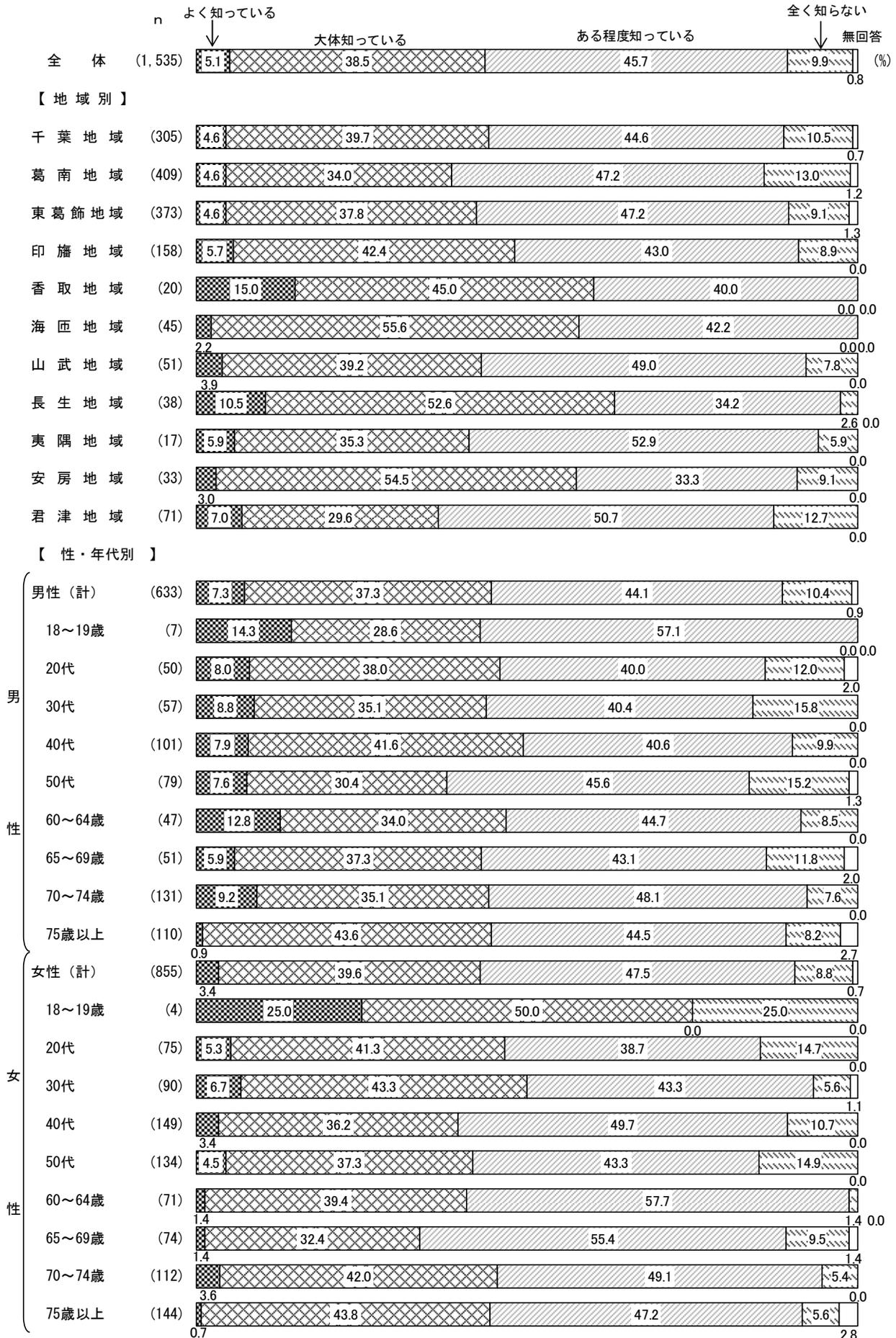
地域別にみると、『知っている（計）』は“海匠地域”（100%）が10割で高くなっている。

（図表6-2）

【性・年代別】

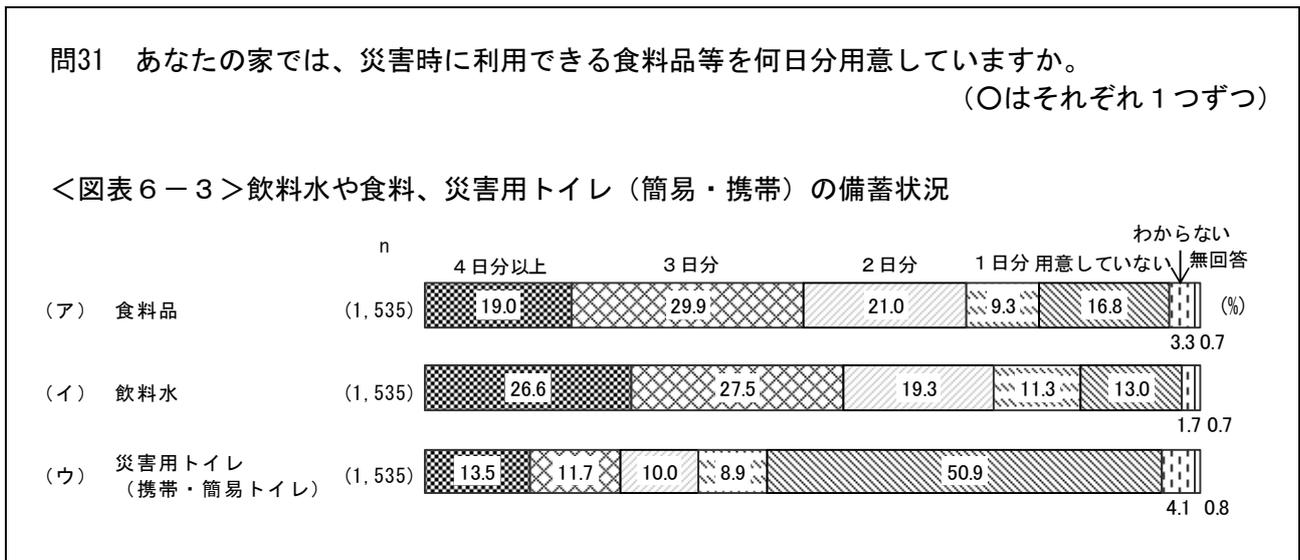
性・年代別にみると、『知っている（計）』は女性の60～64歳（98.6%）が約10割で高くなっている。（図表6-2）

＜図表6-2＞防災情報の警戒レベルの意味・取るべき行動の認知度／地域別、性・年代別



（2）飲料水や食料、災害用トイレ（簡易・携帯）の備蓄状況

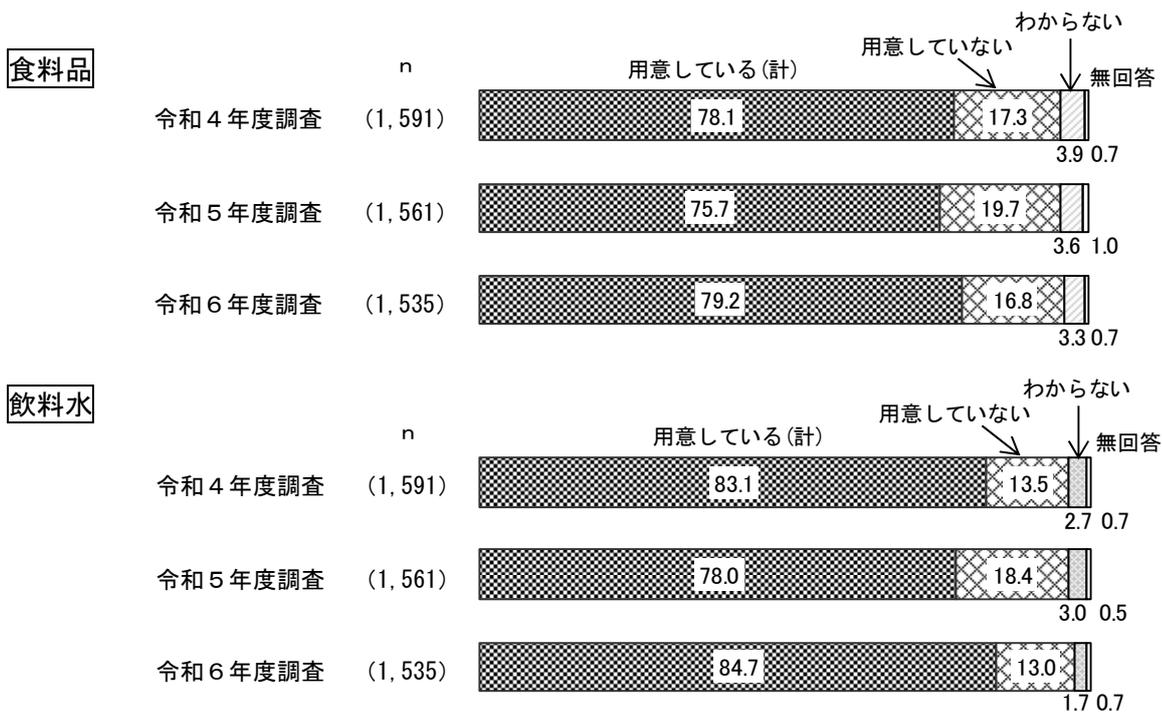
◇『用意している（計）』が最も高いのは＜飲料水＞で8割台半ば



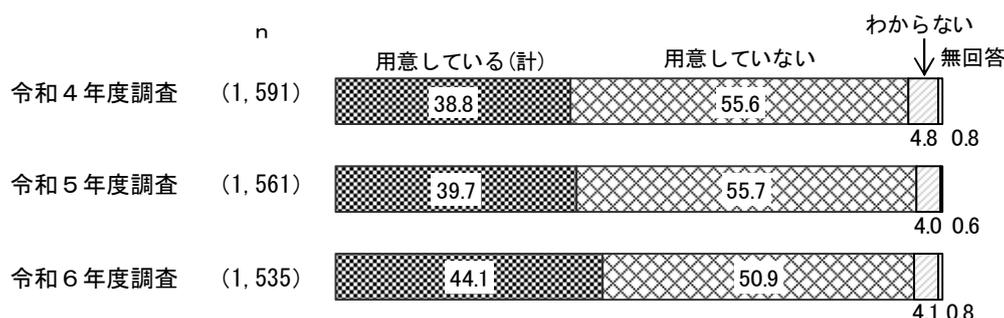
災害時に利用できる食料品等を何日分用意しているか聞いたところ、「4日分以上」、「3日分」、「2日分」、「1日分」の4つを合わせた『用意している（計）』が最も高いのは、「(イ) 飲料水」（84.7%）で8割台半ば、以下、「(ア) 食料品」（79.2%）が約8割、「(ウ) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）」（44.1%）が4割台半ばとなっている。

一方、「用意していない」が最も高いのは、「(ウ) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）」（50.9%）で5割となっており、以下、「(ア) 食料品」（16.8%）が1割台半ば、「(イ) 飲料水」（13.0%）が1割を超えている。（図表6-3）

〔参考〕 令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）



【地域別】

地域別にみると、「(ア) 食料品」は大きな傾向の違いは見られない。

「(イ) 飲料水」の「用意していない」は“東葛飾地域”（16.6%）が1割台半ばで高くなっている。

「(ウ) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）」の『用意している（計）』は“葛南地域”（49.4%）が約5割で高くなっている。

一方、「用意していない」は“海匝地域”（73.3%）が7割を超え、“長生地域”（68.4%）が約7割で高くなっている。（図表6－4）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 食料品」の「用意していない」は女性の20代（36.0%）が3割台半ばで高くなっている。

「(イ) 飲料水」の『用意している（計）』は女性の65～69歳（94.6%）が9割台半ば、女性の50代（91.8%）が9割を超えて高くなっている。

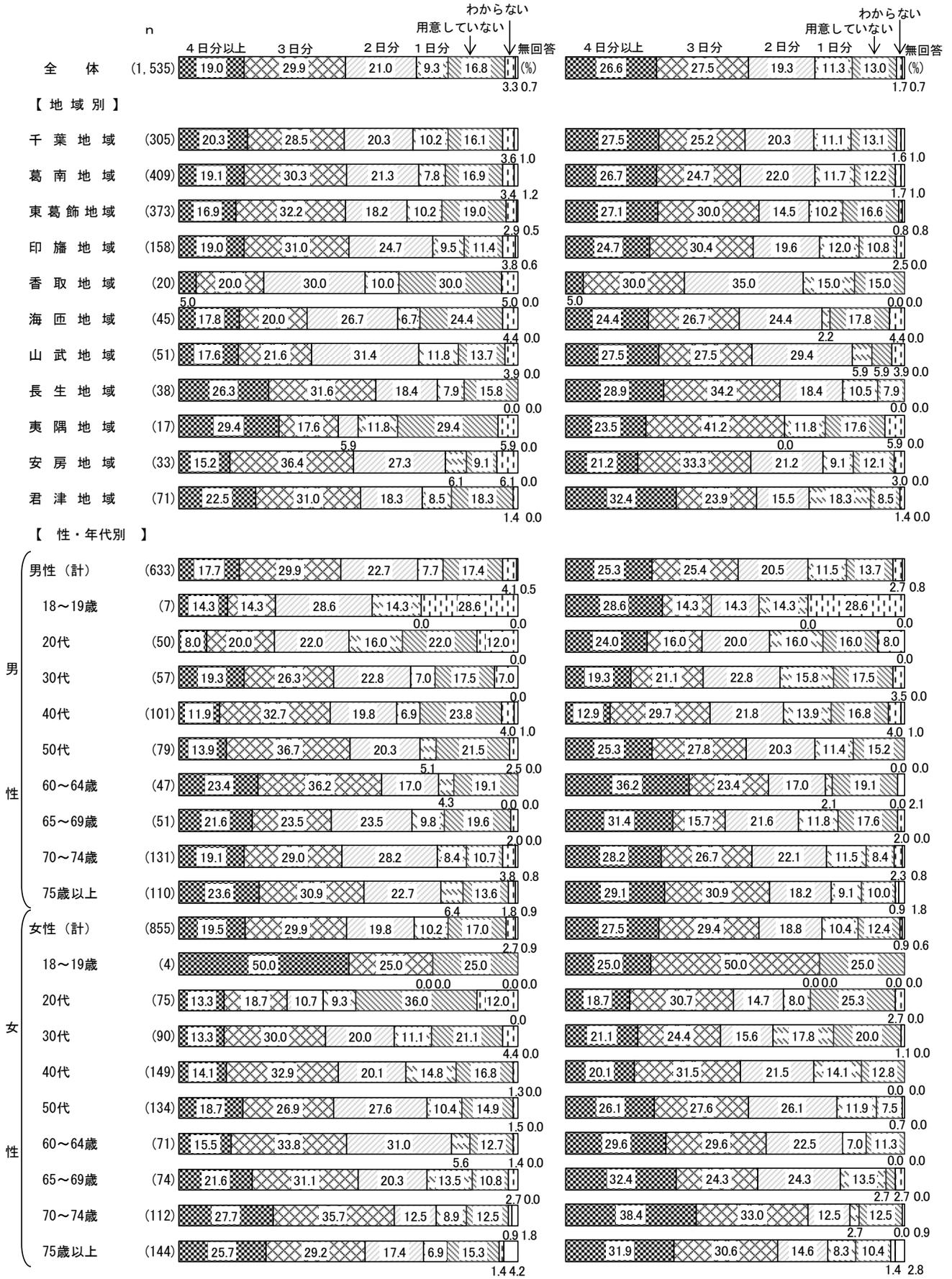
一方、「用意していない」は女性の20代（25.3%）が2割台半ば、女性の30代（20.0%）が2割で高くなっている。

「(ウ) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）」の『用意している（計）』は女性の70～74歳（55.4%）が5割台半ば、女性の50代（52.2%）が5割を超えて高くなっている。（図表6－4）

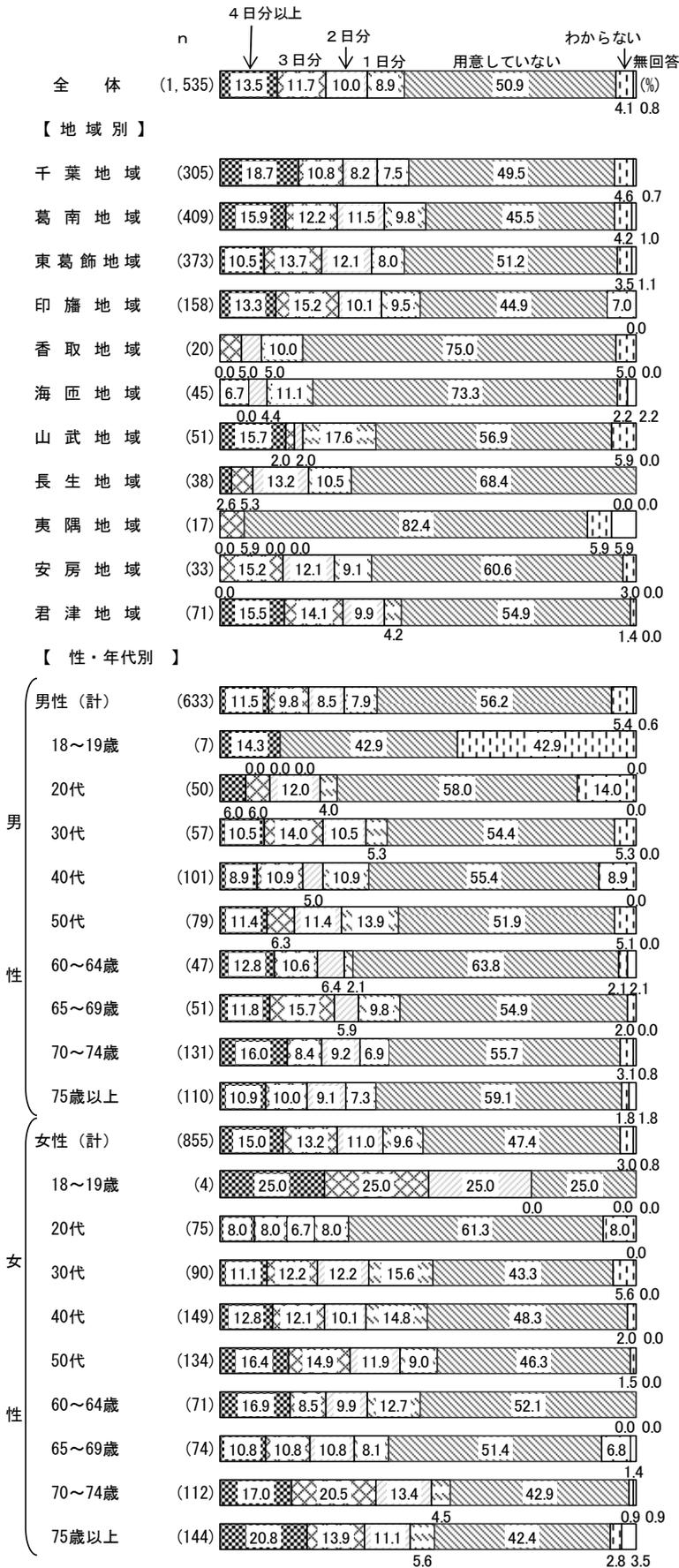
<図表6-4> 飲料水や食料、災害用トイレ（簡易・携帯）の備蓄状況／地域別、性・年代別

(ア) 食料品

(イ) 飲料水

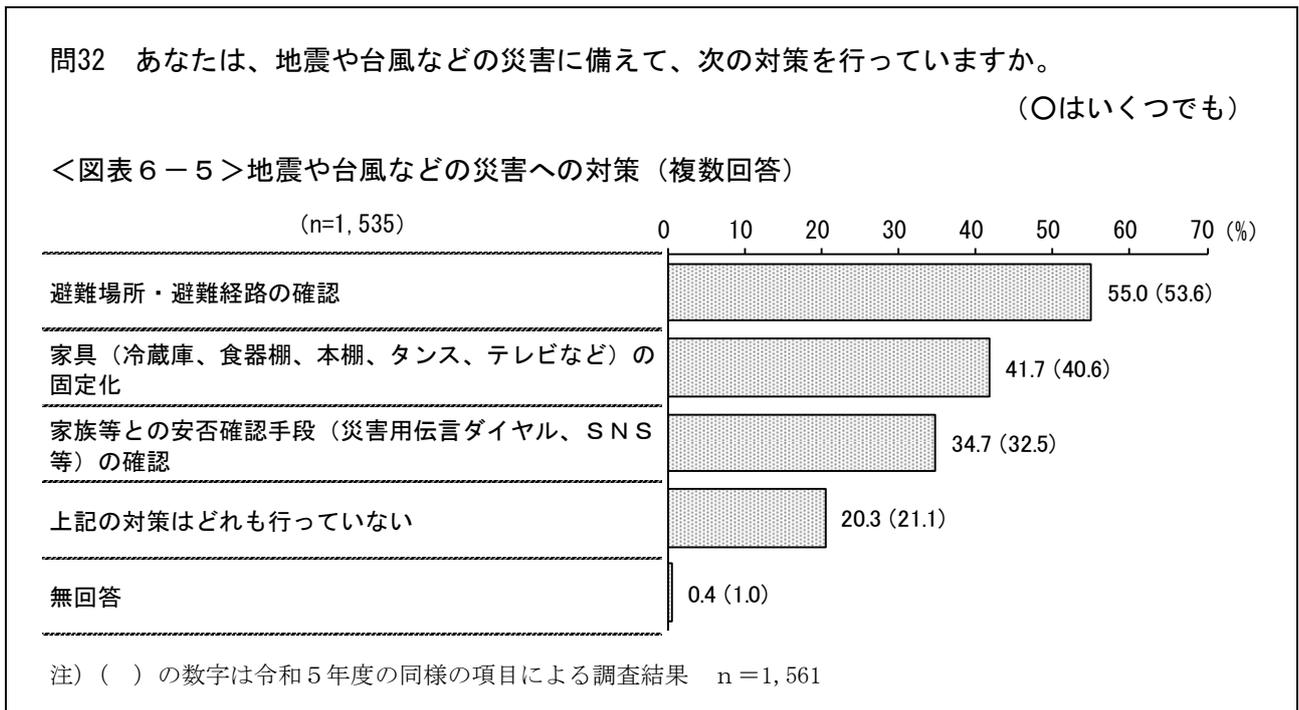


(ウ) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）



（3）地震や台風などの災害への対策

◇「避難場所・避難経路の確認」が5割台半ば



地震や台風などの災害に備えて、どのような対策を行っているか聞いたところ、「避難場所・避難経路の確認」（55.0%）が5割台半ばで最も高く、以下、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」（41.7%）、「家族等との安否確認手段（災害用伝言ダイヤル、SNS等）の確認」（34.7%）が続く。

一方、「上記の対策はどれも行ってない」（20.3%）が2割となっている。（図表6-5）

【地域別】

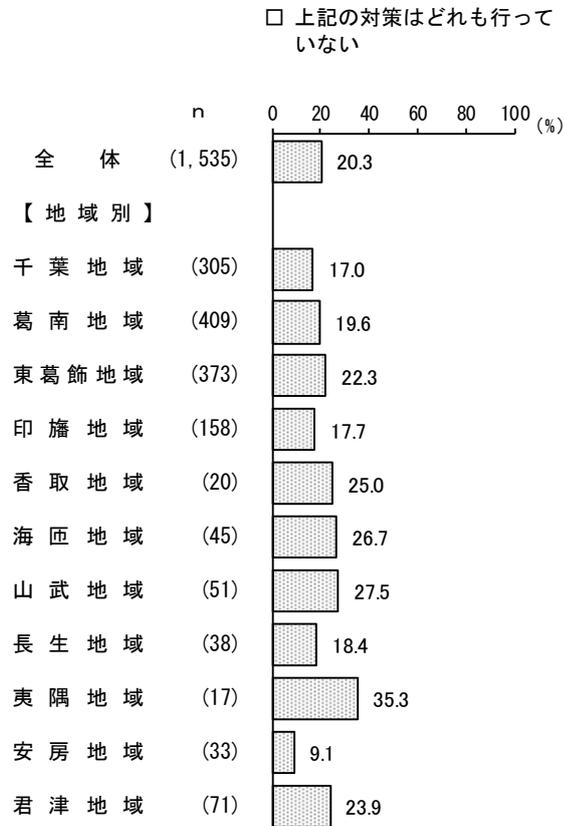
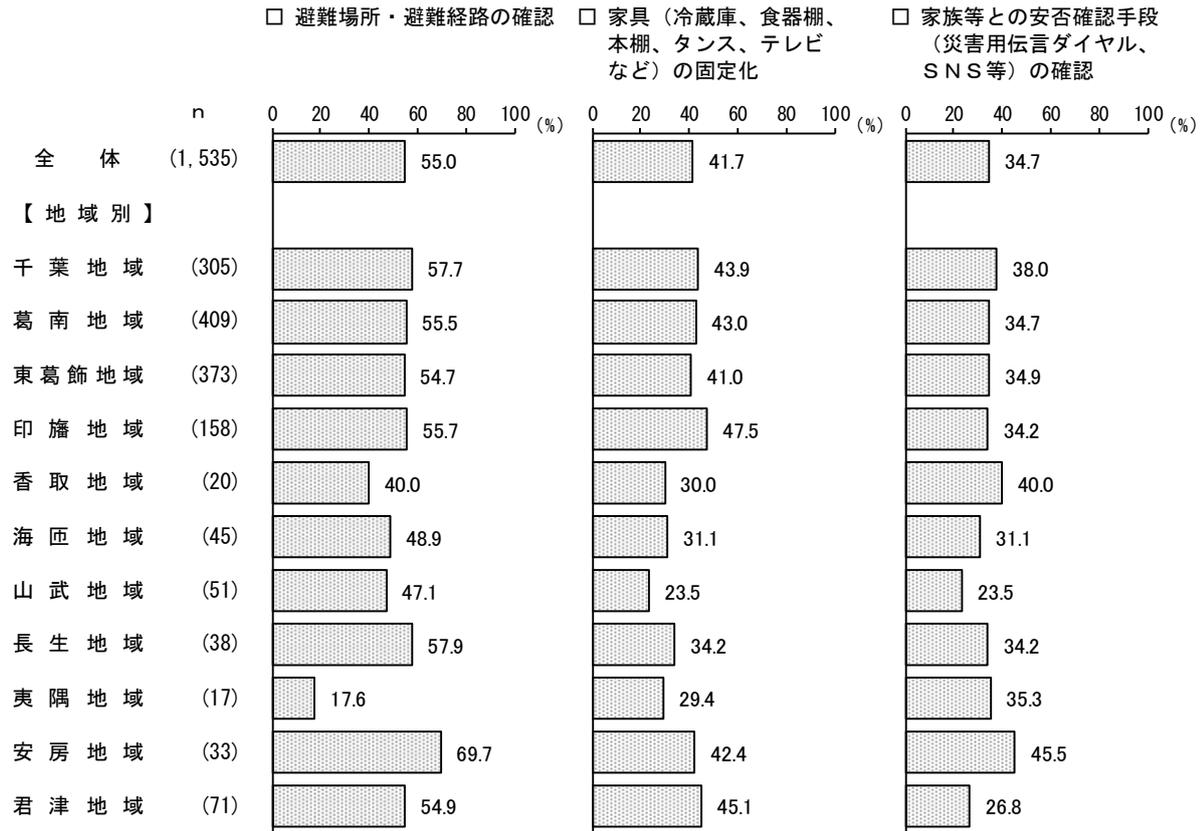
地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表6-6）

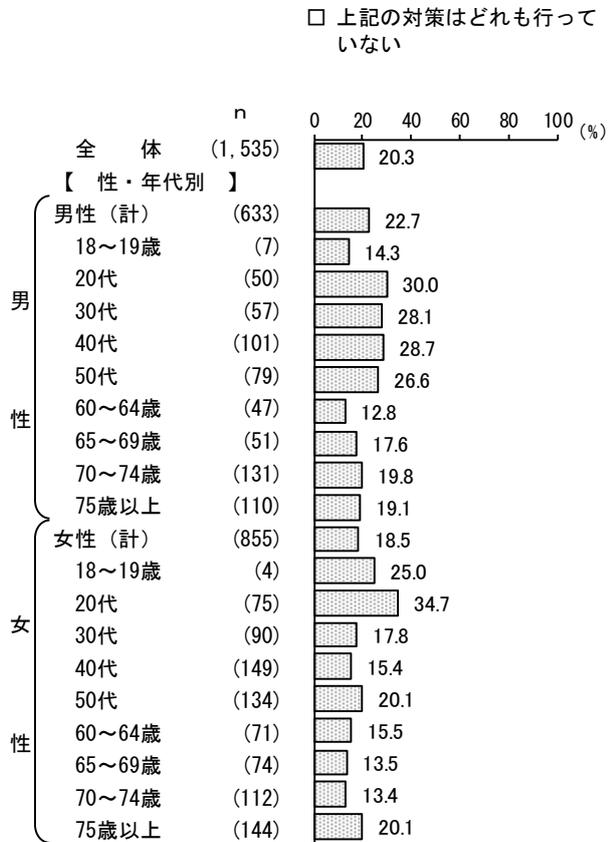
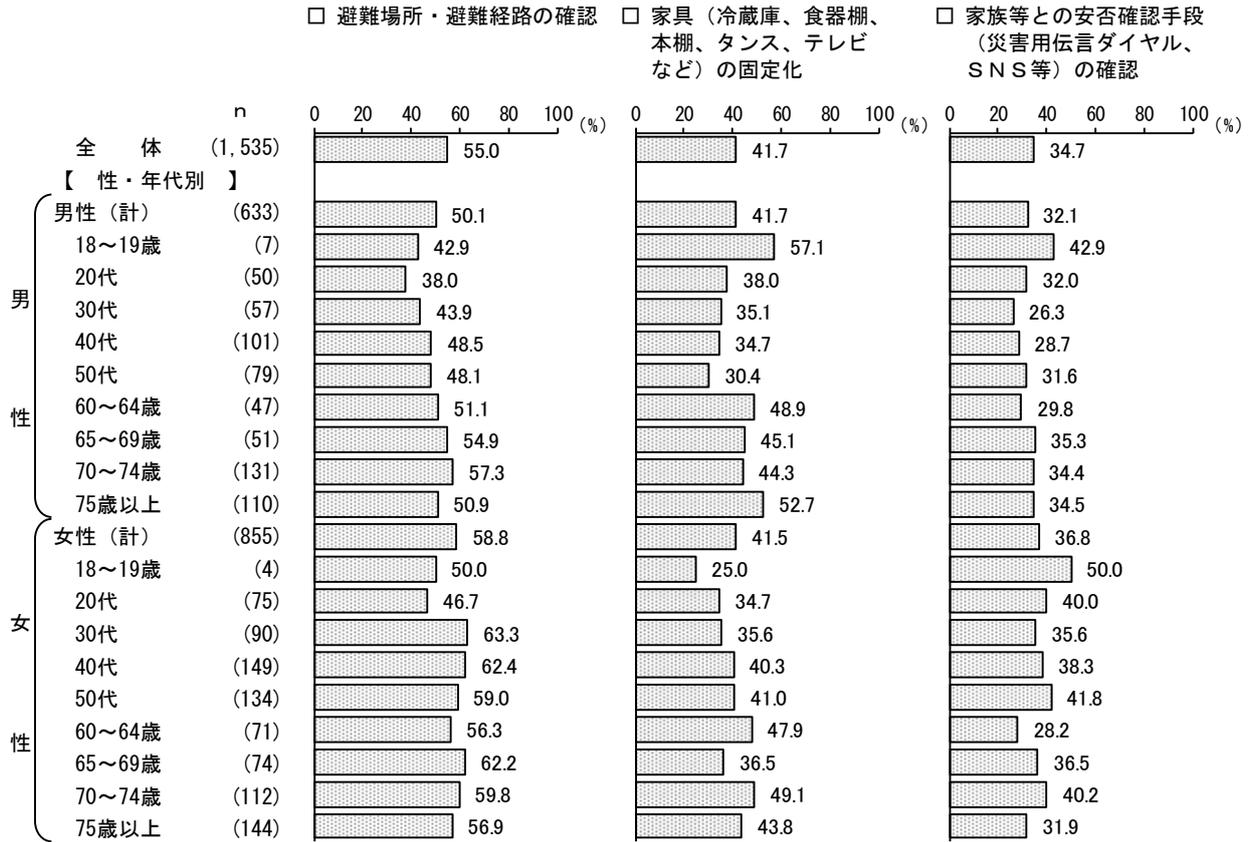
【性・年代別】

性・年代別にみると、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」は男性の75歳以上（52.7%）が5割を超えて高くなっている。

一方、「上記の対策はどれも行ってない」は女性の20代（34.7%）が3割台半ば、男性の40代（28.7%）が約3割で高くなっている。（図表6-6）

<図表6-6>地震や台風などの災害への対策（複数回答）／地域別、性・年代別





7 公金のキャッシュレス化の推進について

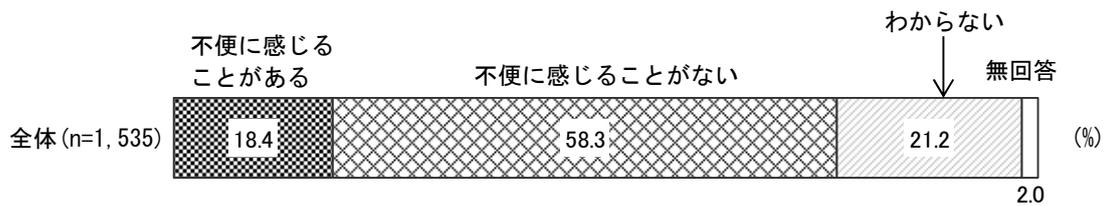
(1) 公金の納付に当たり不便と感ずることの有無

◇「不便に感ずることがある」が約2割

県では、収納方法について、県民の皆様の利便性や事務の効率性の観点から「キャッシュレス化の推進」に向けて取り組んでいます。

問33 あなたは、税金や使用料・手数料などの県の公金の納付に当たり、不便と感ずることがありますか。（○は1つ）

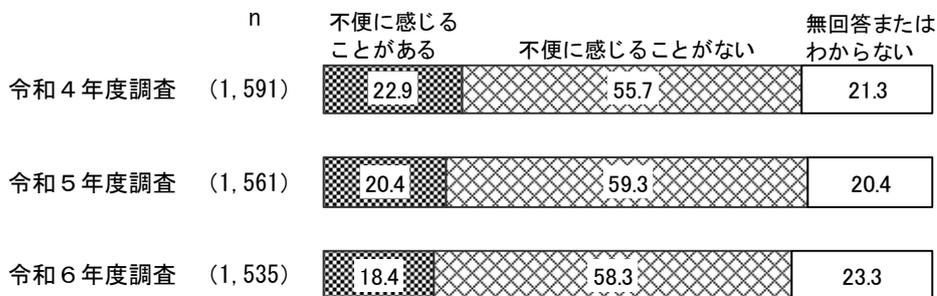
<図表7-1>公金の納付に当たり不便と感ずることの有無



税金や使用料・手数料などの県の公金の納付に当たり、不便と感ずることがあるかを聞いたところ、「不便に感ずることがある」(18.4%)が約2割となっている。

一方、「不便に感ずることがない」(58.3%)が約6割となっている。(図表7-1)

〔参考〕令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、「わからない」は“山武地域”(35.3%)が3割台半ばで高くなっている。

(図表7-2)

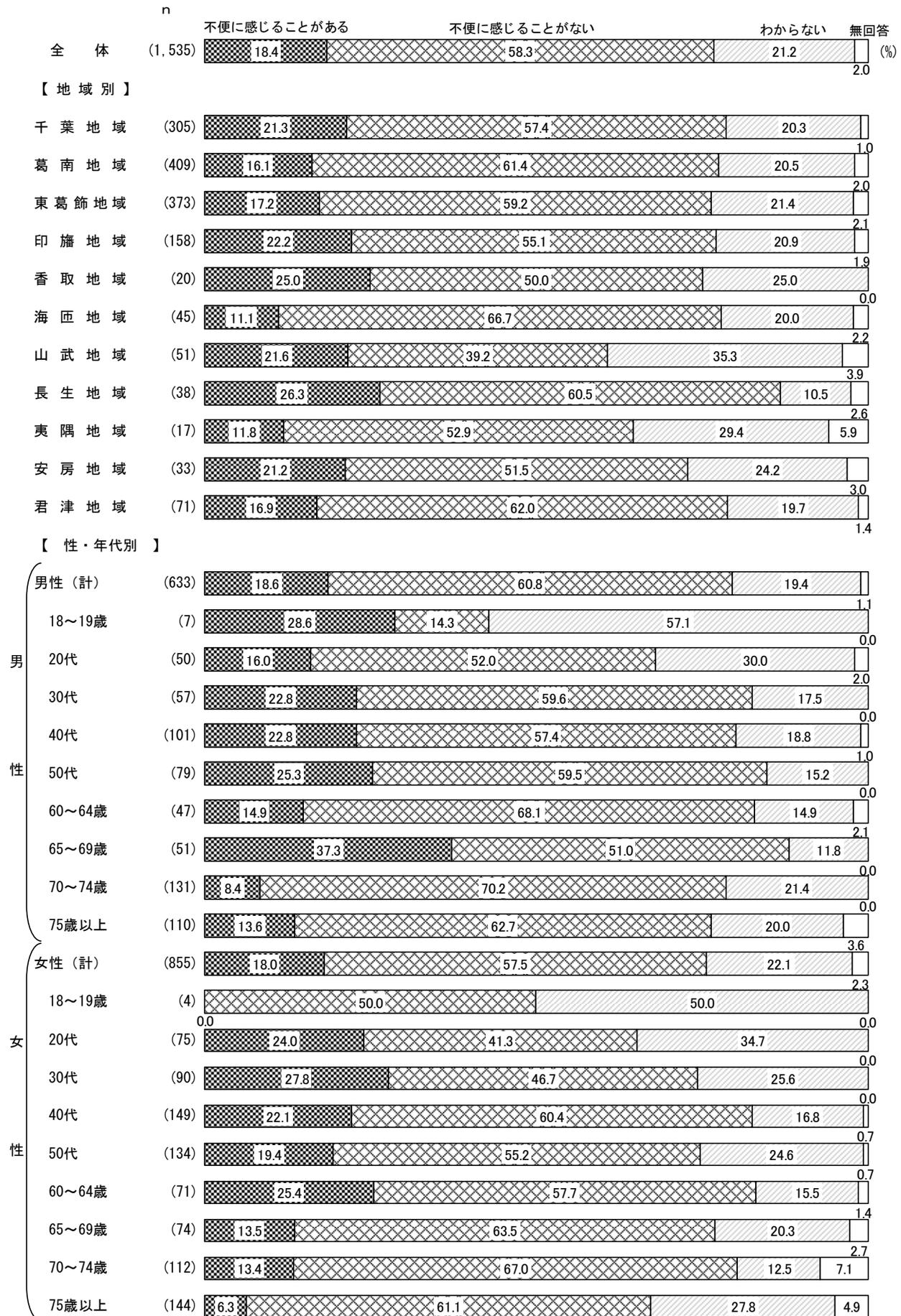
【性・年代別】

性・年代別にみると、「不便に感ずることがある」は男性の65～69歳(37.3%)が約4割、女性の30代(27.8%)が約3割で高くなっている。

一方、「不便に感ずることがない」は男性の70～74歳(70.2%)が7割で高くなっている。

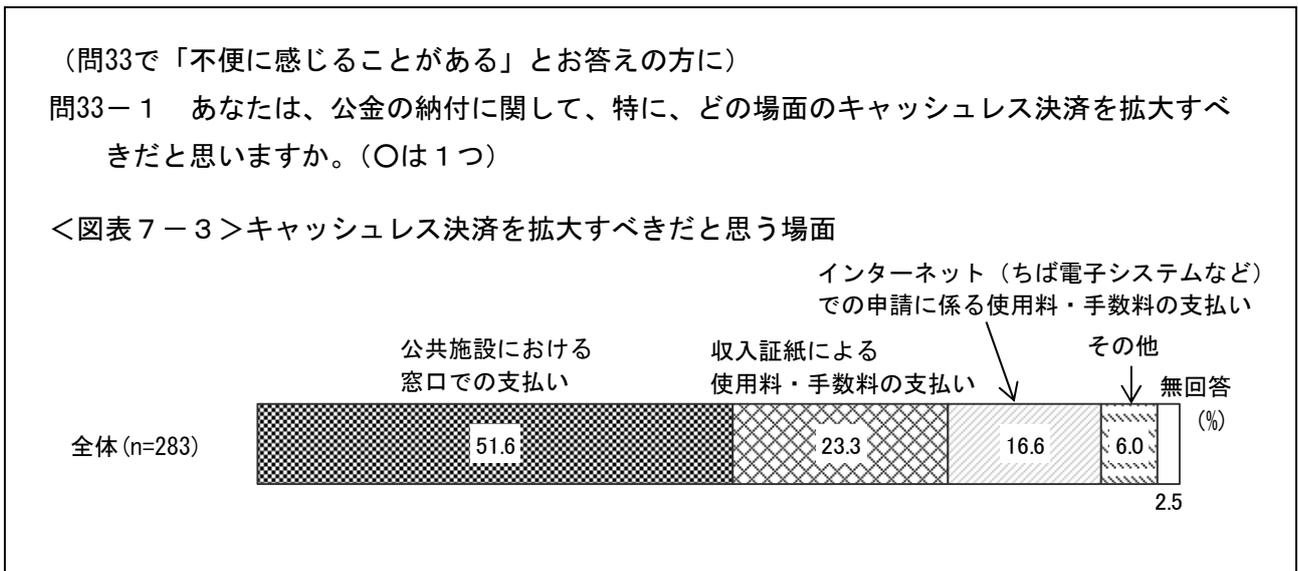
また、「わからない」は女性の20代(34.7%)が3割台半ば、女性の75歳以上(27.8%)が約3割で高くなっている。(図表7-2)

<図表7-2> 公金の納付に当たり不便と感じることの有無／地域別、性・年代別



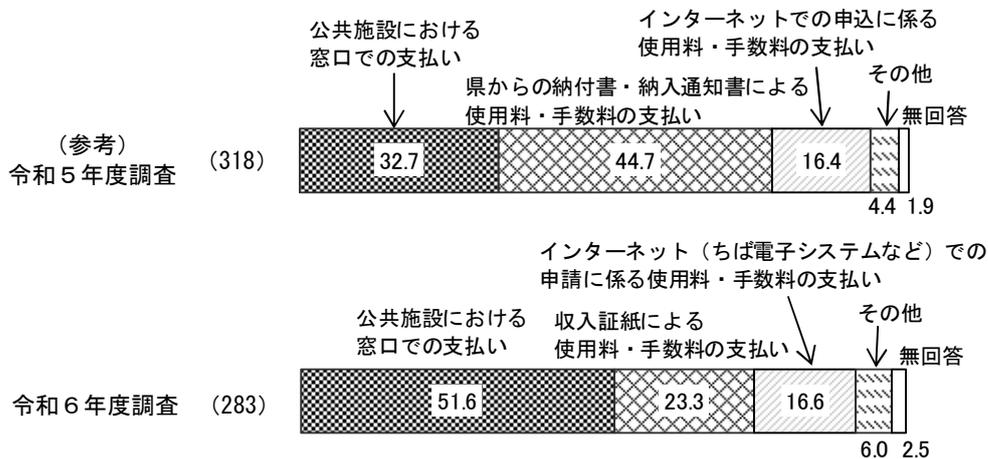
（1-1）キャッシュレス決済を拡大すべきだと思う場面

◇「公共施設における窓口での支払い」が5割を超える



公金の納付にあたり「不便に感じることもある」と回答した283人を対象に、県がキャッシュレス決済を拡大するとした場合、特に、どの場面で拡大すべきだと思うかを聞いたところ、「公共施設における窓口での支払い」（51.6%）が5割を超えて最も高く、以下、「収入証紙による使用料・手数料の支払い」（23.3%）、「インターネット（ちば電子システムなど）での申請に係る使用料・手数料の支払い」（16.6%）と続く。（図表7-3）

〔参考〕令和5年度の類似の項目による調査結果との比較（単位：%）

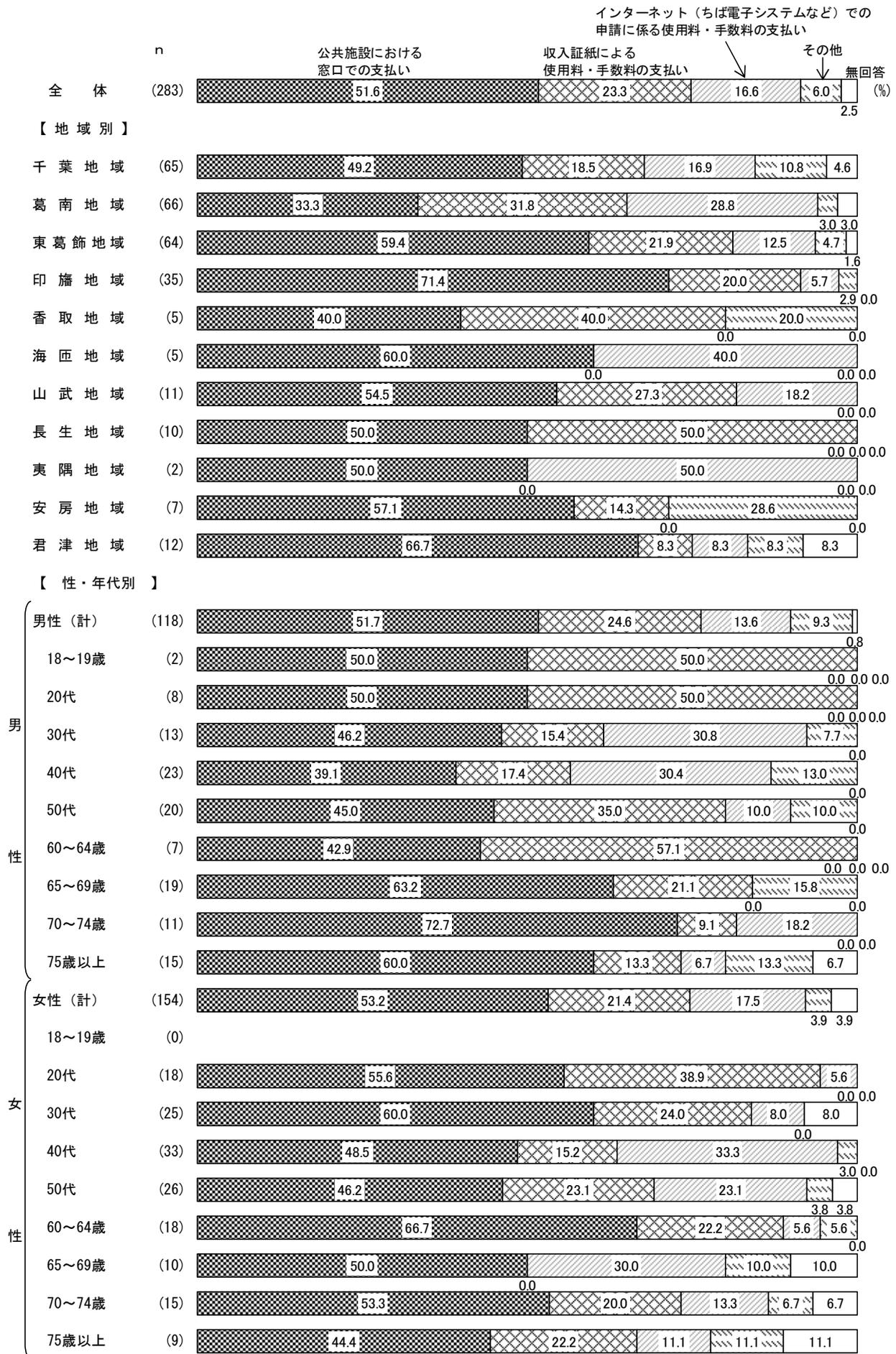


※ 令和5年度の調査項目は、「あなたは、公金の納付に関して、県がキャッシュレス決済を導入するとした場合、特に、どの場面に導入すべきだと思いますか。」

※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

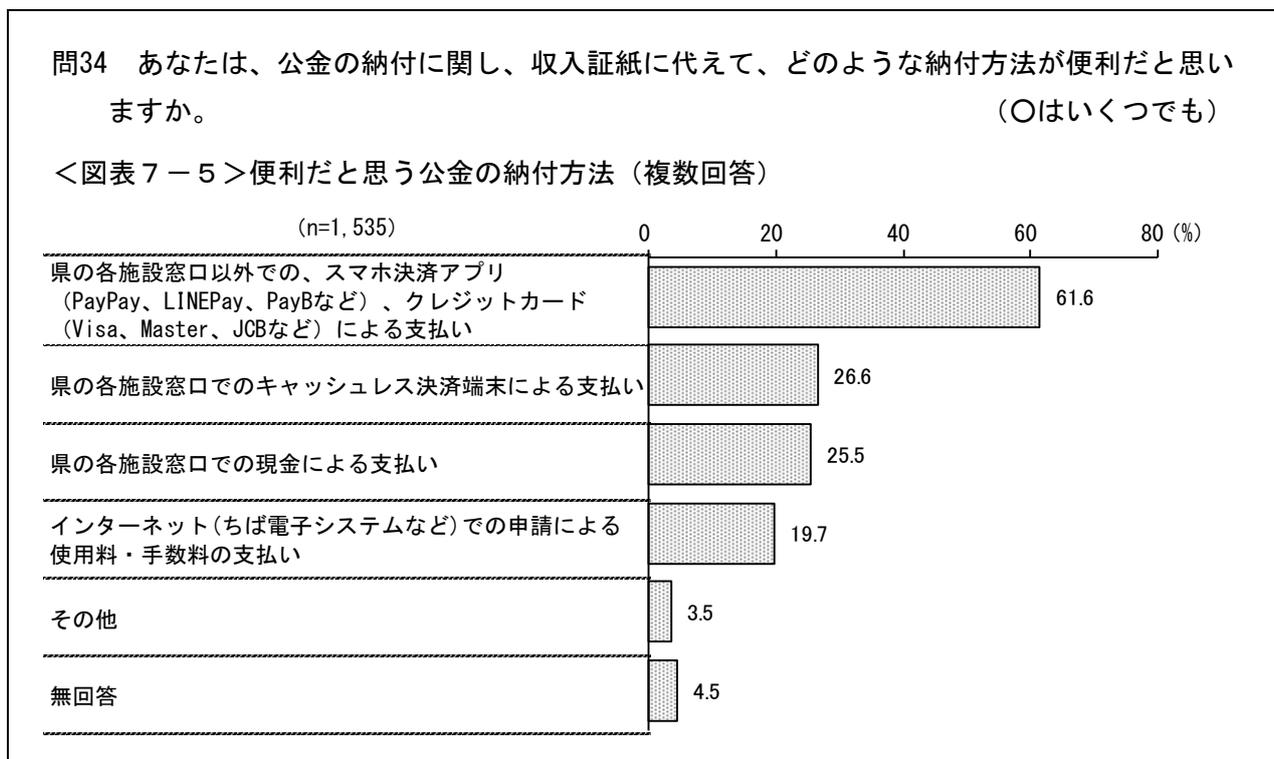
（8ページ「報告書の見方（5）」を参照）（図表7-4）

[参考] <図表7-4>キャッシュレス決済を拡大すべきだと思う場面／地域別、性・年代別



（２）便利だと思う公金の納付方法

◇「県の各施設窓口以外での、スマホ決済アプリ（PayPay、LINEPay、PayBなど）、クレジットカード（Visa、Master、JCBなど）による支払い」が6割を超える



便利だと思う公金の納付方法を聞いたところ、「県の各施設窓口以外での、スマホ決済アプリ（PayPay、LINEPay、PayBなど）、クレジットカード（Visa、Master、JCBなど）による支払い」（61.6%）が6割を超えて最も高く、以下、「県の各施設窓口でのキャッシュレス決済端末による支払い」（26.6%）、「県の各施設窓口での現金による支払い」（25.5%）、「インターネット（ちば電子システムなど）での申請による使用料・手数料の支払い」（19.7%）が続く。（図表7-5）

【地域別】

地域別にみると、「県の各施設窓口での現金による支払い」は“山武地域”（41.2%）が4割を超えて高くなっている。（図表7-6）

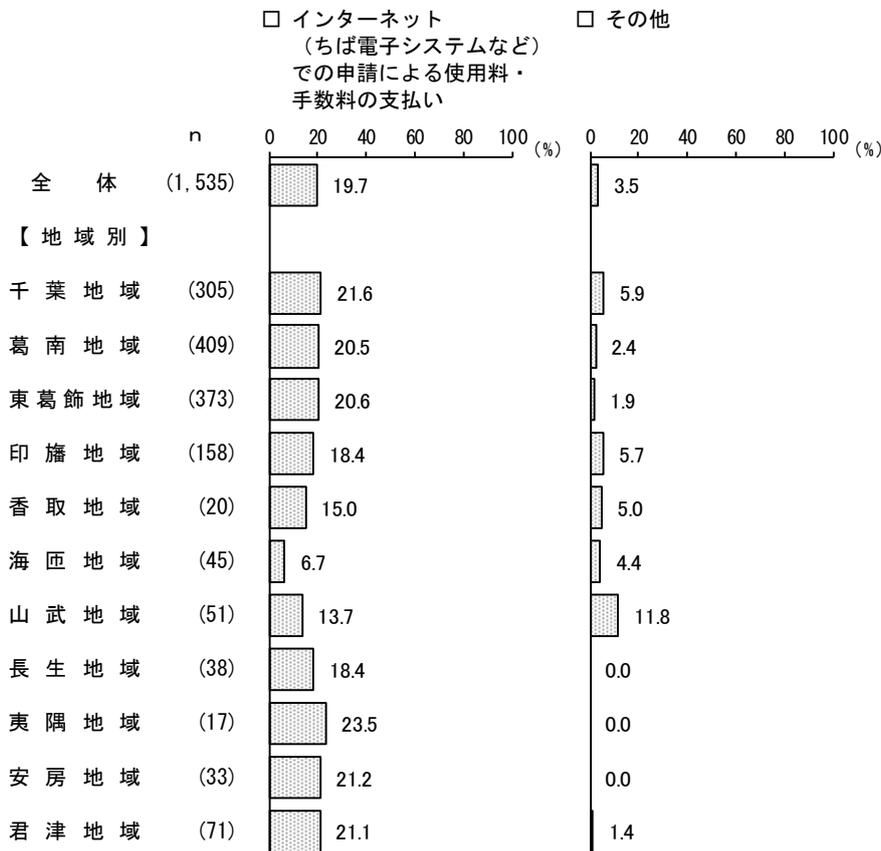
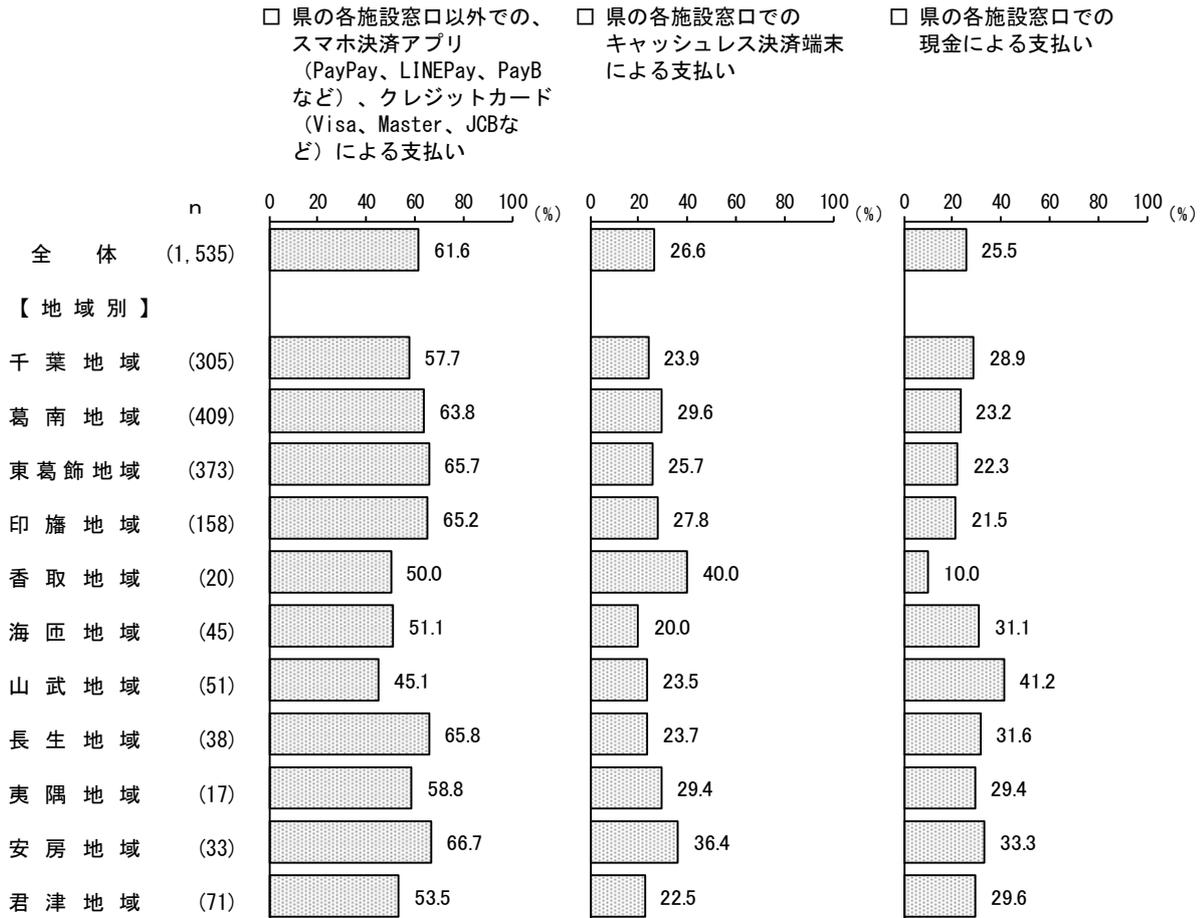
【性・年代別】

性・年代別にみると、「県の各施設窓口以外での、スマホ決済アプリ（PayPay、LINEPay、PayBなど）、クレジットカード（Visa、Master、JCBなど）による支払い」は女性の20代（85.3%）が8割台半ば、男性の20代（80.0%）が8割、女性の30代（78.9%）と男性の50代（78.5%）が約8割、女性の40代（73.2%）が7割を超え、女性の50代（70.9%）が7割で高くなっている。

「県の各施設窓口での現金による支払い」は男性の75歳以上（40.9%）と女性の75歳以上（40.3%）が4割、男性の70～74歳（34.4%）が3割台半ばで高くなっている。

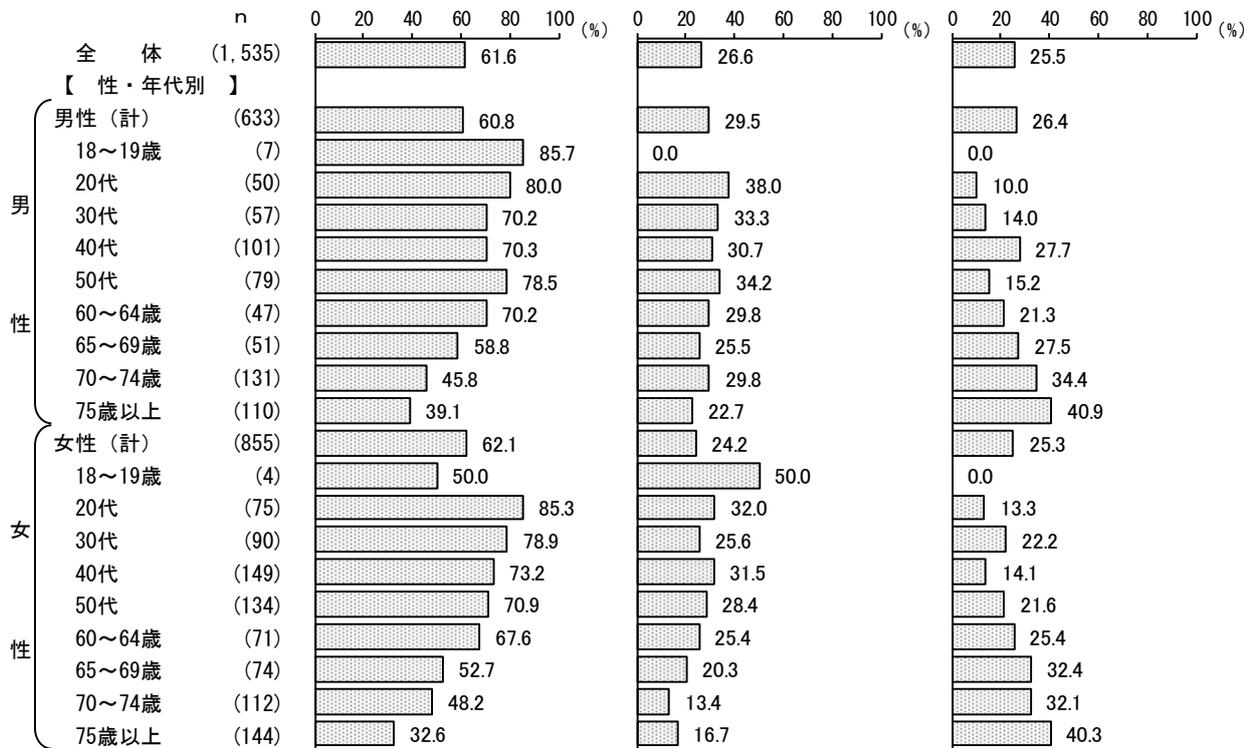
「インターネット（ちば電子システムなど）での申請による使用料・手数料の支払い」は男性の30代（38.6%）が約4割、男性の20代（36.0%）が3割台半ば、女性の40代（32.9%）と女性の30代（31.1%）が3割を超え、男性の50代（30.4%）が3割、男性の40代（28.7%）が約3割で高くなっている。（図表7-6）

<図表7-6> 便利だと思う公金の納付方法（単一回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）

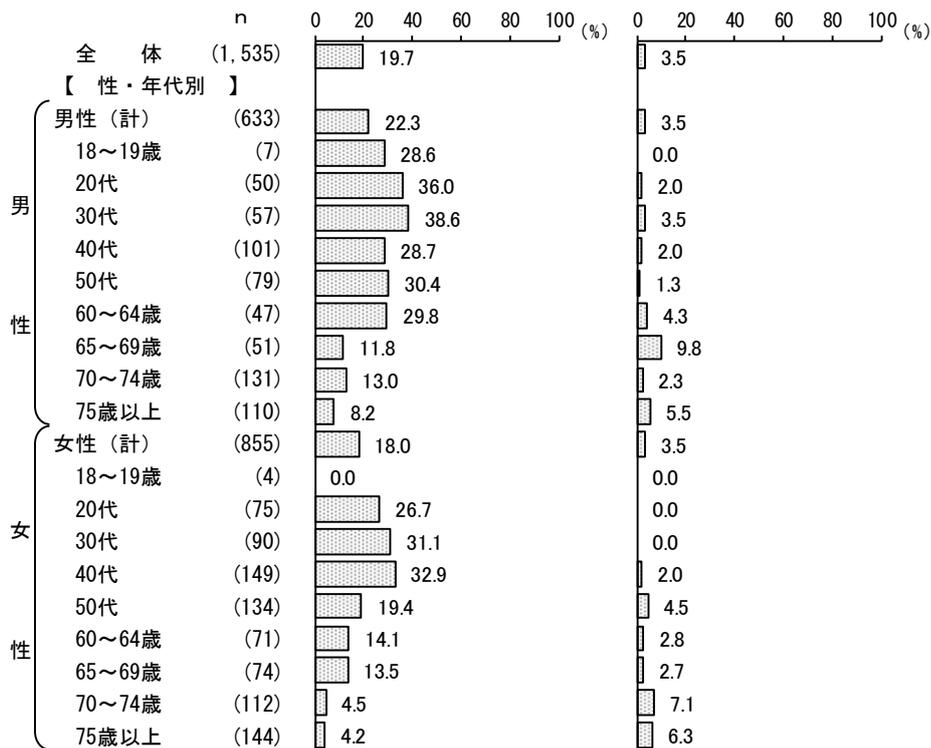


第67回県政に関する世論調査（R6年度）

□ 県の各施設窓口以外での、スマホ決済アプリ（PayPay、LINEPay、PayBなど）、クレジットカード（Visa、Master、JCBなど）による支払い
 □ 県の各施設窓口でのキャッシュレス決済端末による支払い
 □ 県の各施設窓口での現金による支払い



□ インターネット（ちば電子システムなど）での申請による使用料・手数料の支払い
 □ その他



8 生涯学習について

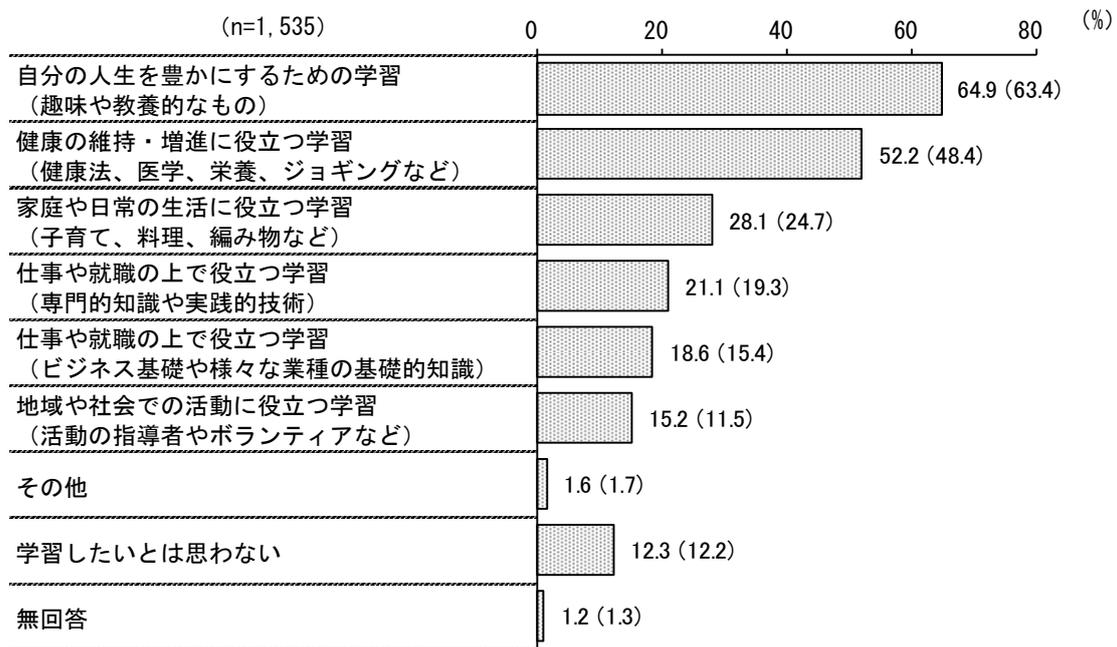
(1) 今後学習したいと思うこと

◇「自分の人生を豊かにするための学習（趣味や教養的なもの）」が6割台半ば

県では、人生100年時代到来や技術革新など、社会が大きく変化する中、新しい時代に合った生涯学習を推進していくため、今後の施策推進の参考にいたします。

問35 あなたは、今後、学習したいと思うことはありますか。この中からいくつでもあげてください。（〇はいくつでも）

<図表8-1> 今後学習したいと思うこと（複数回答）



注) () の数字は令和5年度の同様の項目による調査結果 n=1,561

今後、学習したいと思うことを聞いたところ、「自分の人生を豊かにするための学習（趣味や教養的なもの）」(64.9%)が6割台半ばで最も高く、以下、「健康の維持・増進に役立つ学習（健康法、医学、栄養、ジョギングなど）」(52.2%)、「家庭や日常生活に役立つ学習（子育て、料理、編み物など）」(28.1%)、「仕事や就職の上で役立つ学習（専門的知識や実践的技術）」(21.1%)が続く。

一方、「学習したいとは思わない」(12.3%)が1割を超えている。(図表8-1)

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表8-2)

【性・年代別】

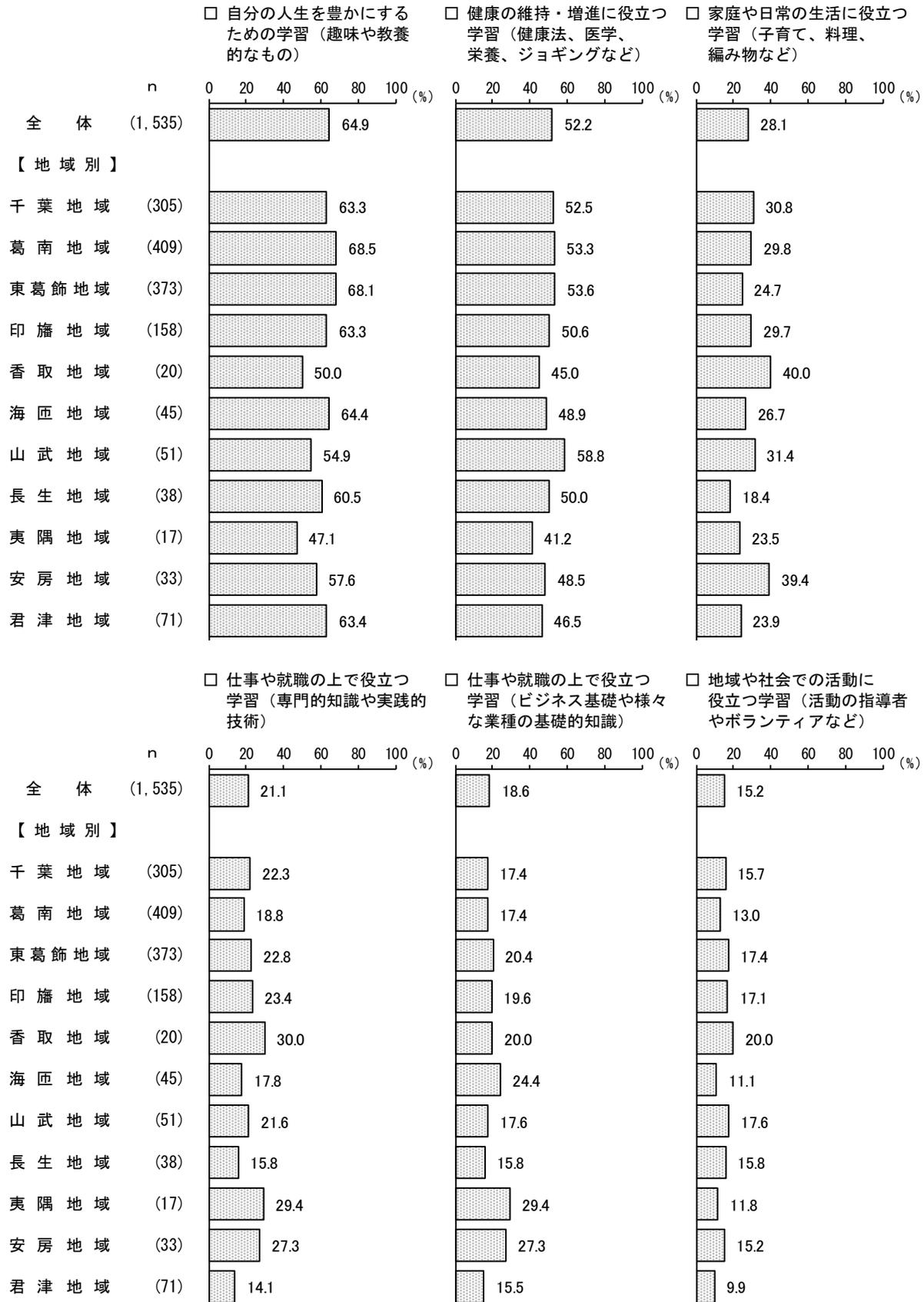
性・年代別にみると、「自分の人生を豊かにするための学習（趣味や教養的なもの）」は男性の50代(75.9%)が7割台半ばで高くなっている。

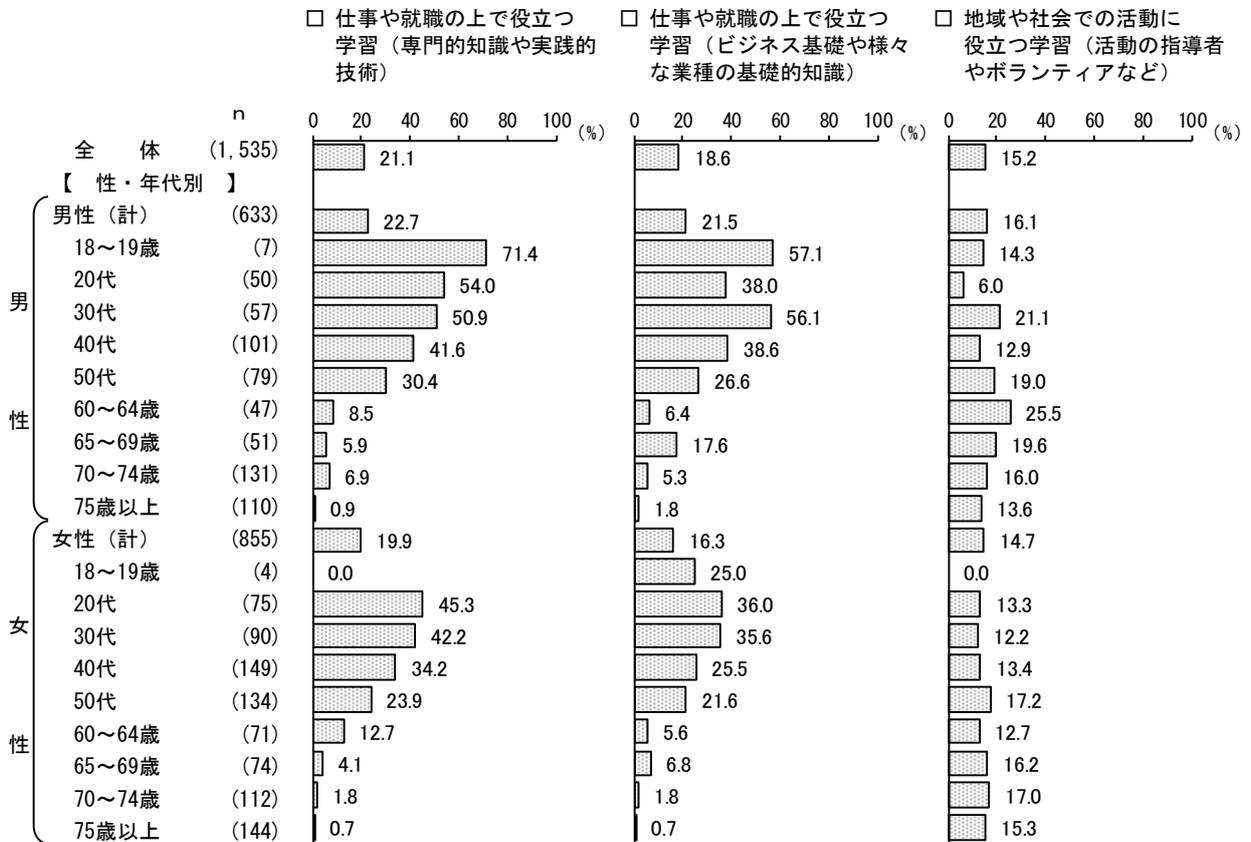
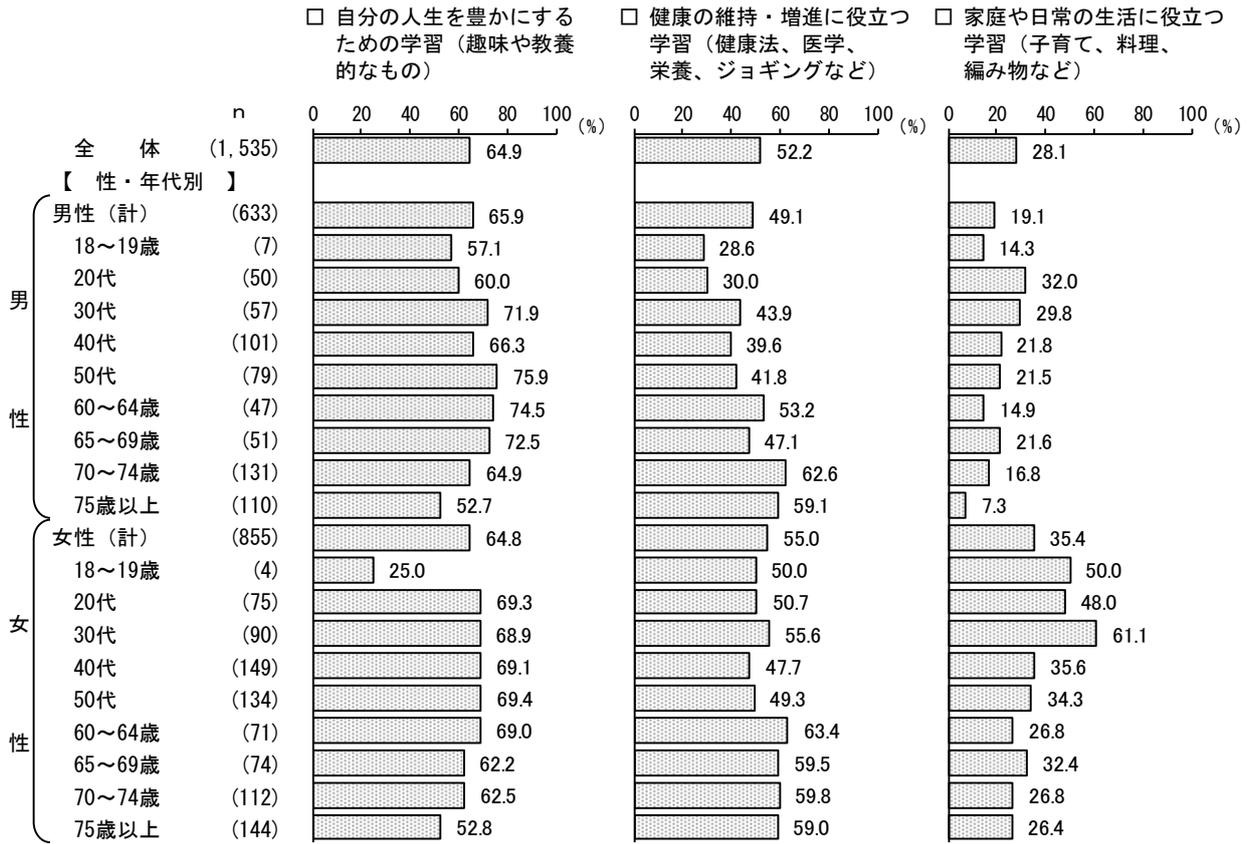
「健康の維持・増進に役立つ学習（健康法、医学、栄養、ジョギングなど）」は男性の70～74歳(62.6%)が6割を超えて高くなっている。

「家庭や日常の生活に役立つ学習（子育て、料理、編み物など）」は女性の30代（61.1%）が6割を超え、女性の20代（48.0%）が約5割、女性の40代（35.6%）が3割台半ばで高くなっている。

（図表8-2）

＜図表8-2＞今後学習したいと思うこと（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）





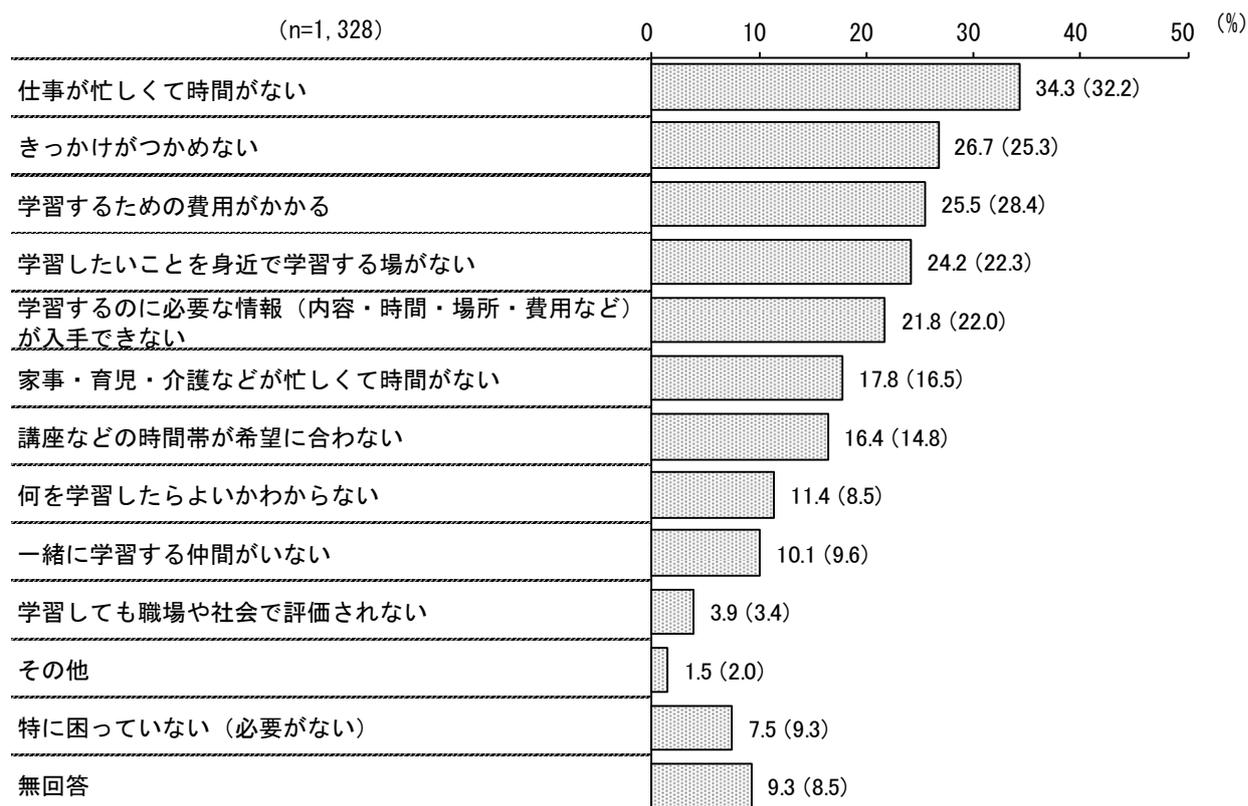
（1-1）学習する上で困っていること

◇「仕事が忙しくて時間がない」が3割台半ば

【問35で「学習したいとは思わない」以外を回答した方】

問36 学習する上で困っていることは何ですか。この中からいくつでもあげてください。（問35で「学習したいとは思わない」と回答した方は、学習したいとは思わない理由をお答えください。）（〇はいくつでも）

＜図表8-3＞学習する上で困っていること（複数回答）



注）（ ）の数字は令和5年度の同様の項目による調査結果 n=1,349

「学習したいとは思わない」以外を回答した1,328人に、学習する上で困っていることを聞いたところ、「仕事が忙しくて時間がない」（34.3%）が3割台半ばで最も高く、以下、「きっかけがつかめない」（26.7%）、「学習するための費用がかかる」（25.5%）、「学習したいことを身近で学習する場がない」（24.2%）が続く。

一方、「特に困っていない（必要がない）」（7.5%）が約1割となっている。（図表8-3）

【地域別】

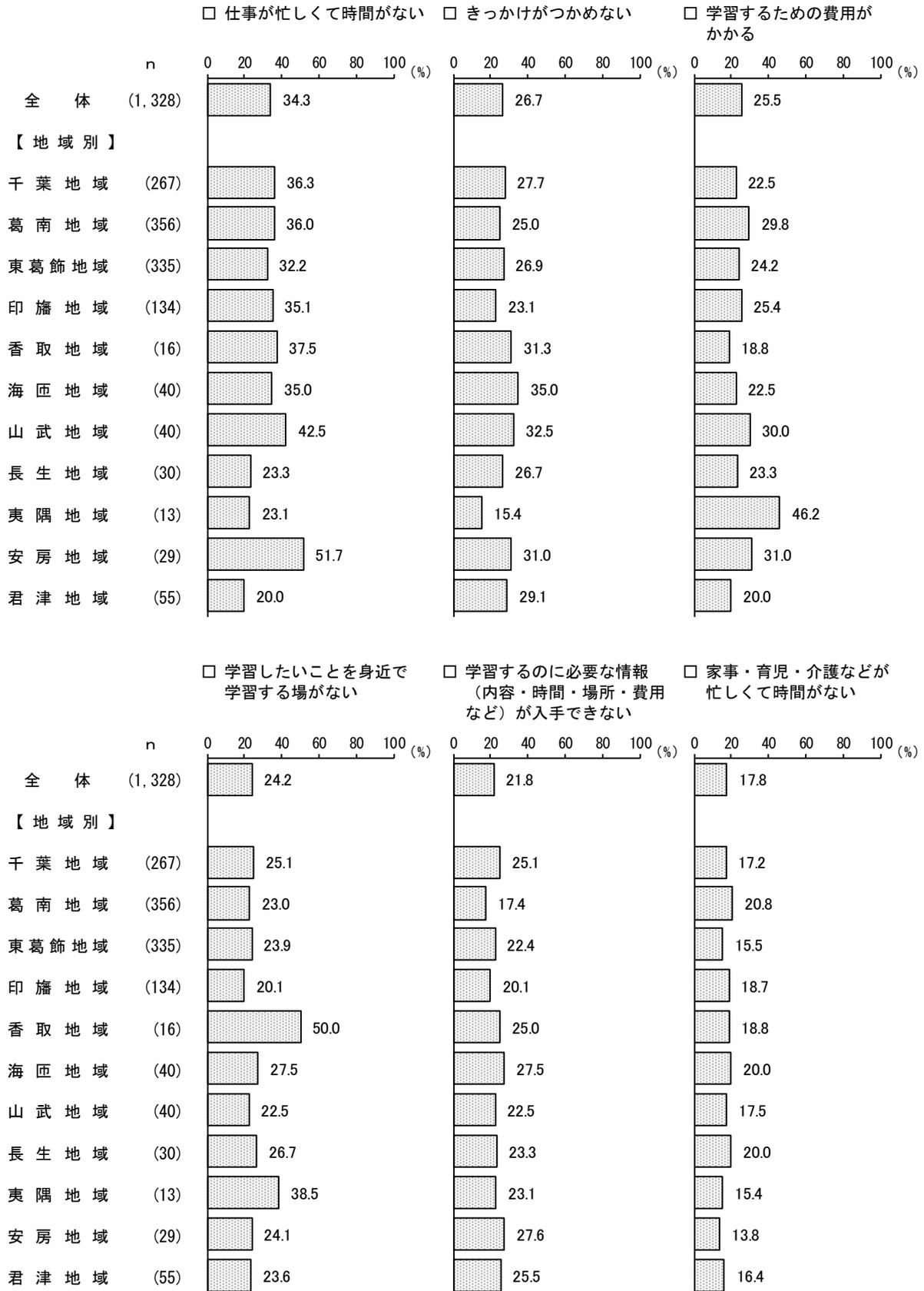
地域別にみると、「学習するための費用がかかる」は“葛南地域”（29.8%）が約3割で高くなっている。（図表8-4）

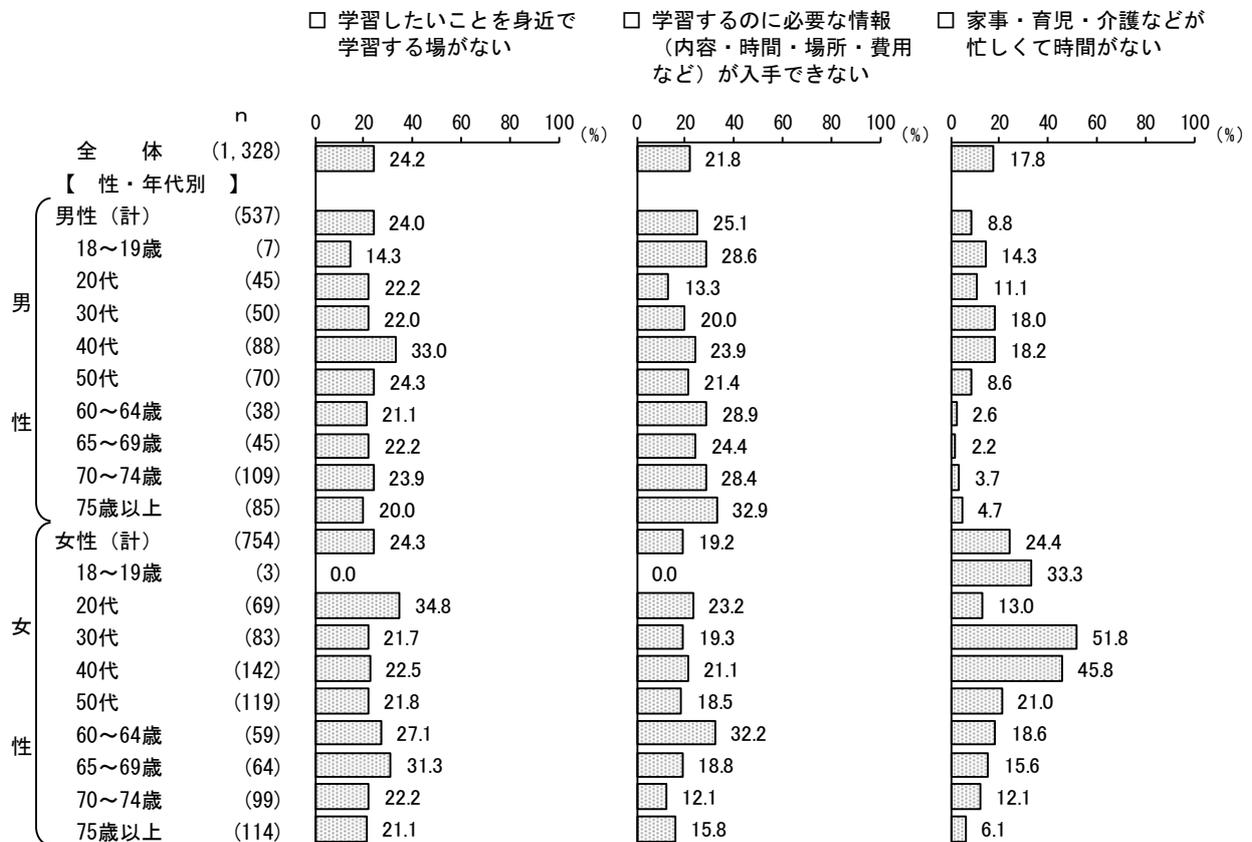
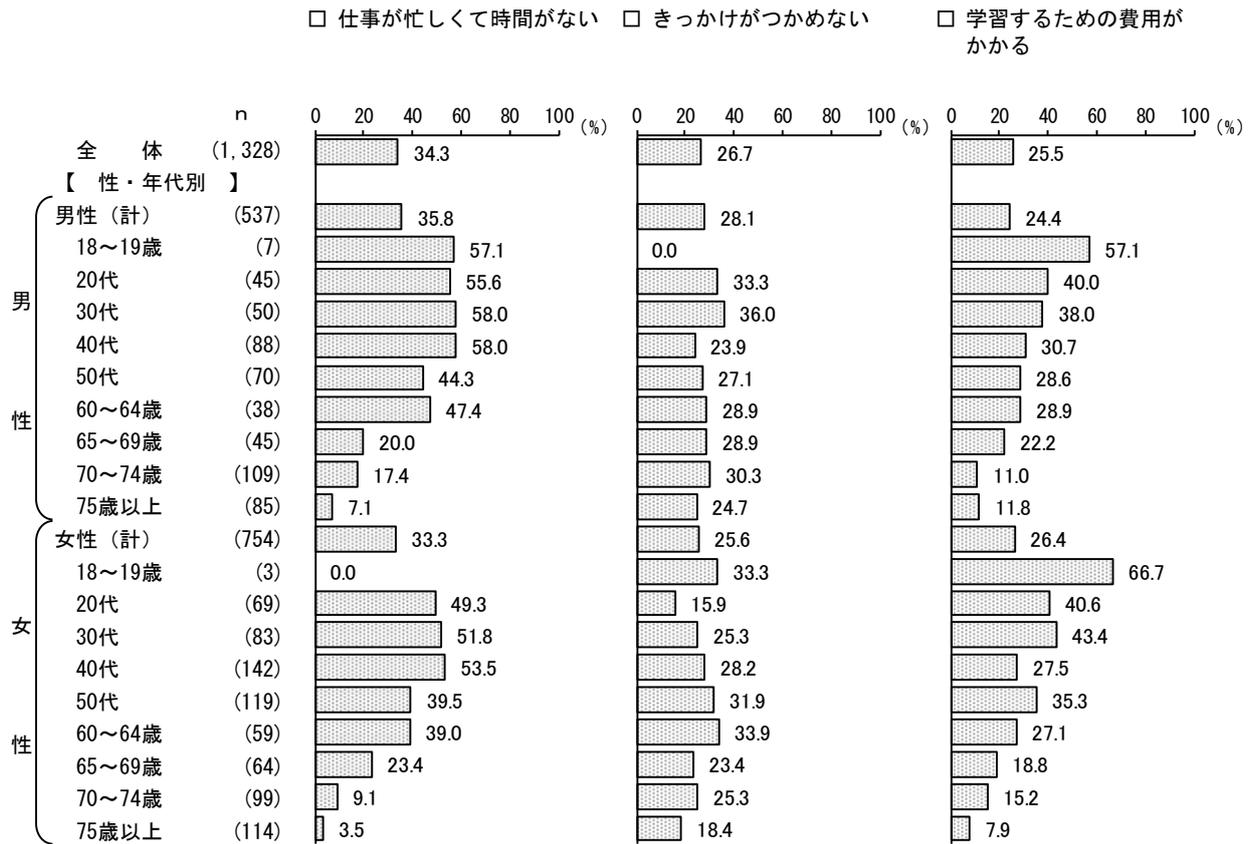
【性・年代別】

性・年代別にみると、「仕事が忙しくて時間がない」は男性の30代（58.0%）と男性の40代（58.0%）が約6割、男性の20代（55.6%）と女性の40代（53.5%）が5割台半ば、女性の30代（51.8%）が5割を超え、女性の20代（49.3%）が約5割で高くなっている。

「学習するための費用がかかる」は女性の30代（43.4%）が4割を超え、女性の20代（40.6%）と男性の20代（40.0%）が4割、男性の30代（38.0%）が約4割、女性の50代（35.3%）が3割台半ばで高くなっている。（図表8-4）

＜図表8-4＞学習する上で困っていること（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）





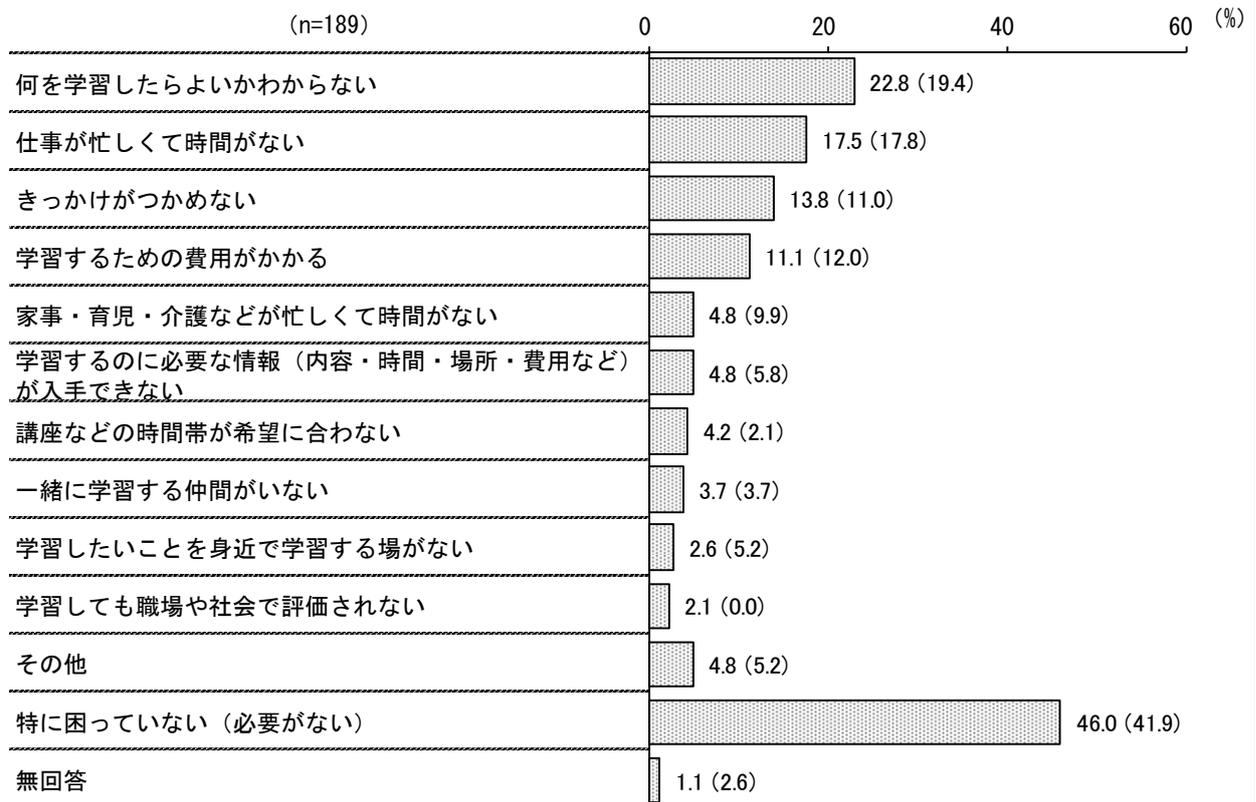
（1－2）学習したいと思わない理由

◇「何を学習したらよいかわからない」が2割を超える

【問35で「学習したいと思わない」を回答した方】

問36 学習する上で困っていることは何ですか。この中からいくつでもあげてください。（問35で「学習したいと思わない」と回答した方は、学習したいと思わない理由をお答えください。）（〇はいくつでも）

<図表8－5>学習したいと思わない理由（複数回答）



注) () の数字は令和5年度の同様の項目による調査結果 n = 191

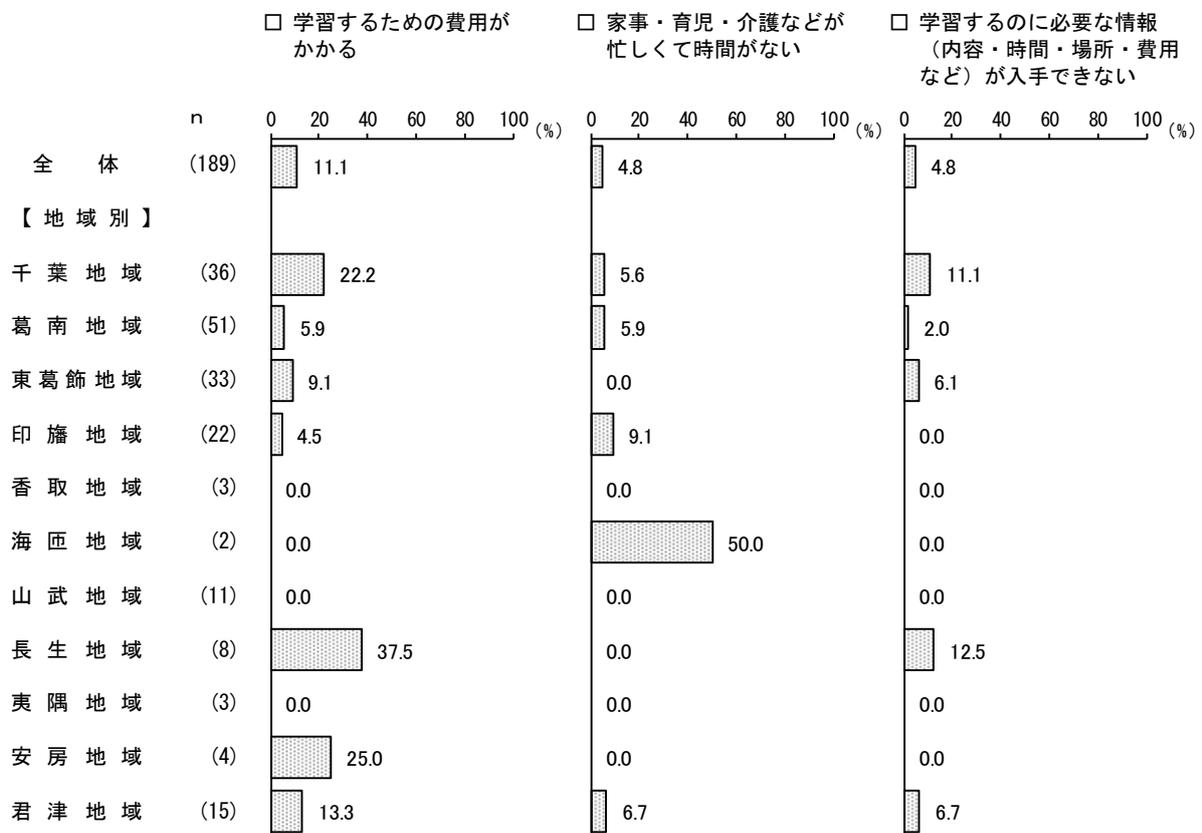
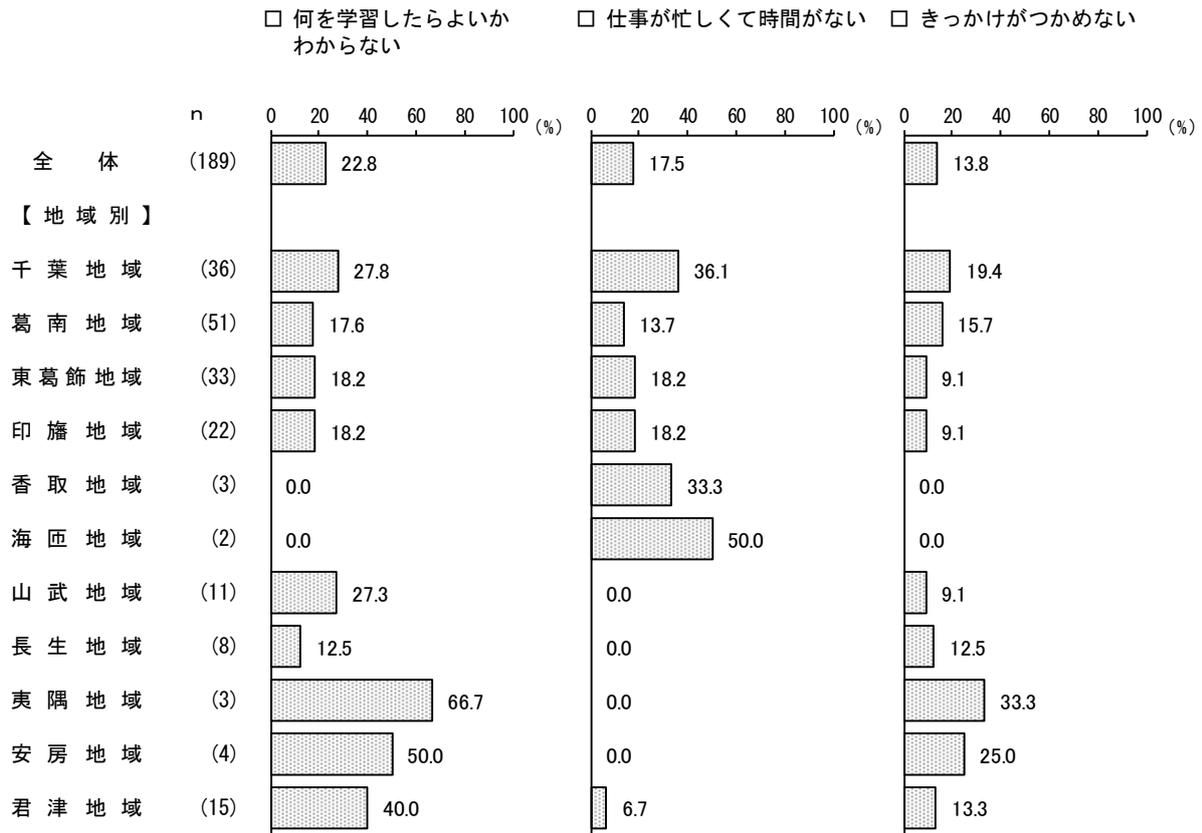
「学習したいと思わない」と回答した189人に、学習したいと思わない理由を聞いたところ、「何を学習したらよいかわからない」(22.8%)が2割を超えて最も高く、以下、「仕事が忙しくて時間がない」(17.5%)、「きっかけがつかめない」(13.8%)、「学習するための費用がかかる」(11.1%)が続く。

一方、「特に困っていない（必要がない）」(46.0%)が4割台半ばとなっている。(図表8－5)

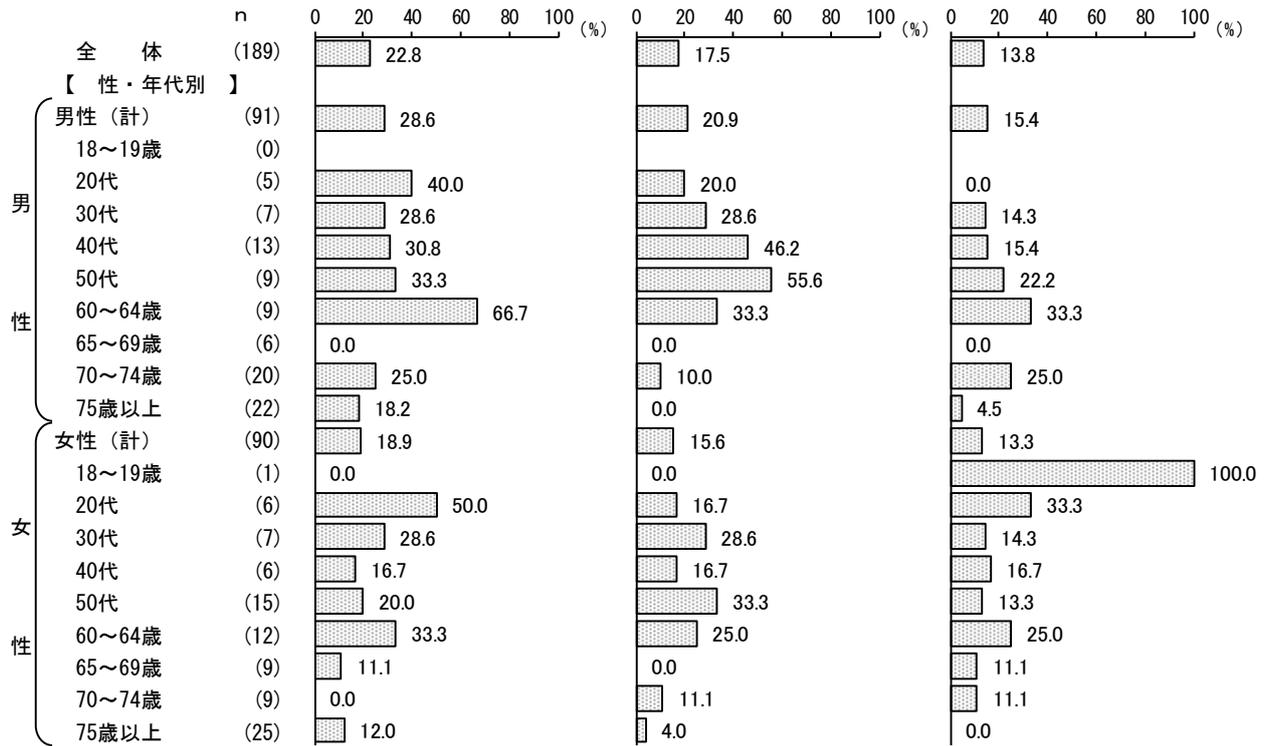
※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

(8ページ「報告書の見方(5)」を参照)(図表8－6)

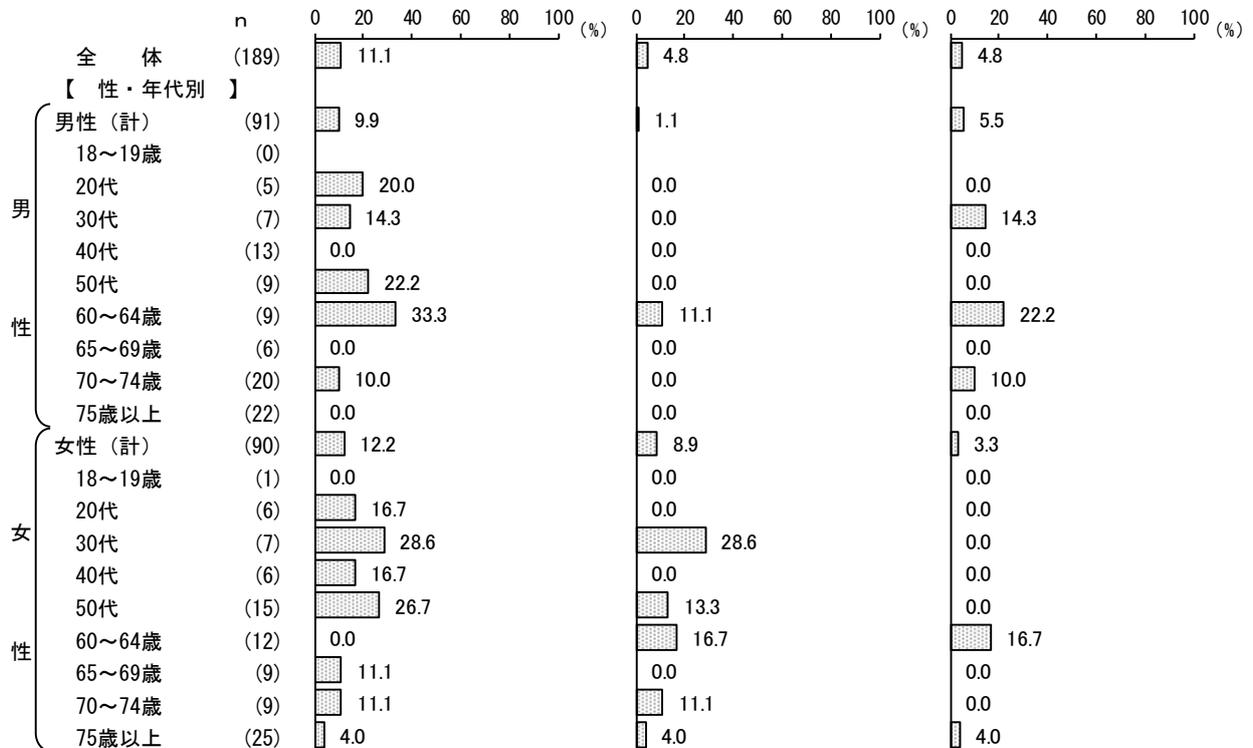
[参考] <図表8-6>学習したいと思わない理由（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）



□ 何を学習したらよいか わからない □ 仕事が忙しくて時間がない □ きっかけがつかめない



□ 学習するための費用がかかる □ 家事・育児・介護などが忙しくて時間がない □ 学習するのに必要な情報（内容・時間・場所・費用など）が入手できない

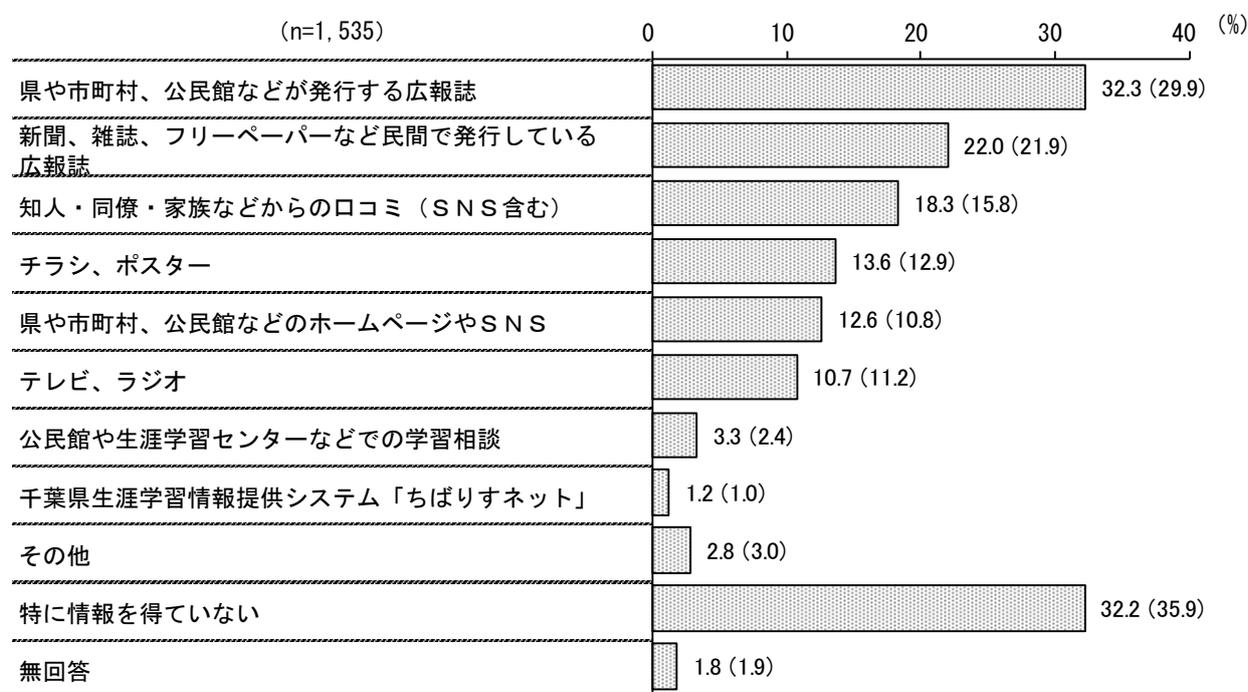


（２）生涯学習の情報を得る手段

◇「県や市町村、公民館などが発行する広報誌」が3割を超える

問37 あなたは、生涯学習の情報をどこから得ていますか。この中からいくつでもあげてください。（〇はいくつでも）

＜図表8-7＞生涯学習の情報を得る手段（複数回答）



注) () の数字は令和5年度の同様の項目による調査結果 n=1,561

生涯学習の情報を得る手段について聞いたところ、「県や市町村、公民館などが発行する広報誌」(32.3%)が3割を超え、以下、「新聞、雑誌、フリーペーパーなど民間で発行している広報誌」(22.0%)、「知人・同僚・家族などからの口コミ（SNS含む）」(18.3%)、「チラシ、ポスター」(13.6%)が続く。

一方、「特に情報を得ていない」(32.2%)が3割を超えている。(図表8-7)

【地域別】

地域別にみると、「県や市町村、公民館などが発行する広報誌」は“長生地域”(52.6%)が5割を超え、“印旛地域”(39.2%)が約4割で高くなっている。(図表8-8)

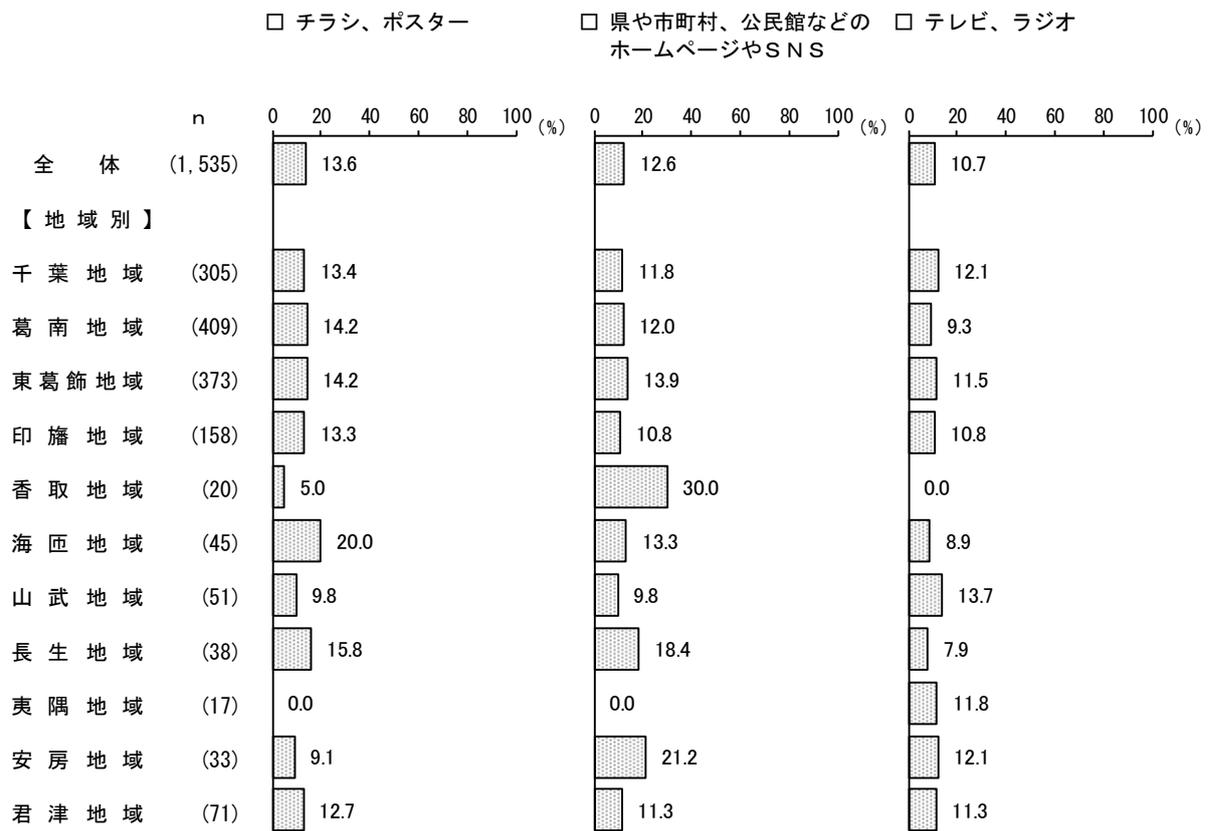
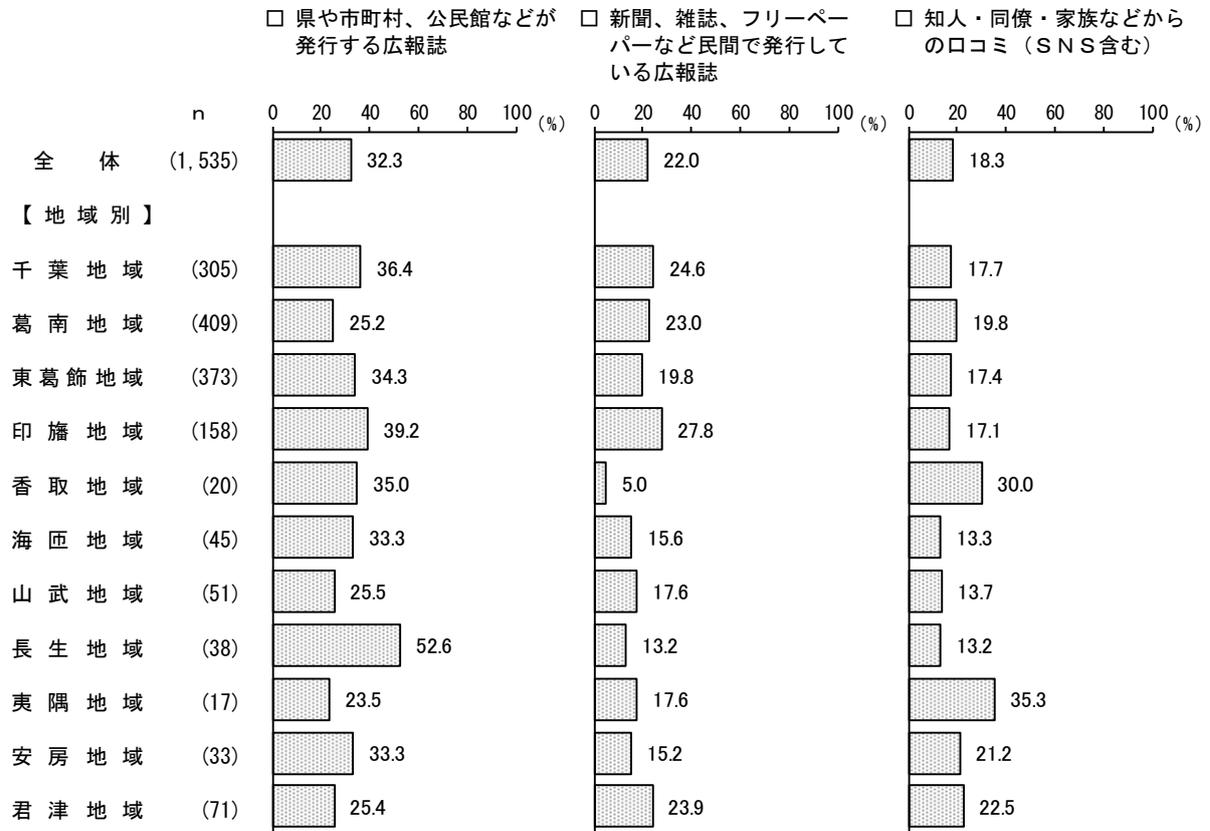
【性・年代別】

性・年代別にみると「県や市町村、公民館などが発行する広報誌」は女性の70～74歳(60.7%)が6割、女性の75歳以上(54.2%)が5割台半ば、男性の65～69歳(47.1%)が約5割、女性の65～69歳(44.6%)と男性の70～74歳(44.3%)が4割台半ば、男性の75歳以上(41.8%)が4割を超えて高くなっている。

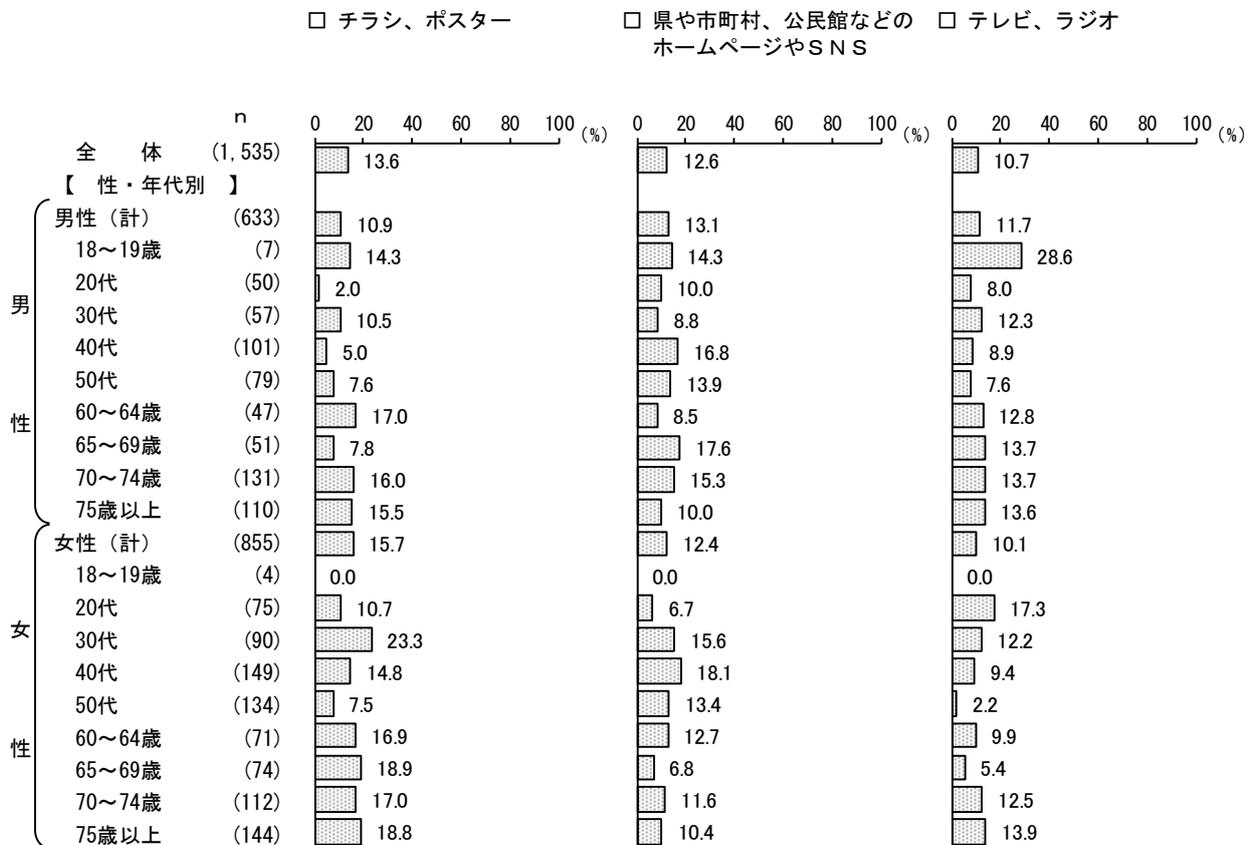
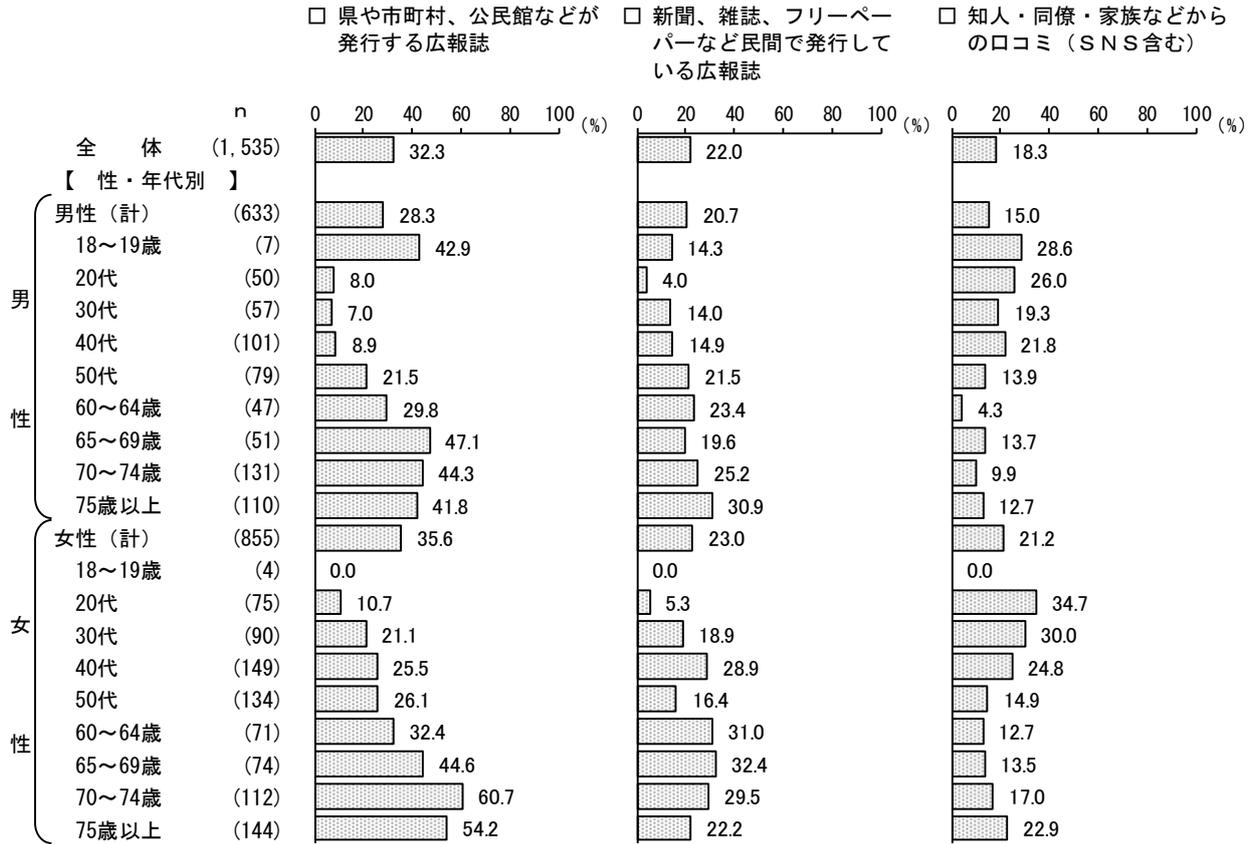
「新聞、雑誌、フリーペーパーなど民間で発行している広報誌」は女性の65～69歳(32.4%)が3割を超え、男性の75歳以上(30.9%)が3割、女性の70～74歳(29.5%)と女性の40代(28.9%)が約3割で高くなっている。

「知人・同僚・家族などからの口コミ（SNS含む）」は女性の20代（34.7%）が3割台半ば、女性の30代（30.0%）が3割、女性の40代（24.8%）が2割台半ばで高くなっている。（図表8-8）

<図表8-8>生涯学習の情報を得る手段（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）



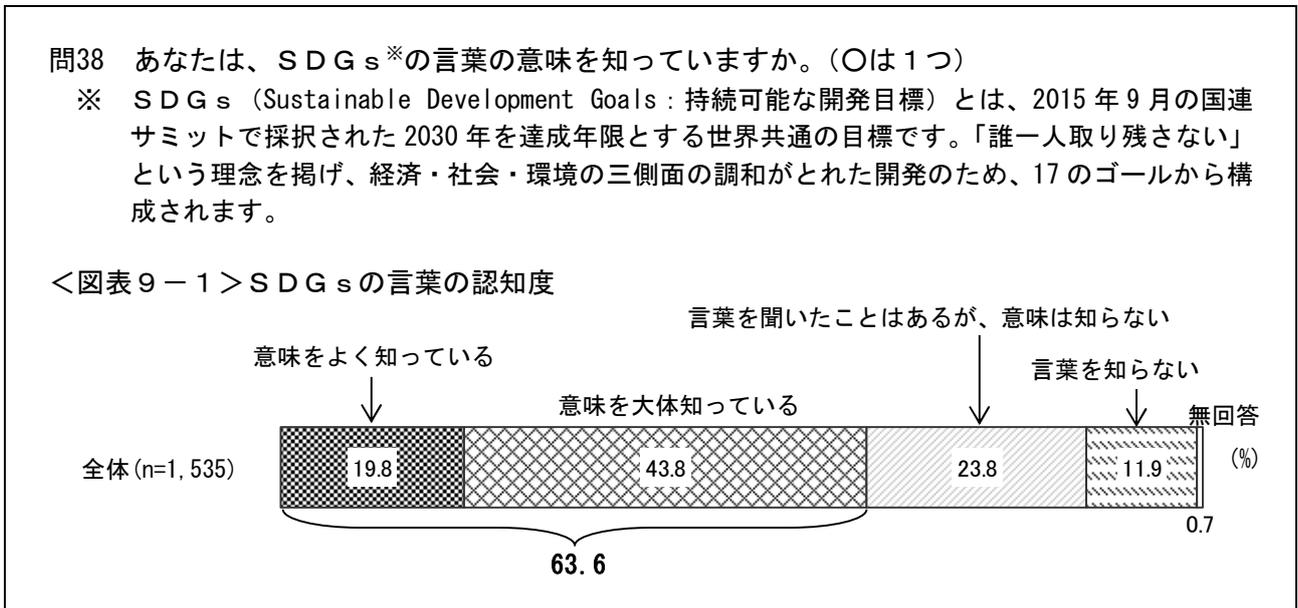
第67回県政に関する世論調査（R6年度）



9 SDGs・多様性尊重等について

(1) SDGsの言葉の認知度

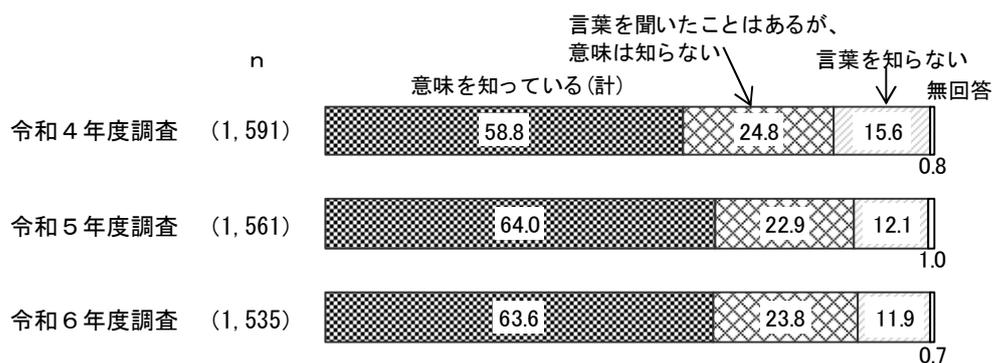
◇『意味を知っている（計）』が6割台半ば



SDGsの言葉の意味を知っているか聞いたところ、「意味をよく知っている」（19.8%）と「意味を大体知っている」（43.8%）を合わせた『意味を知っている（計）』（63.6%）が6割台半ばとなっている。

一方、「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」（23.8%）が2割台半ば、「言葉を知らない」（11.9%）が1割を超えている。（図表9-1）

【参考】令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

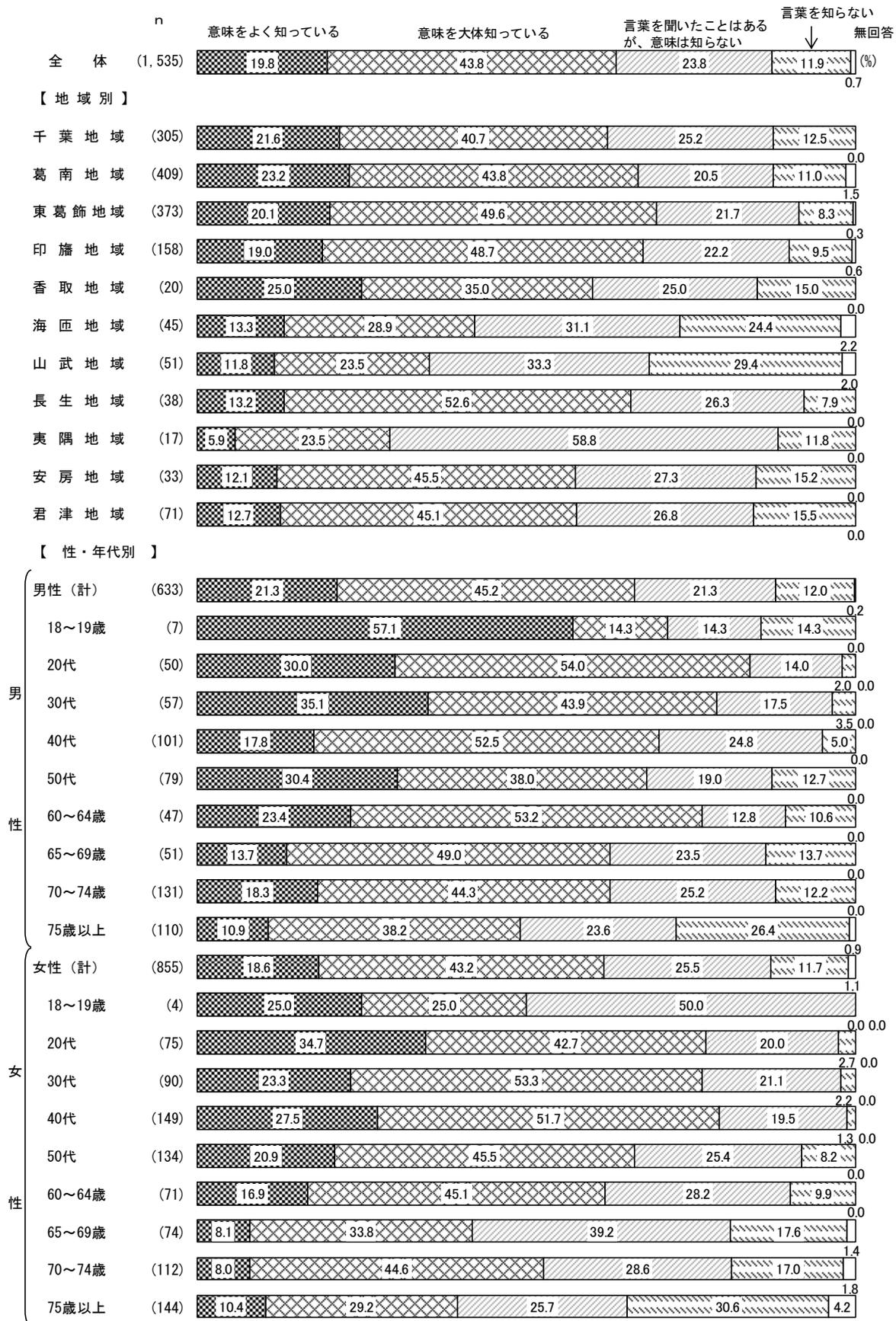
地域別にみると、『意味を知っている（計）』は“東葛飾地域”（69.7%）が約7割で高くなっている。一方、「言葉を知らない」は“山武地域”（29.4%）が約3割、“海匝地域”（24.4%）が2割台半ばで高くなっている。（図表9-2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『意味を知っている（計）』は男性の20代（84.0%）が8割台半ば、女性の40代（79.2%）、男性の30代（78.9%）、女性の20代（77.3%）が約8割、女性の30代（76.7%）が7割台半ばで高くなっている。

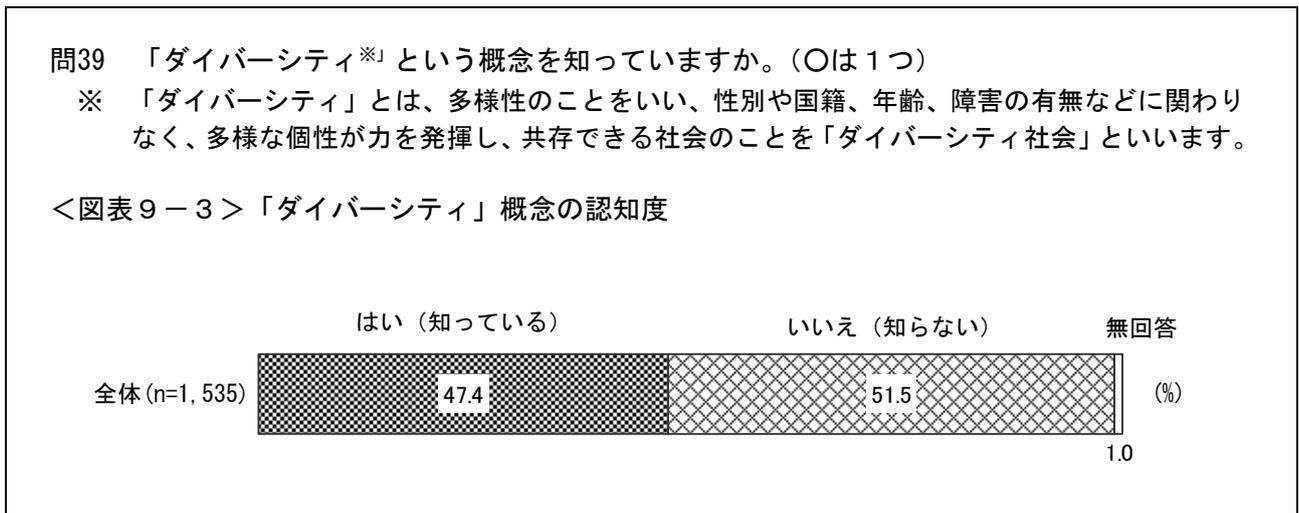
一方、「言葉を知らない」は女性の75歳以上（30.6%）が3割、男性の75歳以上（26.4%）が2割台半ばで高くなっている。（図表9-2）

<図表9-2>SDGsの言葉の認知度／地域別、性・年代別



（2）「ダイバーシティ」概念の認知度

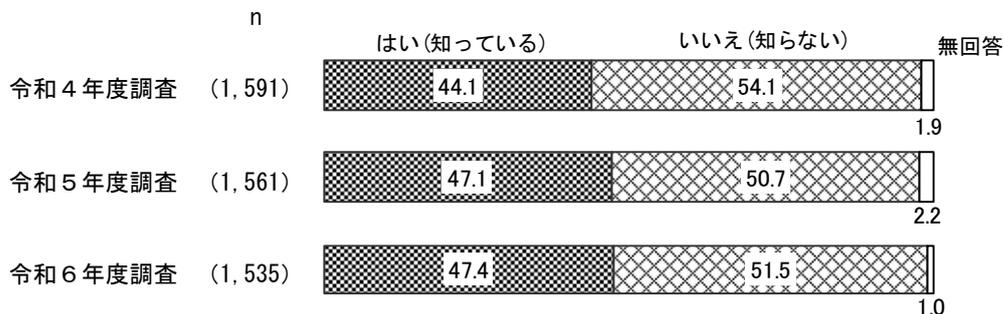
◇『はい（知っている）』が約5割



「ダイバーシティ」という概念を知っているか聞いたところ、『はい（知っている）』（47.4%）が約5割となっている。

一方、『いいえ（知らない）』（51.5%）が5割を超えている。（図表9-3）

【参考】令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、『はい（知っている）』は“葛南地域”（54.3%）が5割台半ば、“東葛飾地域”（53.1%）が5割を超えて高くなっている。

一方、『いいえ（知らない）』は“山武地域”（68.6%）が約7割で高くなっている。

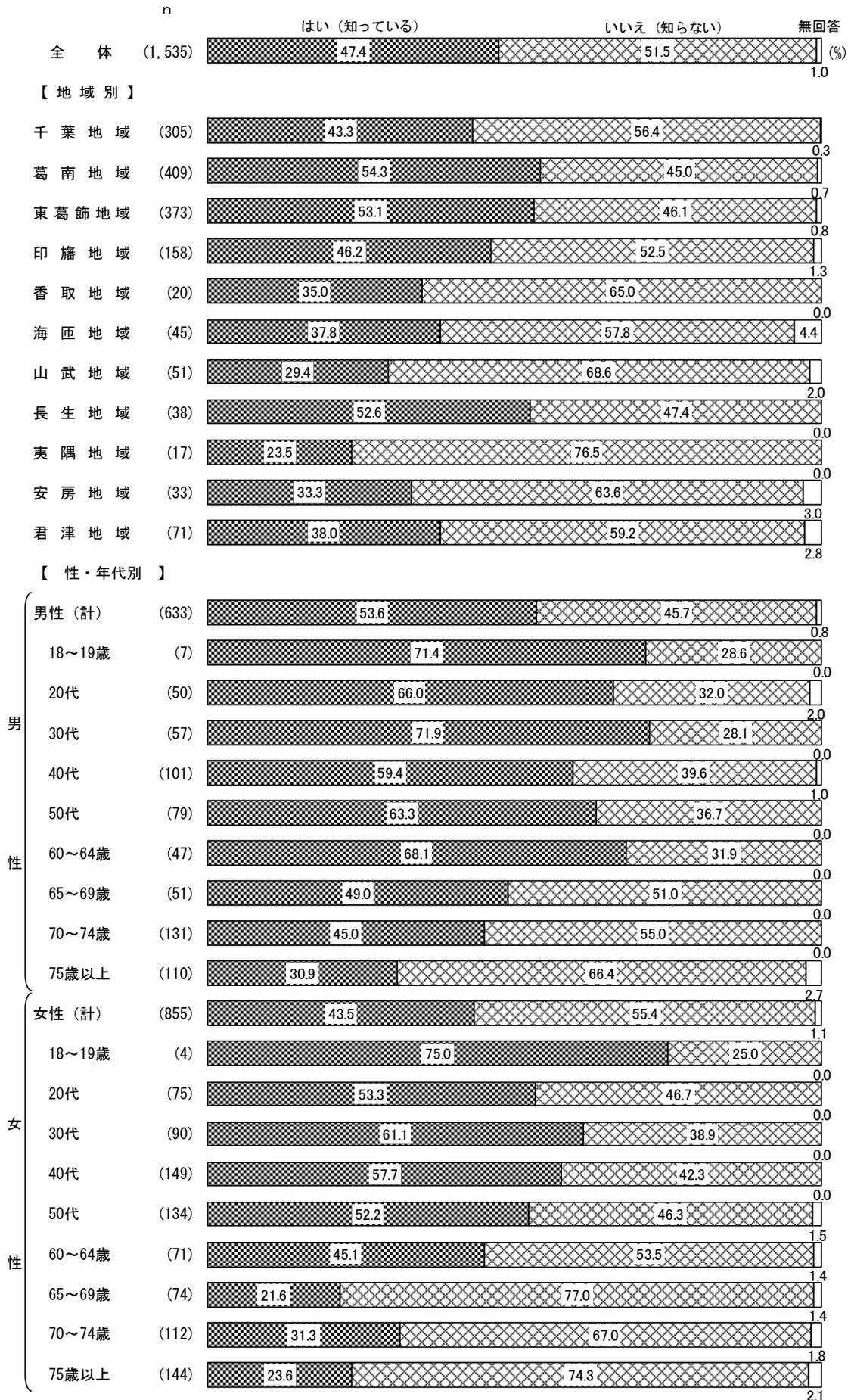
（図表9-4）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『はい（知っている）』は男性の30代（71.9%）が7割を超え、男性の60～64歳（68.1%）が約7割、男性の20代（66.0%）が6割台半ば、男性の50代（63.3%）と女性の30代（61.1%）が6割を超え、男性の40代（59.4%）と女性の40代（57.7%）が約6割で高くなっている。

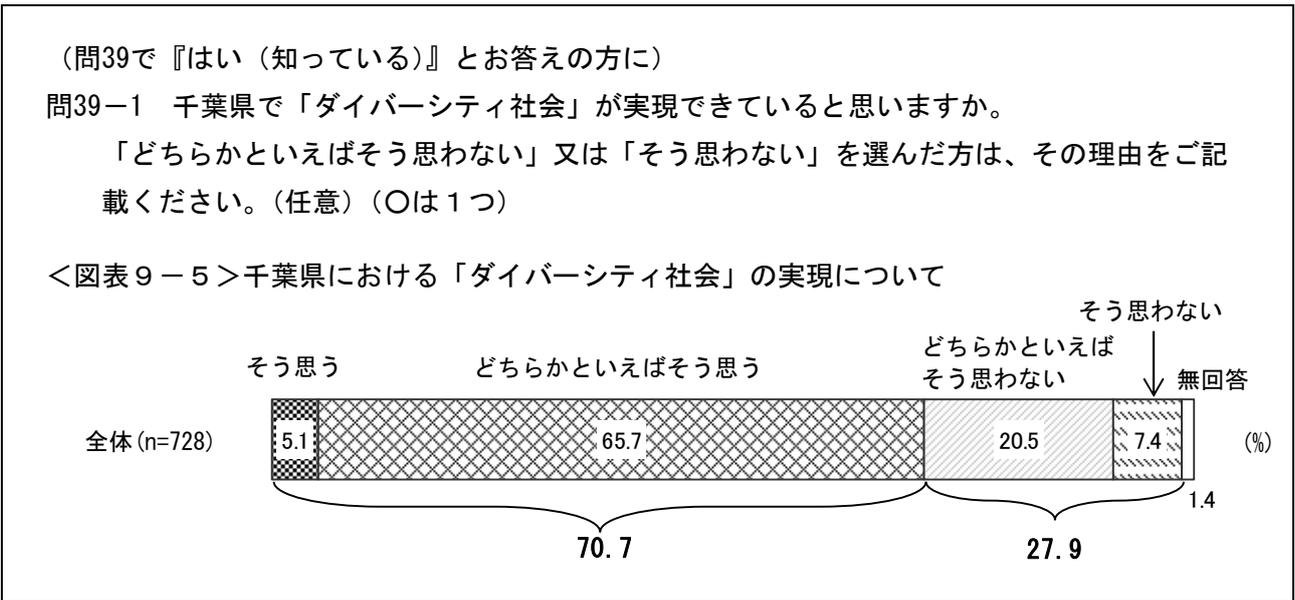
一方、『いいえ（知らない）』は女性の65～69歳（77.0%）が約8割、女性の75歳以上（74.3%）が7割台半ば、女性の70～74歳（67.0%）が約7割、男性の75歳以上（66.4%）が6割台半ばで高くなっている。（図表9-4）

<図表9-4> 「ダイバーシティ」概念の認知度／地域別、性・年代別



（2-1）千葉県における「ダイバーシティ社会」の実現について

◇『そう思う（計）』が7割



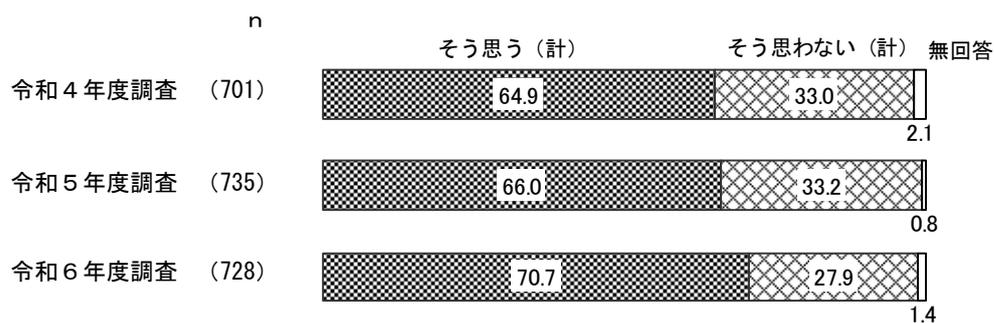
ダイバーシティの概念を知っている728人を対象に、千葉県でダイバーシティ社会が実現できているか聞いたところ、「そう思う」(5.1%)と「どちらかといえばそう思う」(65.7%)を合わせた『そう思う（計）』(70.7%)が7割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(20.5%)と「そう思わない」(7.4%)を合わせた『そう思わない（計）』(27.9%)が約3割となっている。（図表9-5）

どちらかといえばそう思わない／そう思わないを選んだ人の理由は以下の通り。

- ・ダイバーシティ社会の実感がない／具体例を知らないため（40件）
- ・社会の取組みが進んでいない／浸透していないため（31件）
- ・多様性との共存が難しいと感じるから（15件）
- ・性別による格差があるため（13件）
- ・障がいによる差別があるため（13件）
- ・差別や偏見があるため／なくならないため（13件）
- ・国籍、人種、言語による差別があるため（7件）
- ・保守的な体制や考え方の人々が多いため（5件）
- ・地域によって差がある（3件）
- ・年齢による格差があるため（2件）
- ・行政ではなく個人で取り組むべき（2件）
- ・わからない（6件）
- ・その他（17件）

〔参考〕 令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

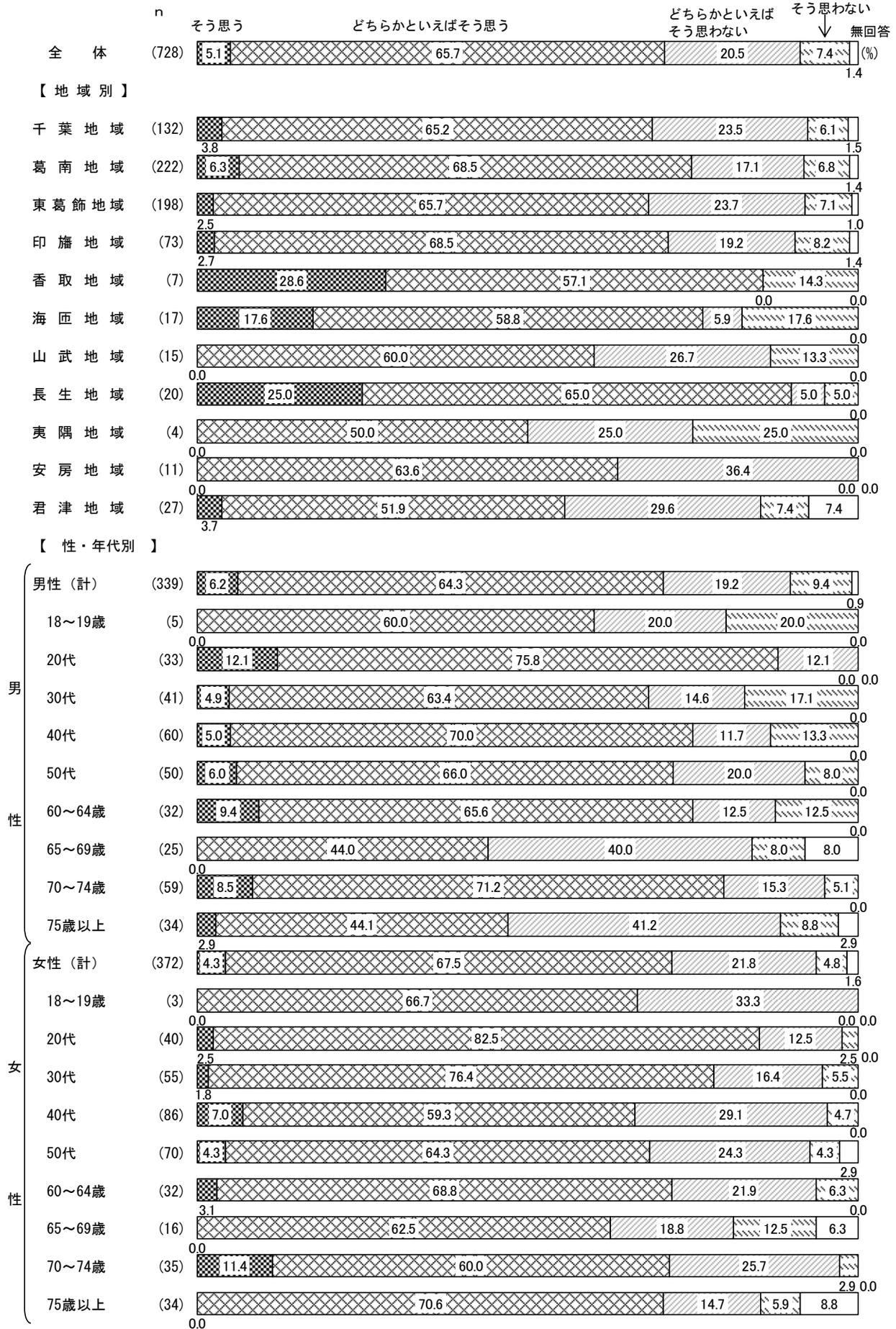
地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表9-6）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う（計）』は男性の20代（87.9％）が約9割、女性の20代（85.0％）が8割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の75歳以上（50.0％）が5割で高くなっている。（図表9-6）

<図表9-6>千葉県における「ダイバーシティ社会」の実現について／地域別、性・年代別



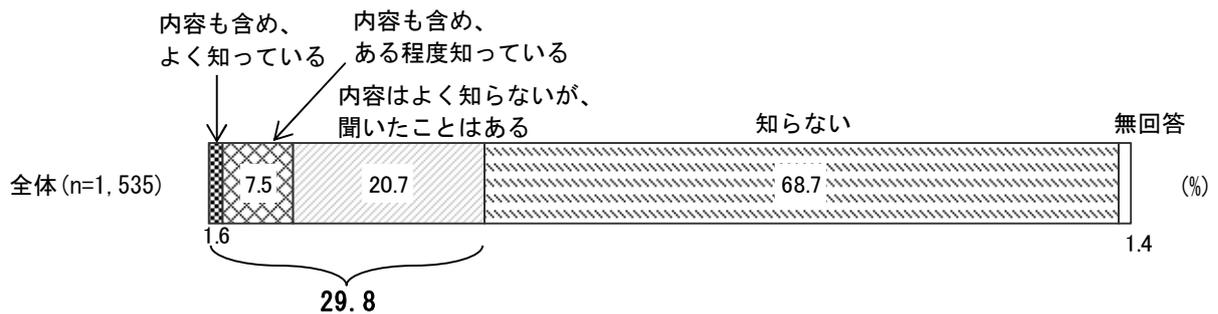
（3）「多様性尊重条例」の認知度

◇『聞いたことがある（計）』が約3割

問40 あなたは、「千葉県多様性が尊重され誰もが活躍できる社会の形成の推進に関する条例」（多様性尊重条例※）を知っていますか。

※ 多様性尊重条例とは、あらゆる人々が差別を受けることなく、一人ひとりが様々な違いがある個人として尊重され、誰もが参加し、その人らしく活躍することができる社会の形成を推進するために制定した理念条例であり、令和6年1月から施行されています。

＜図表9-7＞「多様性尊重条例」の認知度



「多様性尊重条例」について知っているか聞いたところ、「内容も含め、よく知っている」(1.6%)、「内容も含め、ある程度知っている」(7.5%)、「内容はよく知らないが、聞いたことはある」(20.7%)の3つを合わせた『聞いたことがある（計）』(29.8%)が約3割となっている。

一方、「知らない」(68.7%)が約7割となっている。(図表9-7)

【地域別】

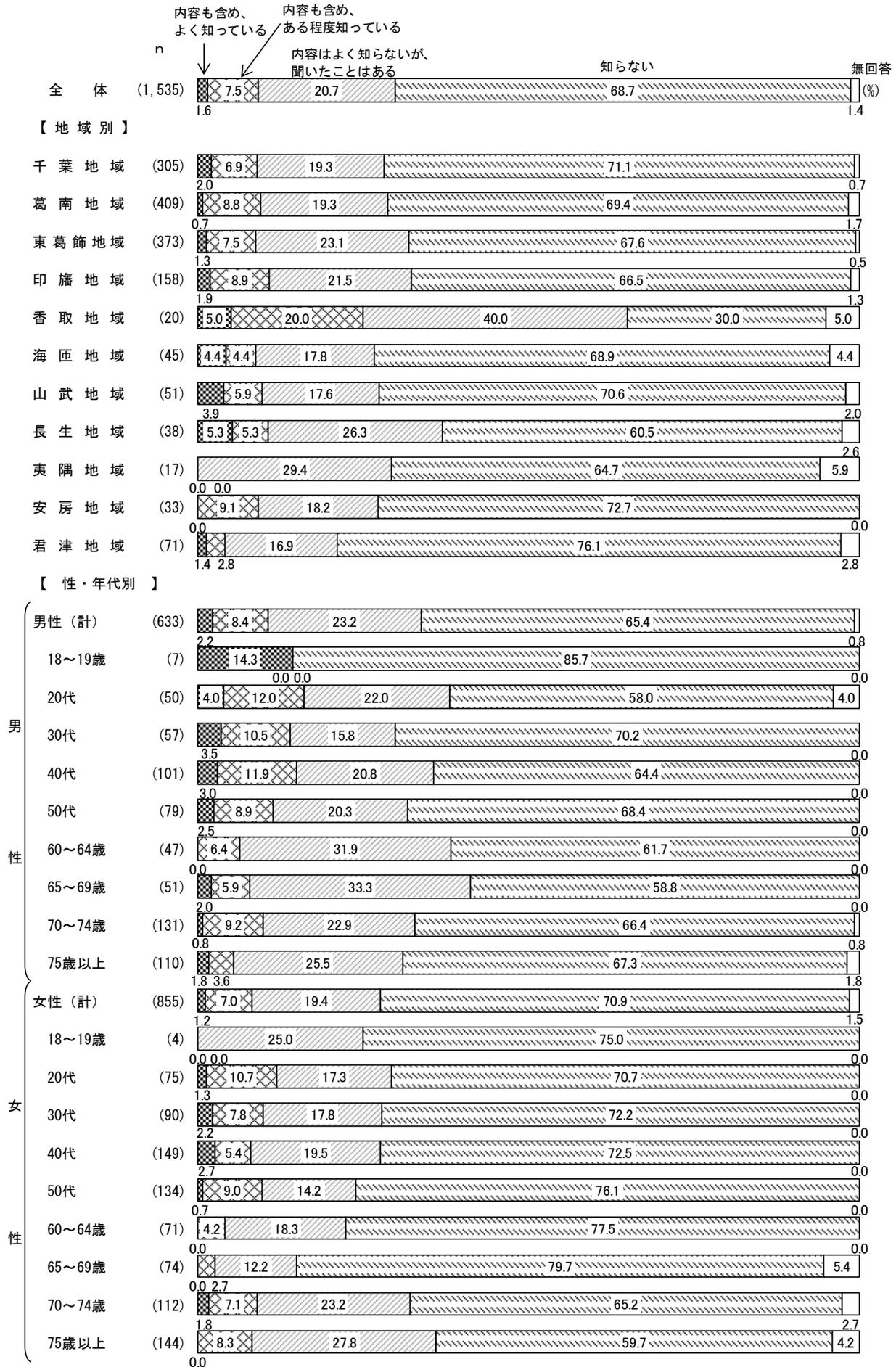
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。(図表9-8)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「知らない」は女性の65～69歳(79.7%)が約8割で高くなっている。

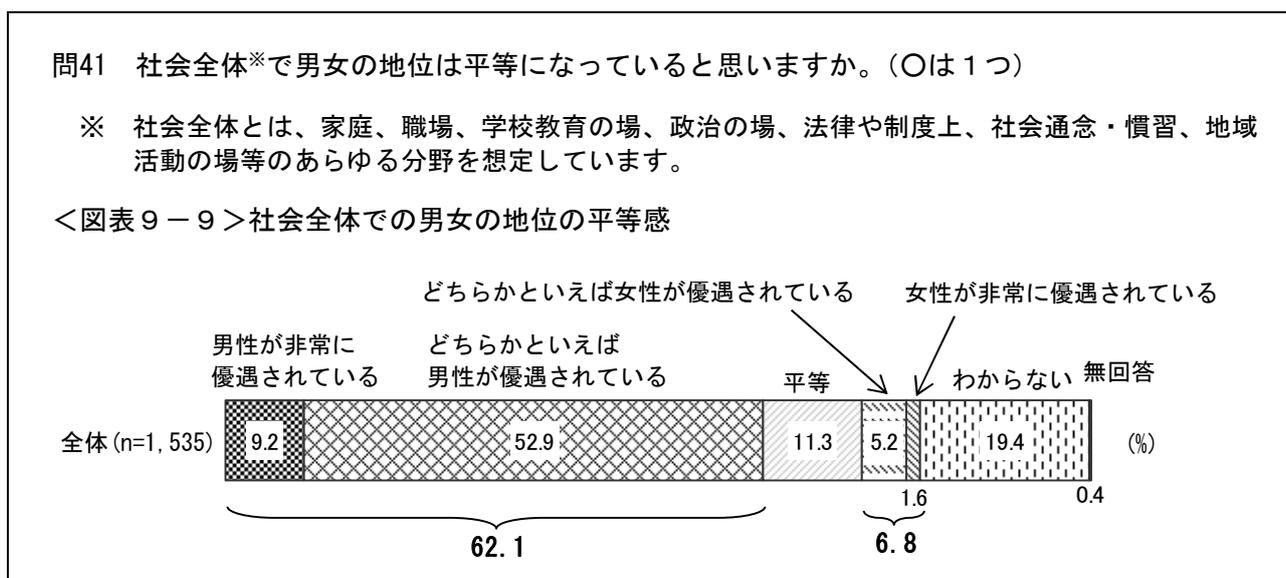
(図表9-8)

＜図表9－8＞「多様性尊重条例」の認知度／地域別、性・年代別



（４）社会全体での男女の地位の平等感

◇『男性が優遇されている（計）』が6割を超える

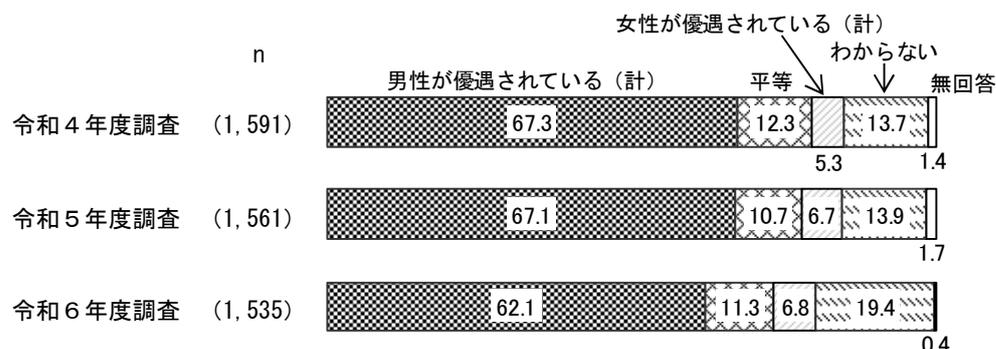


社会全体で男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ、「男性が非常に優遇されている」(9.2%)と「どちらかといえば男性が優遇されている」(52.9%)を合わせた『男性が優遇されている（計）』(62.1%)が6割を超えている。

一方、「どちらかといえば女性が優遇されている」(5.2%)と「女性が非常に優遇されている」(1.6%)を合わせた『女性が優遇されている（計）』(6.8%)は1割未満となっている。

「平等」(11.3%)は1割を超えている。(図表9-9)

【参考】令和4年度・5年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。(図表9-10)

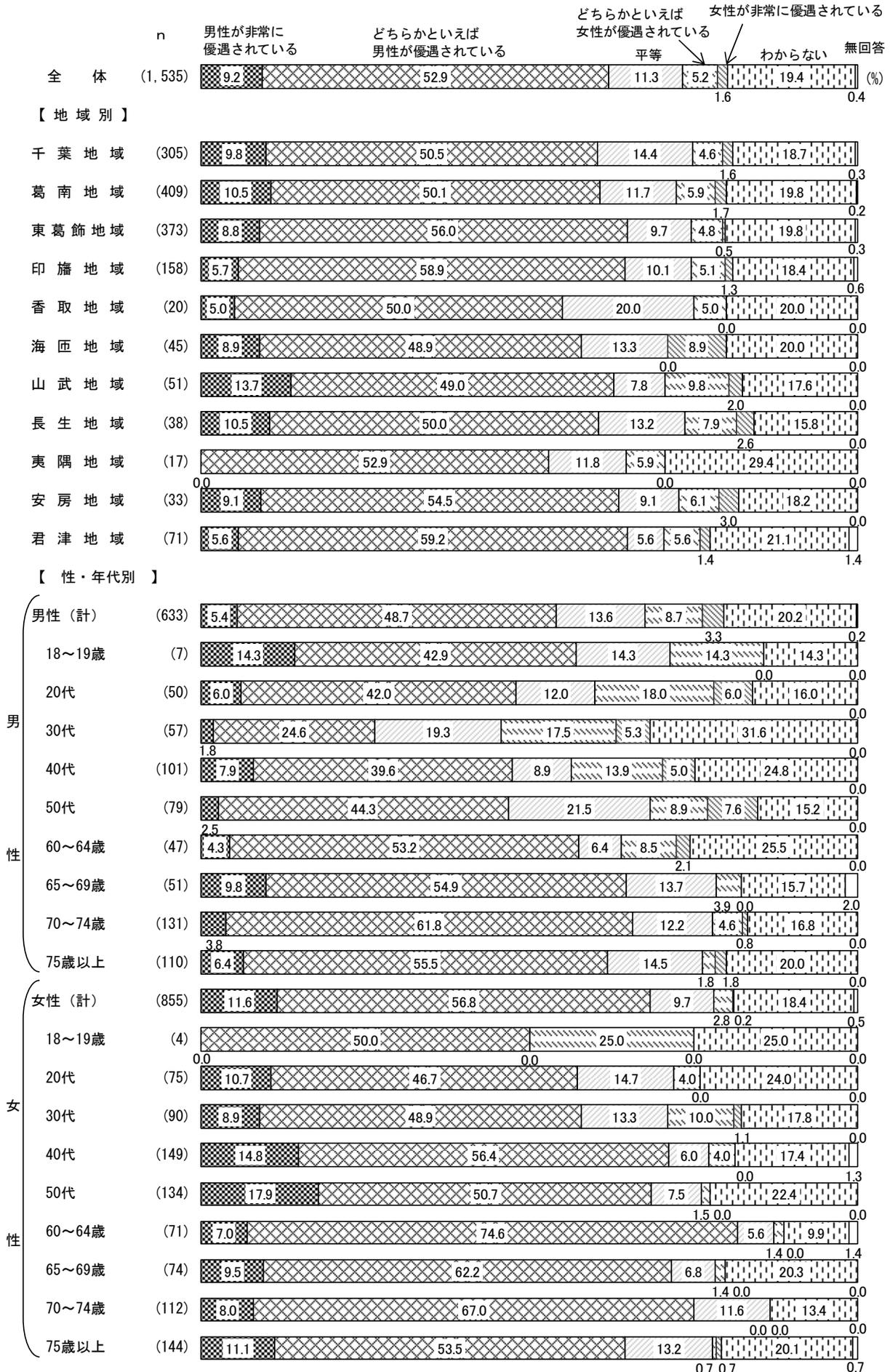
【性・年代別】

性・年代別にみると、『男性が優遇されている（計）』は女性の60～64歳(81.7%)が8割を超え、女性の70～74歳(75.0%)が7割台半ば、女性の40代(71.1%)が7割を超えて高くなっている。

一方、『女性が優遇されている（計）』は男性の20代(24.0%)が2割台半ば、男性の30代(22.8%)が2割を超え、男性の40代(18.8%)が約2割、男性の50代(16.5%)が1割台半ばで高くなっている。

「平等」は男性の50代(21.5%)が2割を超えて高くなっている。(図表9-10)

<図表9-10>社会全体での男女の地位の平等感／地域別、性・年代別

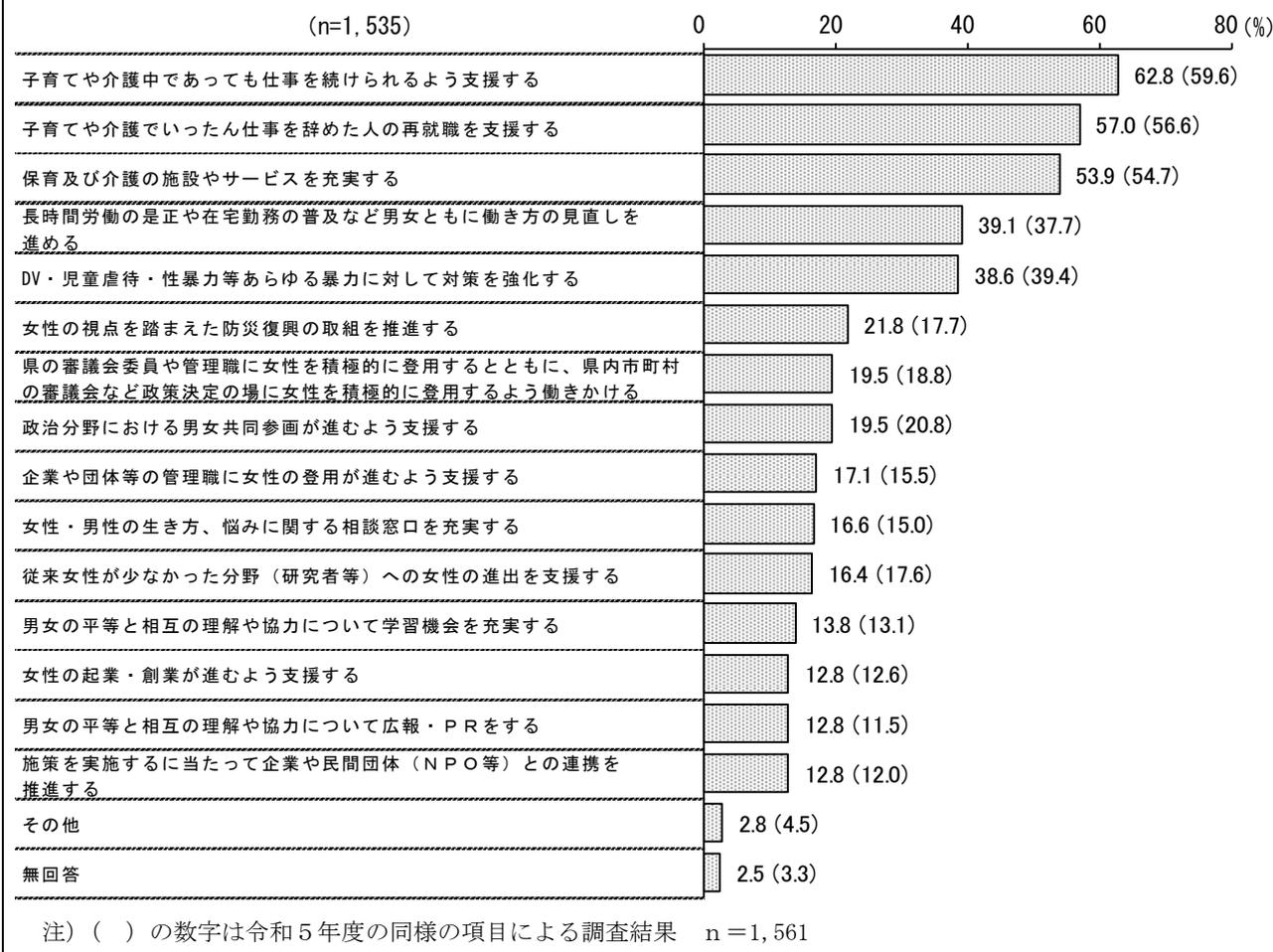


（5）男女共同参画社会を実現するための取組

◇「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」が6割を超える

問42 男女共同参画社会を実現するための様々な取組のなかで、今後、県はどのようなことにより力を入れるべきと考えますか。（○はいくつでも）

＜図表9-11＞男女共同参画社会を実現するための取組（複数回答）



男女共同参画社会を実現するために今後県が力を入れるべき取組を聞いたところ、「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」（62.8%）が6割を超えて最も高く、以下、「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」（57.0%）、「保育及び介護の施設やサービスを充実する」（53.9%）、「長時間労働の是正や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」（39.1%）が続く。（図表9-11）

【地域別】

地域別にみると、「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」は“山武地域”（72.5%）が7割を超えて高くなっている。

「保育及び介護の施設やサービスを充実する」は“安房地域”（72.7%）が7割を超え、“山武地域”（70.6%）が7割で高くなっている。（図表9-12）

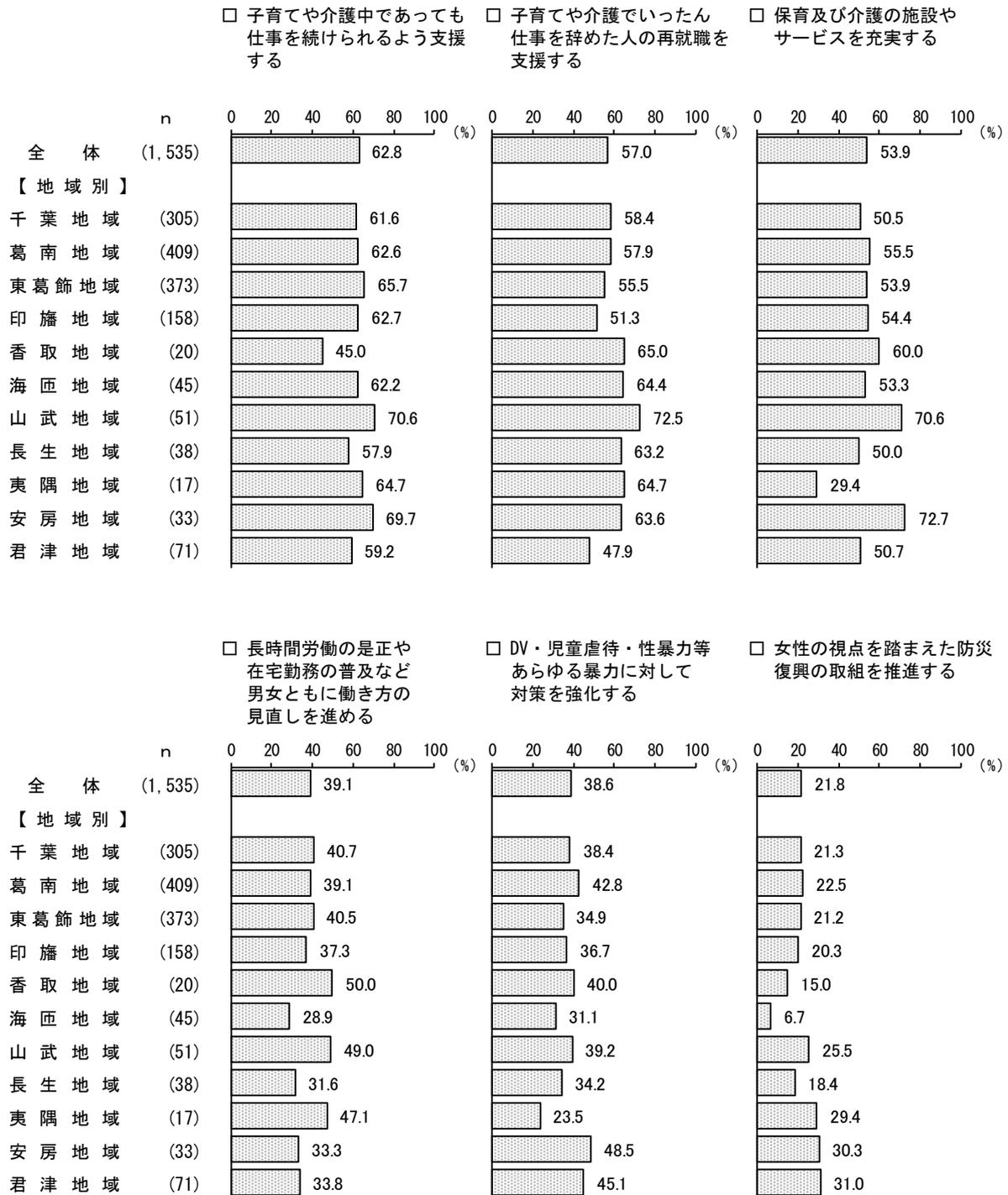
【性・年代別】

性・年代別にみると、「保育及び介護の施設やサービスを充実する」は女性の65～69歳（67.6%）が約7割で高くなっている。

「長時間労働の是正や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」は女性の30代（63.3%）が6割を超え、女性の20代（57.3%）が約6割、男性の30代（54.4%）が5割台半ばで高くなっている。（図表9-12）

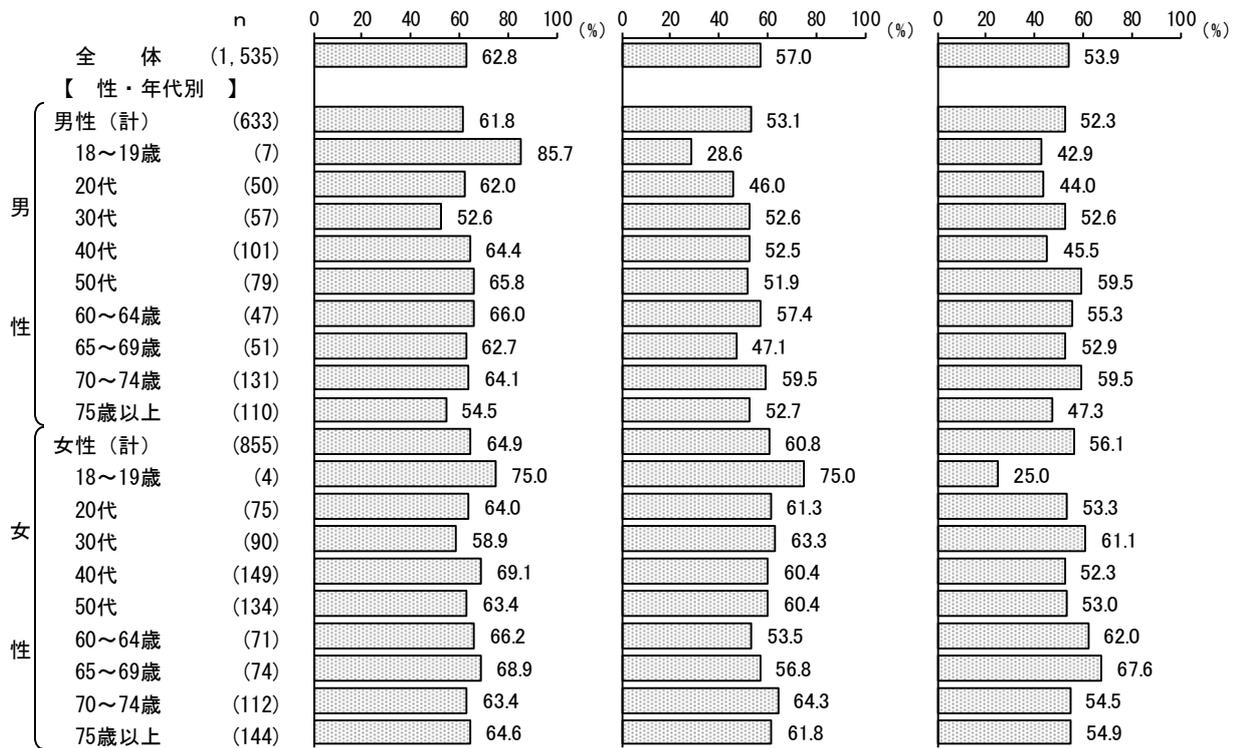
<図表9-12>男女共同参画社会を実現するための取組（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位6項目）

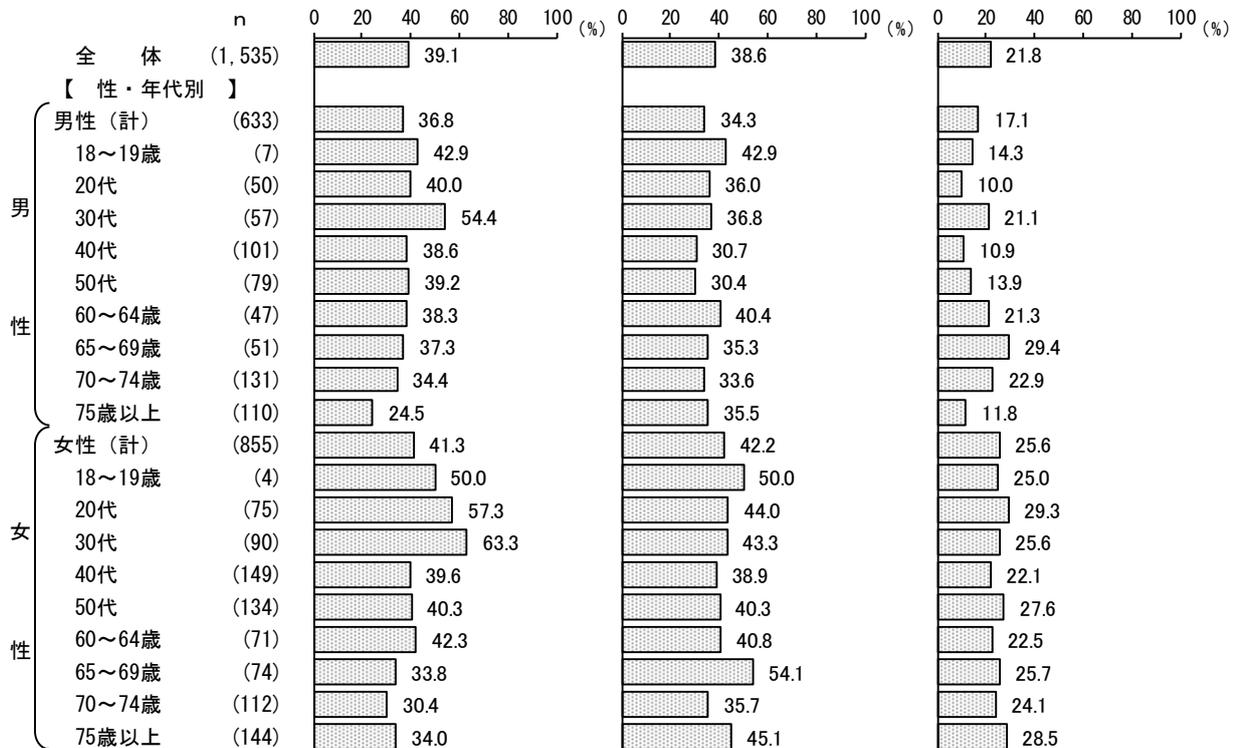


第67回県政に関する世論調査（R6年度）

□ 子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する
 □ 子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
 □ 保育及び介護の施設やサービスを充実する



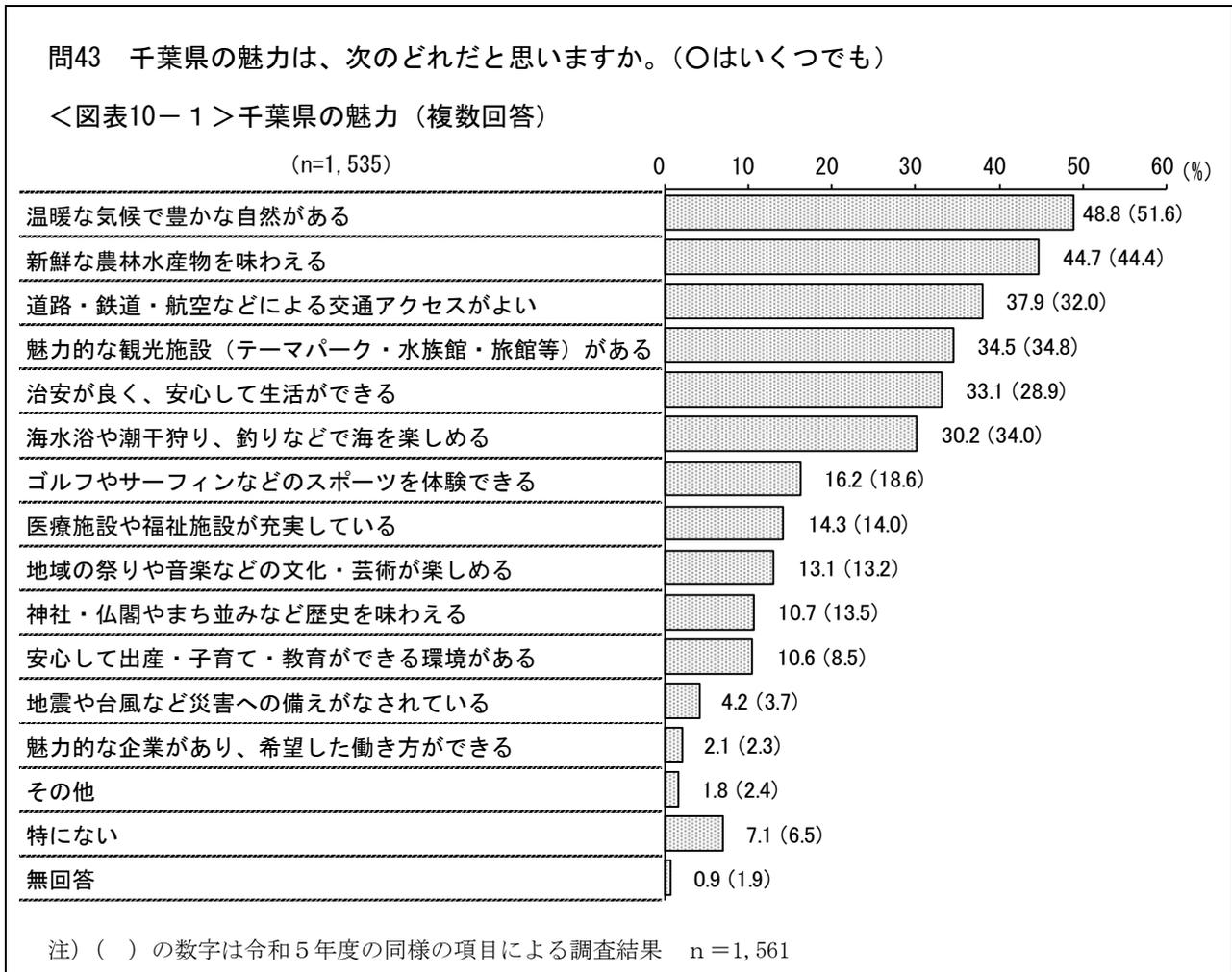
□ 長時間労働の是正や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める
 □ DV・児童虐待・性暴力等あらゆる暴力に対して対策を強化する
 □ 女性の視点を踏まえた防災復興の取組を推進する



10 県の魅力について

（1）千葉県の魅力

◇「温暖な気候で豊かな自然がある」が約5割



千葉県の魅力を聞いたところ、「温暖な気候で豊かな自然がある」(48.8%)が約5割で最も高く、以下、「新鮮な農林水産物を味わえる」(44.7%)、「道路・鉄道・航空などによる交通アクセスがよい」(37.9%)、「魅力的な観光施設（テーマパーク・水族館・旅館等）がある」(34.5%)が続く。

(図表10-1)

【地域別】

地域別にみると、「温暖な気候で豊かな自然がある」は“長生地域”（78.9%）が約8割、“安房地域”（72.7%）が7割を超え、“君津地域”（67.6%）が約7割、“海匝地域”（66.7%）が6割台半ば、“山武地域”（62.7%）が6割を超えて高くなっている。

「新鮮な農林水産物を味わえる」は“安房地域”（66.7%）と“海匝地域”（64.4%）が6割台半ば、“長生地域”（63.2%）が6割を超え、“山武地域”（58.8%）が約6割で高くなっている。

「道路・鉄道・航空などによる交通アクセスがよい」は“葛南地域”（47.7%）が約5割で高くなっている。

「魅力的な観光施設（テーマパーク・水族館・旅館等）がある」は“葛南地域”（40.1%）が4割で高くなっている。（図表10-2）

【性・年代別】

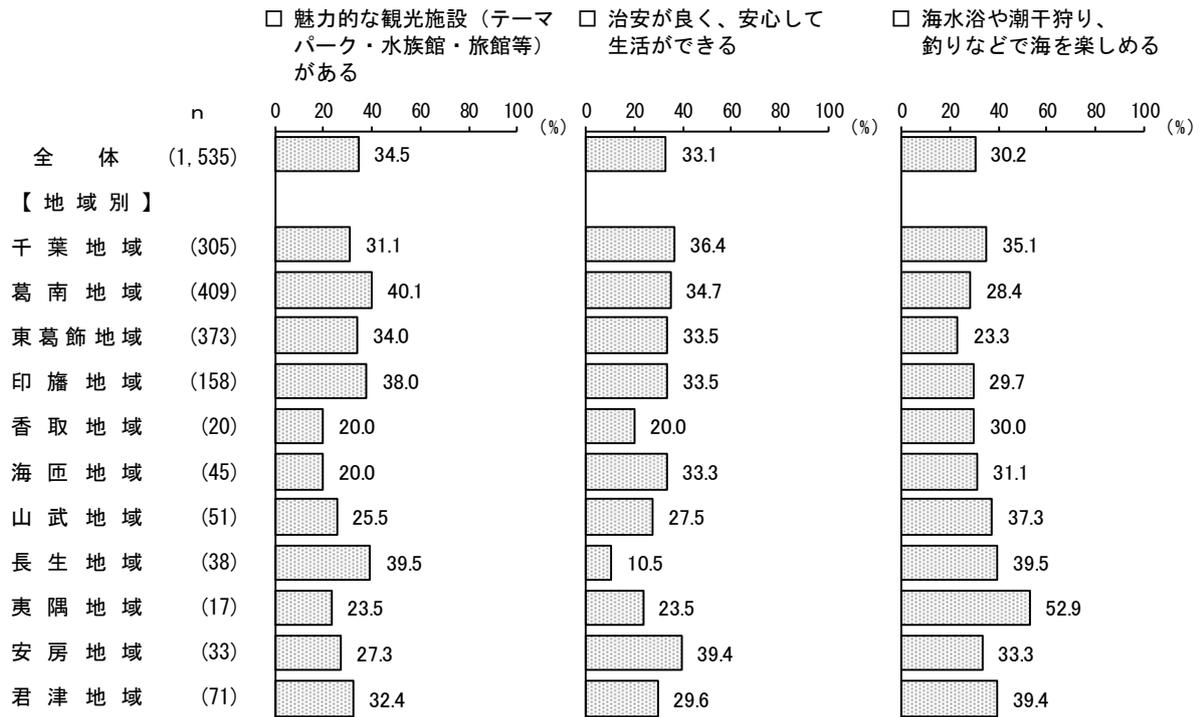
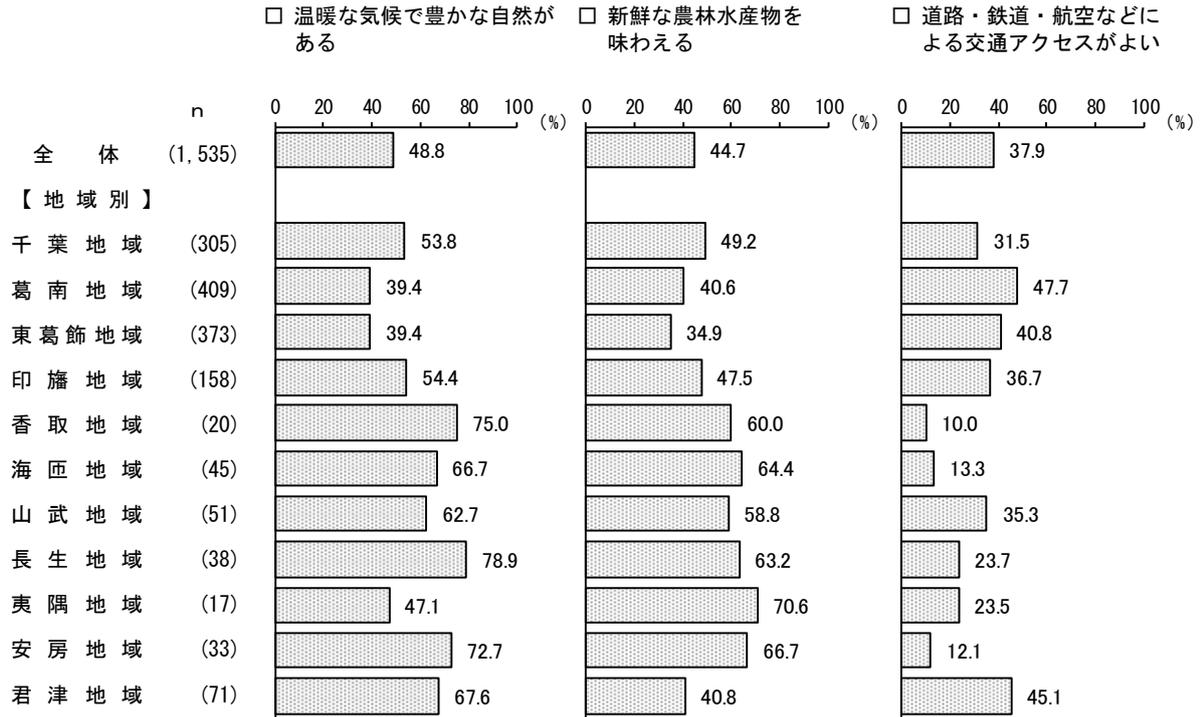
性・年代別にみると、「温暖な気候で豊かな自然がある」は女性の65～69歳（64.9%）、女性の70～74歳（64.3%）、男性の70～74歳（64.1%）が6割台半ば、男性の75歳以上（58.2%）が約6割、女性の75歳以上（56.9%）が5割台半ばで高くなっている。

「新鮮な農林水産物を味わえる」は女性の75歳以上（53.5%）が5割台半ばで高くなっている。

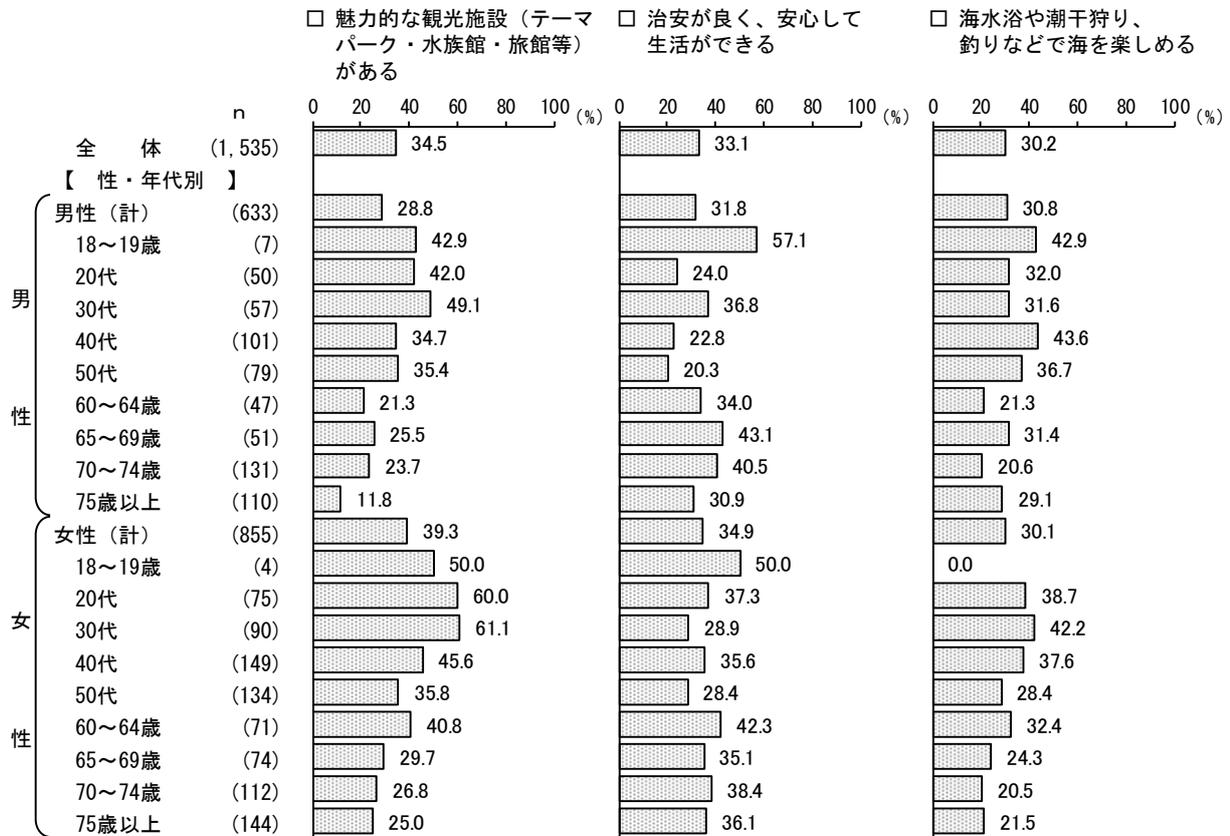
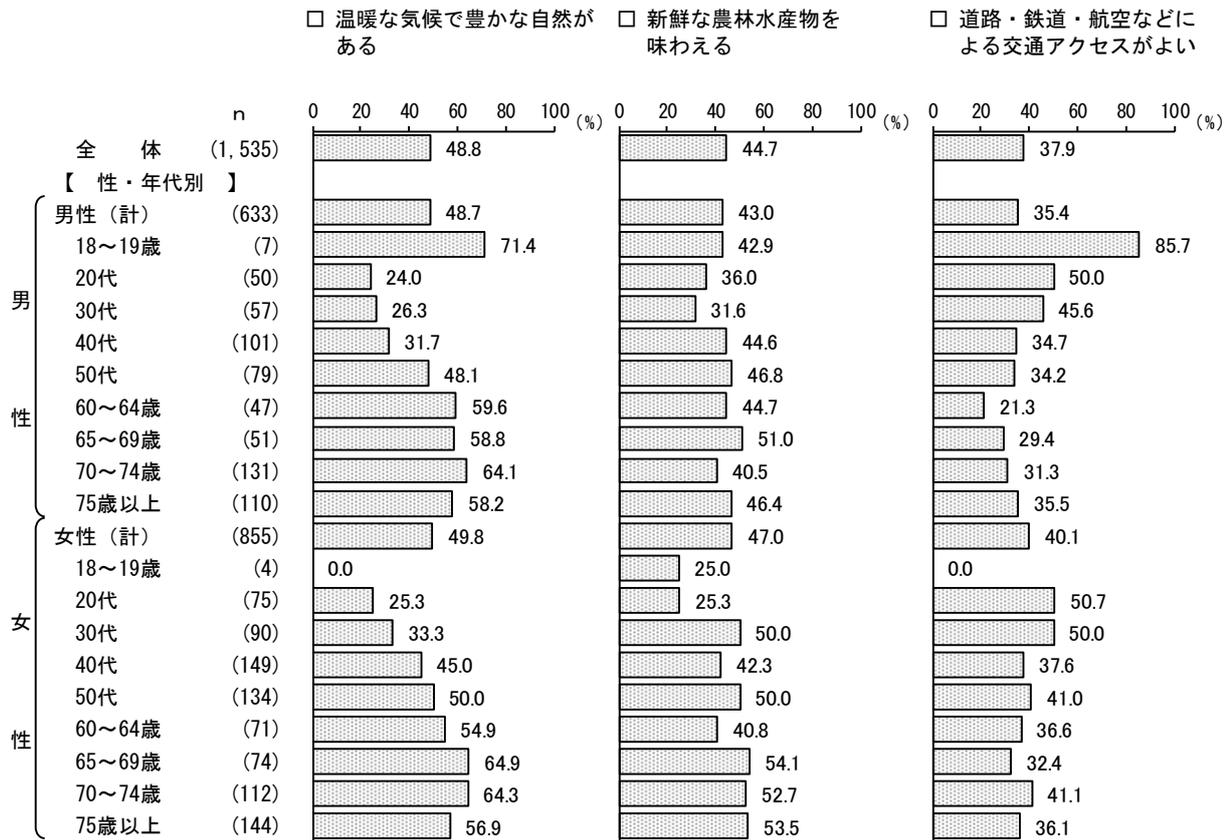
「道路・鉄道・航空などによる交通アクセスがよい」は女性の20代（50.7%）、女性の30代（50.0%）が5割で高くなっている。

「魅力的な観光施設（テーマパーク・水族館・旅館等）がある」は、女性の30代（61.1%）が6割を超え、女性の20代（60.0%）が6割、男性の30代（49.1%）が約5割、女性の40代（45.6%）が4割台半ばで高くなっている。（図表10-2）

<図表10-2> 千葉県の魅力（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）



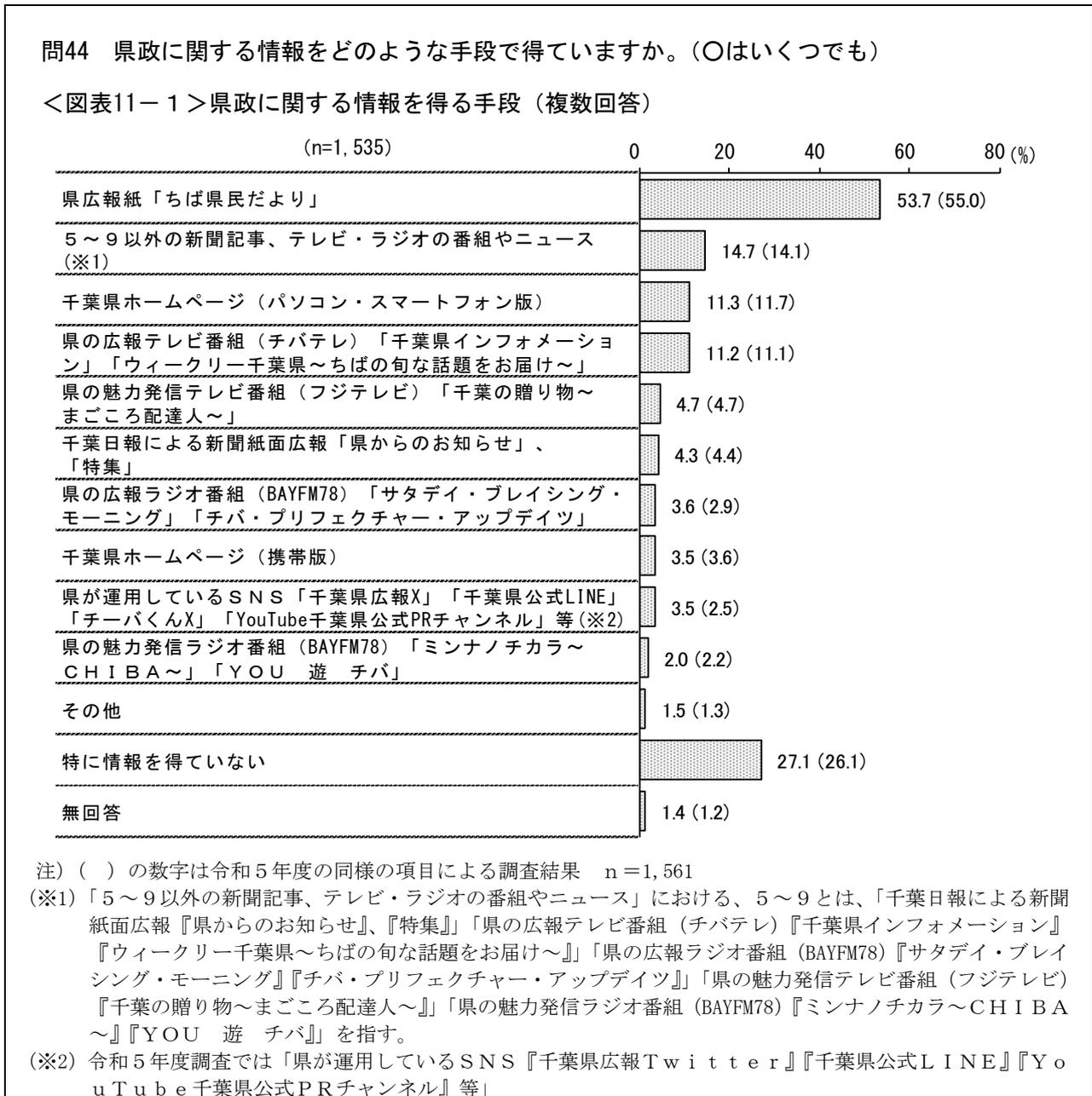
第67回県政に関する世論調査（R6年度）



11 広報について

（1）県政に関する情報を得る手段

◇「県広報紙『ちば県民だより』」が5割台半ば



県政に関する情報を得る手段を聞いたところ、「県広報紙『ちば県民だより』」（53.7%）が5割台半ばで最も高く、以下、「5～9以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」（14.7%）、「千葉県ホームページ（パソコン・スマートフォン版）」（11.3%）、「県の広報テレビ番組（チバテレ）『千葉県インフォメーション』『ウィークリー千葉県～ちばの旬な話題をお届け～』」（11.2%）が続く。

一方、「特に情報を得ていない」（27.1%）は約3割となっている。（図表11-1）

【地域別】

地域別にみると、「県広報紙『ちば県民だより』」は“千葉地域”（65.2%）が6割台半ばで高くなっている。

「県の広報テレビ番組（チバテレ）『千葉県インフォメーション』『ウィークリー千葉県～ちばの旬な話題をお届け～』」は“山武地域”（23.5%）が2割台半ば、“海匝地域”（22.2%）が2割を超えて高くなっている。

一方、「特に情報を得ていない」は“葛南地域”（35.2%）が3割台半ばで高くなっている。

（図表11－2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「県広報紙『ちば県民だより』」は女性の70～74歳（81.3%）が8割を超え、男性の75歳以上（76.4%）と女性の75歳以上（73.6%）が7割台半ば、女性の60～64歳（71.8%）が7割を超え、男性の70～74歳（66.4%）と女性の65～69歳（66.2%）が6割台半ばで高くなっている。

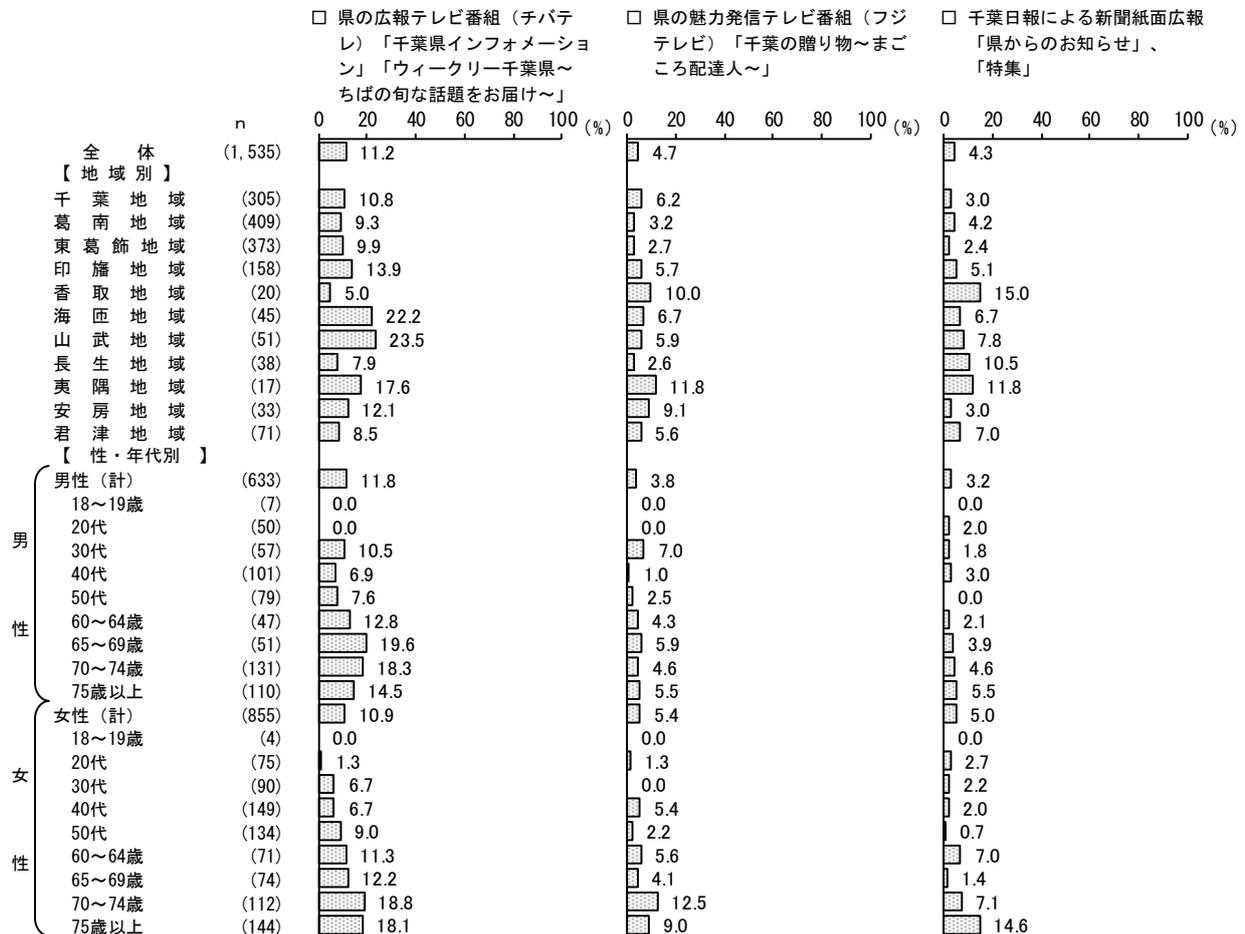
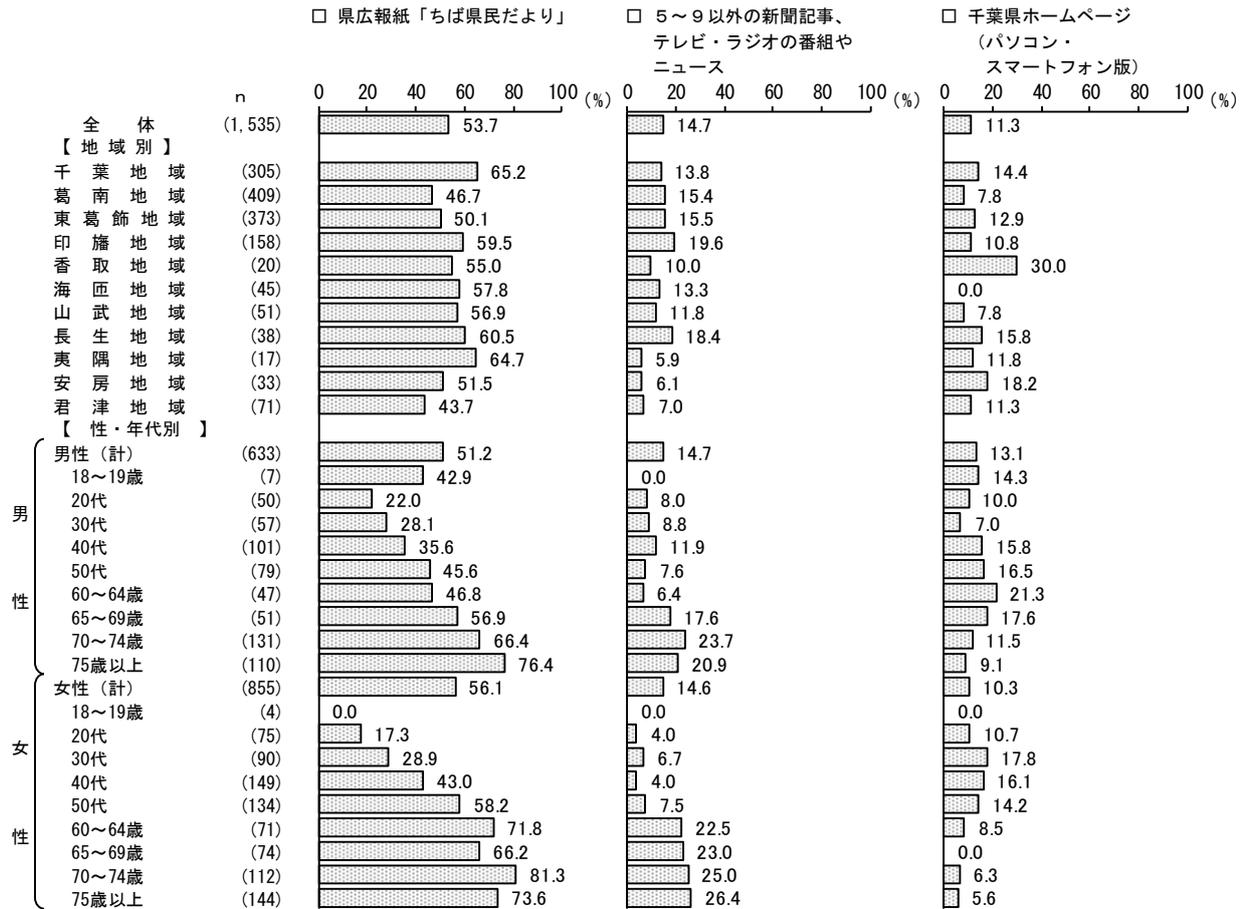
「5～9以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」は女性の75歳以上（26.4%）、女性の70～74歳（25.0%）、男性の70～74歳（23.7%）が2割台半ば、女性の65～69歳（23.0%）が2割を超えて高くなっている。

「千葉県ホームページ（パソコン・スマートフォン版）」は男性の60～64歳（21.3%）が2割を超え、女性の30代（17.8%）が約2割、女性の40代（16.1%）が1割台半ばで高くなっている。

「県の広報テレビ番組（チバテレ）『千葉県インフォメーション』『ウィークリー千葉県～ちばの旬な話題をお届け～』」は女性の70～74歳（18.8%）、男性の70～74歳（18.3%）、女性の75歳以上（18.1%）が約2割で高くなっている。

一方、「特に情報を得ていない」は女性の20代（61.3%）が6割を超え、男性の20代（56.0%）が5割台半ば、女性の30代（46.7%）と男性の30代（43.9%）が4割台半ば、男性の40代（39.6%）が約4割で高くなっている。（図表11－2）

＜図表11-2＞県政に関する情報を得る手段（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）



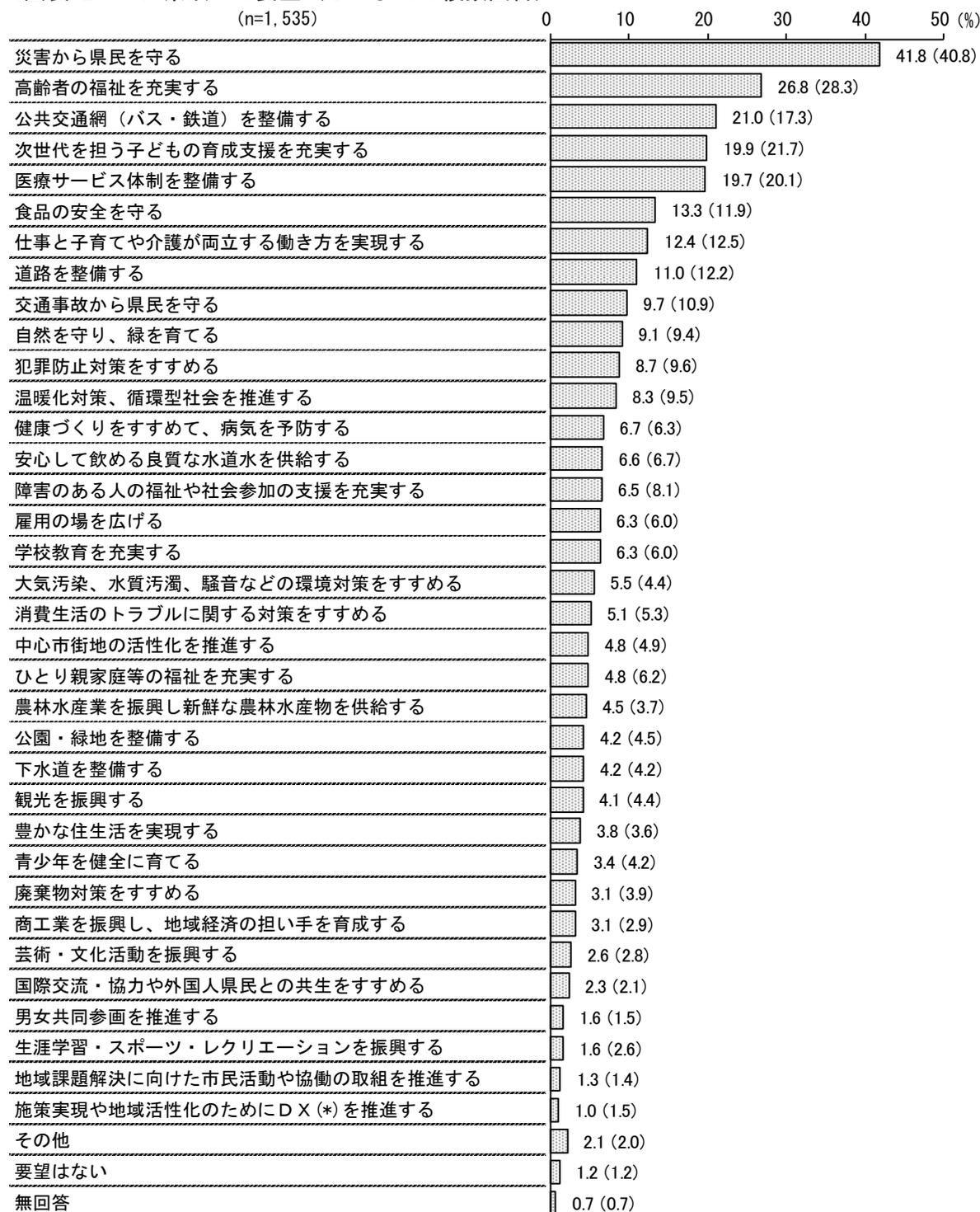
12 県政への要望

（1）県政への要望

◇「災害から県民を守る」が4割を超える

問45 県政全般について、今後特に力をいれてほしいと思われることを、次の県政への要望項目の中から3つまで選んで番号に○をつけてください。

<図表12-1> 県政への要望（3つまでの複数回答）



注) () の数字は令和5年度の同様の項目による調査結果 n=1,561

(*) DX=デジタルトランスフォーメーション

県政への要望を3つまで選んでもらったところ、「災害から県民を守る」（41.8%）が1位で県民からの要望が特に高い。次いで「高齢者の福祉を充実する」（26.8%）が2位となっており、以下、「公共交通網（バス・鉄道）を整備する」（21.0%）が3位、「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」（19.9%）が4位、「医療サービス体制を整備する」（19.7%）が5位と続く。（図表12-1）

【地域別】

地域別にみると、「災害から県民を守る」は“香取地域”を除くすべての地域で1位となっている。

「高齢者の福祉を充実する」は“千葉地域”、“葛南地域”、“東葛飾地域”、“印旛地域”、“山武地域”、“君津地域”で2位となっている。

「公共交通網（バス・鉄道）を整備する」は“香取地域”で1位（同率）となっている。

「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」は“安房地域”で2位となっている。

（図表12-3～図表12-4）

【性別、性・年代別】

性別にみると、男女ともに1位は「災害から県民を守る」、2位は「高齢者の福祉を充実する」で変わりはない。

男性は「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」が3位、「公共交通網（バス・鉄道）を整備する」が4位、「医療サービス体制を整備する」が5位となっているが、女性は「公共交通網（バス・鉄道）を整備する」が3位、「医療サービス体制を整備する」が4位、「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」が5位とやや違いがみられる。

また、「仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する」は女性では6位、男性では12位と要望に男女で違いがみられる。

性・年代別にみると、「災害から県民を守る」は男性20代、男性75歳以上、女性20代、女性75歳以上を除いたすべての性・年代で1位となっている。

「公共交通網（バス・鉄道）を整備する」は男性20代で1位、男性50代で2位となっている。

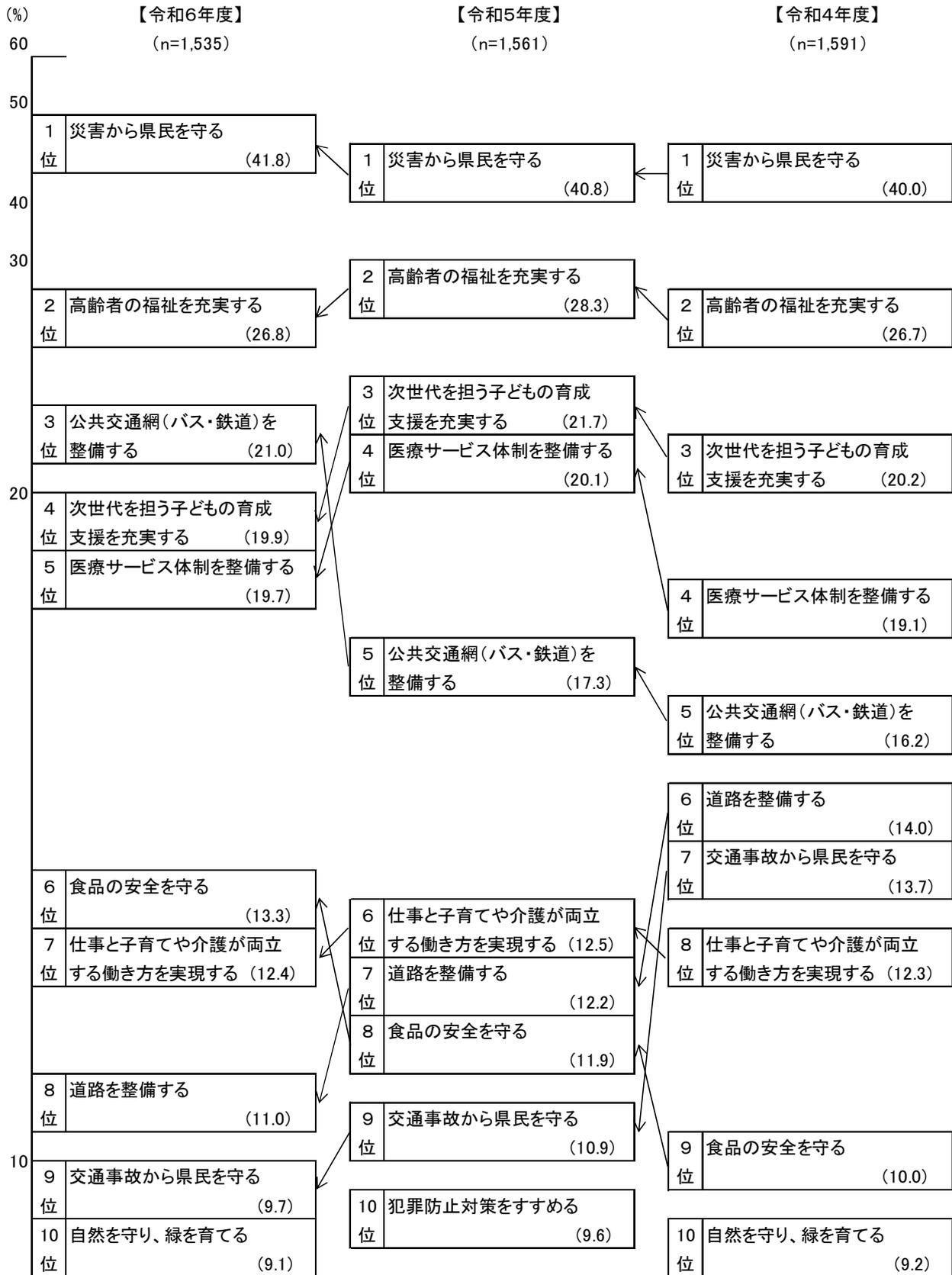
（図表12-5～図表12-6）

【参考】令和4年度以降の同様の項目による調査結果との比較（上位10項目の推移）（図表12-2）

【経年変化の特徴】

1. 「災害から県民を守る」は令和5年度（40.8%）に引き続き1位（41.8%）となっている。
2. 2位の「高齢者の福祉を充実する」（26.8%）に変動はないが、3位の「公共交通網（バス・鉄道）を整備する」（21.0%）は令和5年度の5位（17.3%）から順位を上げている。
一方、「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」は令和5年度の3位（21.7%）から4位（19.9%）へ、「医療サービス体制を整備する」は令和5年度の4位（20.1%）から5位（19.7%）へ順位を下げている。
3. 「食品の安全を守る」は令和5年度の8位（11.9%）から6位（13.3%）へ順位を上げている。
4. 「仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する」は令和5年度の6位（12.5%）から7位（12.4%）へ、「道路を整備する」は令和5年度の7位（12.2%）から8位（11.0%）へ順位を下げている。

＜図表12-2＞県政への要望（3つまでの複数回答）／上位10項目の推移



<図表12-3> 県政への要望（3つまでの複数回答）（上位1位～5位）／地域別

(%)

属性	順位	n	1位	2位	3位	4位	5位
全体		1,535	災害から県民を守る (41.8)	高齢者の福祉を充実する (26.8)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (21.0)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (19.9)	医療サービス体制を整備する (19.7)
【地域別】							
千葉地域		305	災害から県民を守る (43.6)	高齢者の福祉を充実する (29.8)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (23.0)	医療サービス体制を整備する (21.3)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (20.3)
葛南地域		409	災害から県民を守る (44.5)	高齢者の福祉を充実する (24.2)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する/医療サービス体制を整備する (20.0)		次世代を担う子どもの育成支援を充実する (19.8)
東葛飾地域		373	災害から県民を守る (40.2)	高齢者の福祉を充実する (29.0)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (22.8)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (18.8)	食品の安全を守る (15.3)
印旛地域		158	災害から県民を守る (38.0)	高齢者の福祉を充実する (24.7)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (20.3)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (19.6)	医療サービス体制を整備する (18.4)
香取地域		20	公共交通網(バス・鉄道)を整備する/医療サービス体制を整備する (40.0)	高齢者の福祉を充実する (35.0)		災害から県民を守る/仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (25.0)	
海匝地域		45	災害から県民を守る (31.1)	医療サービス体制を整備する (28.9)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (26.7)	高齢者の福祉を充実する/次世代を担う子どもの育成支援を充実する (20.0)	
山武地域		51	災害から県民を守る (41.2)	高齢者の福祉を充実する (31.4)	医療サービス体制を整備する (25.5)	食品の安全を守る (19.6)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (15.7)
長生地域		38	災害から県民を守る (55.3)	医療サービス体制を整備する (36.8)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (31.6)	高齢者の福祉を充実する (23.7)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (13.2)
夷隅地域		17	災害から県民を守る (47.1)	雇用の場を広げる (35.3)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する/仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (17.6)		公共交通網(バス・鉄道)を整備する/高齢者の福祉を充実する/医療サービス体制を整備する/自然を守り、緑を育てる/商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する/観光を振興する/豊かな住生活を実現する (11.8)
安房地域		33	災害から県民を守る (36.4)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (24.2)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (21.2)	商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する (18.2)	食品の安全を守る/高齢者の福祉を充実する/医療サービス体制を整備する/仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する/道路を整備する (15.2)
君津地域		71	災害から県民を守る (39.4)	高齢者の福祉を充実する (29.6)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (26.8)	医療サービス体制を整備する (19.7)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (16.9)

<図表12-4> 県政への要望（3つまでの複数回答）（上位6位～10位）／地域別

(%)

属性	順位	n	6位	7位	8位	9位	10位
全体		1,535	食品の安全を守る (13.3)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (12.4)	道路を整備する (11.0)	交通事故から県民を守る (9.7)	自然を守り、緑を育てる (9.1)
【地域別】							
千葉地域		305	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (13.4)	食品の安全を守る (12.1)	交通事故から県民を守る (10.8)	道路を整備する (10.2)	犯罪防止対策をすすめる (8.9)
葛南地域		409	道路を整備する (14.9)	食品の安全を守る (12.7)	交通事故から県民を守る (11.0)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (10.3)	自然を守り、緑を育てる (10.0)
東葛飾地域		373	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (14.5)	医療サービス体制を整備する (13.4)	犯罪防止対策をすすめる (11.0)	自然を守り、緑を育てる (10.5)	交通事故から県民を守る (8.8)
印旛地域		158	食品の安全を守る (14.6)	自然を守り、緑を育てる (13.9)	道路を整備する (12.7)	温暖化対策、循環型社会を推進する (11.4)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (10.8)
香取地域		20	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (15.0)	食品の安全を守る/交通事故から県民を守る/健康づくりをすすめて、病気を予防する/雇用の場を広げる/道路を整備する (10.0)			
海匝地域		45	観光を振興する/雇用の場を広げる (15.6)		道路を整備する (13.3)	食品の安全を守る/交通事故から県民を守る/仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する/下水道を整備する (8.9)	
山武地域		51	交通事故から県民を守る/次世代を担う子どもの育成支援を充実する/雇用の場を広げる/仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (13.7)				健康づくりをすすめて、病気を予防する/商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する/下水道を整備する (11.8)
長生地域		38	障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する/温暖化対策、循環型社会を推進する/雇用の場を広げる/道路を整備する/犯罪防止対策をすすめる (10.5)				
夷隅地域		17	-				
安房地域		33	-				学校教育を充実する (12.1)
君津地域		71	食品の安全を守る/犯罪防止対策をすすめる (15.5)		障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する/温暖化対策、循環型社会を推進する/安心して飲める良質な水道水を供給する (11.3)		

<図表12-5> 県政への要望（3つまでの複数回答）（上位1位～5位）／性別、性・年代別

属性		順位	n	1位	2位	3位	4位	5位
全体			1,535	災害から県民を守る (41.8)	高齢者の福祉を充実する (26.8)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (21.0)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (19.9)	医療サービス体制を整備する (19.7)
【性・年代別】								
男性（計）			633	災害から県民を守る (39.8)	高齢者の福祉を充実する (25.0)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (19.7)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (19.3)	医療サービス体制を整備する (17.1)
18～19歳			7	災害から県民を守る (71.4)	交通事故から県民を守る/国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる/障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する (28.6)			消費生活のトラブルに関する対策をすすめる/食品の安全を守る/高齢者の福祉を充実する/次世代を担う子どもの育成支援を充実する/医療サービス体制を整備する/観光を振興する/雇用の場を広げる/公園・緑地を整備する/学校教育を充実する/犯罪防止対策をすすめる (14.3)
20代			50	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (28.0)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (26.0)	災害から県民を守る (22.0)	道路を整備する (18.0)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する/学校教育を充実する (16.0)
30代			57	災害から県民を守る (38.6)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (31.6)	道路を整備する (19.3)	医療サービス体制を整備する (15.8)	食品の安全を守る/公共交通網(バス・鉄道)を整備する/雇用の場を広げる (14.0)
40代			101	災害から県民を守る (35.6)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (21.8)	交通事故から県民を守る/公共交通網(バス・鉄道)を整備する (16.8)		食品の安全を守る (14.9)
50代			79	災害から県民を守る (39.2)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (24.1)	医療サービス体制を整備する (22.8)	高齢者の福祉を充実する/道路を整備する (20.3)	
60～64歳			47	災害から県民を守る (48.9)	高齢者の福祉を充実する (38.3)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する/自然を守り、緑を育てる (19.1)	道路を整備する (12.8)	
65～69歳			51	災害から県民を守る (54.9)	医療サービス体制を整備する (27.5)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する/高齢者の福祉を充実する (17.6)		食品の安全を守る/道路を整備する (15.7)
70～74歳			131	災害から県民を守る (43.5)	高齢者の福祉を充実する (38.9)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (22.9)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (19.1)	医療サービス体制を整備する (16.8)
75歳以上			110	高齢者の福祉を充実する (37.3)	災害から県民を守る (35.5)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する/医療サービス体制を整備する (19.1)		次世代を担う子どもの育成支援を充実する (16.4)
女性（計）			855	災害から県民を守る (43.2)	高齢者の福祉を充実する (28.4)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (22.5)	医療サービス体制を整備する (21.2)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (20.7)
18～19歳			4	災害から県民を守る/医療サービス体制を整備する (50.0)		食品の安全を守る/ひとり親家庭等の福祉を充実する/男女共同参画を推進する/大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる/廃棄物対策をすすめる/観光を振興する/仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する/犯罪防止対策をすすめる (25.0)		
20代			75	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (37.3)	災害から県民を守る (30.7)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (25.3)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (24.0)	食品の安全を守る/学校教育を充実する (12.0)
30代			90	災害から県民を守る (38.9)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (36.7)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (30.0)	交通事故から県民を守る (20.0)	医療サービス体制を整備する (18.9)
40代			149	災害から県民を守る (45.0)	医療サービス体制を整備する (28.2)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (27.5)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する/仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (23.5)	
50代			134	災害から県民を守る (44.0)	高齢者の福祉を充実する (31.3)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する/医療サービス体制を整備する (23.1)		食品の安全を守る/温暖化対策、循環型社会を推進する (14.9)
60～64歳			71	災害から県民を守る (40.8)	高齢者の福祉を充実する (39.4)	医療サービス体制を整備する (31.0)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (23.9)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (15.5)
65～69歳			74	災害から県民を守る (51.4)	高齢者の福祉を充実する (36.5)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (27.0)	医療サービス体制を整備する/犯罪防止対策をすすめる (16.2)	
70～74歳			112	災害から県民を守る (50.0)	高齢者の福祉を充実する (34.8)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (19.6)	医療サービス体制を整備する (18.8)	食品の安全を守る/次世代を担う子どもの育成支援を充実する (17.9)
75歳以上			144	高齢者の福祉を充実する (49.3)	災害から県民を守る (41.0)	公共交通網(バス・鉄道)を整備する (23.6)	食品の安全を守る (19.4)	医療サービス体制を整備する (18.8)

<図表12-6> 県政への要望（3つまでの複数回答）（上位6位～10位）／性別、性・年代別

		(%)				
順位 属性	n	6位	7位	8位	9位	10位
全体	1,535	食品の安全を守る (13.3)	仕事と子育てや介護が両立 する働き方を実現する (12.4)	道路を整備する (11.0)	交通事故から県民を守る (9.7)	自然を守り、緑を育てる (9.1)
【性・年代別】						
男性（計）	633	道路を整備する (13.3)	食品の安全を守る (12.2)	交通事故から県民を守る (11.7)	自然を守り、緑を育てる/犯罪防止対策をすすめる (10.0)	
18～19歳	7	-				
20代	50	-	交通事故から県民を守る/医療サービス体制を整備する/雇用の場を広げる/安心して飲める良質な水道水を供給する (12.0)			
30代	57	-		交通事故から県民を守る/高齢者の福祉を充実する (12.3)	仕事と子育てや介護が両立 する働き方を実現する (10.5)	
40代	101	高齢者の福祉を充実する/医療サービス体制を整備する/自然を守り、緑を育てる (12.9)			道路を整備する (11.9)	犯罪防止対策をすすめる (10.9)
50代	79	犯罪防止対策をすすめる (19.0)	次世代を担う子どもの育成支 援を充実する (15.2)	食品の安全を守る (13.9)	自然を守り、緑を育てる (10.1)	消費生活のトラブルに関する 対策をすすめる/交通事故か ら県民を守る/大気汚染、水 質汚濁、騒音などの環境対 策をすすめる/温暖化対策、 循環型社会を推進する/雇用 の場を広げる/仕事と子育て や介護が両立する働き方を実 現する/下水道を整備する (6.3)
60～64歳	47	交通事故から県民を守る/大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる/廃棄物対策をすすめる/犯罪防止対策 をすすめる (10.6)				食品の安全を守る/障害のある 人の福祉や社会参加の支 援を充実する/次世代を担う 子どもの育成支援を充実する /医療サービス体制を整備す る (8.5)
65～69歳	51	-	次世代を担う子どもの育成支 援を充実する (13.7)	下水道を整備する (11.8)	温暖化対策、循環型社会を推進する/仕事と子育てや介護 が両立する働き方を実現する/犯罪防止対策をすすめる (9.8)	
70～74歳	131	健康づくりをすすめて、病気を 予防する (14.5)	食品の安全を守る/交通事故から県民を守る (11.5)		道路を整備する (8.4)	大気汚染、水質汚濁、騒音な どの環境対策をすすめる/自 然を守り、緑を育てる (7.6)
75歳以上	110	健康づくりをすすめて、病気を 予防する (13.6)	交通事故から県民を守る (11.8)	自然を守り、緑を育てる/廃棄物対策をすすめる/道路を整備する/犯罪防止対策をすすめる (10.0)		
女性（計）	855	仕事と子育てや介護が両立 する働き方を実現する (16.4)	食品の安全を守る (14.0)	温暖化対策、循環型社会を 推進する (10.5)	道路を整備する (9.2)	自然を守り、緑を育てる (8.5)
18～19歳	4	-				
20代	75	-	交通事故から県民を守る/ひとり親家庭等の福祉を充実する/高齢者の福祉を充実する/犯罪防止対策をすすめる (10.7)			
30代	90	公共交通網（バス・鉄道）を整 備する (16.7)	自然を守り、緑を育てる/道路を整備する/学校教育を充実する (14.4)			食品の安全を守る/障害のある 人の福祉や社会参加の支 援を充実する (8.9)
40代	149	高齢者の福祉を充実する (14.8)	学校教育を充実する (12.8)	道路を整備する (10.1)	食品の安全を守る/交通事故から県民を守る/障害のある人 の福祉や社会参加の支援を充実する (9.4)	
50代	134	-		次世代を担う子どもの育成支 援を充実する (14.2)	仕事と子育てや介護が両立 する働き方を実現する (13.4)	安心して飲める良質な水道水 を供給する (11.2)
60～64歳	71	食品の安全を守る/次世代を担う子どもの育成支援を充実する/温暖化対策、循環型社会を 推進する (12.7)			雇用の場を広げる/道路を整備する (11.3)	
65～69歳	74	次世代を担う子どもの育成支援を充実する/仕事と子育てや 介護が両立する働き方を実現する (14.9)		温暖化対策、循環型社会を 推進する (13.5)	食品の安全を守る (12.2)	障害のある人の福祉や社会 参加の支援を充実する/雇用 の場を広げる/農林水産業を 振興し新鮮な農林水産物を 供給する (8.1)
70～74歳	112	-		温暖化対策、循環型社会を 推進する (16.1)	安心して飲める良質な水道水 を供給する (11.6)	健康づくりをすすめて、病気を 予防する (8.9)
75歳以上	144	温暖化対策、循環型社会を推進する/安心して飲める良質 な水道水を供給する (13.9)			次世代を担う子どもの育成支援を充実する/健康づくりをすす めて、病気を予防する (10.4)	障害のある人の福祉や社会 参加の支援を充実する/自然 を守り、緑を育てる/仕事と子 育てや介護が両立する働き 方を実現する/道路を整備す る (8.3)

（1-1）各政策への具体的な要望

問46 問45で選んでいただきました県政の要望について、具体的にどのようなことを望まれますか。問45で選んだ3項目についてのみ、具体的要望項目から1つずつ選んで番号に○をつけてください。

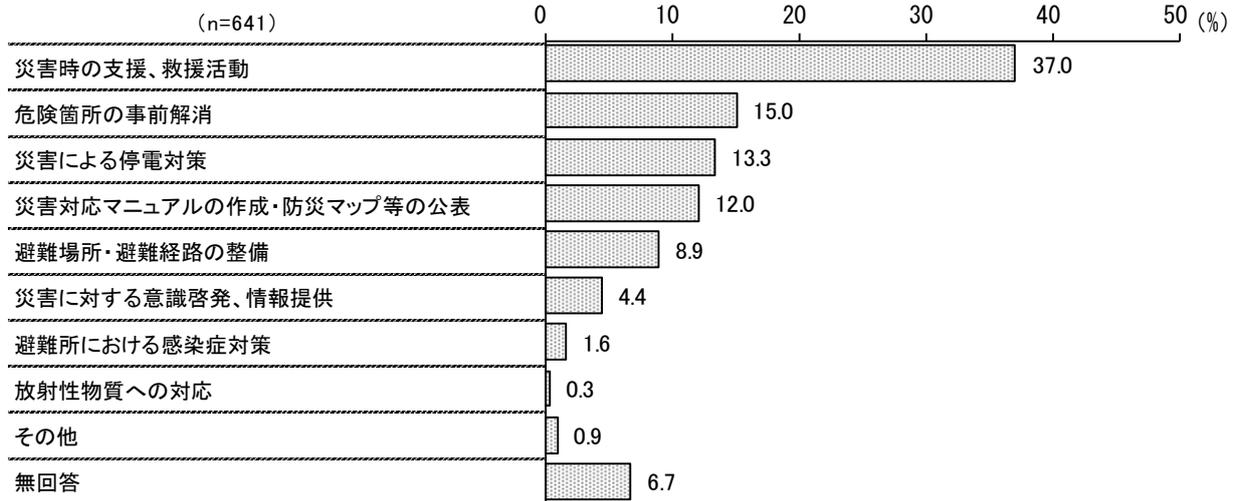
問45で県政への要望を3つまでたずね、その選んだ要望に関して、それぞれ具体的にどのようなことを望んでいるかを聞いた。

ここからは、それぞれの結果を図示していくが、問45の回答状況次第では、nの値が少なくなるものもあり、その場合は参考ということを示す。

1 災害から県民を守る（41.8%、1位）

「災害時の支援、救援活動」（37.0%）が約4割で最も高く、以下、「危険箇所の事前解消」（15.0%）、「災害による停電対策」（13.3%）が続く。

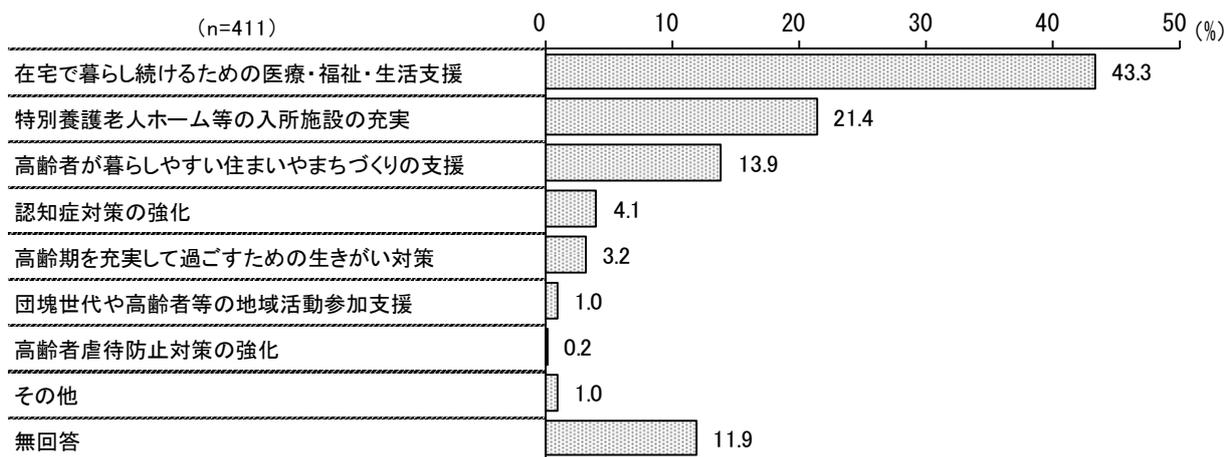
＜図表12-7＞災害から県民を守る



2 高齢者の福祉を充実する（26.8%、2位）

「在宅で暮らし続けるための医療・福祉・生活支援」（43.3%）が4割を超えて最も高く、以下、「特別養護老人ホーム等の入所施設の充実」（21.4%）、「高齢者が暮らしやすい住まいやまちづくりの支援」（13.9%）が続く。

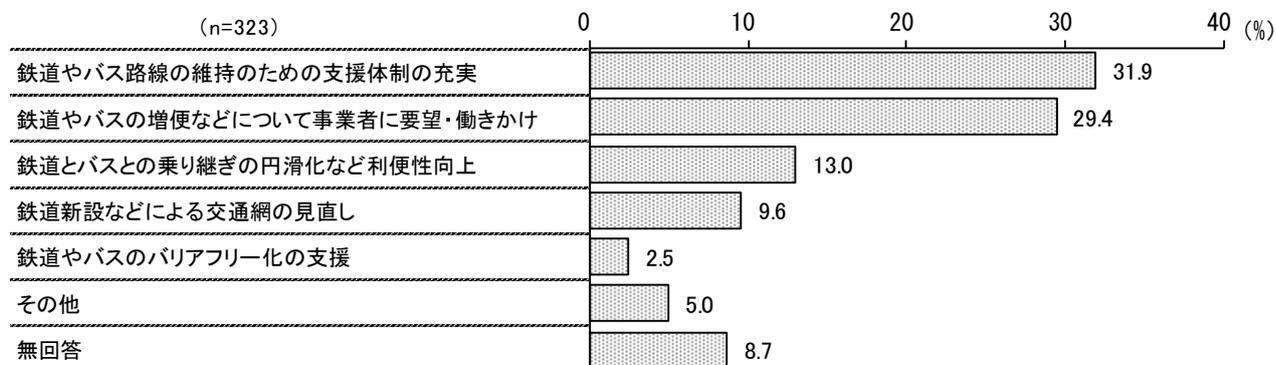
＜図表12-8＞高齢者の福祉を充実する



3 公共交通網（バス・鉄道）を整備する（21.0%、3位）

「鉄道やバス路線の維持のための支援体制の充実」（31.9%）が3割を超えて最も高く、以下、「鉄道やバスの増便などについて事業者に要望・働きかけ」（29.4%）、「鉄道とバスとの乗り継ぎの円滑化など利便性向上」（13.0%）が続く。

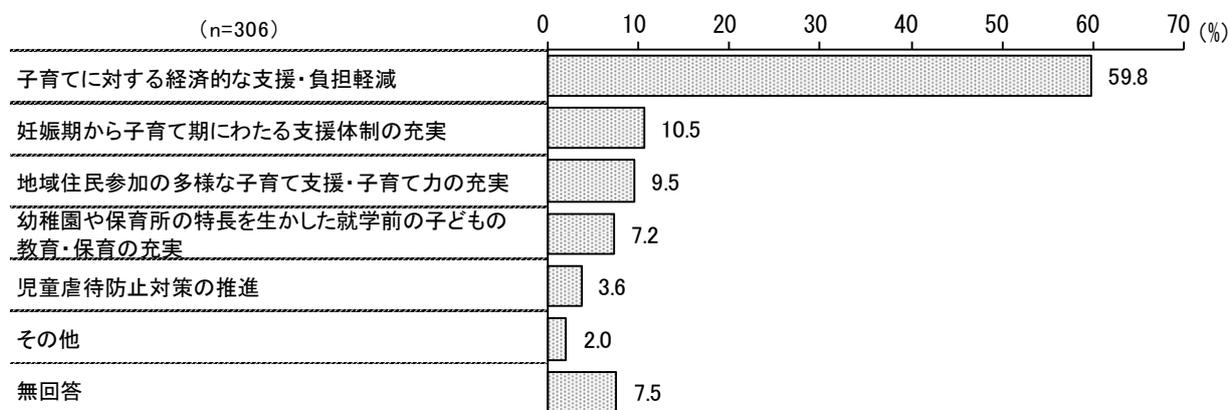
＜図表12-9＞公共交通網（バス・鉄道）を整備する



4 次世代を担う子どもの育成支援を充実する（19.9%、4位）

「子育てに対する経済的な支援・負担軽減」（59.8%）が約6割で最も高く、以下、「妊娠期から子育て期にわたる支援体制の充実」（10.5%）、「地域住民参加の多様な子育て支援・子育て力の充実」（9.5%）が続く。

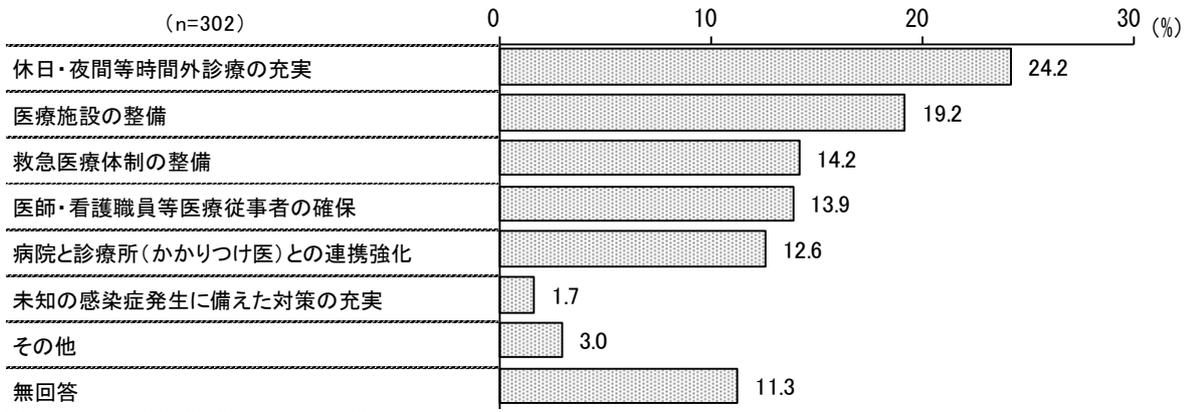
＜図表12-10＞次世代を担う子どもの育成支援を充実する



5 医療サービス体制を整備する（19.7%、5位）

「休日・夜間等時間外診療の充実」（24.2%）が2割台半ばで最も高く、以下、「医療施設の整備」（19.2%）、「救急医療体制の整備」（14.2%）が続く。

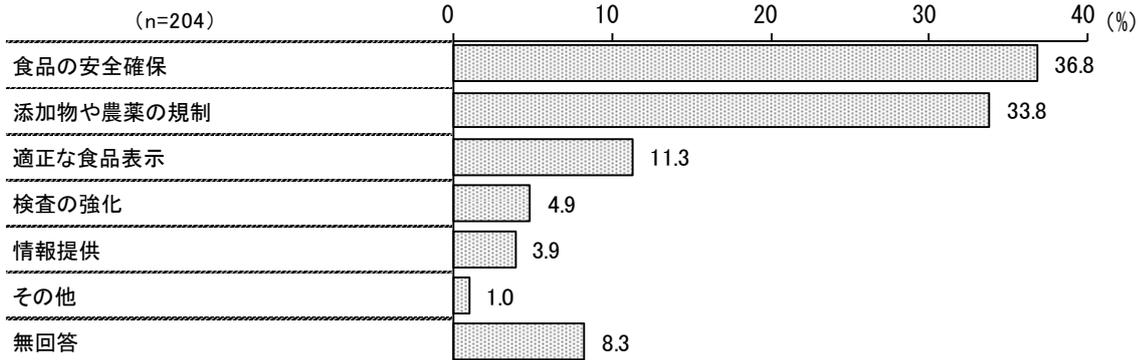
＜図表12-11＞医療サービス体制を整備する



6 食品の安全を守る（13.3%、6位）

「食品の安全確保」（36.8%）が3割台半ばで最も高く、以下、「添加物や農薬の規制」（33.8%）、「適正な食品表示」（11.3%）が続く。

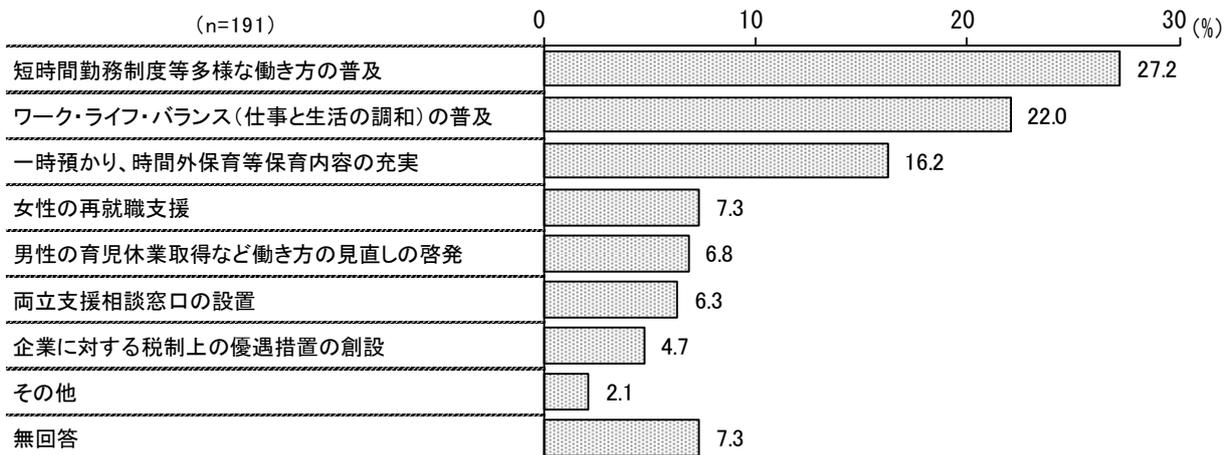
＜図表12-12＞食品の安全を守る



7 仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する（12.4%、7位）

「短時間勤務制度等多様な働き方の普及」（27.2%）が約3割で最も高く、以下、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の普及」（22.0%）、「一時預かり、時間外保育等保育内容の充実」（16.2%）が続く。

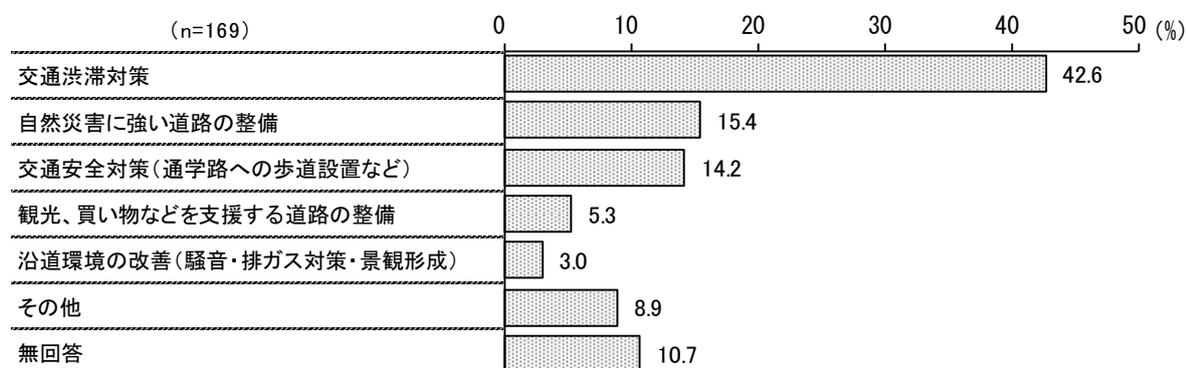
＜図表12-13＞仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する



8 道路を整備する（11.0%、8位）

「交通渋滞対策」（42.6%）が4割を超えて最も高く、以下、「自然災害に強い道路の整備」（15.4%）、「交通安全対策（通学路への歩道設置など）」（14.2%）が続く。

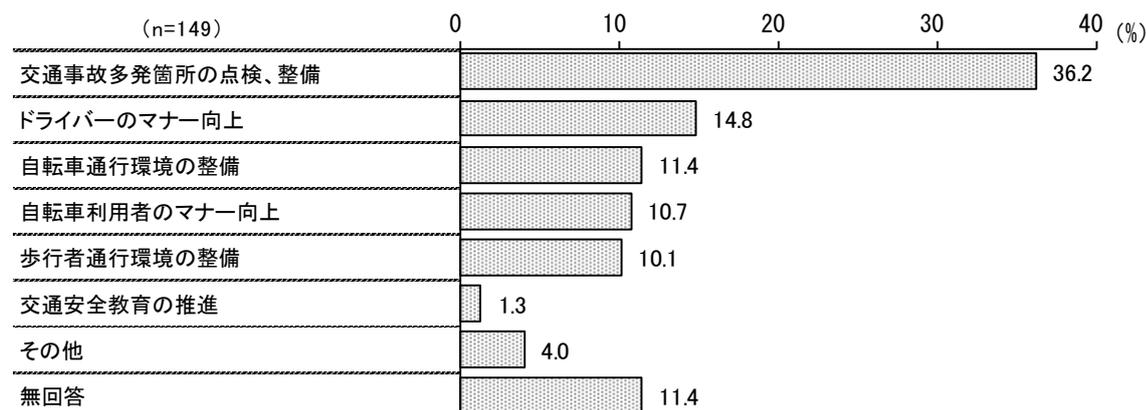
＜図表12-14＞道路を整備する



9 交通事故から県民を守る（9.7%、9位）

「交通事故多発箇所の点検、整備」（36.2%）が3割台半ばで最も高く、以下、「ドライバーのマナー向上」（14.8%）、「自転車通行環境の整備」（11.4%）が続く。

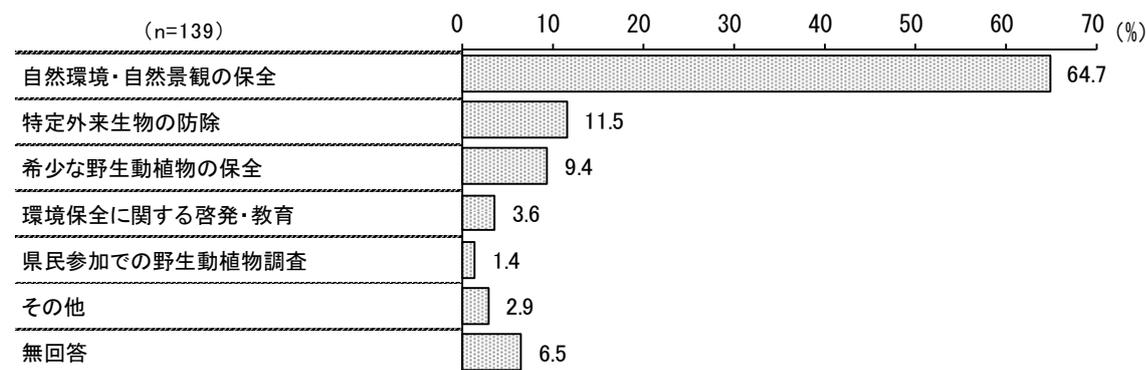
＜図表12-15＞交通事故から県民を守る



10 自然を守り、緑を育てる（9.1%、10位）

「自然環境・自然景観の保全」（64.7%）が6割台半ばで最も高く、以下、「特定外来生物の防除」（11.5%）、「希少な野生動植物の保全」（9.4%）が続く。

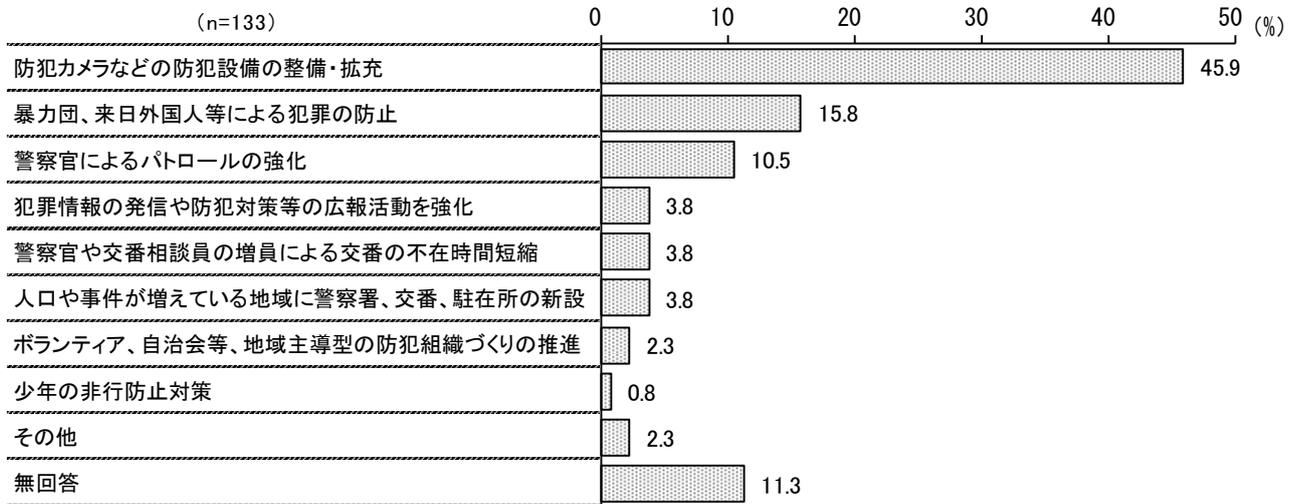
＜図表12-16＞自然を守り、緑を育てる



11 犯罪防止対策をすすめる（8.7%、11位）

「防犯カメラなどの防犯設備の整備・拡充」（45.9%）が4割台半ばで最も高く、以下、「暴力団、来日外国人等による犯罪の防止」（15.8%）、「警察官によるパトロールの強化」（10.5%）が続く。

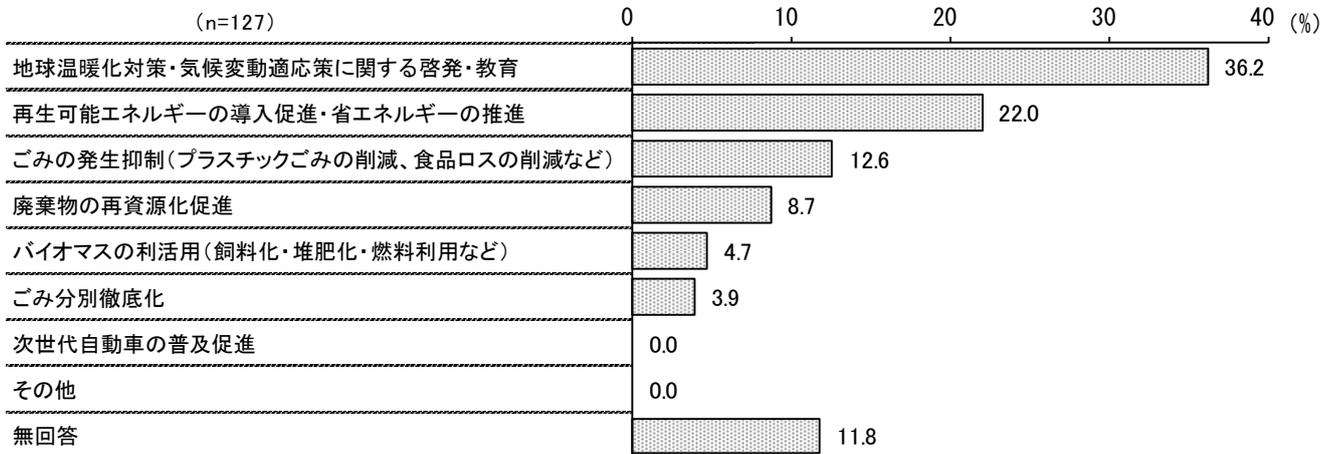
＜図表12-17＞犯罪防止対策をすすめる



12 温暖化対策、循環型社会を推進する（8.3%、12位）

「地球温暖化対策・気候変動適応策に関する啓発・教育」（36.2%）が3割台半ばで最も高く、以下、「再生可能エネルギーの導入促進・省エネルギーの推進」（22.0%）、「ごみの発生抑制（プラスチックごみの削減、食品ロスの削減など）」（12.6%）が続く。

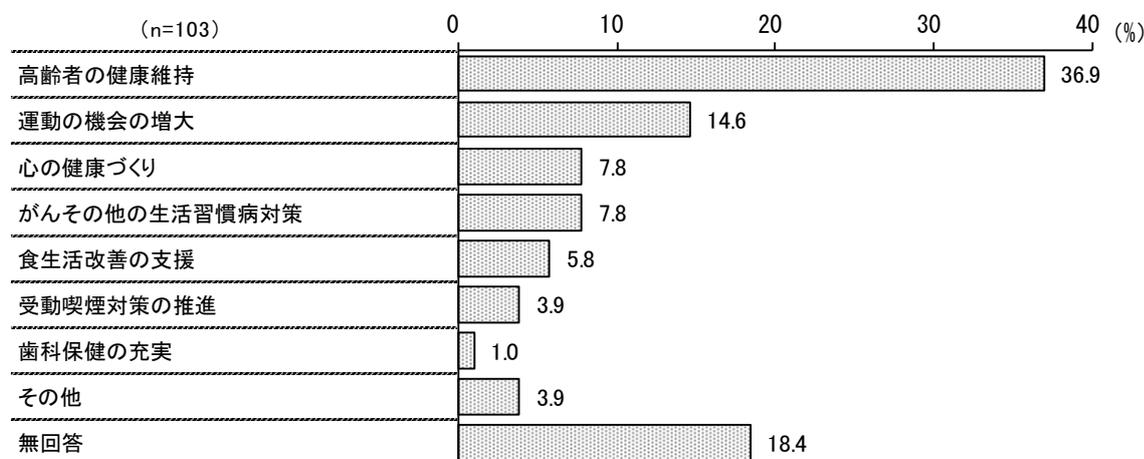
＜図表12-18＞温暖化対策、循環型社会を推進する



13 健康づくりをすすめて、病気を予防する（6.7%、13位）

「高齢者の健康維持」（36.9%）が3割台半ばで最も高く、以下、「運動の機会の増大」（14.6%）、「心の健康づくり」と「がんその他の生活習慣病対策」（ともに7.8%）が続く。

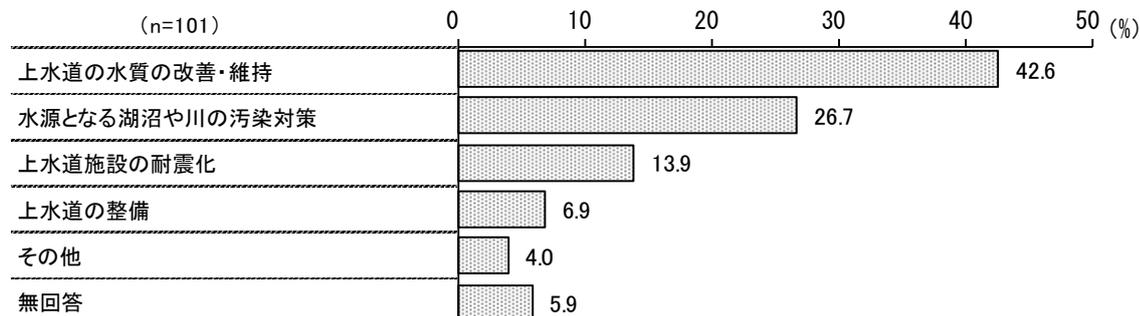
＜図表12-19＞健康づくりをすすめて、病気を予防する



14 安心して飲める良質な水道水を供給する（6.6%、14位）

「上水道の水質の改善・維持」（42.6%）が4割を超えて最も高く、以下、「水源となる湖沼や川の汚染対策」（26.7%）、「上水道施設の耐震化」（13.9%）が続く。

＜図表12-20＞安心して飲める良質な水道水を供給する



15 障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する（6.5%、15位）

「経済的な支援・負担の軽減」（27.0%）が約3割で最も高く、以下、「障害のある人が暮らしやすいまちづくり」（23.0%）、「就労・社会参加の促進」（22.0%）が続く。

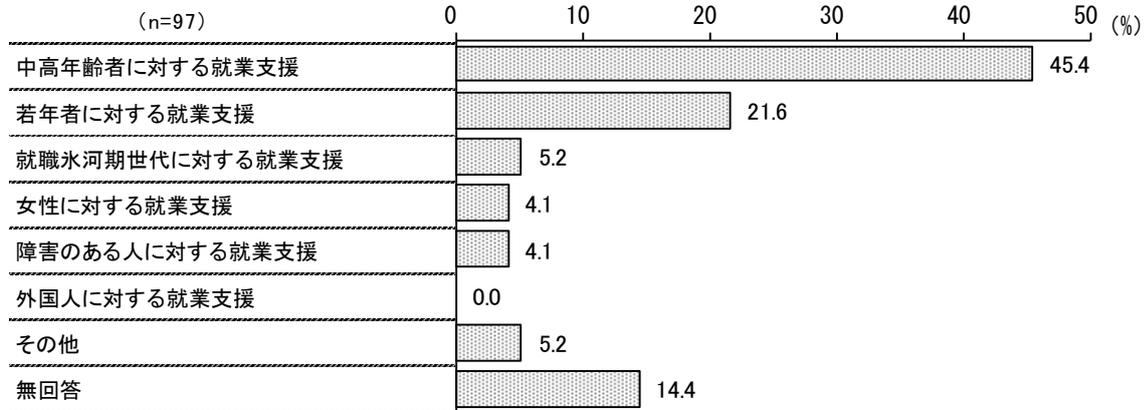
＜図表12-21＞障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する



16 雇用の場を広げる（6.3%、16位）

「中高年齢者に対する就業支援」（45.4%）が4割台半ばで最も高く、以下、「若年者に対する就業支援」（21.6%）、「就職氷河期世代に対する就業支援」（5.2%）が続く。

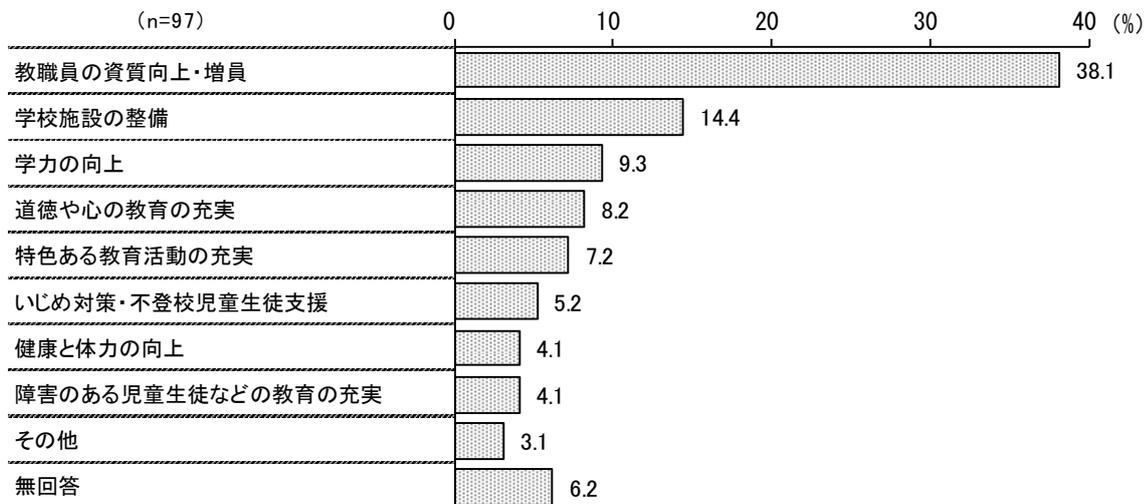
＜図表12-22＞雇用の場を広げる



17 学校教育を充実する（6.3%、16位）

「教職員の資質向上・増員」（38.1%）が約4割で最も高く、以下、「学校施設の整備」（14.4%）、「学力の向上」（9.3%）が続く。

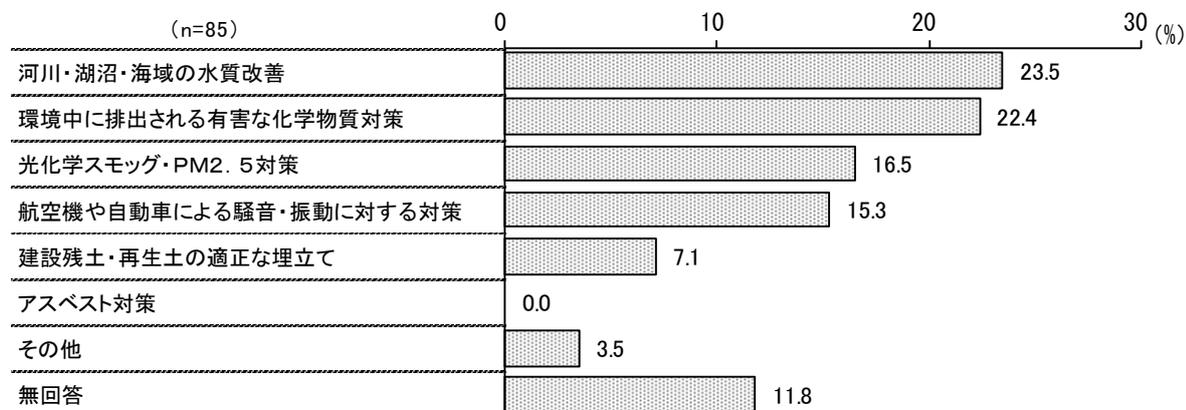
＜図表12-23＞学校教育を充実する



18 大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる（5.5%、18位）

「河川・湖沼・海域の水質改善」（23.5%）が2割台半ばで最も高く、以下、「環境中に排出される有害な化学物質対策」（22.4%）、「光化学スモッグ・PM2.5対策」（16.5%）が続く。

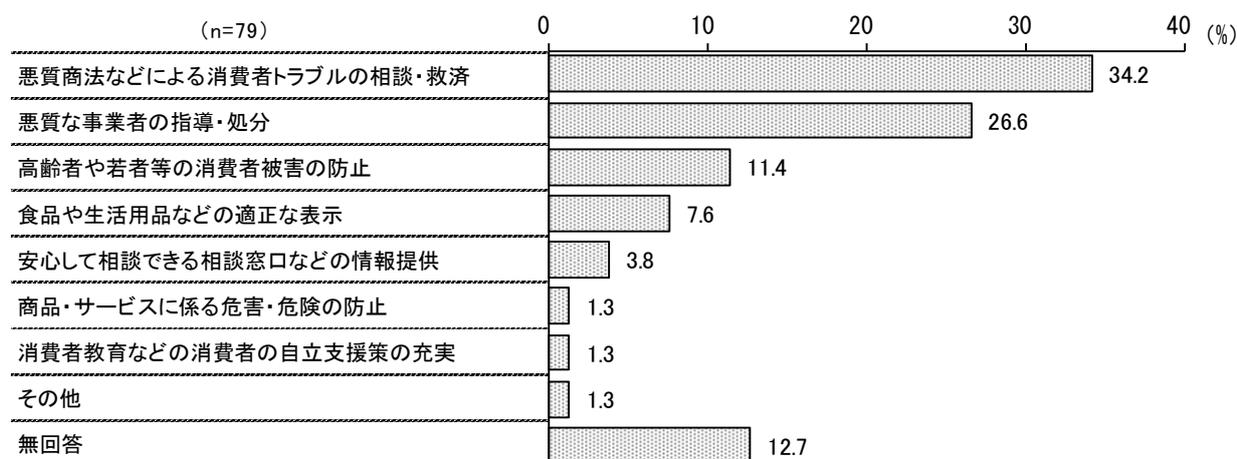
＜図表12-24＞大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる



19 消費生活のトラブルに関する対策をすすめる（5.1%、19位）

「悪質商法などによる消費者トラブルの相談・救済」（34.2%）が3割台半ばで最も高く、以下、「悪質な事業者の指導・処分」（26.6%）、「高齢者や若者等の消費者被害の防止」（11.4%）が続く。

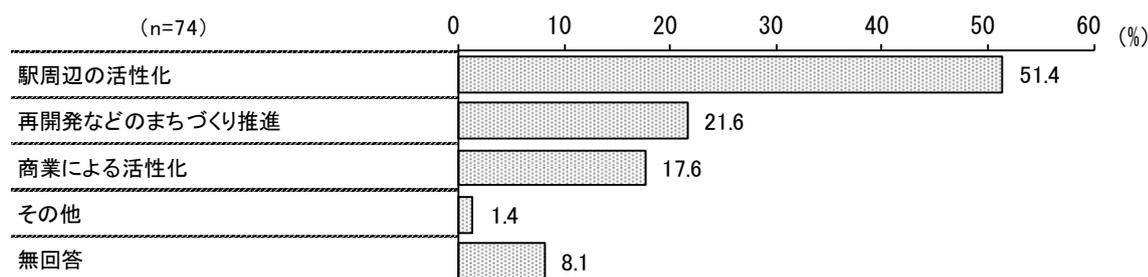
＜図表12-25＞消費生活のトラブルに関する対策をすすめる



20 中心市街地の活性化を推進する（4.8%、20位）

「駅周辺の活性化」（51.4%）が5割を超えて最も高く、以下、「再開発などのまちづくり推進」（21.6%）、「商業による活性化」（17.6%）が続く。

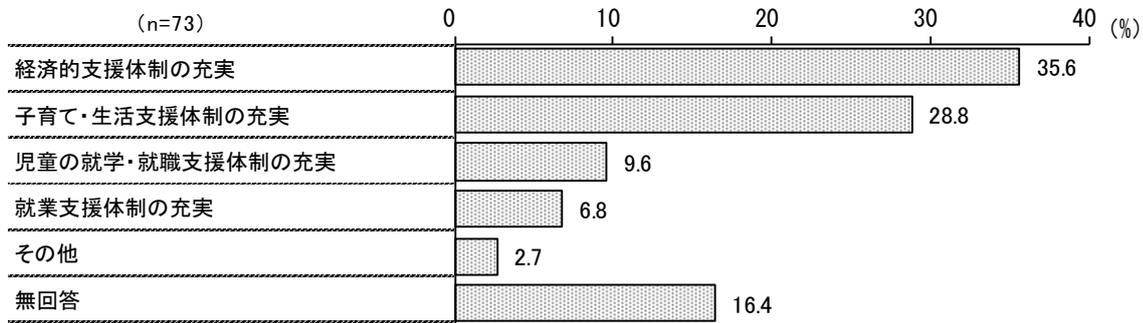
＜図表12-26＞中心市街地の活性化を推進する



21 ひとり親家庭等の福祉を充実する（4.8%、21位）

「経済的支援体制の充実」（35.6%）が3割台半ばで最も高く、以下、「子育て・生活支援体制の充実」（28.8%）、「児童の就学・就職支援体制の充実」（9.6%）が続く。

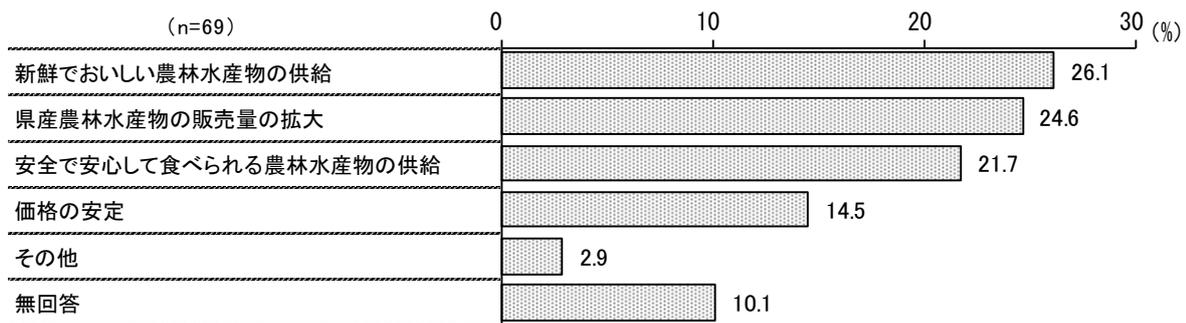
＜図表12-27＞ひとり親家庭等の福祉を充実する



22 農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する（4.5%、22位）

「新鮮でおいしい農林水産物の供給」（26.1%）が2割台半ばで最も高く、以下、「県産農林水産物の販売量の拡大」（24.6%）、「安全で安心して食べられる農林水産物の供給」（21.7%）が続く。

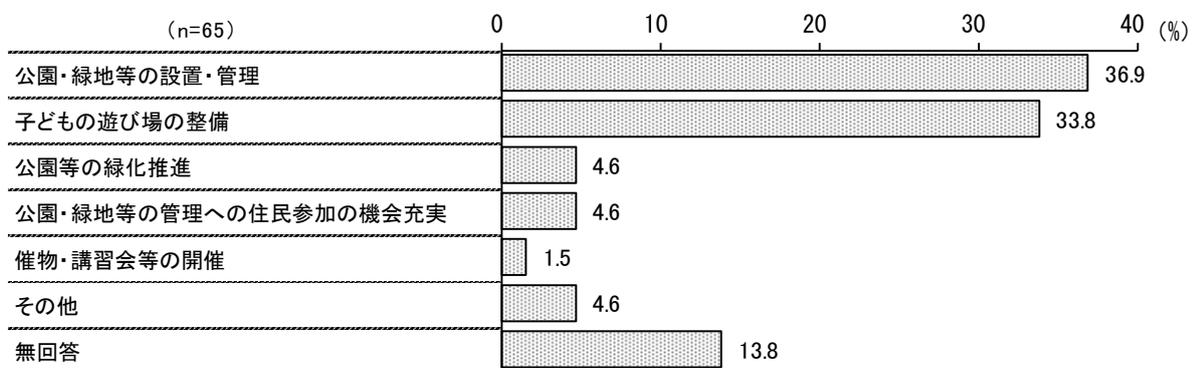
＜図表12-28＞農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する



23 公園・緑地を整備する（4.2%、23位）

「公園・緑地等の設置・管理」（36.9%）が3割台半ばで最も高く、以下、「子どもの遊び場の整備」（33.8%）、「公園等の緑化推進」と「公園・緑地等の管理への住民参加の機会充実」（ともに4.6%）が続く。

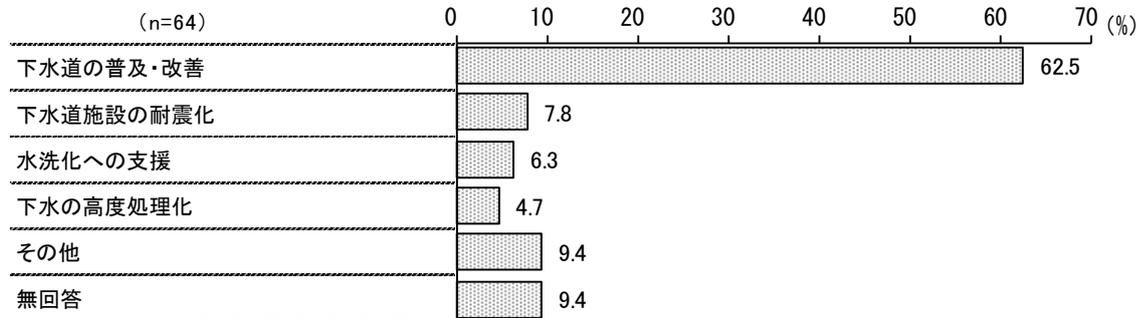
＜図表12-29＞公園・緑地を整備する



24 下水道を整備する（4.2%、24位）

「下水道の普及・改善」（62.5%）が6割を超えて最も高く、以下、「下水道施設の耐震化」（7.8%）、「水洗化への支援」（6.3%）が続く。

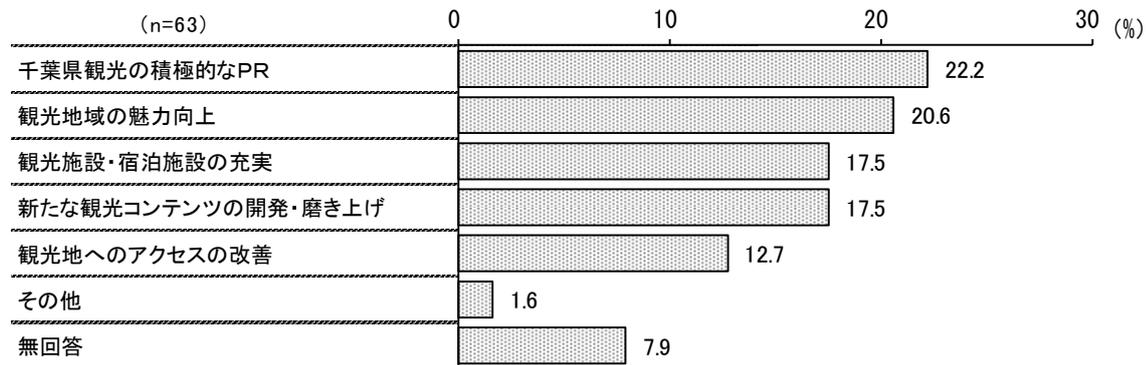
＜図表12-30＞下水道を整備する



25 観光を振興する（4.1%、25位）

「千葉県観光の積極的なPR」（22.2%）が2割を超えて最も高く、以下、「観光地域の魅力向上」（20.6%）、「観光施設・宿泊施設の充実」と「新たな観光コンテンツの開発・磨き上げ」（ともに17.5%）が続く。

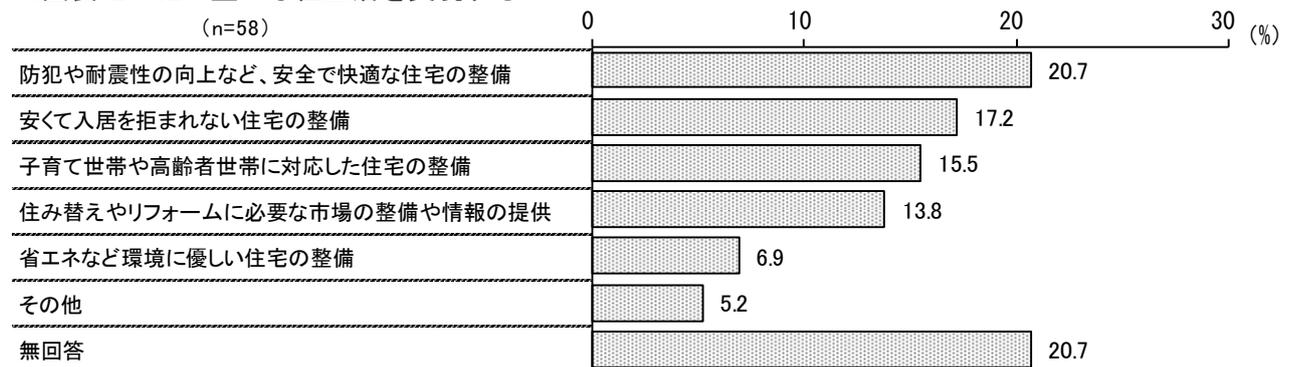
＜図表12-31＞観光を振興する



26 豊かな住生活を実現する（3.8%、26位）

「防犯や耐震性の向上など、安全で快適な住宅の整備」（20.7%）が2割で最も高く、以下、「安くて入居を拒まれない住宅の整備」（17.2%）、「子育て世帯や高齢者世帯に対応した住宅の整備」（15.5%）が続く。

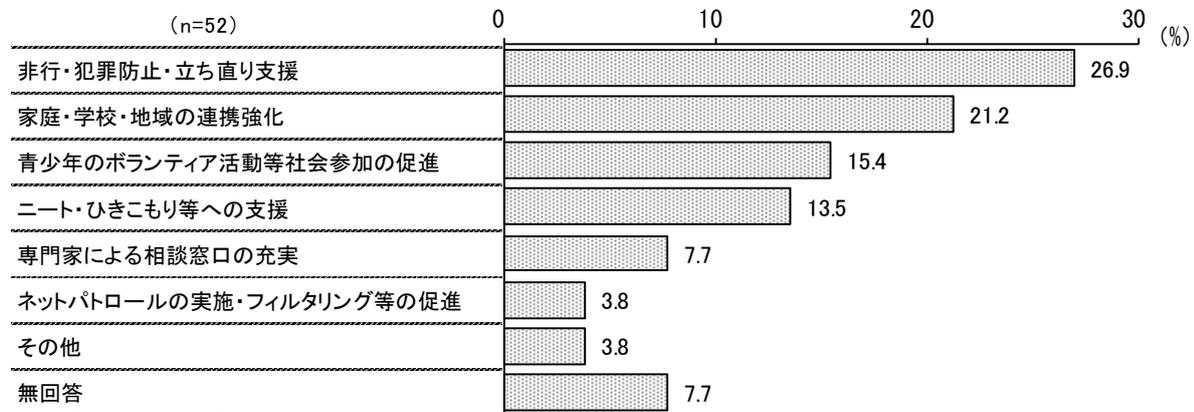
＜図表12-32＞豊かな住生活を実現する



27 青少年を健全に育てる（3.4%、27位）

「非行・犯罪防止・立ち直り支援」（26.9%）が2割台半ばで最も高く、以下、「家庭・学校・地域の連携強化」（21.2%）、「青少年のボランティア活動等社会参加の促進」（15.4%）が続く。

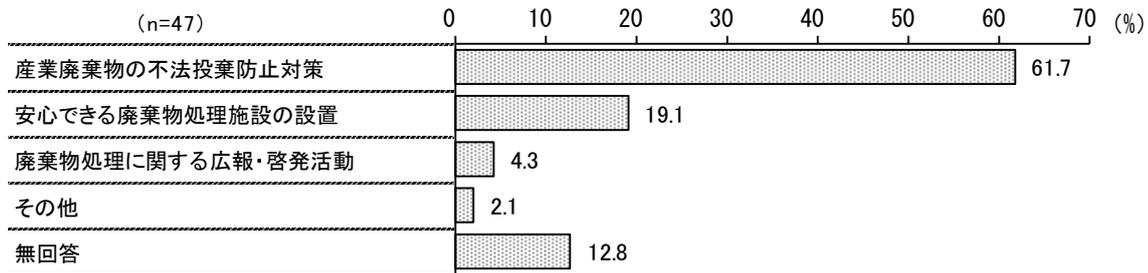
＜図表12-33＞青少年を健全に育てる



28 廃棄物対策をすすめる（3.1%、28位）

「産業廃棄物の不法投棄防止対策」（61.7%）が6割を超えて最も高く、以下、「安心できる廃棄物処理施設の設置」（19.1%）、「廃棄物処理に関する広報・啓発活動」（4.3%）が続く。

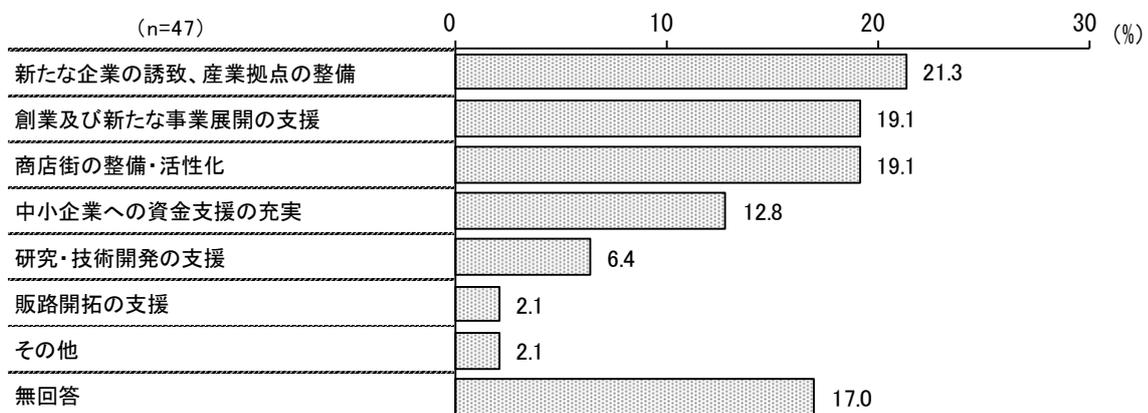
＜図表12-34＞廃棄物対策をすすめる



29 商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する（3.1%、28位）

「新たな企業の誘致、産業拠点の整備」（21.3%）が2割を超えて最も高く、以下、「創業及び新たな事業展開の支援」と「商店街の整備・活性化」（ともに19.1%）が続く。

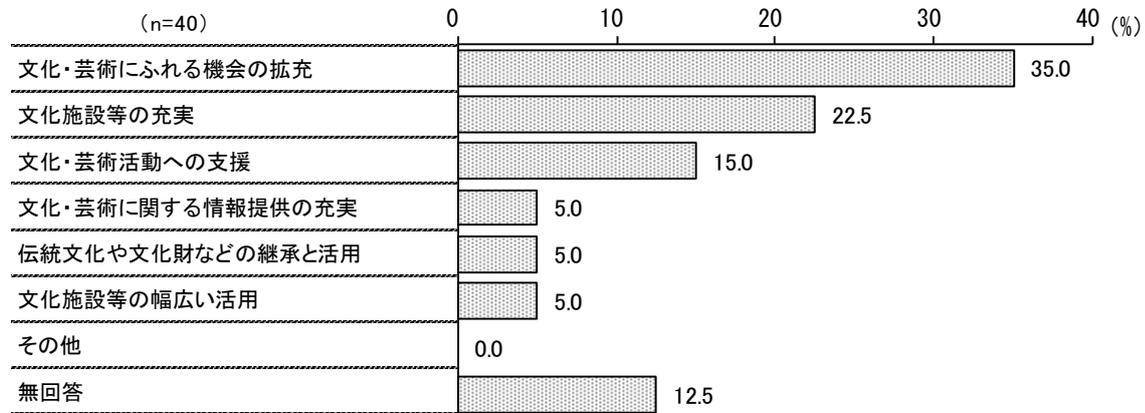
＜図表12-35＞商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する



30 芸術・文化活動を振興する（2.6%、30位）

「文化・芸術にふれる機会の拡充」（35.0%）が3割台半ばで最も高く、以下、「文化施設等の充実」（22.5%）、「文化・芸術活動への支援」（15.0%）が続く。

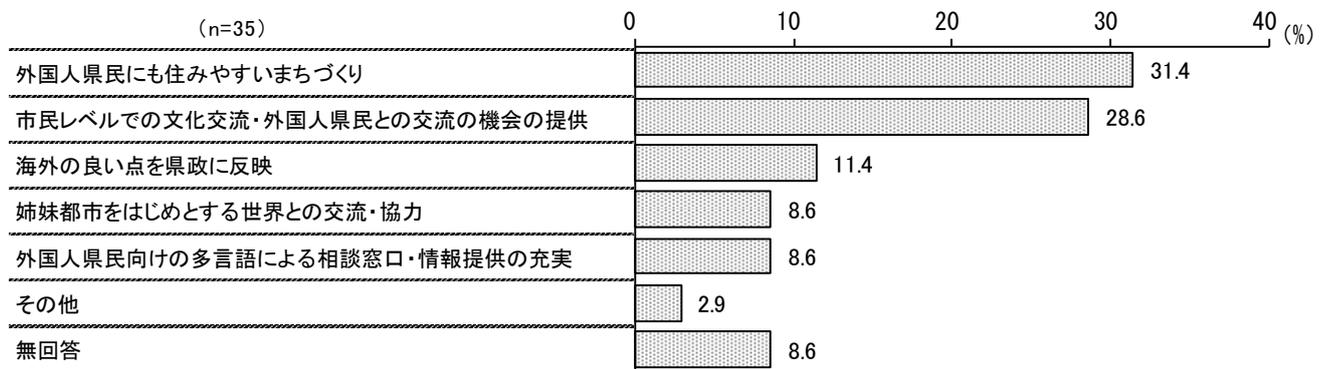
＜図表12-36＞芸術・文化活動を振興する



31 国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる（2.3%、31位）

「外国人県民にも住みやすいまちづくり」（31.4%）が3割を超えて最も高く、以下、「市民レベルでの文化交流・外国人県民との交流の機会の提供」（28.6%）、「海外の良い点を県政に反映」（11.4%）が続く。

＜図表12-37＞国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる

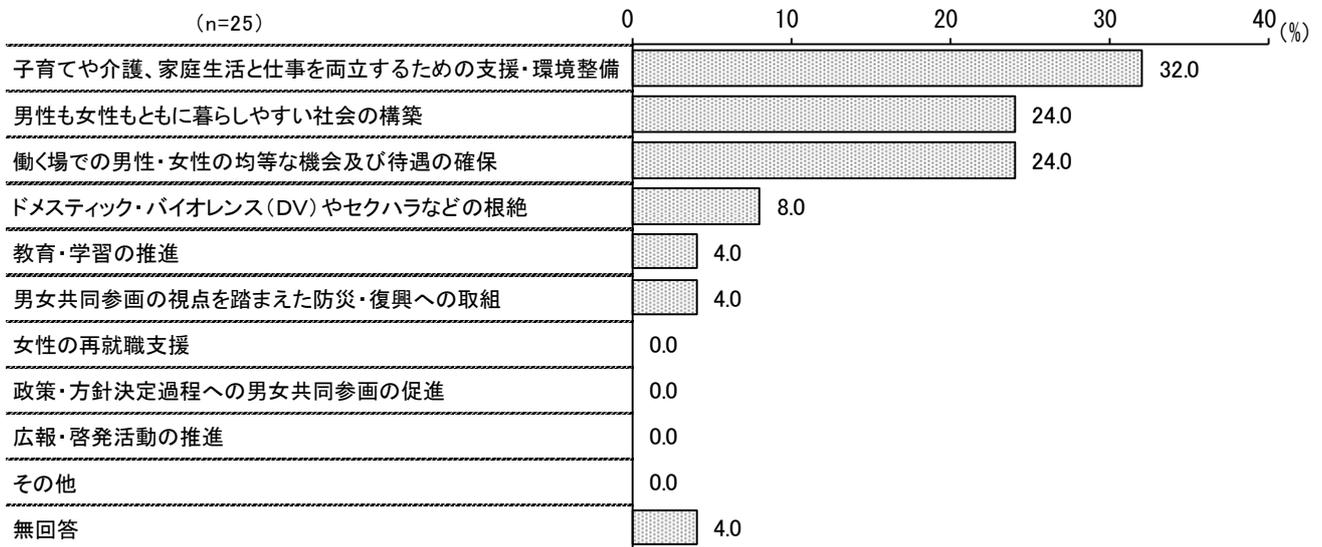


32 男女共同参画を推進する（1.6%、32位）

「子育てや介護、家庭生活と仕事を両立するための支援・環境整備」（32.0%）が3割を超えて最も高く、以下、「男性も女性もともに暮らしやすい社会の構築」と「働く場での男性・女性の均等な機会及び待遇の確保」（ともに24.0%）が続く。

nが少ないため、参考までに図示するにとどめる。

＜図表12-38＞男女共同参画を推進する

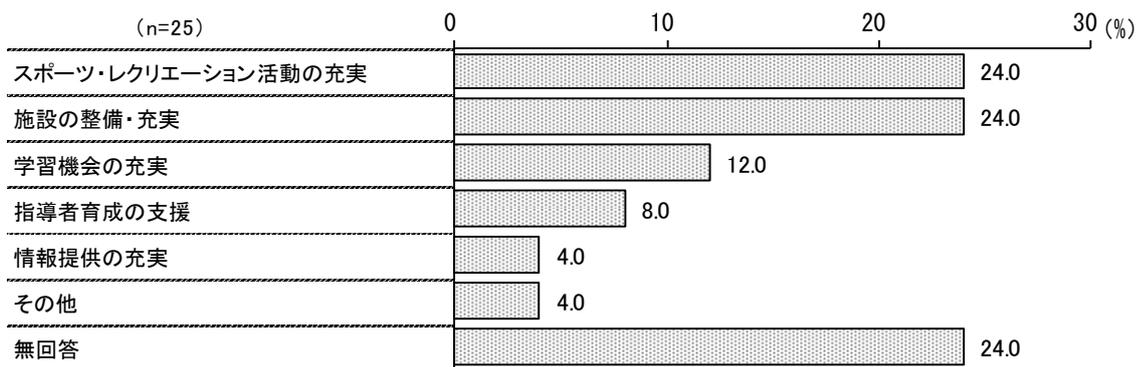


33 生涯学習・スポーツ・レクリエーションを振興する（1.6%、32位）

「スポーツ・レクリエーション活動の充実」と「施設の整備・充実」（ともに24.0%）が2割台半ばで最も高く、以下、「学習機会の充実」（12.0%）が続く。

nが少ないため、参考までに図示するにとどめる。

＜図表12-39＞生涯学習・スポーツ・レクリエーションを振興する

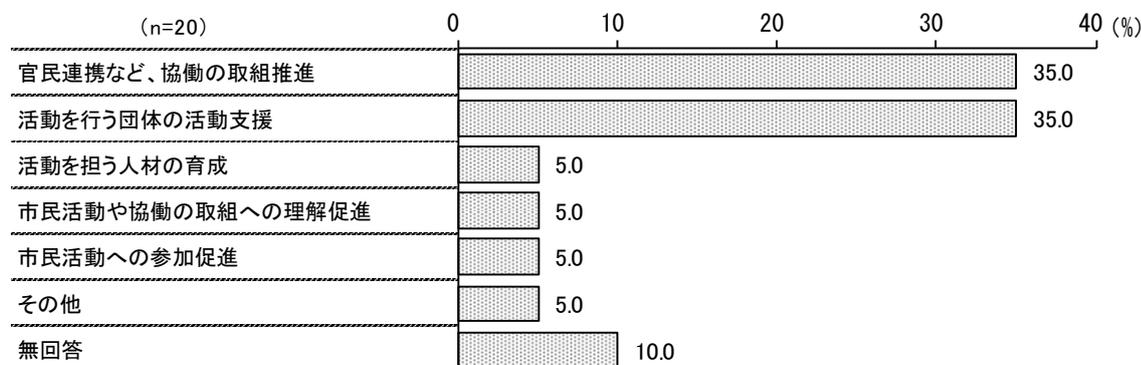


34 地域課題解決に向けた市民活動や協働の取組を推進する（1.3%、34位）

「官民連携など、協働の取組推進」（35.0%）と「活動を行う団体の活動支援」（35.0%）が3割台半ばで最も高く、以下、「活動を担う人材の育成」、「市民活動や協働の取組への理解促進」、「市民活動への参加促進」（いずれも5.0%）が続く。

nが少ないため、参考までに図示するにとどめる。

<図表12-40>地域課題解決に向けた市民活動や協働の取組を推進する

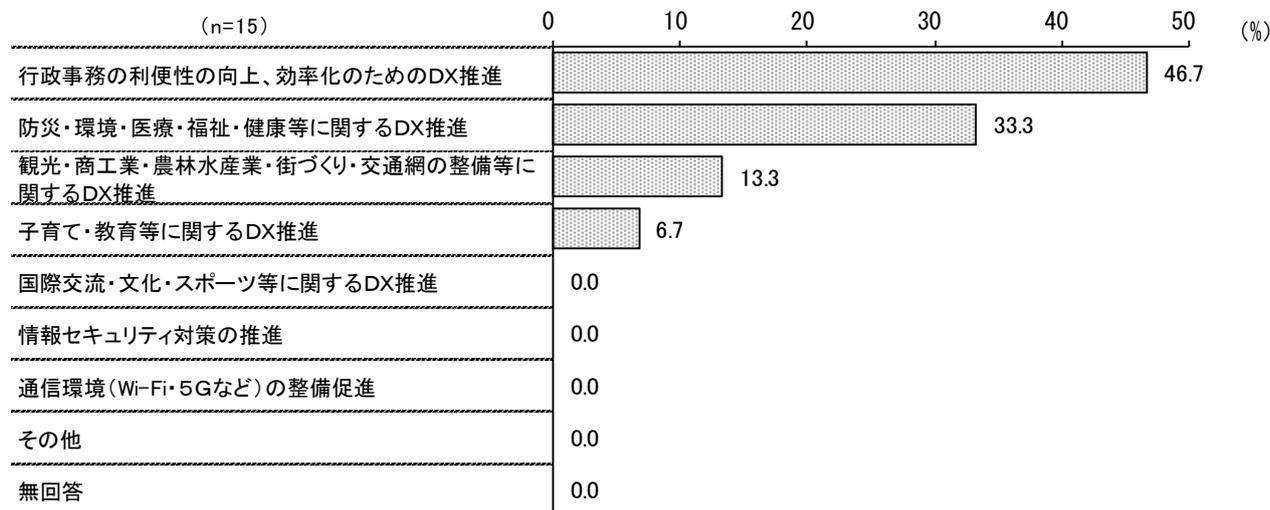


35 施策実現や地域活性化のためにDXを推進する（1.0%、35位）

「行政事務の利便性の向上、効率化のためのDX推進」（46.7%）が4割台半ばで最も高く、以下、「防災・環境・医療・福祉・健康等に関するDX推進」（33.3%）、「観光・商工業・農林水産業・街づくり・交通網の整備等に関するDX推進」（13.3%）が続く。

nが少ないため、参考までに図示するにとどめる。

<図表12-41>施策実現や地域活性化のためにDXを推進する



13 自由回答

問 県や世論調査へのご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。

県への意見を自由に記述していただいたところ、県への意見については225人から延べ299件の回答が寄せられた。人数・件数には別の設問である「設問への意見」に記入された県への意見も含む。

記述いただいた内容は多岐にわたり、県政の各施策におおむね沿った形で整理した。なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、原文の内容の趣旨をそこなわないよう回答を分け、それぞれの項目へ分類した。また、紙面の都合上、すべての意見を掲載することはできないが、意見の多い項目（9件以上）に関しては、意見の一部を抜粋して記載するものとする。

【県への自由回答の項目順位】

順位	項目	件数
第1位	県政全般に関する要望	52
第2位	道路を整備する	39
第3位	公共交通網（バス・鉄道）を整備する	26
第4位	高齢者の福祉を充実する	15
第5位	災害から県民を守る	14
第6位	医療サービス体制を整備する	12
第7位	次世代を担う子どもの育成支援を充実する	11
第8位	県政の情報発信について	9
第9位	交通事故から県民を守る	8
〃	雇用の場を広げる	8
第11位	学校教育を充実する	6
第12位	農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する	5
〃	安心して飲める良質な水道水を供給する	5
〃	犯罪防止対策をすすめる	5
第15位	障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する	4
〃	廃棄物対策をすすめる	4
〃	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する	4
第18位	芸術・文化活動を振興する	3
第19位	中心市街地の活性化を推進する	2
〃	大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる	2
〃	自然を守り、緑を育てる	2
〃	温暖化対策、循環型社会を推進する	2
〃	観光を振興する	2
〃	下水道を整備する	2
〃	生涯学習・スポーツ・レクリエーションを振興する	2
〃	東京湾アクアラインについて	2
第27位	消費生活のトラブルに関する対策をすすめる	1
〃	食品の安全を守る	1
〃	国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる	1
〃	ひとり親家庭等の福祉を充実する	1
〃	青少年を健全に育てる	1
〃	商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する	1
〃	公園・緑地を整備する	1
〃	施策実現や地域活性化のためにDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進する	1
	その他	45
	その他 うち、国政への要望	12
	その他 うち、住んでいる市町村への要望	12

合 計（延べ件数） 299

【自由回答の記述】（意見の多い項目の一部抜粋）

■ 県政全般に関する要望

- 千葉県が住みやすい県とうたわれるようになったら良い。千葉市の人口増は見られるが、県全体では空屋が増えている。（女性、75歳以上、千葉地域）
- 千葉県は東西南北に広く他県と異なった特色を持つ地域になっているのでそれぞれの特色に合った政策が必要です。（男性、75歳以上、印旛地域）
- 千葉県内でも、都市部と町村はあらゆる面で格差を感じる。人口の少ない町村で予算、人員が限られるのはもちろん、議員、職員にリーダーとして政策を進める人材も不足している。インフラ整備、災害対応、福祉の充実など、重要な事項については、県政主導のもと、地域格差を解消してほしい。（女性、50代、長生地域）
- 千葉市や船橋市、市川市といった東京に近いエリアには若者が溢れ、地方は衰退していく現状から、地方に若者が残れる政策を期待しています。（男性、30代、安房地域）
- 物価上昇による補助を千葉県としても考えていただきたい。物価上昇によりさらに一生懸命働かないと生活できず、文化や老後、災害など気にしている余裕がない。（男性、40代、東葛飾地域）
- 昔からのやり方にとらわれず、今に合う県政を行える方々を集め、素適な千葉県をつくって下さい。（女性、50代、山武地域）
- 千葉県で生まれ育ち、千葉県が大好きです。今後もより良い県の運営を応援しております。（男性、40代、千葉地域）

■ 道路を整備する

- 歩道のない通学路の改善は早急をお願いしたいです。スクールバスの検討もお願いします。また、交通量の多い道路で歩道が非常に狭く危険です。子供だけでは歩かせられません。（男性、30代、千葉地域）
- 居住地域の道路は、歩道の無い道路が多く、交通量も多い上に、バスの定期経路にもなっているため危険である。道路整備をお願いしたい。（男性、75歳以上、葛南地域）
- 神奈川、東京に居住経験があります。千葉の良さは多くありますが、道路について神奈川、東京に比べて大きく劣っていると思います。災害対策としての観点もありますが、準幹線道路の整備を望みます。（男性、50代、葛南地域）
- 地域の道路整備を進めてもらう中で歩道のドブのフタが地盤不良でボコボコになっている場所等がある場合、どちらへ報告すれば良いですか？自転車は危険なレベルです。（女性、40代、山武地域）
- 自転車で安心して走れる道が増えると県民も沢山使おうと思います。健康になり、排気ガスも出ないのでぜひ。（女性、40代、印旛地域）
- 千葉県は全体的に、道路の雑草が伸び放題で廃れている印象を受ける。これを綺麗にするだけで、千葉の印象はもっと良くなる気がする。（男性、40代、東葛飾地域）

■ 公共交通網（バス・鉄道）を整備する

- 朝の満員電車が少しでも解消されたらと思います。（男性、20代、東葛飾地域）

- 交通機関(電車)など本数が少なく、1時間に1本あるかないかと不便なため30分に1本程度にした方が都内への引っ越しが減り、より充実すると思う。(男性、20代、香取地域)
- 免許を返納したらどこ行くにも歩いて行かなくてはなりません。足が痛かったりするとタクシーに頼らなければならないので多少の補助があると助かります。(女性、75歳以上、千葉地域)
- 今まで横浜在住でしたので千葉県は2年目でよく分かりません。交通機関をよく使うので高齢者パスのような仕組みがあればいいのですが。(女性、75歳以上、葛南地域)
- 自然と東京23区へのアクセス、観光資源などに恵まれた県だと思います。房総半島への交通アクセス(道路や鉄道)がもっと良くなれば他都道府県からの観光客、税収も増えると思います。(男性、50代、葛南地域)

■高齢者の福祉を充実する

- 祖母の介護をしていたとき、まだまだ高齢者介護、福祉において、やりにくいことや難しいこと、足りないこと、手が届かないことがたくさんありました。高齢化がますます進む今後、力をいれていただけたら、この先の日々をもっと安心して暮らせるかなと思います。(女性、40代、千葉地域)
- 高齢者の集まり楽しむ場所が無くなり自由に使える所が少なくなった。市の補助も無いのでは。(男性、70~74歳、君津地域)
- 在宅介護を選択したらケアマネもなかなか決まらない。施設入所が当たり前なのかと思ったので。(女性、70~74歳、千葉地域)
- 同居の高齢者両親が、日常生活に支障が出てきたらどうすれば良いかわからず、不安である。(男性、40代、千葉地域)

■災害から県民を守る

- 地球温暖化により台風10号のように過去の常識は見直しが必要になってきていると思います。特に河川は堤防の高さ不足、盛土材料の変更等急変する雨量に耐えうる見直しをすぐに行なう必要があると思います。(男性、75歳以上、東葛飾地域)
- 早く電柱は地中化した方がいいと思う。災害が起きた時に2次災害になると思う。何年も前から推奨されているのに全く進んでいない。税金は環境整備に使われているか疑問に思っています。(女性、40代、葛南地域)
- 海が近く、近年地震が心配されていますが、海岸近くに避難できる高台などの設置や、直接道路や歩道に近くの避難場所へ誘導できる表示(矢印など)を埋め込むなど、対策願いたい。(女性、40代、君津地域)
- 永遠のテーマですが、治水対策を引き続きよろしく願いいたします。(男性、50代、長生地域)

■医療サービス体制を整備する

- 千葉市よりも東は医療資源の分布に不均衡がある。医師が任地へ行きたがらない状況は改善すべきだと思います。(男性、40代、千葉地域)

- 以前は名古屋市に住んでいました。名古屋市は中学校まで医療費の負担はなしでした。子育て世代には良い行政と感じました。（男性、40代、葛南地域）
- 医療・介護の充実、特に病院が少なくワクチン（コロナ）の接種の時困った。介護ももっと充実させて欲しい。（女性、50代、東葛飾地域）

■次世代を担う子どもの育成支援を充実する

- 子どもの命を守ってください（交通事故、虐待）。県も踏み込んで見守ってほしいと思います。悲しい事が多すぎます。（女性、70～74歳、葛南地域）
- 子育てにあまりにも手間とお金がかかり過ぎて、これでは少子化は改善されない。子供ができたなら全額国県市が負担するぐらいの覚悟が必要。又、保育園の充実、療養保育施設も大いに必要。（女性、70～74歳、安房地域）
- 子育てや育児に対しての支援をもっとして欲しい。色々と物価が上がり生活が大変な家庭もあると思うからもっと充実して欲しいと思っています。（男性、20代、安房地域）

■県政の情報発信について

- 正直千葉県政についての情報をほとんど知らなかった。興味があり自ら情報を取得しようとしている人以外はほとんどの人が知らないのではと思った。もっと県民に県政について知ってもらえるよう何か取り組みが必要だと感じた。（男性、30代、葛南地域）
- 年配者は時間もあり県政に興味があれば情報を得る機会も多いと思うが、忙しい若い人達が、自然に情報を得る機会が得られれば良いと思うが。（女性、70～74歳、印旛地域）
- 船橋市の情報は気軽に手に入るが、千葉県のごことは、あまり情報がない。市政と同じ位、県政の情報があれば、もっと千葉を身近に感じるかもしれない。（女性、40代、葛南地域）

「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、54人から54件の回答が寄せられた。人数・件数には前問の「設問への意見」に記入された世論調査への意見も含む。

これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■世論調査について

— 《世論調査自体への意見》

- なぜ選ばれたかわかりませんが、県民の意見を聞く機会があるのはいい事だと思います。どれくらいの人に聞いているのかわかりませんが、もっと多くの機会、人数の意見の場は多くなるとさらにいいですね。
(女性、40代、東葛飾地域)
- 生まれも育ちも千葉県ですが、初めてこの世論調査を受けました。選挙には投票に行きますが、県政について知らないことが多かったので、もう少し興味を持つべきだと感じました。
(女性、30代、東葛飾地域)
- 県政の世論調査を通して、自分と社会の関係の再認識やこれからの社会についての新たな知識を得る良い機会になったと思います。
(男性、30代、長生地域)
- 実際の回答時間は、約一時間かかり（資料を読みながら行っていたのが原因と思います）見直しを含めて結構大変でした。インターネット回答を含めて、このような調査に参加するのは初めてですができる限り県政に参加できる機会を利用したいです。
(男性、70～74歳、千葉地域)
- あらゆる分野を網羅した調査内容になっている点は良いと思うが3,000名の調査人数というのは全県民人口からみても少な過ぎて県民全体の意見が反映されているかは疑問である。
(女性、70～74歳、印旛地域)
- 千葉県の西側に人口の半分が集中してしまっている現状だから、このアンケートとは別に、西側とそうでない地域で、より細かく調査すべき。過疎地向けのアンケートを作る等すべき。
(男性、30代、海匝地域)
- これまでのアンケートで何がどう変わったかなどを紹介してあると回答する意欲があがります。
(性別回答しない、50代、千葉地域)
- この結果を分かりやすいかたちで公表し、どう意見が反映されたのかまで教えてほしい。
(女性、30代、千葉地域)
- 調査だけでなく目に見える実行をお願いします。
(男性、75歳以上、海匝地域)

— 《調査手法や謝礼への意見》

- 初めて世論調査に回答しましたが、自宅のPCから入力ができるのは大変便利で良いと思いました。
(女性、40代、東葛飾地域)
- あらゆる方法で調査されているのは良い事です。紙での回答もOKなのは素晴らしい！
(男性、65～69歳、印旛地域)

○インターネットでの回答が簡単でわかりやすくとても良かったです！ただ、詐欺とか怪しい封筒だと思い、捨ててしまう人も居ると思うので県政に関する世論調査というものがある事をもっと色々な人に知って貰える何かがあれば良いなと思いました。ボールペンは可愛くて凄く嬉しかったです！ありがとうございました！（性別回答しない、30代、印旛地域）

○チーバくんのボールペンが入っているのが良かった。（封筒を開けようと思えた）
（女性、30代、安房地域）

○チーバくんのボールペンではなくてクオカードにしてください。
（性別・年齢無回答、葛南地域）

問 今までの設問について、ご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。

今回のアンケート調査における「設問に関する意見」を自由に記述していただいたところ、154人から32件の回答が寄せられた。「県や世論調査への意見」に記述された意見のうち、「設問への意見」に該当するものもこちらに振り分けている。なお、回答者数より記述件数が少ないのは、その多くが「県や世論調査への意見」に該当するものであったため、そちらに振り分けたことによるものである。

○自由に書くところを多くとって欲しい。せっかくのチャンスなので。又、ふだんでも県民の声を自由に届けられるシステムを作って欲しい。ホームページとかできない、見られない人にも優しい対応を。
（女性、70～74歳、千葉地域）

○かなり広範囲に質問があり、普段気にしてないことまで考えさせられた。
（男性、50代、葛南地域）

○設問が多いので大変でした。途中でやめたくまりました。
（性別回答しない、40代、東葛飾地域）

○高齢のため質問の内容が理解できない点が多い。
（女性、75歳以上、千葉地域）

○現在は健康、生活にもあまり心配はしておりませんが、いずれはこの中にあてはまる必要とするものがあるのかなと思い記入しました。
（女性、75歳以上、千葉地域）

○「少子化による人口減少で消滅するような自治体をどのように考えているのか」「後継者の減少による農地(水田他)荒廃の増加をどうするのか」のような事柄も本調査に取り上げて欲しかった。
（男性、70～74歳、長生地域）

第 67 回 千葉県政に関する世論調査 調査票

ご回答に当たってのお願い

宛名のご本人様がお答えください。(代筆による回答も可能です。)

回答方法は「郵送」又は「インターネット」のいずれかをお選びいただけます。

令和6年9月24日(火)までにご回答をお願いします。

※郵送・インターネット共通

郵送でお答えいただく場合

- この調査票に直接、黒か青のボールペン又は鉛筆でご記入ください。
- 調査票はご記入後、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れて、郵便ポストにご投函ください。返信用封筒へのお名前やご住所のご記入、切手は不要です。

インターネットでお答えいただく場合

- ご回答には、右下に貼られた「利用者ID」「パスワード」が必要になります。
- 「利用者ID」等は、ランダムに調査票へ貼っており、個人は特定されません。
- インターネットでお答えいただいた方は、この調査票を返送する必要はありません。
- 詳細な手順は、別添の「インターネット回答操作案内」をご覧ください。
- スマートフォンで、右下の2次元コードを読み取ると回答ページに移動します。

ご回答に当たってご不明な点等がございましたら、お手数ですが下記までお問い合わせください。

【調査の趣旨・内容について】

千葉県 総合企画部報道広報課 広聴室

〒260-8667

千葉市中央区市場町1番1号

電話 043-223-2246

(平日9:00~17:00)



千葉県マスコットキャラクター
チーバくん

【調査票の記入方法・締切等について】

調査実施機関

株式会社マーケティングリサーチサービス

〒170-0005

東京都豊島区南大塚2-45-8

ニッセイ大塚駅前ビル 5階

電話 03-6690-0086

(平日10:00~18:00)



【環境と生活について】

問1 あなたは、現在お住まいの地域に、ずっと住み続けたいと思いますか。

n=1,535 (○は1つ)

- 73.1 住み続けたい
- 5.5 千葉県内のよそへ移りたい
- 3.7 千葉県外に移りたい
- 5.5 千葉県内、県外どちらでもかまわないう移りたい
- 11.5 わからない
- 0.8 無回答

→ (問1で「1」とお答えの方に)

問1-1 あなたが現在お住まいの地域に、ずっと住み続けたいと思う理由は何ですか。

n=1,122 (○は3つまで)

- 18.0 地域の人とのつながりを大切に考えているから
- 16.5 家族の思い出がつまっているから
- 39.1 生活環境に満足しているから
- 59.1 自分の土地や家があるから
- 30.5 通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性がよいから
- 6.1 公共施設(道路や上下水道、公園や図書館など)や教育・子育て、文化の環境が整っているから
- 21.7 自然環境や気候に恵まれ暮らしやすいから
- 8.9 治安や風紀がよいから
- 37.5 住み慣れていて愛着があるから
- 20.1 家族や親族が近くにいるから
- 5.1 仕事や商売に都合がよいから
- 1.8 その他(具体的に)
- 0.0 無回答

→ (問1で「2」～「4」のいずれかをお答えの方に)

問1-2 あなたが現在お住まいの地域から移りたいと思う理由は何ですか。

n=225 (○は3つまで)

- 33.3 そのときどきの家族の状況(子どもの成長、親の面倒を見るなど)に合った住まいを考えているから
- 41.8 生活環境をより良くしたいから
- 10.2 より良質で広い住宅に住みたいから
- 7.6 近所の人とのつきあいがうまくいってないから
- 40.9 通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性が悪いから
- 10.2 公共施設(道路や上下水道、公園や図書館など)や教育・子育て、文化の環境が整っていないから
- 8.9 自然環境に恵まれていないから
- 4.4 治安や風紀が悪いから
- 3.6 住み慣れておらず愛着を感じないから
- 12.0 家族や親族の近くに住みたいから
- 4.9 仕事や商売に都合が悪いから
- 13.8 その他(具体的に)
- 1.3 無回答

問2 あなたは、千葉県内の道路状況についてどう感じですか。 n=1,535 (○は1つ)

2.7 大変満足している	23.0 どちらともいえない	9.6 大変不満である
29.0 まあ満足している	29.6 やや不満である	3.8 わからない
		2.2 無回答

問3 あなたは、今後、道路整備をしていく上で、優先的に対策すべき課題は何だと思
いますか。 n=1,535 (○はいくつでも)

51.1 災害に強い道路整備 (高速道路の整備、幹線道路の整備、橋の補強など)		
47.7 渋滞対策 (バイパスの整備、開かずの踏切対策、交差点の改良など)		
41.5 交通事故対策 (通学路の歩道設置など)		
32.6 バリアフリー対策 (歩道の段差の解消など)		
28.3 自転車利用の促進 (自転車道・駐輪場の整備など)		
25.5 バスなどの公共交通機関への支援 (バスレーンの整備など)		
12.7 既存道路の有効活用 (アクアラインの通行料金の引下げの継続、インターチェンジ の増設など)		
10.7 休憩施設の整備 (道の駅等)		
27.6 維持管理の充実 (清掃など日常的な維持管理、老朽化した橋の予防対策など)		
16.6 わかりやすい案内標識などの整備		
15.4 道路景観の改善 (電線類の地中化、植樹など)		
12.7 大気汚染や騒音などの環境対策		
6.6 カーナビ情報の充実 (地図情報、渋滞情報の充実など)		
6.2 その他(具体的に)
1.0 無回答		

問4 現在お住まいの地域の、上水道の整備についてどう感じですか。

n=1,535 (○は1つ)

15.6 大変満足している	16.5 どちらともいえない	3.6 大変不満である
53.2 まあ満足している	5.9 やや不満である	5.0 わからない
		0.3 無回答

問5 現在の住生活全般 (住まい・環境・地域社会) についてどう感じですか。

n=1,535 (○は1つ)

8.8 大変満足している	15.1 どちらともいえない	2.3 大変不満である
61.2 まあ満足している	10.7 やや不満である	1.5 わからない
		0.3 無回答

問6 消費生活全般 (消費者トラブルの相談体制、消費者教育の機会、悪質商法への対
策、生活必需品の安定供給など) について、どう感じですか。

n=1,535 (○は1つ)

3.3 大変満足している	35.7 どちらともいえない	2.5 大変不満である
25.0 まあ満足している	10.3 やや不満である	22.7 わからない
		0.6 無回答

問7 あなたは、消費者トラブルなどの相談窓口であり、出前講座等も実施している「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」を知っていますか。

n = 1,535 (○は1つ)

13.6	名前も業務内容も知っている
54.3	名前は聞いたことがあるが、業務内容までは知らない
32.0	名前も業務内容も知らない
0.2	無回答

問8 気候変動による影響に対応し、被害を回避・軽減させることを「気候変動による影響への適応」と言います。「気候変動による影響への適応」という言葉を知っていますか。

n = 1,535 (○は1つ)

7.4	意味までよく知っている	29.1	言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない
30.6	意味を大体知っている	32.7	知らない
		0.2	無回答

問9 日常生活の中で環境に配慮して行動していますか。

n = 1,535 (○は1つ)

24.0	いつも配慮している	13.4	あまり配慮していない	3.3	わからない
51.9	ときどき配慮している	6.6	特に配慮していない	0.7	無回答

問10 あなたは、普段の生活で環境に配慮した次のような取組を行っていますか。

n = 1,535 (○はそれぞれ1つずつ)

	実施している	ときどき実施している	あまり実施していない	実施していない	該当するものがない	無回答
(ア) 節電に努めている	42.5	42.9	11.0	2.4	0.3	0.9
(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする	53.9	27.6	12.8	4.4	0.5	0.9
(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ	33.9	31.5	22.3	7.6	3.1	1.6
(エ) マイバッグの利用	79.6	12.2	3.1	3.9	0.5	0.7
(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない	62.7	11.8	3.1	1.4	18.6	2.4
(カ) 食品ロスの削減に取り組んでいる	48.2	36.9	11.2	1.9	0.8	1.0

問11 これまでに環境保全に関する講演やセミナー（オンラインでの参加を含む）、あるいは環境ボランティア活動（植林や清掃活動など）に参加したことがありますか。 n=1,535（○は1つ）

18.4	参加したことがある
28.2	参加したことはないが、機会があれば参加してみたい
26.8	参加したことはなく、あまり参加したいと思わない
24.8	参加したことはなく、今後も参加するつもりはない
1.3	その他（具体的に)
0.5	無回答

問12 市民活動団体*の活動や、ボランティア活動に関心がありますか。 n=1,535（○は1つ）

7.2	大変関心がある	41.4	あまり関心がない	0.5	無回答
39.6	まあ関心がある	11.3	まったく関心がない		

※ 「市民活動団体」とは、市民の自発性に基づき、福祉や子育て支援、まちづくり、環境等様々な分野の地域課題の解決のために、自立的・継続的に社会貢献活動を行う営利を目的としない団体（行政が認証したNPO法人やボランティア団体等任意団体）です。

問13 市民活動団体の活動に参加*したことがありますか。 n=1,535（○は1つ）

3.9	定期的に参加している	11.3	参加したことはないが、今後参加してみたいと思う
7.2	ときどき参加している	61.5	参加したことはない
15.9	参加したことがある	0.3	無回答

※ ここでいう「参加」とは、団体の会員やボランティアとしての参加のみならず、団体への資金・物品・技術・場所等の提供・寄付などの支援を通しての参加や、団体が提供するサービスの利用・イベントへの参加などを指します。

問14 ボランティアとして活動*したことがありますか。 n=1,535（○は1つ）

8.2	定期的に参加している	7.1	活動したことはないが、今後活動してみたいと思う
8.6	ときどき活動している	47.7	活動したことはない
28.1	活動したことがある	0.3	無回答

※ ここでいう「ボランティア活動」とは、市民の自発性に基づき地域や社会に貢献する活動（町会・自治会の活動、PTA活動や学校行事の手伝い、子ども会の活動、交通安全運動、道路や公園等の清掃なども含む）のことであり、市民活動団体が行うボランティア活動への参加のみならず、個人として行うものを含むボランティア活動全般を指します。



問15 あなたは、この1年間に、文化芸術^{*}を鑑賞しましたか。また、鑑賞ではなく、自分で文化芸術活動をしましたか。 n=1,535 (○はそれぞれ1つつ)

^{*} 「文化芸術」とは、映画(アニメ含む)、音楽(全てのジャンル)、美術(写真・デジタルアート含む)、文芸(マンガ含む)、ダンス、茶道・華道・書道、歌舞伎、地域に伝わる祭り、文化財などを指します。

鑑賞	(ア) 直接の鑑賞 (施設での音楽鑑賞、美術館や博物館での展覧会の鑑賞、舞台公演鑑賞、史跡めぐり、読書、映画館での鑑賞など)	63.3 鑑賞した 36.1 鑑賞しなかった 0.6 無回答
	(イ) オンラインやテレビでの鑑賞	65.3 鑑賞した 30.1 鑑賞しなかった 4.6 無回答
活動	(ウ) 直接の文化芸術活動 (創作、音楽の演奏や舞台等への出演、習い事、趣味を同じくするグループでの活動、地域の祭りや体験活動への参加など)	26.2 活動した 73.2 活動しなかった 0.7 無回答
	(エ) オンラインでの文化芸術活動 (動画や写真の投稿、デジタルアートの創作など)	9.4 活動した 88.4 活動しなかった 2.2 無回答

(問15 (ア) (イ) のいずれかで「2」をお答えの方に)

問15-1 「鑑賞しなかった」とお答えの主な理由は何ですか。

n=690 (○はいくつでも)

25.2	文化芸術の鑑賞に興味がないから	
34.2	時間がないから	
22.3	近くに鑑賞できる文化施設がないから	
21.6	鑑賞に関する情報を得られないから	
26.2	興味のある内容の催し物がないから	
16.8	都合の良い日時に開催されていないから	
11.3	催し物の料金が安いから	
6.8	Web環境が整っていない、又はWeb上でのチケット購入などの手続きが難しいから	
0.3	施設のバリアフリー対策や情報提供、サポートが不十分だから	
15.8	新型コロナウイルス感染症は5類に移行したが、まだ不安があり、外出を控えたから	
5.9	その他(具体的に)	4.3 無回答

(問15 (ウ) (エ) のいずれかで「2」をお答えの方に)

問15-2 「活動しなかった」とお答えの主な理由は何ですか。

n=1,409 (○はいくつでも)

23.0	文化芸術の活動に興味がないから	
37.2	時間がないから	
13.1	近くに活動のための文化施設がないから	
22.3	活動に関する情報を得られないから	
25.8	興味のある内容の活動がないから	
14.5	都合の良い日時に取り組みたい活動が開催されていないから	
6.6	活動のための料金や費用が高いから	
0.9	施設のバリアフリー対策や情報提供、サポートが不十分だから	
10.0	新型コロナウイルス感染症は5類に移行したが、まだ不安があり、活動を控えたから	
6.2	その他(具体的に)	4.3 無回答

問16 あなたは、千葉県において、文化芸術に触れ、自ら取り組むことができる環境が整っていると思いますか。 n=1,535 (○は1つ)

3.5	そう思う	13.0	どちらかといえばそう思わない
17.7	どちらかといえばそう思う	10.2	そう思わない
29.3	どちらともいえない	25.9	わからない
		0.4	無回答

【健康について】

問17 あなたは、積極的に健康づくり※に取り組んでいますか。 n=1,535 (○は1つ)

22.7	そう思う	9.3	どちらかといえばそう思わない
39.5	どちらかといえばそう思う	7.0	そう思わない
19.9	どちらともいえない	1.4	わからない
		0.2	無回答

※ ここでいう「健康づくり」とは、適度な運動やバランスの取れた食事、禁煙等の県民一人ひとりによる主体的な取組を指します。

問18 あなたは、自分が住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制にあると思いますか。 n=1,535 (○は1つ)

25.0	そう思う	7.6	どちらかといえばそう思わない
40.5	どちらかといえばそう思う	7.6	そう思わない
16.1	どちらともいえない	3.1	わからない
		0.1	無回答

問19 「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬剤師・薬局」をお持ちですか。 n=1,535 (○はそれぞれ1つずつ)

かかりつけ医	かかりつけ歯科医	かかりつけ薬剤師・薬局
66.3 持っている	73.9 持っている	50.6 持っている
27.7 持っていないが、必要性は強く感じている	17.7 持っていないが、必要性は強く感じている	28.3 持っていないが、必要性は強く感じている
5.9 持っていないし、必要性もあまり感じていない	6.4 持っていないし、必要性もあまり感じていない	19.2 持っていないし、必要性もあまり感じていない
0.1 無回答	2.1 無回答	1.8 無回答



【医療について】

問20 あなたは、千葉県内の医療についてどう感じですか。 n=1,535 (○は1つ)

6.4 非常に満足している	20.2 やや不満である	14.7 わからない
53.9 まあ満足している	3.6 非常に不満である	1.0 無回答

問21 あなたが今後、県に力を入れて欲しい医療について次の中から選んでください。
n=1,535 (○は3つまで)

33.4 がん医療	11.6 産科・周産期医療
21.4 循環器（心臓病・脳卒中）医療	35.0 老年医療
34.6 救急救命医療	24.2 地域単位の医療（その地域で完結する医療全般）
31.3 在宅（訪問）医療	4.0 その他（具体的に）
6.6 精神科（救急）医療	6.7 特になし
15.0 小児科（救急）医療	1.0 無回答

問22 あなたは、AED（自動体外式除細動器）※という機器について見聞きしたり、使ったことがありますか。 n=1,535 (○は1つ)

※ AED（自動体外式除細動器）とは、心臓がけいれんし血液を流すポンプ機能を失った状態（心室細動）になった心臓に対して、電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための医療機器です。

47.9 見たり聞いたりしたことがある	1.1 実際に倒れた人に使ったことがある
44.1 使い方を学んだことがある	6.6 1～3※のいずれもない
	0.3 無回答

※ 1～3とは、「見たり聞いたりしたことがある」、「使い方を学んだことがある」、「実際に倒れた人に使ったことがある」を指します。

問23 あなたは、もし、見知らぬ人が目の前で突然倒れた場合、その場にAEDがあれば、その人にAEDを使用することができると思いますか。 n=1,535(○は1つ)

37.9 できると思う	61.7 できないと思う	0.4 無回答
-------------	--------------	---------

【福祉について】

問24 以下について、お住まいの地域はどのような状況だと思いますか。

n = 1,535 (○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない	無回答
(ア) 安心して子育てができる環境がととのっている	10.0	37.2	23.3	6.3	4.8	17.0	1.5
(イ) 自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある	6.3	24.1	30.3	13.0	14.3	11.3	0.8
(ウ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている	6.4	27.0	30.9	9.8	7.8	16.9	1.2
(エ) 地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められている	4.0	22.7	34.6	11.5	10.5	14.9	1.7

問25 あなたは、県が進めている「お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策」についてどうお感じですか。ご自身以外でも、ご家族やご近所の方など、身の回り的高齢者を想定してお答えください。

n = 1,535 (○は1つ)

1.2 大変満足している	35.8 どちらともいえない	4.8 大変不満である
15.2 まあ満足している	13.4 やや不満である	29.3 わからない
		0.4 無回答

問26 障害のある・なしにかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って暮らす「共生社会」という考え方を知っていますか。n = 1,535 (○は1つ)

35.6 知っている	39.3 言葉だけは聞いたことがある	24.8 知らない
		0.4 無回答

【県の農林水産物について】

問27 千葉県産農林水産物を購入したいと思いませんか。 n = 1,535 (○は1つ)

56.9 そう思う	5.3 どちらかといえばそう思わない
34.7 どちらかといえばそう思う	2.9 そう思わない
	0.1 無回答

→ (問27で「1」、「2」のいずれかをお答えの方に)

問27-1 その主な理由は何ですか。 n = 1,406 (○は1つ)

22.3 千葉県に愛着があるから	3.6 価格が安いから
38.4 鮮度が良い(美味しい)から	2.2 その他(具体的に)
21.6 地元のもの安心だから	8.5 特に理由はない
	3.5 無回答

→ (問27で「3」、「4」のいずれかをお答えの方に)

問27-2 その主な理由は何ですか。 n = 127 (○は1つ)

34.6 産地にこだわらず価格で選ぶから	1.6 その他(具体的に)
37.0 産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから	18.1 特に理由はない
3.9 千葉県以外で買いたい産地があるから	4.7 無回答

問28 千葉県では、農薬や化学肥料をできるだけ減らすなど、「環境にやさしい農業に取り組む農業者」や「環境にやさしい農産物」についての認証制度を設けています。次の農産物や制度を知っていますか。

※同封の資料①を参考にご回答ください。 n = 1,535 (○はいくつでも)

18.0 ちばエコ農産物	13.0 エコファーマー
38.1 有機農産物	2.3 みどり認定者
8.6 特別栽培農産物	50.2 どれも知らない
	0.8 無回答

問29 「千葉ブランド水産物」を知っていますか。 n = 1,535 (○は1つ)

2.4 よく知っている(認定マークや品目までわかる)	69.6 知らない
27.6 多少は知っている(聞いたことがある)	0.3 無回答

※ 千葉県では、千葉のさかなの認知度を高め、広く県内外にアピールするため、「銚子つりきんめ」、「外房イセエビ」、「九十九里地はまぐり」などの優良な県産水産物を「千葉ブランド水産物」として認定しています。



【防災に関する取組について】

問30 災害発生危険度と、とるべき避難行動を示す各警戒レベルの意味や、その際にとるべき行動について知っていますか。 n=1,535 (○は1つ)

- 5.1 よく知っている (それぞれのレベルの意味までわかる)
- 38.5 大体知っている (レベルにより取るべき行動が異なることを知っている)
- 45.7 ある程度知っている (言葉を聞いたことがある)
- 9.9 全く知らない
- 0.8 無回答

令和3年5月20日から災害対策基本法の一部改正に伴い、住民の方へ伝達される避難情報の伝え方が変更されました。今後、お住まいの地域で「警戒レベル4避難指示」が発令された場合は、「危険な場所から全員避難」となります。お近くの避難所の位置や避難経路の確認を行うなど、災害に備えていただきますようお願いいたします。

問31 あなたの家では、災害時に利用できる食料品等を何日分用意していますか。 n=1,535 (○はそれぞれ1つずつ)

*飲料水 1日分=1人当たり3リットル×家族の人数 *トイレ 1日分=1人当たり1日5回分×家族の人数	4日分以上	3日分	2日分	1日分	用意していない	わからない	無回答
(ア) 食料品	19.0	29.9	21.0	9.3	16.8	3.3	0.7
(イ) 飲料水	26.6	27.5	19.3	11.3	13.0	1.7	0.7
(ウ) 災害用トイレ (携帯・簡易トイレ)	13.5	11.7	10.0	8.9	50.9	4.1	0.8

問32 あなたは、地震や台風などの災害に備えて、次の対策を行っていますか。 n=1,535 (○はいくつでも)

- 41.7 家具 (冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど) の固定化
- 55.0 避難場所・避難経路の確認
- 34.7 家族等との安否確認手段 (災害用伝言ダイヤル、SNS 等) の確認
- 20.3 上記の対策はどれも行っていない
- 0.4 無回答

大規模な災害が発生した場合、避難所に飲料水や食料などの支援物資が届くまで時間がかかることや、断水や停電、給排水管の損壊、し尿処理施設の被災により、水洗トイレが使用できなくなることが予想されます。また、固定電話や携帯電話 (音声及びメール) は、回線が大変混雑し、つながりにくくなることがあります。日頃から防災に対する意識を高めましょう。

【公金のキャッシュレス化の推進について】※同封の資料②を参考にご回答ください。

県では、収納方法について、県民の皆様の利便性や事務の効率性の観点から「キャッシュレス化の推進」に向けて取り組んでいます。

問33 あなたは、税金や使用料・手数料などの県の公金の納付に当たり、不便と感じることがありますか。 n=1,535 (○は1つ)

18.4 不便に感じることもある	58.3 不便に感じることはない	21.2 わからない
		2.0 無回答

> (問33で「1」とお答えの方に)

問33-1 あなたは、公金の納付に関して、特に、どの場面のキャッシュレス決済を拡大すべきだと思いますか。 n=283 (○は1つ)

51.6 公共施設における窓口での支払い		
23.3 収入証紙による使用料・手数料の支払い		
16.6 インターネット(ちば電子システムなど)での申請に係る使用料・手数料の支払い		
6.0 その他(具体的に)
2.5 無回答		

問34 あなたは、公金の納付に関し、収入証紙に代えて、どのような納付方法が便利だと思いますか。 n=1,535 (○はいくつでも)

26.6 県の各施設窓口でのキャッシュレス決済端末による支払い		
61.6 県の各施設窓口以外での、スマホ決済アプリ (PayPay、LINEPay、PayB など)、クレジットカード (Visa、Master、JCB など) による支払い		
19.7 インターネット(ちば電子システムなど)での申請による使用料・手数料の支払い		
25.5 県の各施設窓口での現金による支払い		
3.5 その他(具体的に)
4.5 無回答		

【生涯学習について】 ※同封の資料③を参考にご回答ください。

県では、人生 100 年時代到来や技術革新など、社会が大きく変化する中、新しい時代に合った生涯学習を推進していくため、今後の施策推進の参考にいたします。

問35 あなたは、今後、学習したいと思うことはありますか。この中からいくつでもあげてください。
n = 1,535 (○はいくつでも)

- | | | |
|------|-----------------------------------|---------|
| 64.9 | 自分の人生を豊かにするための学習（趣味や教養的なもの） | |
| 18.6 | 仕事や就職の上で役立つ学習（ビジネス基礎や様々な業種の基礎的知識） | |
| 21.1 | 仕事や就職の上で役立つ学習（専門的知識や実践的技術） | |
| 28.1 | 家庭や日常の生活に役立つ学習（子育て、料理、編み物など） | |
| 52.2 | 健康の維持・増進に役立つ学習（健康法、医学、栄養、ジョギングなど） | |
| 15.2 | 地域や社会での活動に役立つ学習（活動の指導者やボランティアなど） | |
| 1.6 | その他（具体的に |) |
| 12.3 | 学習したいとは思わない | 1.2 無回答 |

問36 学習する上で困っていることは何ですか。この中からいくつでもあげてください。
(問35で「8」と回答した方は、学習したいとは思わない理由をお答えください。)
n = 1,535 (○はいくつでも)

- | | | |
|------|-----------------------------------|---------|
| 31.8 | 仕事が忙しくて時間がない | |
| 16.0 | 家事・育児・介護などが忙しくて時間がない | |
| 14.7 | 講座などの時間帯が希望に合わない | |
| 21.4 | 学習したいことを身近で学習する場がない | |
| 19.5 | 学習するのに必要な情報（内容・時間・場所・費用など）が入手できない | |
| 23.5 | 学習するための費用がかかる | |
| 9.2 | 一緒に学習する仲間がいない | |
| 3.6 | 学習しても職場や社会で評価されない | |
| 24.9 | きっかけがつかめない | |
| 12.8 | 何を学習したらよいかわからない | |
| 1.9 | その他（具体的に |) |
| 12.2 | 特に困っていない（必要がない） | 8.9 無回答 |

問37 あなたは、生涯学習の情報をどこから得ていますか。この中からいくつでもあげてください。
n = 1,535 (○はいくつでも)

- | | | |
|------|-----------------------------|---------|
| 1.2 | 千葉県生涯学習情報提供システム「ちばりすネット」 | |
| 12.6 | 県や市町村、公民館などのホームページやSNS | |
| 32.3 | 県や市町村、公民館などが発行する広報誌 | |
| 22.0 | 新聞、雑誌、フリーペーパーなど民間で発行している広報誌 | |
| 13.6 | チラシ、ポスター | |
| 10.7 | テレビ、ラジオ | |
| 18.3 | 知人・同僚・家族などからの口コミ(SNS含む) | |
| 3.3 | 公民館や生涯学習センターなどでの学習相談 | |
| 2.8 | その他(具体的に |) |
| 32.2 | 特に情報を得ていない | 1.8 無回答 |

【SDGs・多様性尊重等について】

問38 あなたは、SDGs※の言葉の意味を知っていますか。 n=1,535 (○は1つ)

19.8 意味をよく知っている	23.8 言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない
43.8 意味を大体知っている	11.9 言葉を知らない
	0.7 無回答

※ SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) とは、2015年9月の国連サミットで採択された2030年を達成年限とする世界共通の目標です。「誰一人取り残さない」という理念を掲げ、経済・社会・環境の三側面の調和がとれた開発のため、17のゴールから構成されます。

問39 「ダイバーシティ※」という概念を知っていますか。 n=1,535 (○は1つ)

47.4 はい	51.5 いいえ	1.0 無回答
---------	----------	---------

※ 「ダイバーシティ」とは、多様性のことをいい、性別や国籍、年齢、障害の有無などに関わりなく、多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のことを「ダイバーシティ社会」といいます。

(問39で「1」とお答えの方に)

問39-1 千葉県で「ダイバーシティ社会」が実現できていると思いますか。

3又は4を選んだ方は、その理由をご記載ください。(任意)

n=728 (○は1つ)

5.1 そう思う	
65.7 どちらかといえばそう思う	
20.5 どちらかといえばそう思わない(その理由))
7.4 そう思わない(その理由))
1.4 無回答	

問40 あなたは、「千葉県多様性が尊重され誰もが活躍できる社会の形成の推進に関する条例」(多様性尊重条例※)を知っていますか。 n=1,535 (○は1つ)

1.6 内容も含め、よく知っている	20.7 内容はよく知らないが、聞いたことはある
7.5 内容も含め、ある程度知っている	68.7 知らない
	1.4 無回答

※ 多様性尊重条例とは、あらゆる人々が差別を受けることなく、一人ひとりが様々な違いがある個人として尊重され、誰もが参加し、その人らしく活躍することができる社会の形成を推進するために制定した理念条例であり、令和6年1月から施行されています。

問41 社会全体※で男女の地位は平等になっていると思いますか。 n = 1,535 (○は1つ)

- 9.2 男性が非常に優遇されている
- 52.9 どちらかといえば男性が優遇されている
- 11.3 平等
- 5.2 どちらかといえば女性が優遇されている
- 1.6 女性が非常に優遇されている
- 19.4 わからない
- 0.4 無回答

※ 社会全体とは、家庭、職場、学校教育の場、政治の場、法律や制度上、社会通念・慣習、地域活動の場等のあらゆる分野を想定しています。

問42 男女共同参画社会を実現するための様々な取組のなかで、今後、県はどのようなことにより力を入れるべきと考えますか。 n = 1,535 (○はいくつでも)

- 62.8 子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する
- 57.0 子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
- 53.9 保育及び介護の施設やサービスを充実する
- 39.1 長時間労働の是正や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める
- 19.5 県の審議会委員や管理職に女性を積極的に登用するとともに、県内市町村の審議会など政策決定の場に女性を積極的に登用するよう働きかける
- 19.5 政治分野における男女共同参画が進むよう支援する
- 12.8 女性の起業・創業が進むよう支援する
- 17.1 企業や団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する
- 16.4 従来女性が少なかった分野（研究者等）への女性の進出を支援する
- 21.8 女性の視点を踏まえた防災復興の取組を推進する
- 38.6 DV・児童虐待・性暴力等あらゆる暴力に対して対策を強化する
- 16.6 女性・男性の生き方、悩みに関する相談窓口を充実する
- 13.8 男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する
- 12.8 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PRをする
- 12.8 施策を実施するに当たって企業や民間団体（NPO等）との連携を推進する
- 2.8 その他（具体的に
- 2.5 無回答

【県の魅力について】

問43 千葉県の魅力は、次のどれだと思いますか。 n = 1,535 (○はいくつでも)

- 4.2 地震や台風など災害への備えがなされている
- 33.1 治安が良く、安心して生活ができる
- 10.6 安心して出産・子育て・教育ができる環境がある
- 14.3 医療施設や福祉施設が充実している
- 2.1 魅力的な企業があり、希望した働き方ができる
- 13.1 地域の祭りや音楽などの文化・芸術が楽しめる
- 10.7 神社・仏閣やまち並みなど歴史を味わえる
- 16.2 ゴルフやサーフィンなどのスポーツを体験できる
- 44.7 新鮮な農林水産物を味わえる
- 48.8 温暖な気候で豊かな自然がある
- 30.2 海水浴や潮干狩り、釣りなどで海を楽しめる
- 34.5 魅力的な観光施設（テーマパーク・水族館・旅館等）がある
- 37.9 道路・鉄道・航空などによる交通アクセスがよい
- 1.8 その他（具体的に)
- 7.1 特にない
- 0.9 無回答

【広報について】 ※同封の資料④を参考にご回答ください。

問44 県政に関する情報をどのような手段で得ていますか。 n = 1,535 (○はいくつでも)

- 53.7 県広報紙「ちば県民だより」
- 11.3 千葉県ホームページ（パソコン・スマートフォン版）
- 3.5 千葉県ホームページ（携帯版）
- 3.5 県が運用しているSNS「千葉県広報X」「千葉県公式LINE」「チーバくんX」「YouTube 千葉県公式PRチャンネル」等
- 4.3 千葉日報による新聞紙面広報「県からのお知らせ」、「特集」
- 11.2 県の広報テレビ番組（チバテレ）
「千葉県インフォメーション」「ウィークリー千葉県～ちばの旬な話題をお届け～」
- 3.6 県の広報ラジオ番組（BAYFM78）
「サタデイ・ブレイジング・モーニング」「チバ・プリフェクチャー・アップデート」
- 4.7 県の魅力発信テレビ番組（フジテレビ）
「千葉の贈り物～まごころ配達人～」
- 2.0 県の魅力発信ラジオ番組（BAYFM78）
「ミンナノチカラ～CHIBA～」 「YOU 遊 チバ」
- 14.7 5～9以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース
- 1.5 その他（具体的に)
- 27.1 特に情報を得ていない
- 1.4 無回答

【県政への要望】

問45 県政全般について、今後特に力をいれてほしいと思われることを、次の県政への要望項目の中から3つまで選んで番号に○をつけてください。

なお、「問46 (18~22ページ)」に具体的要望項目を記載していますので、参考にしてください。

n = 1,535

- | | |
|------|---|
| 41.8 | 災害から県民を守る |
| 5.1 | 消費生活のトラブルに関する対策をすすめる |
| 13.3 | 食品の安全を守る |
| 9.7 | 交通事故から県民を守る |
| 4.8 | 中心市街地の活性化を推進する |
| 2.3 | 国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる |
| 21.0 | 公共交通網（バス・鉄道）を整備する |
| 6.5 | 障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する |
| 4.8 | ひとり親家庭等の福祉を充実する |
| 26.8 | 高齢者の福祉を充実する |
| 19.9 | 次世代を担う子どもの育成支援を充実する |
| 3.4 | 青少年を健全に育てる |
| 1.6 | 男女共同参画を推進する |
| 1.3 | 地域課題解決に向けた市民活動や協働の取組を推進する |
| 6.7 | 健康づくりをすすめて、病気を予防する |
| 19.7 | 医療サービス体制を整備する |
| 5.5 | 大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる |
| 9.1 | 自然を守り、緑を育てる |
| 8.3 | 温暖化対策、循環型社会を推進する |
| 3.1 | 廃棄物対策をすすめる |
| 3.1 | 商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する |
| 4.1 | 観光を振興する |
| 6.3 | 雇用の場を広げる |
| 12.4 | 仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する |
| 4.5 | 農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する |
| 11.0 | 道路を整備する |
| 4.2 | 下水道を整備する |
| 3.8 | 豊かな住生活を実現する |
| 4.2 | 公園・緑地を整備する |
| 6.6 | 安心して飲める良質な水道水を供給する |
| 6.3 | 学校教育を充実する |
| 1.6 | 生涯学習・スポーツ・レクリエーションを振興する |
| 2.6 | 芸術・文化活動を振興する |
| 8.7 | 犯罪防止対策をすすめる |
| 1.0 | 施策実現や地域活性化のためにDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進する |
| 2.1 | その他（具体的に) |
| 1.2 | 要望はない |
| 0.7 | 無回答 |

(問45で「1」～「35」のうち1つでもお答えの方は、次の問46にお進みください。

問45で「36」又は「37」だけにお答えの方は、22ページのF 1にお進みください。 ➡



→問46 問45で選んでいただきました県政の要望について、具体的にどのようなことを望まれますか。

問45で選んだ3項目についてのみ、具体的要望項目から1つずつ選んで番号に○をつけてください。

問45の番号及び項目	具体的要望項目 (問45で選んだ項目についてのみお答えください)
1 n=641 災害から県民を守る を選んだ方	⇒ 12.0 災害対応マニュアルの作成・防災マップ等の公表 37.0 災害時の支援、救援活動 8.9 避難場所・避難経路の整備 15.0 危険箇所の事前解消 4.4 災害に対する意識啓発、情報提供 0.3 放射性物質への対応 1.6 避難所における感染症対策 13.3 災害による停電対策 0.9 その他(具体的に) 6.7 無回答
2 n=79 消費生活のトラブルに 関する対策をすすめる を選んだ方	⇒ 34.2 悪質商法などによる消費者トラブルの相談・救済 26.6 悪質な事業者の指導・処分 7.6 食品や生活用品などの適正な表示 1.3 商品・サービスに係る危害・危険の防止 1.3 消費者教育などの消費者の自立支援策の充実 11.4 高齢者や若者等の消費者被害の防止 3.8 安心して相談できる相談窓口などの情報提供 1.3 その他(具体的に) 12.7 無回答
3 n=204 食品の安全を守る を選んだ方	⇒ 36.8 食品の安全確保 11.3 適正な食品表示 4.9 検査の強化 3.9 情報提供 33.8 添加物や農薬の規制 1.0 その他(具体的に) 8.3 無回答
4 n=149 交通事故から県民を 守る を選んだ方	⇒ 36.2 交通事故多発箇所の点検、整備 14.8 ドライバーのマナー向上 10.1 歩行者通行環境の整備 1.3 交通安全教育の推進 11.4 自転車通行環境の整備 4.0 その他(具体的に) 10.7 自転車利用者のマナー向上 11.4 無回答
5 n=74 中心市街地の活性化を 推進する を選んだ方	⇒ 21.6 再開発などのまちづくり推進 51.4 駅周辺の活性化 17.6 商業による活性化 1.4 その他(具体的に) 8.1 無回答
6 n=35 国際交流・協力や外国人 県民との共生をすすめ る を選んだ方	⇒ 11.4 海外の良い点を県政に反映 8.6 姉妹都市をはじめとする世界との交流・協力 28.6 市民レベルでの文化交流・外国人県民との交流の機会の提供 31.4 外国人県民にも住みやすいまちづくり 8.6 外国人県民向けの多言語による相談窓口・情報提供の充実 2.9 その他(具体的に) 8.6 無回答
7 n=323 公共交通網(バス・鉄道) を整備する を選んだ方	⇒ 29.4 鉄道やバスの増便などについて事業者に要望・働きかけ 31.9 鉄道やバス路線の維持のための支援体制の充実 9.6 鉄道新設などによる交通網の見直し 13.0 鉄道とバスとの乗り継ぎの円滑化など利便性向上 2.5 鉄道やバスのバリアフリー化の支援 5.0 その他(具体的に) 8.7 無回答

問45の番号及び項目	具体的要望項目（問45で選んだ項目についてのみお答えください）
8 n=100 障害のある人の福祉や 社会参加の支援を充実 する を選んだ方	⇒ 22.0 就労・社会参加の促進 17.0 入所施設やグループホームなど住まいの場の充実 23.0 障害のある人が暮らしやすいまちづくり 27.0 経済的な支援・負担の軽減 0.0 その他（具体的に） 11.0 無回答
9 n=73 ひとり親家庭等の福祉 を充実する を選んだ方	⇒ 28.8 子育て・生活支援体制の充実 6.8 就業支援体制の充実 35.6 経済的支援体制の充実 9.6 児童の就学・就職支援体制の充実 2.7 その他（具体的に） 16.4 無回答
10 n=411 高齢者の福祉を充実 する を選んだ方	⇒ 43.3 在宅で暮らし続けるための医療・福祉・生活支援 21.4 特別養護老人ホーム等の入所施設の充実 13.9 高齢者が暮らしやすい住まいやまちづくりの支援 3.2 高齢期を充実して過ごすための生きがい対策 1.0 団塊世代や高齢者等の地域活動参加支援 0.2 高齢者虐待防止対策の強化 4.1 認知症対策の強化 1.0 その他（具体的に） 11.9 無回答
11 n=306 次世代を担う子どもの 育成支援を充実する を選んだ方	⇒ 59.8 子育てに対する経済的な支援・負担軽減 9.5 地域住民参加の多様な子育て支援・子育て力の充実 7.2 幼稚園や保育所の特長を生かした就学前の子どもの教育・保育の 充実 3.6 児童虐待防止対策の推進 10.5 妊娠期から子育て期にわたる支援体制の充実 2.0 その他（具体的に） 7.5 無回答
12 n=52 青少年を健全に育てる を選んだ方	⇒ 15.4 青少年のボランティア活動等社会参加の促進 21.2 家庭・学校・地域の連携強化 7.7 専門家による相談窓口の充実 3.8 ネットパトロールの実施・フィルタリング等の促進 26.9 非行・犯罪防止・立ち直り支援 13.5 ニート・ひきこもり等への支援 3.8 その他（具体的に） 7.7 無回答
13 n=25 男女共同参画を推進 する を選んだ方	⇒ 24.0 男性も女性もともに暮らしやすい社会の構築 8.0 ドメスティック・バイオレンス（DV）やセクハラなどの根絶 32.0 子育てや介護、家庭生活と仕事を両立するための支援・環境整 備 0.0 女性の再就職支援 24.0 働く場での男性・女性の均等な機会及び待遇の確保 0.0 政策・方針決定過程への男女共同参画の促進 4.0 教育・学習の推進 0.0 広報・啓発活動の推進 4.0 男女共同参画の視点を踏まえた防災・復興への取組 0.0 その他（具体的に） 4.0 無回答
14 n=20 地域課題解決に向けた 市民活動や協働の取組 を推進する を選んだ方	⇒ 35.0 官民連携など、協働の取組推進 5.0 活動を担う人材の育成 35.0 活動を行う団体の活動支援 5.0 市民活動や協働の取組への理解促進 5.0 市民活動への参加促進 5.0 その他（具体的に） 10.0 無回答

問45の番号及び項目	具体的要望項目（問45で選んだ項目についてのみお答えください）
15 n=103 健康づくりをすすめて、 病気を予防する を選んだ方	⇒ 14.6 運動の機会の増大 7.8 心の健康づくり 36.9 高齢者の健康維持 1.0 歯科保健の充実 3.9 受動喫煙対策の推進 7.8 がんその他の生活習慣病対策 5.8 食生活改善の支援 3.9 その他（具体的に） 18.4 無回答
16 n=302 医療サービス体制を 整備する を選んだ方	⇒ 13.9 医師・看護職員等医療従事者の確保 12.6 病院と診療所（かかりつけ医）との連携強化 19.2 医療施設の整備 24.2 休日・夜間等時間外診療の充実 14.2 救急医療体制の整備 1.7 未知の感染症発生に備えた対策の充実 3.0 その他（具体的に） 11.3 無回答
17 n=85 大気汚染、水質汚濁、 騒音などの環境対策を すすめる を選んだ方	⇒ 16.5 光化学スモッグ・PM2.5対策 0.0 アスベスト対策 15.3 航空機や自動車による騒音・振動に対する対策 23.5 河川・湖沼・海域の水質改善 7.1 建設残土・再生土の適正な埋立て 22.4 環境中に排出される有害な化学物質対策 3.5 その他（具体的に） 11.8 無回答
18 n=139 自然を守り、緑を育てる を選んだ方	⇒ 64.7 自然環境・自然景観の保全 9.4 希少な野生動植物の保全 11.5 特定外来生物の防除 3.6 環境保全に関する啓発・教育 1.4 県民参加での野生動植物調査 2.9 その他（具体的に） 6.5 無回答
19 n=127 温暖化対策、循環型社会 を推進する を選んだ方	⇒ 36.2 地球温暖化対策・気候変動適応策に関する啓発・教育 22.0 再生可能エネルギーの導入促進・省エネルギーの推進 0.0 次世代自動車の普及促進 3.9 ごみ分別徹底化 8.7 廃棄物の再資源化促進 12.6 ごみの発生抑制（プラスチックごみの削減、食品ロスの削減など） 4.7 バイオマスの利活用（飼料化・堆肥化・燃料利用など） 0.0 その他（具体的に） 11.8 無回答
20 n=47 廃棄物対策をすすめる を選んだ方	⇒ 61.7 産業廃棄物の不法投棄防止対策 19.1 安心できる廃棄物処理施設の設置 4.3 廃棄物処理に関する広報・啓発活動 2.1 その他（具体的に） 12.8 無回答
21 n=47 商工業を振興し、地域経 済の担い手を育成する を選んだ方	⇒ 21.3 新たな企業の誘致、産業拠点の整備 12.8 中小企業への資金支援の充実 19.1 創業及び新たな事業展開の支援 6.4 研究・技術開発の支援 2.1 販路開拓の支援 19.1 商店街の整備・活性化 2.1 その他（具体的に） 17.0 無回答

問45の番号及び項目	具体的要望項目（問45で選んだ項目についてのみお答えください）
22 n=63 観光を振興する を選んだ方	⇒ 20.6 観光地域の魅力向上 17.5 観光施設・宿泊施設の充実 22.2 千葉県観光の積極的なPR 17.5 新たな観光コンテンツの開発・磨き上げ 12.7 観光地へのアクセスの改善 1.6 その他（具体的に） 7.9 無回答
23 n=97 雇用の場を広げる を選んだ方	⇒ 21.6 若年者に対する就業支援 5.2 就職氷河期世代に対する就業支援 45.4 中高年齢者に対する就業支援 4.1 女性に対する就業支援 4.1 障害のある人に対する就業支援 0.0 外国人に対する就業支援 5.2 その他（具体的に） 14.4 無回答
24 n=191 仕事と子育てや介護が 両立する働き方を実現 する を選んだ方	⇒ 7.3 女性の再就職支援 6.3 両立支援相談窓口の設置 22.0 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の普及 6.8 男性の育児休業取得など働き方の見直しの啓発 27.2 短時間勤務制度等多様な働き方の普及 4.7 企業に対する税制上の優遇措置の創設 16.2 一時預かり、時間外保育等保育内容の充実 2.1 その他（具体的に） 7.3 無回答
25 n=69 農林水産業を振興し 新鮮な農林水産物を 供給する を選んだ方	⇒ 26.1 新鮮でおいしい農林水産物の供給 14.5 価格の安定 24.6 県産農林水産物の販売量の拡大 21.7 安全で安心して食べられる農林水産物の供給 2.9 その他（具体的に） 10.1 無回答
26 n=169 道路を整備する を選んだ方	⇒ 42.6 交通渋滞対策 14.2 交通安全対策（通学路への歩道設置など） 3.0 沿道環境の改善（騒音・排ガス対策・景観形成） 5.3 観光、買い物などを支援する道路の整備 15.4 自然災害に強い道路の整備 8.9 その他（具体的に） 10.7 無回答
27 n=64 下水道を整備する を選んだ方	⇒ 62.5 下水道の普及・改善 6.3 水洗化への支援 7.8 下水道施設の耐震化 9.4 その他（具体的に） 4.7 下水の高度処理化 9.4 無回答
28 n=58 豊かな住生活を実現す る を選んだ方	⇒ 17.2 安くて入居を拒まれない住宅の整備 15.5 子育て世帯や高齢者世帯に対応した住宅の整備 20.7 防犯や耐震性の向上など、安全で快適な住宅の整備 13.8 住み替えやリフォームに必要な市場の整備や情報の提供 6.9 省エネなど環境に優しい住宅の整備 5.2 その他（具体的に） 20.7 無回答
29 n=65 公園・緑地を整備する を選んだ方	⇒ 36.9 公園・緑地等の設置・管理 4.6 公園等の緑化推進 33.8 子どもの遊び場の整備 4.6 公園・緑地等の管理への住民参加の機会充実 1.5 催物・講習会等の開催 4.6 その他（具体的に） 13.8 無回答

問45の番号及び項目	具体的要望項目（問45で選んだ項目についてのみお答えください）
30 n=101 安心して飲める良質な水道水を供給する を選んだ方	⇒ 42.6 上水道の水質の改善・維持 6.9 上水道の整備 26.7 水源となる湖沼や川の汚染対策 13.9 上水道施設の耐震化 4.0 その他（具体的に） 5.9 無回答
31 n=97 学校教育を充実する を選んだ方	⇒ 38.1 教職員の資質向上・増員 4.1 障害のある児童生徒などの教育の充実 9.3 学力の向上 4.1 健康と体力の向上 14.4 学校施設の整備 7.2 特色ある教育活動の充実 3.1 その他 8.2 道徳や心の教育の充実（具体的に） 5.2 いじめ対策・不登校児童生徒支援 6.2 無回答
32 n=25 生涯学習・スポーツ・レクリエーションを 振興する を選んだ方	⇒ 8.0 指導者育成の支援 12.0 学習機会の充実 24.0 スポーツ・レクリエーション活動の充実 4.0 情報提供の充実 24.0 施設の整備・充実 4.0 その他（具体的に） 24.0 無回答
33 n=40 芸術・文化活動を振興 する を選んだ方	⇒ 35.0 文化・芸術にふれる機会の拡充 5.0 文化・芸術に関する情報提供の充実 15.0 文化・芸術活動への支援 5.0 伝統文化や文化財などの継承と活用 22.5 文化施設等の充実 5.0 文化施設等の幅広い活用 0.0 その他（具体的に） 12.5 無回答
34 n=133 犯罪防止対策をすすめる を選んだ方	⇒ 10.5 警察官によるパトロールの強化 45.9 防犯カメラなどの防犯設備の整備・拡充 3.8 犯罪情報の発信や防犯対策等の広報活動を強化 3.8 警察官や交番相談員の増員による交番の不在時間短縮 3.8 人口や事件が増えている地域に警察署、交番、駐在所の新設 0.8 少年の非行防止対策 15.8 暴力団、来日外国人等による犯罪の防止 2.3 ボランティア、自治会等、地域主導型の防犯組織づくりの推進 2.3 その他（具体的に） 11.3 無回答
35 n=15 施策実現や地域活性化のためにDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進する を選んだ方	⇒ 33.3 防災・環境・医療・福祉・健康等に関するDX推進 6.7 子育て・教育等に関するDX推進 0.0 国際交流・文化・スポーツ等に関するDX推進 13.3 観光・商工業・農林水産業・街づくり・交通網の整備等に関するDX推進 46.7 行政事務の利便性の向上、効率化のためのDX推進 0.0 情報セキュリティ対策の推進 0.0 通信環境（Wi-Fi・5Gなど）の整備促進 0.0 その他（具体的に） 0.0 無回答

以上で質問は終わりですが、調査結果を統計的に分析するために必要なことごとをお聞かせください。

F 1 あなたの性別は。 n = 1,535 (○は1つ)

41.2 男性	55.7 女性	0.2 その他	1.5 回答しない
			1.4 無回答

F 2 あなたは満何歳ですか。 n = 1,535 (○は1つ)

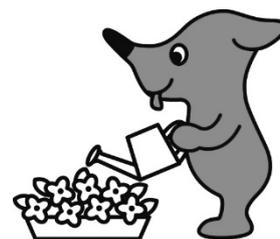
0.8 18～19 歳	16.9 40～49 歳	8.1 65～69 歳
8.2 20～29 歳	14.2 50～59 歳	15.8 70～74 歳
9.9 30～39 歳	7.7 60～64 歳	16.7 75 歳以上
		1.6 無回答

F 3 あなたのご職業は何ですか。 n = 1,535 (○は1つ)

8.0 自営業者	16.4 主婦・主夫	19.5 無職
29.4 正規社員・職員	2.5 学生	2.0 その他 ()
20.9 パート・アルバイト・契約社員		1.2 無回答

F 4 あなたは、次のどの市町村にお住まいですか。 n = 1,535 (○は1つ)

14.6 千葉市	2.9 佐倉市	0.5 匝瑳市	0.5 勝浦市
5.3 市原市	1.8 四街道市	0.8 東金市	0.0 いすみ市
11.6 船橋市	0.4 八街市	0.6 山武市	0.6 夷隅郡大多喜町
6.8 市川市	1.4 印西市	1.1 大網白里市	0.0 夷隅郡御宿町
2.2 習志野市	1.0 白井市	0.4 山武郡九十九里町	0.7 館山市
3.3 八千代市	0.3 富里市	0.0 山武郡芝山町	0.5 鴨川市
2.7 浦安市	0.3 印旛郡酒々井町	0.4 山武郡横芝光町	1.0 南房総市
7.0 松戸市	0.7 印旛郡栄町	1.4 茂原市	0.0 安房郡鋸南町
2.3 野田市	0.7 香取市	0.6 長生郡一宮町	2.4 木更津市
6.4 柏市	0.0 香取郡神崎町	0.0 長生郡睦沢町	0.9 君津市
3.5 流山市	0.7 香取郡多古町	0.0 長生郡長生村	0.4 富津市
3.1 我孫子市	0.0 香取郡東庄町	0.0 長生郡白子町	0.9 袖ヶ浦市
2.0 鎌ヶ谷市	1.3 銚子市	0.5 長生郡長柄町	1.0 無回答
1.4 成田市	1.1 旭市	0.0 長生郡長南町	



以上で質問はすべて終わりです。

今までの設問について、ご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。

県や世論調査へのご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。



最後までご協力いただき、ありがとうございました。
この調査票を3つ折りにして、同封の返信用封筒に入れて、
9月24日（火）までに、郵便ポストにご投函ください。
なお、返信用封筒へのお名前やご住所の記入、切手は不要です。
(インターネットでお答えいただいた方は、この調査票を返送する
必要はありません。)

令和6年度

(第67回)

県政に関する世論調査

令和6年12月発行

(令和6年8月実施)

千葉県総合企画部報道広報課

千葉市中央区市場町1番1号

(広聴室) 電話043-223-2246
